

<自主研究>

---

---

宮城県沿岸部における被災地アンケート  
調査報告書

---

---

平成 23 年 5 月

## はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された地域の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

弊社では、「情報を生業としている会社として、情報で社会にお返しできることを」この考えから、阪神淡路大震災をきっかけに、防災に関する自主調査を積み重ねてまいりました。

この度の震災では、宮城県仙台市を拠点とする弊社東北事務所も被災しましたが、幸いなことに人命や業務機能を失うことなく、復旧することができました。

過去、局地的な災害においては、一定の段階で仮設住宅に移行し、災害の記憶が散逸しない時期を見定めながら、サンプリング調査を計画することも可能でした。

しかしながら、この大規模震災の混乱においては、今回なりの調査時期、調査方法等の検討を続け、4 月 15～17 日の 3 日間、宮城県沿岸部 18 箇所の避難所に、弊社の調査員がお伺いして個別面接調査を実施いたしました。

本調査においては、調査設計段階の情報交換や協力依頼、調査後の特集報道について、株式会社東日本放送のご協力を頂き、共同調査とさせていただきました。

また、調査設計や分析について、東京経済大学コミュニケーション学部の吉井博明教授（中央防災会議・専門調査会委員）の監修を頂きながら進めてまいりました。

この場をお借りし、ご協力に感謝申し上げます。

そして何より、厳しい避難生活の中、本調査の趣旨をご理解頂きご協力をくださった、被災者の皆様に厚く御礼申し上げます。

この報告書が、関係機関や行政をはじめ、様々な場で広く皆様にご活用いただき、今後の防災対策等に少しでもお役に立てれば幸甚でございます。

平成 23 年 5 月

株式会社 サーベイリサーチセンター  
代表取締役 藤澤 士朗

# 目 次

|                          |                    |    |
|--------------------------|--------------------|----|
| <b>I</b>                 | <b>調査概要</b>        |    |
| 1                        | 調査目的               | 1  |
| 2                        | 東日本大震災の概要          | 1  |
| 3                        | 太平洋沿岸部における津波被害の概要  | 1  |
| 4                        | 調査概要               | 4  |
| 5                        | 報告書を読む際の留意点        | 4  |
| <b>II</b>                | <b>調査結果のまとめ</b>    |    |
|                          | 調査結果のまとめ           | 5  |
| <b>III</b>               | <b>調査回答者の属性</b>    |    |
|                          | 調査回答者の属性           | 13 |
| <b>IV</b>                | <b>調査結果</b>        |    |
| 1                        | 地震発生時の状況           | 15 |
| 2                        | 津波に対する危機意識         | 20 |
| 3                        | 避難行動               | 31 |
| 4                        | 被災状況               | 49 |
| 5                        | 地震や津波に関する学習・伝承     | 56 |
| 6                        | 情報の入手・ニーズについて      | 60 |
| 7                        | 今後の要望              | 70 |
| <b>V</b>                 | <b>調査票（単純集計結果）</b> |    |
|                          | 調査票（単純集計結果）        | 75 |
| <b>VI</b>                | <b>自由回答</b>        |    |
|                          | 自由回答               | 85 |
| <b>サーベイリサーチセンターの業務案内</b> |                    |    |

I

調査概要

# I. 調査概要

## 1 調査目的

平成 23 年 3 月 11 日に発生した「東日本大震災」について、発災から避難の状況、被災地の現状と復旧・復興に向けた住民の意識などを調査させていただき、今後の防災対策・復興施策や、様々な研究のための基礎資料として提供することを目的として実施した。

## 2 東日本大震災の概要

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分頃、三陸沖の深さ 24Km を震源とするマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生し、宮城県栗原市で震度 7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度 6 強など広い範囲で強い揺れを観測した。この地震により大規模な津波が発生し、東日本太平洋沿岸部は、広範囲にわたり甚大な被害を受けた。その後も大規模な余震等が各地で多数発生しており、余震域も太平洋沿岸部の広範囲にわたっている。

岩手・宮城地域では、平成 20 年 6 月 14 日にも岩手・宮城内陸地震（最大震度 6 強）が発生しており、東日本大震災の 2 日前の 3 月 9 日にも三陸沖の深さ 8Km で最大震度 5 弱の地震が発生するなど、大型地震が頻発していた。

東北地方から関東地方の太平洋沿岸では、5 月 17 日現在で死者 15,093 人、行方不明者 9,093 人、負傷者 5,301 人、住宅全半壊 127,392 戸など広範囲で甚大な被害が出ている。

甚大な津波被害に加え、地盤の液状化、丘陵地の盛り土の崩壊などによる局地的な被災、広域的なライフラインの途絶、物資の不足、ガソリンの入手困難など、被災地では様々な問題が発生した。

加えて、福島第一原子力発電所における全電源喪失による重大事故の発生により、本震災の影響や被害の拡大は、様々な領域で今もなお続いている。

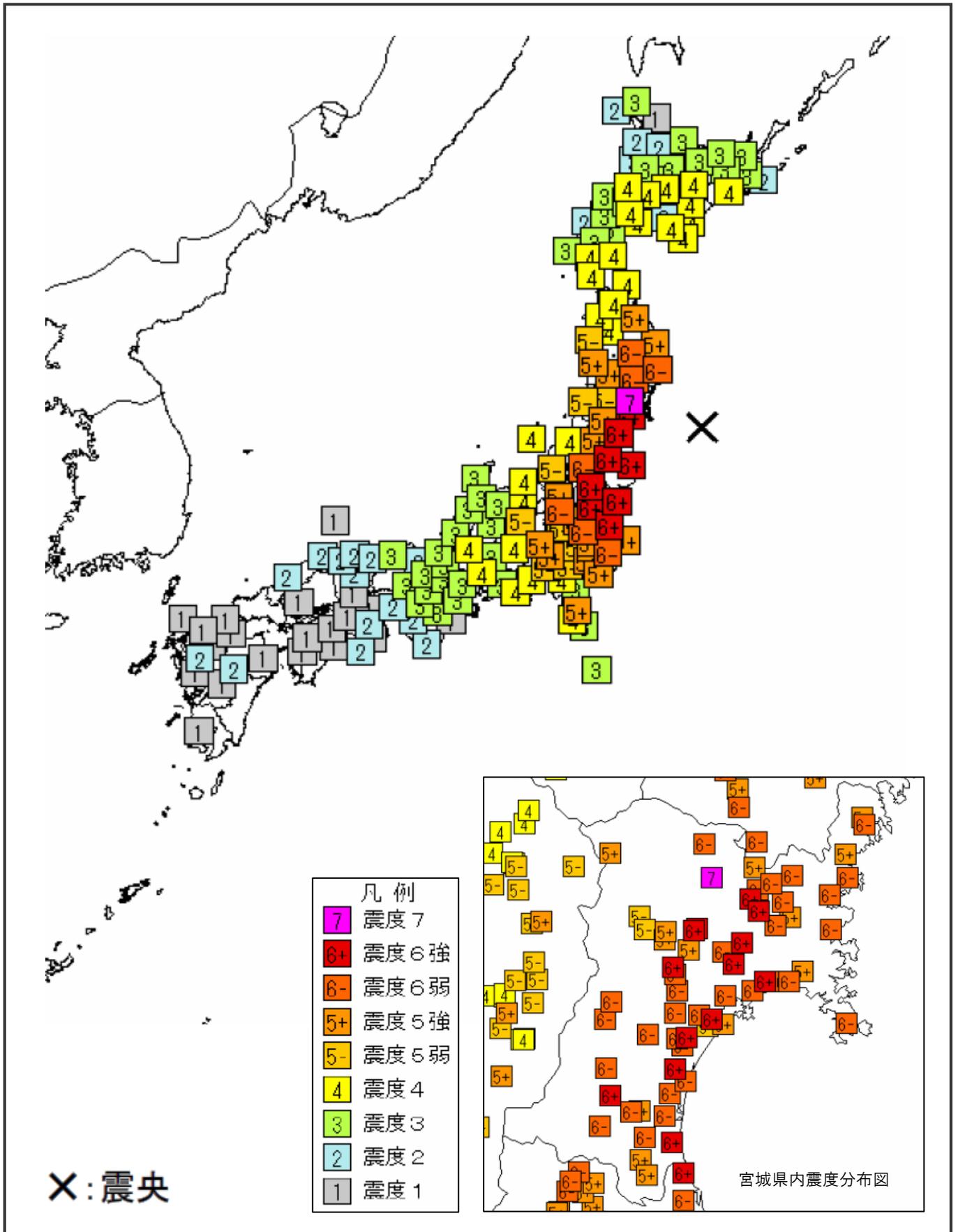
## 3 太平洋沿岸部における津波被害の概要

東日本大震災により太平洋沿岸部では大規模な津波が発生し、青森県～千葉県までの 6 県 62 市町村をあわせて 561 km<sup>2</sup> におよぶ面積が浸水した。

地震発生後の 14 時 49 分、気象庁より大津波警報が発表された後、沿岸部には大津波が押し寄せ、大船渡では 15 時 18 分に 8.0m 以上、石巻市鮎川では 15 時 26 分に 7.6m 以上、相馬では 15 時 51 分に 9.3m 以上の最大波が観測されている。

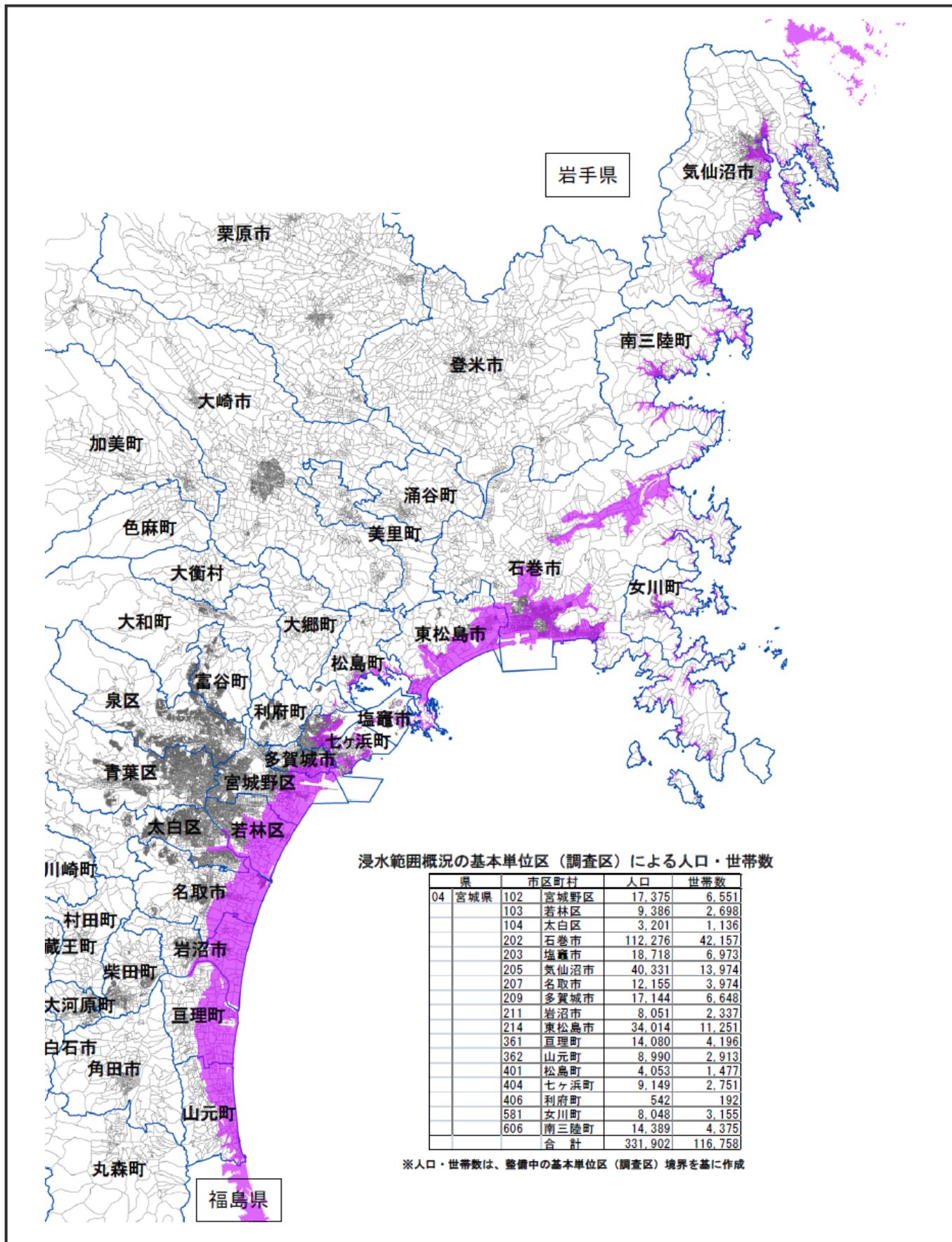
三陸沿岸部では、平成 22 年 2 月 28 日にもチリ地震による大津波警報の発令と津波の被害を受けていたが、今回の津波は三陸沿岸部のみならず、特に岩手県・宮城県・福島県の 3 県では、海岸沿いの集落や市街地、名取川などの河口周辺から上流に向け数キロメートルにわたる広範囲が水没するなどの甚大な被害が出ている。住宅被害（全半壊）数は 3 県だけで 10 万戸以上に及び、多くの住民が避難生活を強いられた。

I. 調査概要



震度分布図

気象庁ホームページ 3月11日報道発表資料より



宮城県沿岸部浸水範囲

総務省統計局ホームページより

## 4 調査概要

(1) 調査地域

宮城県沿岸部（8市町18避難所）

（南三陸町、女川町、石巻市、多賀城市、仙台市若林区、名取市、亘理町、山元町）

(2) 調査対象

避難所に避難中の20歳以上の男女

(3) 調査方法

質問紙を用いた調査員による個別面接調査法

(4) 調査内容

地震発生時の状況／避難行動／必要な情報／必要な支援／生活再建について など

(5) 有効回答

451 サンプル

(6) 調査期間

平成23年4月15日（金）～4月17日（日）

(7) 調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

## 5 報告書を読む際の留意点

- ・ 図表中のNは回答者の基数であり、その質問に回答すべき人数を表す。
- ・ 回答比率（%）は小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示している。このため、回答比率の合計が100%にならないことがある。
- ・ 2つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として100%を超える。
- ・ 帯グラフでは、回答比率が0.0の場合、数値の表示を省略している。
- ・ 本調査は避難所における緊急調査であり、サンプリングを介さないアンケートである。調査結果は、標本調査の視点ではなく、類型的な特徴やその差異を見る視点でご覧いただくことをお願いしたい。また基数が少ない集計項目についても、資料としてそのまま掲載しているが、その結果は参考までにご留意いただきたい。

## Ⅱ

## 調査結果のまとめ

## Ⅱ. 調査結果のまとめ

東京経済大学コミュニケーション学部教授 吉井 博明

災害の様相は地震や津波、豪雨などの災害種別(素因)やその規模によって大きく異なるが、それだけで決まるのではなく、偶然の要素が大きく影響する。その中でももっとも影響が大きいものが発生日時、季節、天候である。この点に注目しながら調査結果を分析する。

### 【地震発生時の状況と直後の対応行動：家族の絆が避難行動を遅らせたのか】

今回の災害は、3月11日(金)の午後2時46分に発生した。この平日の午後という時間帯は、家族がもっとも分散している時である。

実際、今回の調査によると、約半数(52.3%)が自宅におり、会社・学校にいた人が23.1%、それ以外の建物の中にいた人が11.1%、屋外や移動中が11.6%であり、家族がもっとも分散している時間帯であった。このことが発生直後の人々の行動を大きく規定した。

地震で揺れている間の対応行動としては、「丈夫なものにつかまって、身を支えた」人が22.8%ともっとも多く、次いで「家や建物の外にとび出した」人が20.0%と、相当強烈な揺れだったことが窺える。しかし、地震の揺れで大きな被害を受けた住家は少なく、自宅が「地震の揺れによって全・半壊した」回答者は2.0%に留まっている。揺れている間の対応の中でも注目される「テレビやラジオで地震情報を知ろうとした」人は、今回、11.3%に留まっており、情報収集の意識はやや弱かった。

揺れが収まってからは、「何もせずに避難した」人が20.0%ともっとも多い割合を占めているが、これらの人の中には、津波からの避難というよりも、余震が恐くてとりあえず外に出た人も含まれている。次に多いのが「家族などの安否を確かめるために電話をした」人の19.1%、3番目が「出先から自宅に戻った」の18.4%であるが、会社・学校などにいたり移動中など外出していた人に限ると、4割以上が「出先から自宅に戻った」と回答している。また、「幼稚園や学校などに子どもを迎えに行った」(7.6%)人、「近くに住む親や親戚などの様子を見に行った」(9.8%)人も少なくない。家族が分散している時間帯に大きな揺れに襲われたことで、家族の安否が心配になり、とにかく顔を合わせるための移動行動が一斉に起きたものと考えられる。

### 【津波来襲危険の確信と余裕時間の認識：津波テンデンコは実践困難か】

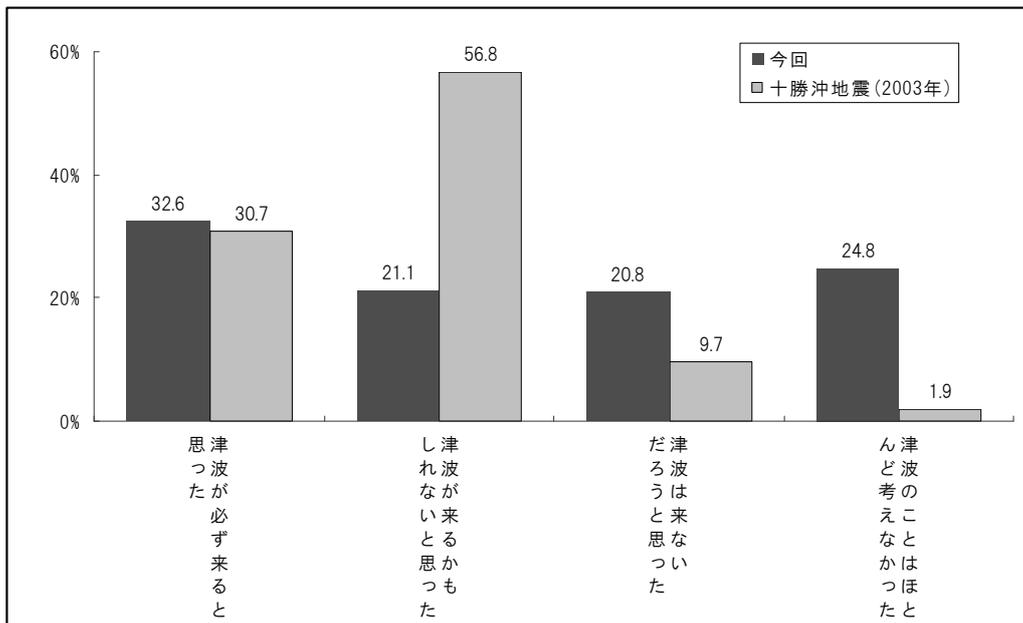
近地地震津波から命を守るための対応原則は非常にシンプルである。「強いあるいはゆらゆらした揺れが長く続いたら、即近くの高台に避難」すれば、ほとんどの場合、命を失うことはないからである。このような行動様式は、三陸地方において「津波テンデンコ」と呼ばれ、地域の災害文化として定着していた(はずであった)。津波テンデンコとは、「揺れが長く続いたら、そのときいた場所からもっとも近い高台にテンデンバラバラに避難しなさい」というものである。しかし、少し考えればわかることであるが、津波テンデンコは非常に冷酷な行動様式でもある。自分が助かるために、子どもや親を放ってにおいて、自分だけ安全な高台に即避難することを求めるからである。このような行動様式は、家族の全滅、集落の全滅を防ぐための一種の「集合知」ではあるが、人情に反する面を強く持っているのである。したがって、津波テンデンコを実践できるようにするには、事前の周到な準備が求められることになる。

## II. 調査結果のまとめ

具体的には、以下の5つの条件を満たす必要がある。

- 1) 揺れたらすぐ津波のことが頭に浮かぶ
- 2) 津波に巻き込まれたら命が危ないと考える
- 3) 津波来襲までに時間がないという認識がある
- 4) 安全な避難場所とそこに早く行ける避難路を知っている。訓練でも行ったことがある
- 5) 家族や近所に住んでいる親や親戚、子どもは、それぞれが近くの安全な場所に必ず避難するという確信を持っている。家族などと日頃から避難場所や落ち合う場所を話し合い、いざというときにはテンデンバラバラに避難することを確認している

それでは、このような条件が宮城県下の沿岸市町住民の間でどのくらい満たされていたのであろうか。まず、揺れの直後に津波来襲のことがどの程度頭に浮かんだのか見ることにしよう。図1に示したように、地震の直後、住んでいる地域に「津波が必ず来ると思った」人は32.6%と1/3に留まっている。「津波が来るかも知れないと思った」人も2割程度(21.1%)と多くない。逆に、「津波は来ないだろうと思った」(20.8%)と「津波のことはほとんど考えなかった」(24.8%)を合わせると、5割弱で、強く長い揺れでも、津波のことを思い浮かべなかった人が予想外に多かった。これは、2003年十勝沖地震時に津波警報が出された地域の住民の津波来襲意識よりも低い。ただし、地域による違いが大きく、三陸(南三陸町と女川町)では非常に高く、石巻以南では低くなっている。



吉井博明他「2003年十勝沖地震における津波避難行動調査」より

図1 十勝沖地震(警報地域)と今回の住民の津波来襲危険認識の違い

石巻市以南の平野部沿岸で津波来襲意識が低かったのは、ある意味当然である。宮城県が行った津波ハザードマップが各市町のホームページで公開されているが、それを見ると今回浸水した地域のほとんどは津波浸水の危険がないとされていたからである。しかし、「津波防災ハザードマップを見て地域の危険性を確認していた」人はわずか4.2%に留まっており、津波ハザードマップを見て、津波が来ないと思った人はほとんどいなかった。

次に、津波の危険度認識はどうだったのか見てみると、その場所に留まったとき「非常に危険だと思った」人は36.6%、逆に「危険だとは思わなかった」人も29.3%おり、意見が分かれている。しかし、「津波が必ず来ると思った」人に限ると66.0%が「非常に危険だと思った」と回答しており、津波来襲を確信している人ほど津波を危険だと認識している。津波が必ず来ると思い、その場所に留まると非常に危険だと思った人は、全体のおよそ5人に1人(21.5%)と少ない。この割合は地域による違いが大きく、南三陸町や名取市で高く、石巻市などでは低くなっている。

津波来襲までの余裕時間について見ると、「すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った」人は4人に1人(25.3%)と少なく、「津波は早く来るが、荷物を持って逃げるくらいの余裕はあると思った」(15.3%)人と「津波は早く来るが、子どもを迎えに行ったり、近所に住んでいる親の様子を見に行くくらいの余裕はあると思った」(5.3%)人が合わせて2割、「津波が来るまでにはかなりの余裕があると思った」(16.9%)人も7人に1人程度いた。また、「津波が来るとは思わなかった人」は35.0%もいた。余裕時間認識は地域による違いも大きく、南三陸町だけが「すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った」人が半数(50.0%)と多くなっている。確かに大津波が堤防や松林を超えた時刻を見ると、南三陸町では15時15分頃と早いものに対して、仙台市若林区、岩沼市、名取市では、15時55分前後と40分程度の違いがある。

結局、「津波は必ず来る」し、「非常に危険」で、「すぐに逃げないと間に合わないくらい早く来る」と思った人は全体の13.7%しかいなかった。

さらに、事前に「避難場所の確認をしていた」人は28.4%、「地域の津波避難訓練に参加した」人が12.2%、「避難の方法や連絡手段、集合場所などを家族で話し合っていた」は11.3%であり、この3つをすべて行っていた人はわずか3.8%に留まっている。

### 【大津波の警報や市町による避難の呼びかけは伝わったのか】

今回、地震の揺れが収まった直後の14時49分に気象庁から大津波の警報が発表され、沿岸市町は住民に避難を呼びかけた。これらの情報は、避難を決断する上できわめて大きな役割を果たすが、今回はうまく伝達できなかつたところもあった。

大津波の警報を「聞いた」人は、予想外に少なく、やっと半数を超えたくらい(56.1%)に留まっている。これは、2003年十勝沖地震時の警報入手率(96.8%)や紀伊半島南東沖地震時の警報入手率(90.1%)と比べるとかなり低い。今回、警報の入手メディアとしては、圧倒的に「防災無線の屋外拡声器から」が多く、聞いた人の47.8%に達している(戸別受信機からの入手も含めると51.0%)。次に多いのがラジオ(民放とNHKを含む)で、27.3%となっている。通常、もっとも多いテレビ(民放とNHKを含む)は、今回、非常に低く7.9%に過ぎない。外に飛び出した人が多く、また、直後に停電したこと、地震の揺れで散乱したものを片付けたりしていたため、テレビに接触することができなかつたようである。

大津波の警報入手率は、そのときにいた場所には関係がなく、津波来襲を確信していた人、その場所に留まることは危険だと思った人、揺れている間にテレビ・ラジオで地震情報を知ろうとした人で高くなっている。逆に、津波のことはほとんど考えなかつた人、津波が来るとは思わなかつた人、その場に留まっても危険だとは思わなかつた人は聞いていない人が多い。地震や津波の情報を積極的に取りに行こうとしなかつた人は警報を入手できなかつたということである。

## II. 調査結果のまとめ

それでは、大津波の警報を入手した人は、それをどのように受け止めたのであろうか。「すぐに避難しなければならなかったと思った」人は54.9%で、2003年十勝沖地震の場合の34.2%よりも多くなっている。十勝沖地震時に出された警報は大津波ではなく、津波警報だったことを反映していると考えられる。今回は、大津波の警報であり、かつ当初から宮城県内では6mという2010年チリ地震の時の大津波(3m)よりもはるかに大きかったことや揺れが強かったことが影響しているものと考えられる。「すぐに避難した方が良くかもしれないと思った」人(20.6%)を加えると、4人のうち3人までが「避難しなければ」と深刻に受け止めていることになる。揺れが収まった後に「津波が必ず来る」、「すぐに逃げないと間に合わない」、「その場に留まると非常に危険」と思った人ほど、「すぐに避難しなければならなかったと思った」人が多く、大津波の警報入手は、自ら津波の危険を深刻に考えていた人の危険意識を、一層高める効果があったと言えよう。

他方、市町が発表した津波避難の呼びかけを聞いた人は、約半数(50.6%)に留まっている。大津波の警報を聞いた人の約8割(77.9%)が市町からの避難の呼びかけを聞いているが、警報を聞いていない人の約8割(81.0%)が市町の避難呼びかけを聞いていない。大津波の警報と市町からの避難呼びかけは、両方とも聞いたか、両方とも聞いていないか、ほとんどがそのどちらかなのである。

### 【避難のきっかけは何だったのか：自己判断、情報反応、それとも他者追随】

津波対応原則も津波テンデコンも、基本は自分の判断基準に従って迅速に避難することを求めているが、実際にはどのようなことがきっかけになって避難行動を起こしたのであろうか。今回の場合、もっとも多いのが「大津波の警報を聞いたので」の24.2%、次が「地震の揺れ具合から津波が来ると思った」の21.1%、3番目が「近所の人が避難するように言ったので」の19.7%と続いている。

避難行動のきっかけを

- 1) 自己判断型：「以前津波を体験したので津波が来ると思った」、「地震の揺れ具合から津波が来ると思った」、「海や川の水が大きく引いたので」のいずれかに反応した人
- 2) 情報反応型：「大津波の警報を聞いたので」、「市町村が避難を呼びかけたので」のいずれかに反応した人
- 3) 他者追随型：「家族が避難しようと言ったから」、「近所の人が避難しようと言ったから」、「役場や消防団の人が来て説得されたから」のいずれかに反応した人
- 4) その他：津波に巻き込まれたなど、1)~3)に入らない人

の4つに分けると、もっとも多いのが他者追随型の36.1%で、次が情報反応型の29.7%、自己判断型の26.8%、その他は26.4%となっている(ただし、多重回答のため各カテゴリーの回答者には重複がある)。避難のきっかけによって避難行動開始時間に違いがあり、自己判断型の人是最初に避難を始め(平均地震発生後の10.8分後)、次に情報反応の人が避難し(13.9分後)、他者追随型の人を誘導し(16.3分後)、最後にその他の人が避難した(23.3分後)。

避難のきっかけは、地域による違いが大きく、南三陸町では、自己判断型が60.9%ともっとも多く、女川町と仙台市若林区では情報反応型が、他の地域では他者追随型がもっとも多く見られた。

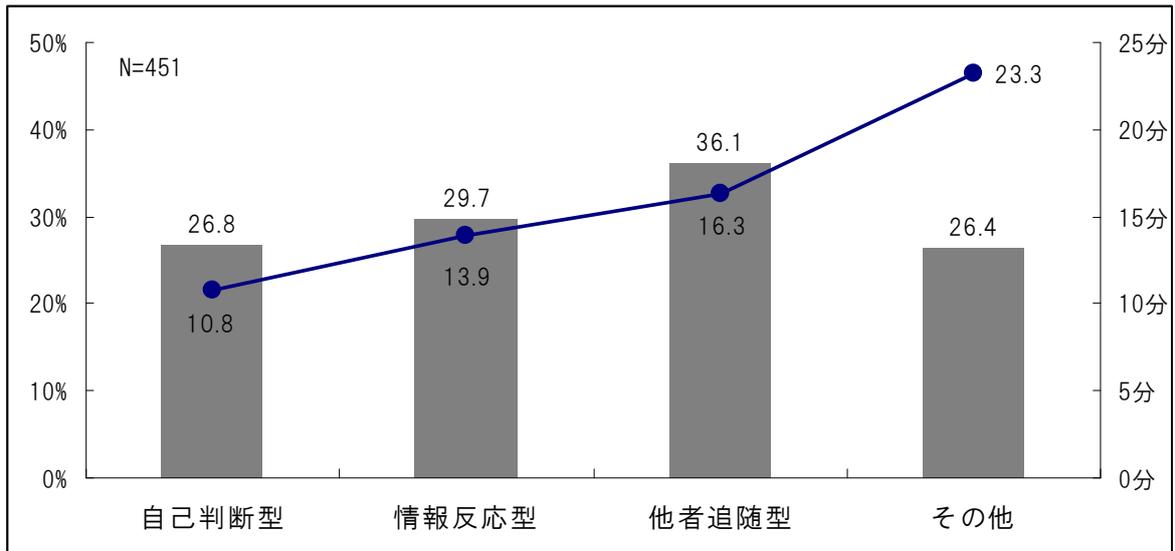
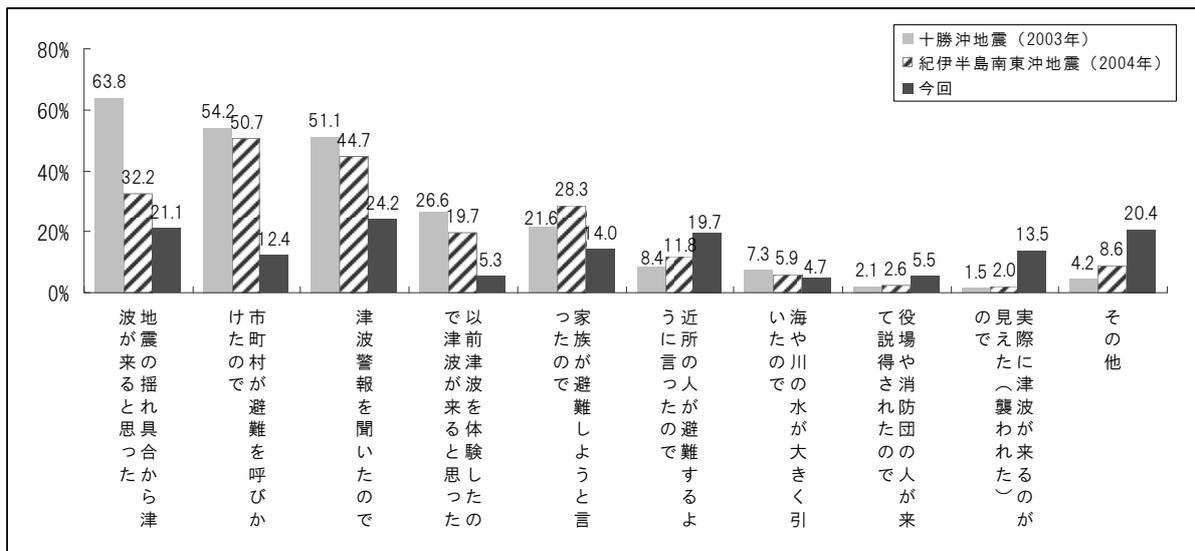


図2 避難のきっかけ：タイプ別避難開始までの所要時間

図3は、2003年十勝沖地震時および2004年紀伊半島南西沖地震時と今回の避難のきっかけを比較したものであるが、今回は自己判断型と情報反応型の割合が非常に低かったことが特徴的である。



吉井博明他「2003年十勝沖地震における津波避難行動調査」

吉井博明他「4県共同地震・津波県民意識調査」より

図3 避難のきっかけ：3つの地震時の比較

**【避難開始までの所要時間：避難開始まで平均で17分もかかっている】**

津波避難は時間が勝負である。早く避難しなければ津波に巻き込まれ、命を落とす危険性が高い。しかし、なかなか避難を始めることができないのが現実である。今回も、避難を始めるまでに平均で17分かかっている。これは2003年十勝沖地震時の15分よりも2分ほど遅れている。地域による違いも大きく、図4に示したように、南三陸町と女川町では早く平均11分、亘理町と山元町では遅く20分以上かかっている。

避難開始が早かった人は、地震の直後に津波来襲を確信し、すぐ逃げないと間に合わないと思った人であり、何もせずに避難した人である。

## Ⅱ. 調査結果のまとめ

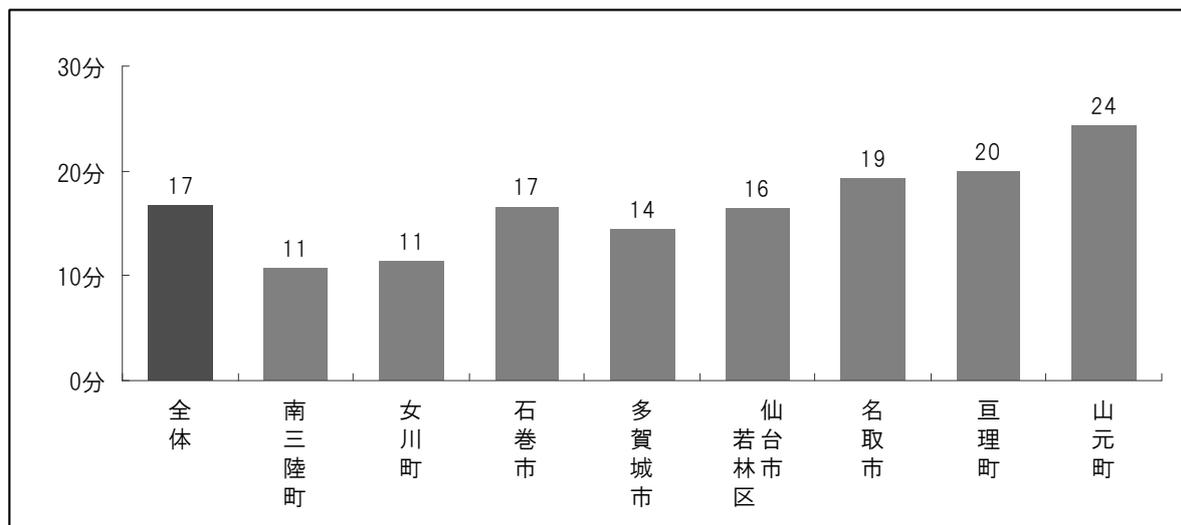


図4 地震発生は何分後に避難を開始したか

### 【一緒に避難した人、避難時の持ち物、避難の手段】

今回、一人で避難した人は22.2%と少なく、8割近くの人が誰かと一緒に避難している。その多くは「家族と一緒に」(52.3%)避難している。同居家族がいる人の場合は、「家族と一緒に」避難した人が58.8%と非常に多くなっている。また、外出中(仕事や学校を含む)の人の24.7%は、いったん出先から自宅に戻り、家族と一緒に避難している。「近所の人」一緒に避難した人も16.0%と少なくなかった。

避難のときに持ち出したものは、「現金」(37.0%)、「預金通帳・財布等の貴重品」(36.1%)、「携帯電話」(36.1%)の3つが多い。持ち出したものには性差があり、女性は「預金通帳・財布等の貴重品」や「保険証」を持っていった人が多く、何も持っていかなかった人は男性(35.6%)の方が女性(25.6%)より多い。年代差を見ると、40歳代以下は「現金」と「携帯電話」を持っていった人が多く、高齢者は何も持っていかなかった人が多い。

避難の手段は、車を使った人が約半数(51.2%)と最も多く、徒歩は3人に1人(33.9%)、他は自転車・バイク(5.8%)を使っている。20歳代以下は徒歩が多く、60歳以上や女性は、車に乗せてもらった人が多い。また、渋滞等に巻き込まれ、途中で手段を変えた人が多かったのではないかと推察されたが、途中で移動手段を変えた人は7.3%と少なかった。

### 【最初の避難場所、その後の避難場所の変更】

それでは、最初、どこに避難したのかというと、「普段から避難先として考えていた」ところと回答した人が53.7%と半数を超えているが、それ以外のところに避難した人も42.8%と少なくない。地域による違いが大きく、南三陸町では、87.0%とほとんどの人が普段考えていた避難先に行っている。また、自宅にいた人の場合は、64.6%と3人のうち2人までが普段考えていた避難先に行っているが、会社・学校にいた人や車・バイクを運転中の人の場合は、38.7%に留まっており、普段考えていない避難先に行っている。

今回の避難行動の特徴のひとつが避難先の変更である。最初に行った避難先が津波の危険があり、避難先をより安全なところに変更している人が多いことである。実際、最初に避難した場所から「別の場所に避難した」人は実に60.8%にも達している。中でも亶理町は特に高く94.6%、多賀城市(73.2%)や仙台市若林区(69.0%)でも7割前後と高くなっている。

避難場所変更の理由は、「みんなが別の場所に移動しはじめたから」(20.4%)、「避難を誘導した人が別の場所への避難を指示したから」(19.3%)、「警察・消防などが別の場所への避難を指示したから」(18.6%)であり、自己判断ではなく同じ避難場所にいた他の人々の動きに同調した変更になっている。「実際に大きな津波をみて、危険だと判断したから」という理由は11.3%と多くない。

避難場所の変更は、しかし、適切だったようである。避難場所を変更した人に「最初に避難した場所は、結果的に津波の被害にあいましたか」と質問したところ、「最初の避難場所は津波の被害にあっていた」という回答が55.5%と過半数に達していたからである。逆に言えば、普段から考えていた近くの避難場所は、今回のような巨大津波で被害を受ける危険性が高い場所が非常に多かったことを示唆している。

### 【津波による被害：本人、家族、自宅】

今回は、多くの人々が津波に巻き込まれたり、巻き込まれる寸前だったりした。回答者の中でも「津波に巻き込まれた」人が9.8%、「津波に巻き込まれる寸前だった」人が22.2%と、3人に1人(32.0%)もの人々が危機一髪目の目に遭っている。これらの人は、避難開始までに20分もかかっており、他の人より5分程度避難開始に手間取っている。また、怪我をした人が4.7%いるが、これらの人は、避難開始までに22.8分もかかっている。

家族の被害状況を見ると、「亡くなったり不明の家族がいる」人が10.2%、「怪我をした家族がいる」人が5.5%と少なくない。

自宅の被害は、全壊・流出・全焼の人が72.9%と異常に多くなっている。津波災害は全壊・流出・全焼の割合が高いのが大きな特徴であり、これを反映している。この割合が特に高いのが南三陸町(89.1%)と女川町(87.5%)で、多賀城市(34.1%)や山元町(50.0%)では低くなっている。

### 【津波に関する伝承や学習の有効性評価】

津波に関する伝承は各地に残されており、伝承を聞いていた人が4人のうち3人(73.8%)もいるが、今回の津波避難にどれほど役立ったのかについては評価が分かれている。家族などから過去の地震や津波のことを「聞いたことがあり、役に立った/多少役に立った」と評価した人は3人に1人(34.1%)に留まり、逆に「聞いたことはあるが役に立たなかった/あまり役に立たなかった」という評価が4割(39.7%)と多かった。伝承の有効性は地域性が強く、南三陸町では、(多少)役に立ったという積極的評価が87.0%に上ったが、女川町や石巻市、名取市では否定的な人の方が多くなっている。伝承の中身が今回の津波(避難)に合っている地域と合っていなかった地域に分かれるためではないかと考えられる。

学校や生涯学習での地震・津波学習についても伝承と似た評価がなされている。地震・津波について、習ったことがある人が半数弱(46.3%)に留まっている上、役に立ったという評価は22.6%、役に立たなかったという評価が23.7%と拮抗している。

### 【地震発生から数日間に知りたかったこと、情報源】

地震発生から数日の間に知りたかったことは、圧倒的に「家族や知人の安否について」が多く、3人に2人(67.4%)に達している。多くの災害では、当日中、遅くとも翌日中には安否がわかることが多いが、今回は家族全員の安否がわかるまでにかなりの日数を要している。特に、怪我をしたり、亡くなったり不明の家族がいる場合は、時間がかかっており、地震後5日以上経過しても安否がわからなかった被災者が多かった。次にニーズが高かったのが「地震や津波の被害状況について」(48.3%)で、さらに「水・食料や生活物資について」(37.3%)が続いている。

## Ⅱ. 調査結果のまとめ

一方、これらの情報ニーズを満たした情報源は、圧倒的に「ラジオ(通常のAMやFM)」が多く61.9%に達した。次いで「新聞」の31.0%、「ロコミ」の29.0%と続いている。テレビは回答者が避難所で生活していたこともあり、13.3%と情報源としての位置づけは弱い。また、「ツイッターやSNSなど」(1.8%)や「パソコン」(0.4%)を情報源にした人は少ない。

### 【現時点で必要な情報と提供状況】

調査時点(4月下旬)で必要な情報としては、予想通り「仮設住宅の入居時期」が圧倒的に多く、2/3(67.8%)を占めている。次が「復興支援の具体的時期や内容」(36.8%)、「生活に必要な身の回りの情報」(31.5%)、「各被災地の復旧・復興情報」(31.3%)と続いている。

これらの必要な情報がどの程度提供されているかを尋ねたところ、「充分提供されている」という回答は10.4%と少なく、「まあ提供されている」(29.3%)を加えても4割に留まっている。多くの避難所生活者が必要な情報を提供されていないと感じているのである。これは、伝達手段の問題というよりも、もっとも必要な情報である「仮設住宅の入居」計画が示されていないことに不満を持っているためと考えられる。避難所にいる人は、全壊・全焼・流出の世帯が大半であり、今後の生活再建の基盤となる仮住まい(仮設住宅等)の入居時期がわからないと予定が立てられないからである。また、「復興支援の具体的時期や内容」についてのニーズが強いのは、復興支援について多くの報道がなされているが、個々の被災者がいつ、どのような支援を得られるのか、具体的に知らされていないことの裏返しと言えよう。

### 【ボランティアや行政に望むこと】

赤十字や民間ボランティアに望むことの中で、もっとも多いのが「自宅や周辺のがれきなどの片付け」(33.9%)で、特に石巻市(47.6%)と山元町(43.5%)で高くなっている。これらの地域では、流出せずに残っている住宅が多く片付けの需要が多いためと考えられる。次が「物資の運搬や食事などの支援」(28.8%)、「怪我や病気の手当・診察」(18.0%)となっている。

行政に望むこととしては、「スムーズな仮設住宅の設置と入居」が圧倒的に高く、4人のうち3人(76.3%)が望んでいる。2番目が「家屋や車など生活で失った資産の再建への補助や貸付」の63.4%で、仮設住宅から次のステップである住宅再建に進むための資金をどう得られるかに被災者の関心が高まっていることを反映している。3番目が「ライフライン(電気・水道・ガス・電話・交通機関など)の復旧」の48.8%で、住宅と同時に生活基盤としてのライフラインの復旧を強く求めている。

### 【今後の自宅再建】

住宅再建に関しては、地域内で津波対策をして戻る方法と他の安全な地域に移住するという選択肢がある。再建策については、非常に地域差が大きく、仙台市若林区、名取市、亶理町では、「別の安全な地域に移り住みたい」という人がもっとも多くなっている。南三陸町では、「高所に移転したい」が47.8%ともっとも多く、山元町(39.1%)、多賀城市(34.1%)、石巻市(26.2%)では、「元の場所で津波対策をして再建したい」という希望が他の対策よりも強い。女川町では、防波堤・防潮堤で守ってもらい元の場所に同じような住宅を再建したいとする住民が21.4%と多い。

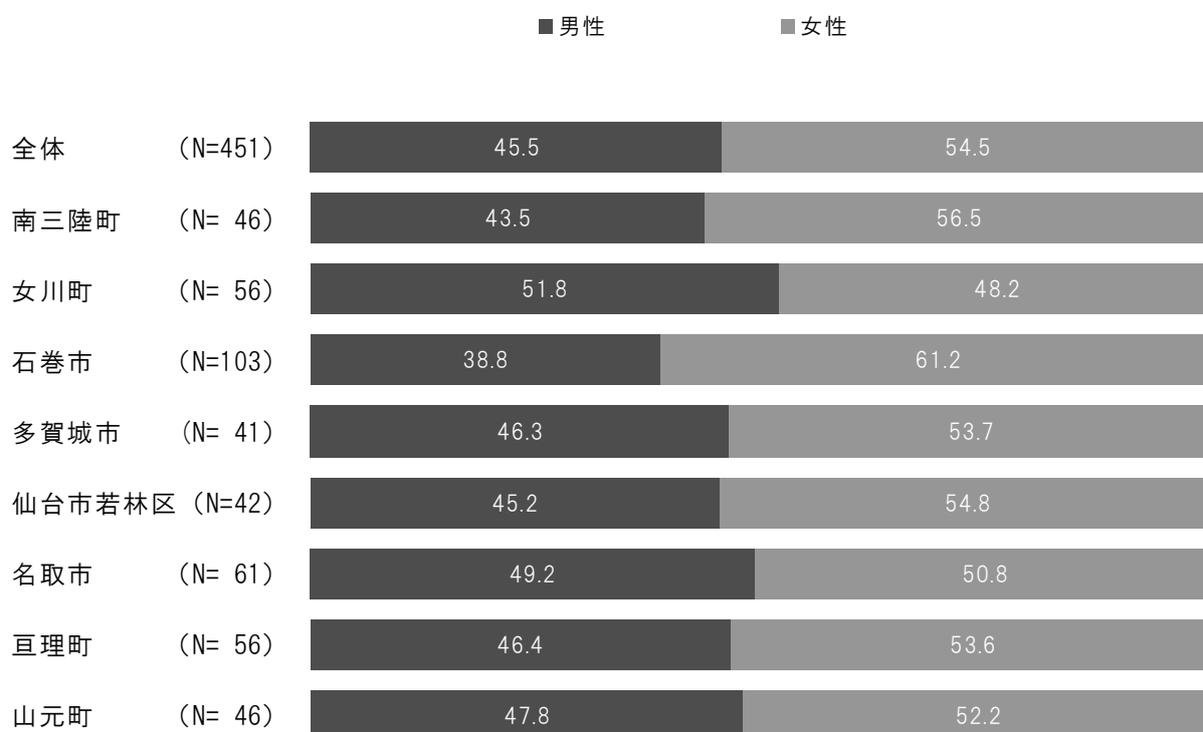
このように被災者の住宅再建に対する考え方は多様であり、地域住民の声をどのように反映して地域の再建を図るのか、行政は難しい局面に立たされている。

### Ⅲ

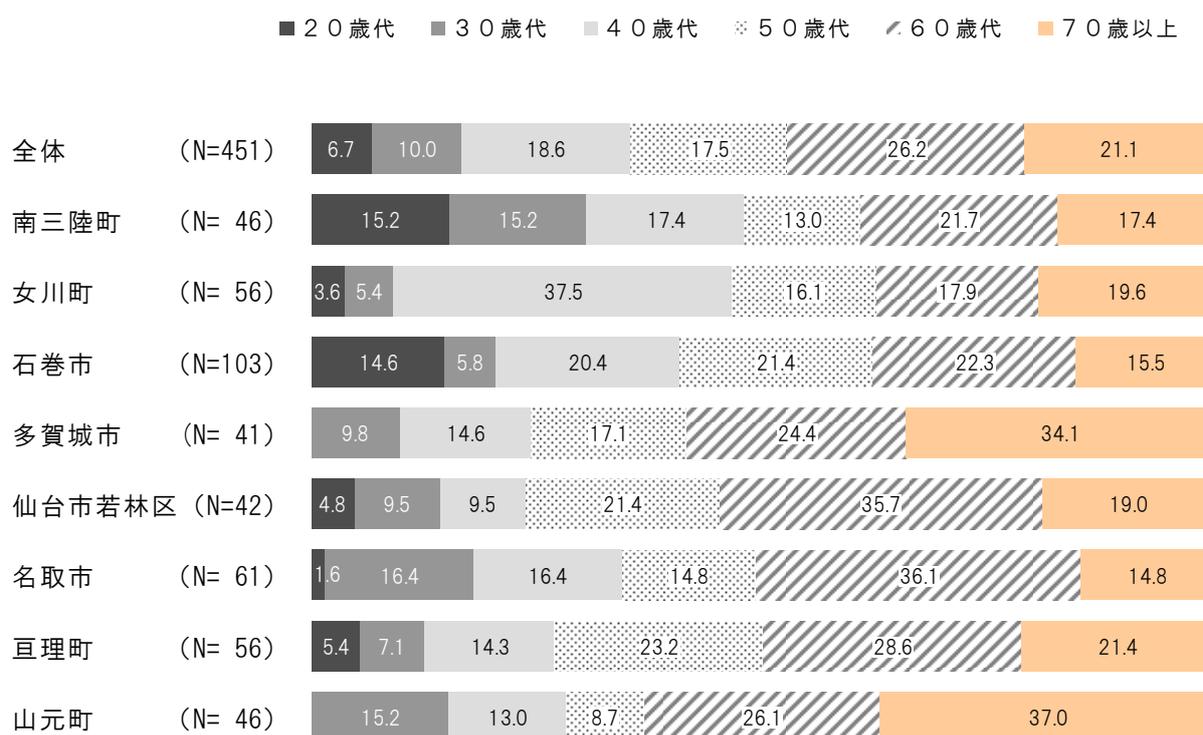
## 調査回答者の属性

## Ⅲ. 調査回答者の属性

(性別)

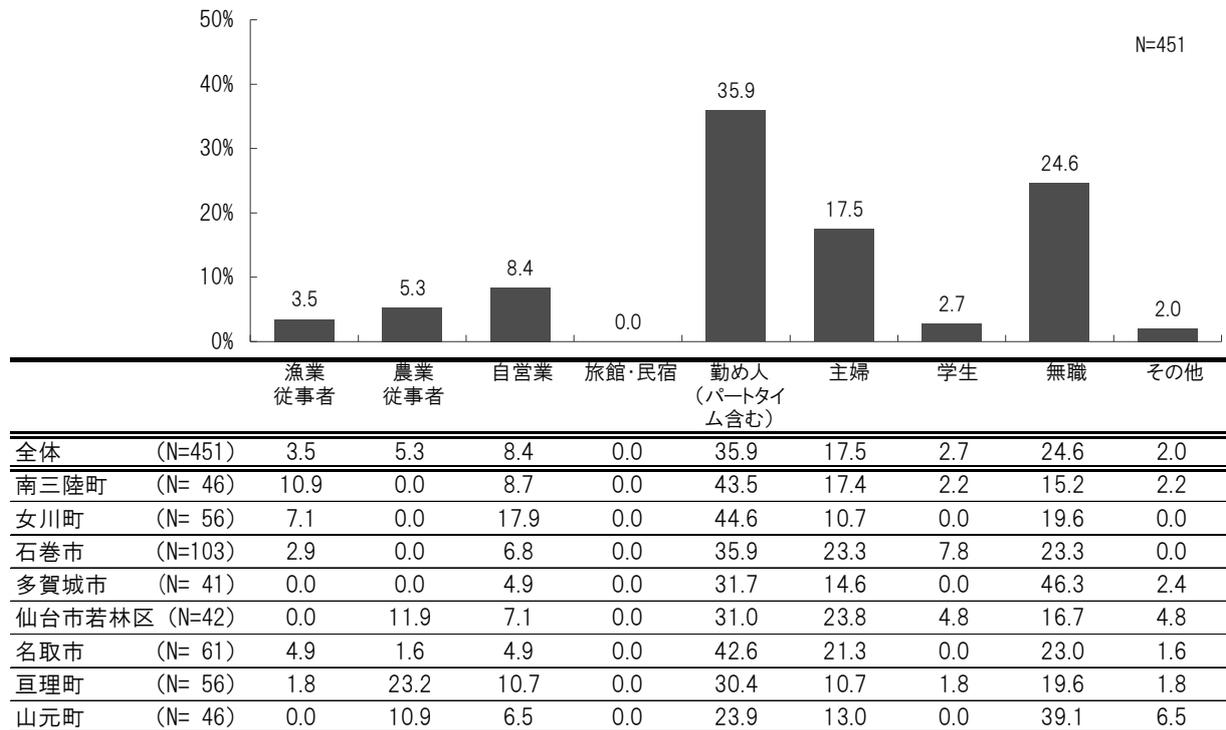


(年齢)

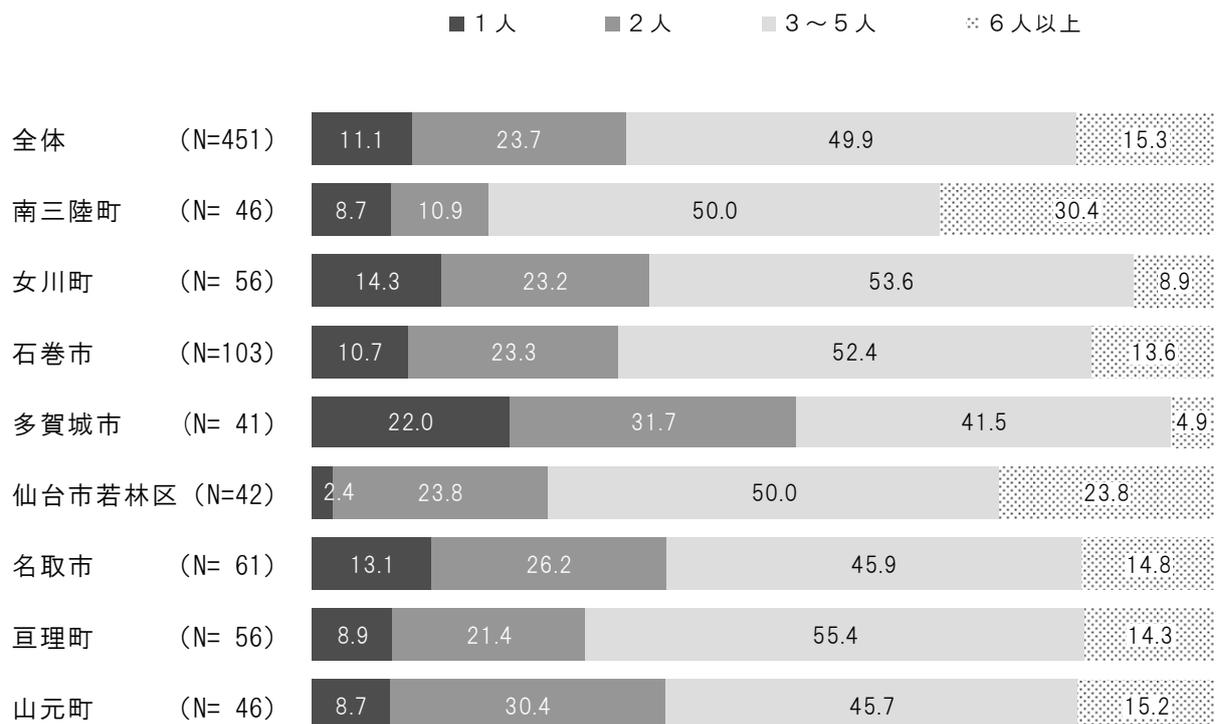


Ⅲ. 調査回答者の属性

(職業)



(同居家族)



IV

調查結果

## IV. 調査結果

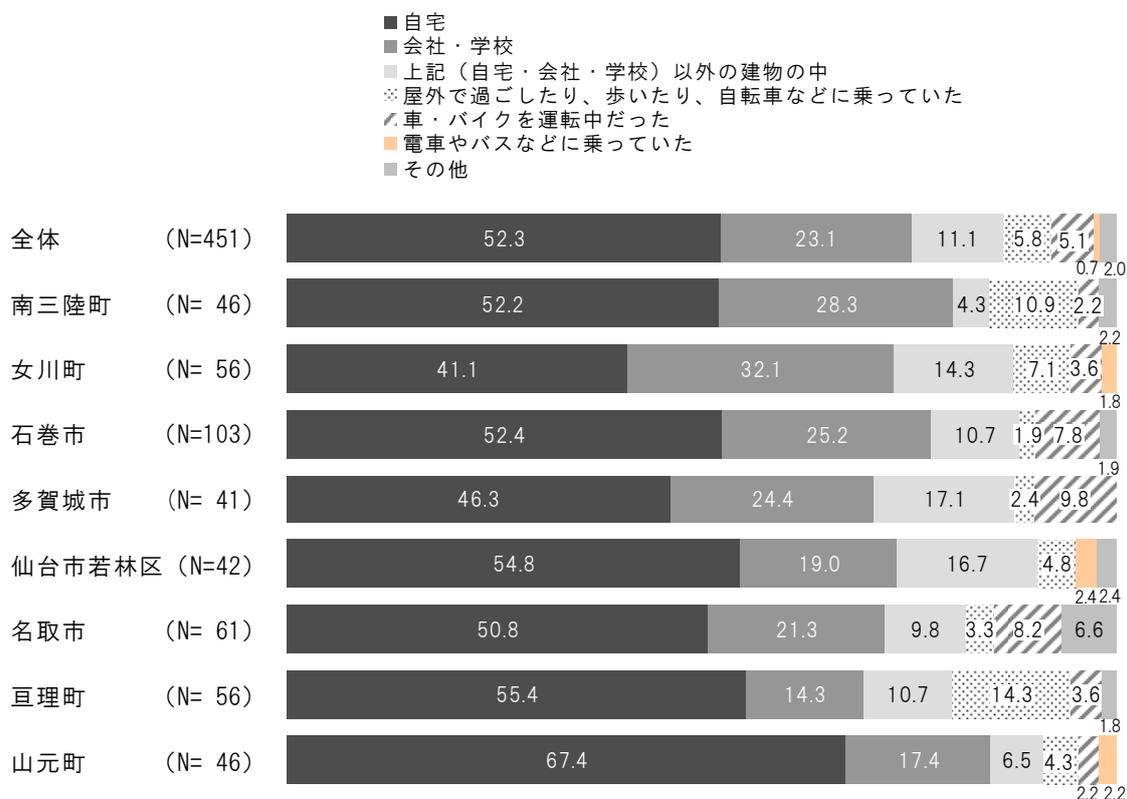
### 1 地震発生時の状況

#### (1) 回答者の居場所

発災時の居場所は、回答者の9割近くが屋内、「自宅」が全体の約半数

問1(1) 地震発生時（平成23年3月11日午後2時46分頃）は、あなたはどちらにいましたか。

（○は1つだけ）

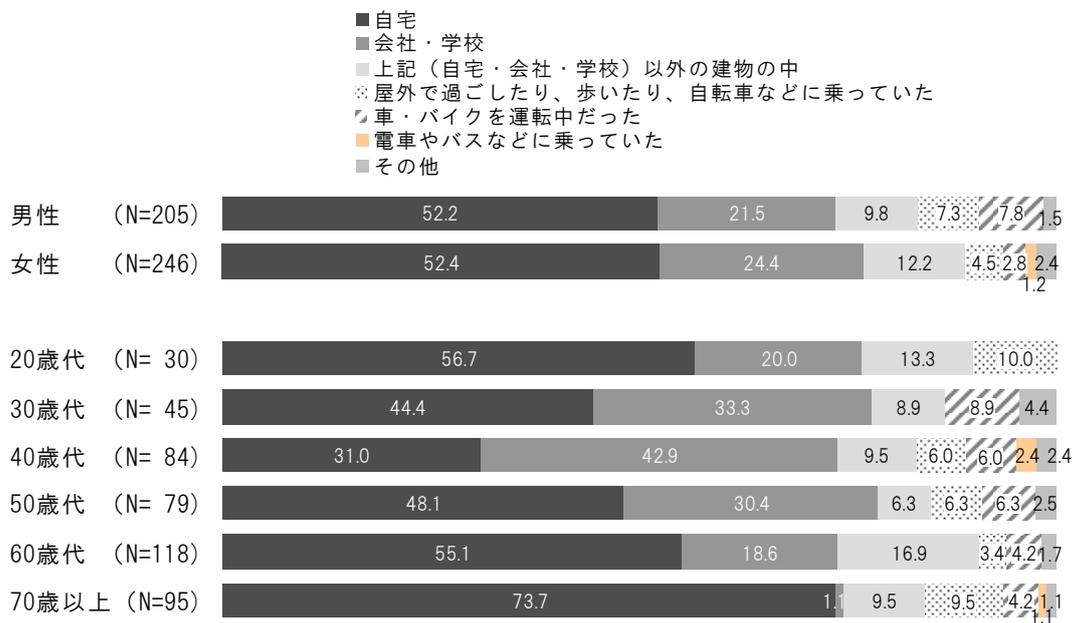


地震発生時、回答者がいた場所は「自宅」（52.3%）が最も多く約半数となっている。また、日中の震災のため、「会社・学校」（23.1%）や「上記（自宅・会社・学校）以外の建物の中」（11.1%）、移動中など外出中の人も多い。

年齢別では、高齢層での在宅率が高く、70歳以上では「自宅」にいた人は73.7%となっている。

IV. 調査結果

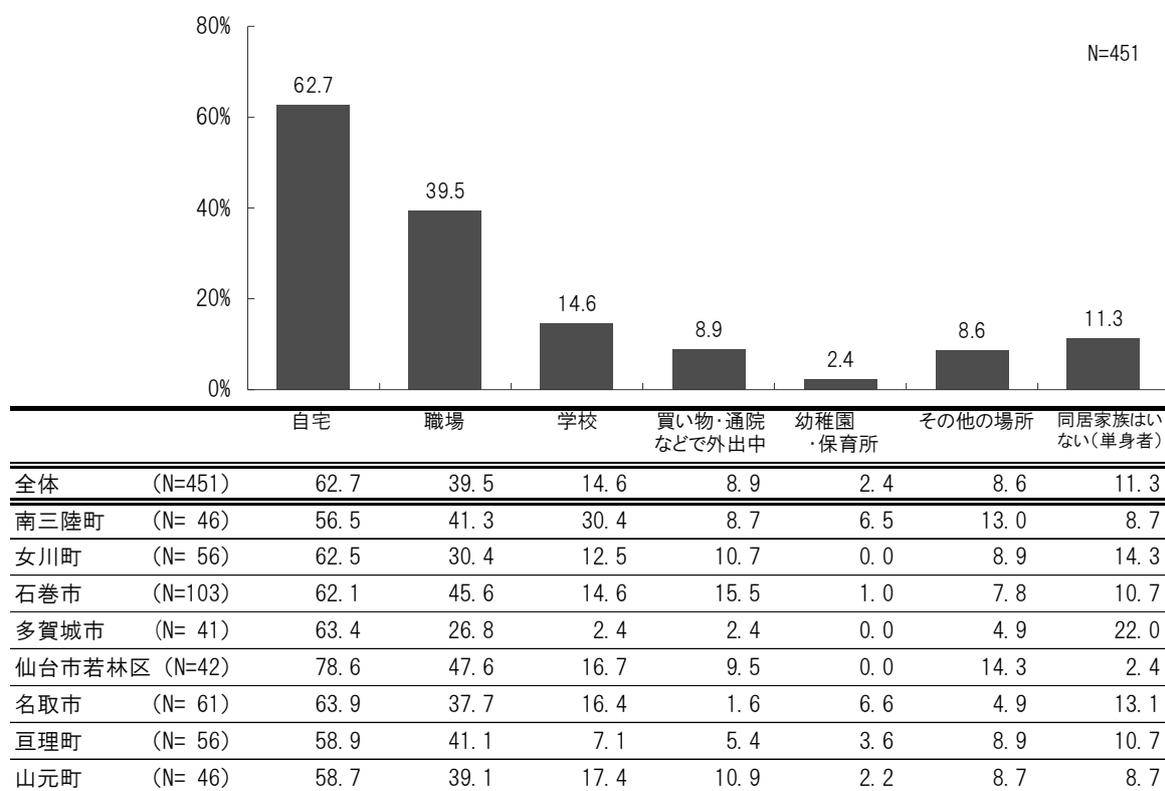
■性別／年齢別



## (2) 家族の居場所

日中の震災のため、職場や学校などに家族が分散していた

問1(2) そのとき、同居のご家族はどこにいましたか。(あてはまるもの全てに○)



地震発生時に家族がいた場所は、「自宅」(62.7%)が最も多く約6割を占め、次いで「職場」(39.5%)となっており、平日の午後2時46分という発災時刻のため、職場や学校、買い物や通院など様々な外出先に家族が分散していることがわかる。

世帯構成員(数)に応じた分散の程度は把握できないが、地震発生時の回答者の居場所(問1)と家族の居場所(問2)の関係からみても、発災時間帯による家族の分散が、本震災のひとつの特徴となっている。

■回答者の居場所×家族の居場所

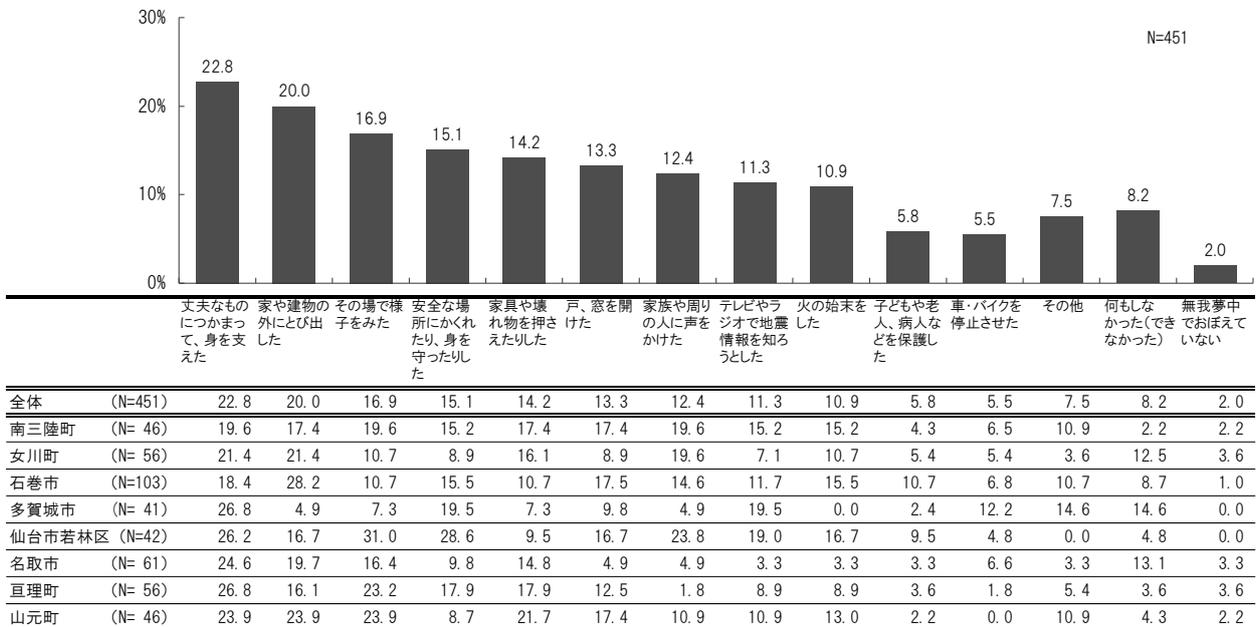
| 回答者の居場所 | 調査数 (N) | 家族の居場所 (多肢式) |      |            |
|---------|---------|--------------|------|------------|
|         |         | 自宅           | 自宅以外 | (同居家族はいない) |
| 自宅      | 236     | 67.8         | 53.0 | 10.6       |
| 自宅以外    | 215     | 57.2         | 58.1 | 12.1       |

IV. 調査結果

(3) 地震直後の対応（揺れている間）

「丈夫なものにつかまって、身を支えた」(22.8%)、「家や建物の外にとび出した」(20.0%) など

問 2(1) 地震が起きた時（揺れている間）、あなたはとっさに何をしましたか。（あてはまるもの全てに○）



地震で揺れている間の対応をたずねたところ、「丈夫なものにつかまって、身を支えた」(22.8%) との回答が約 2 割と最も多く、以下「家や建物の外に飛び出した」(20.0%)、「その場で様子を見た」(16.9%)、「安全な場所にかくれたり、身を守ったりした」(15.1%) と続く。

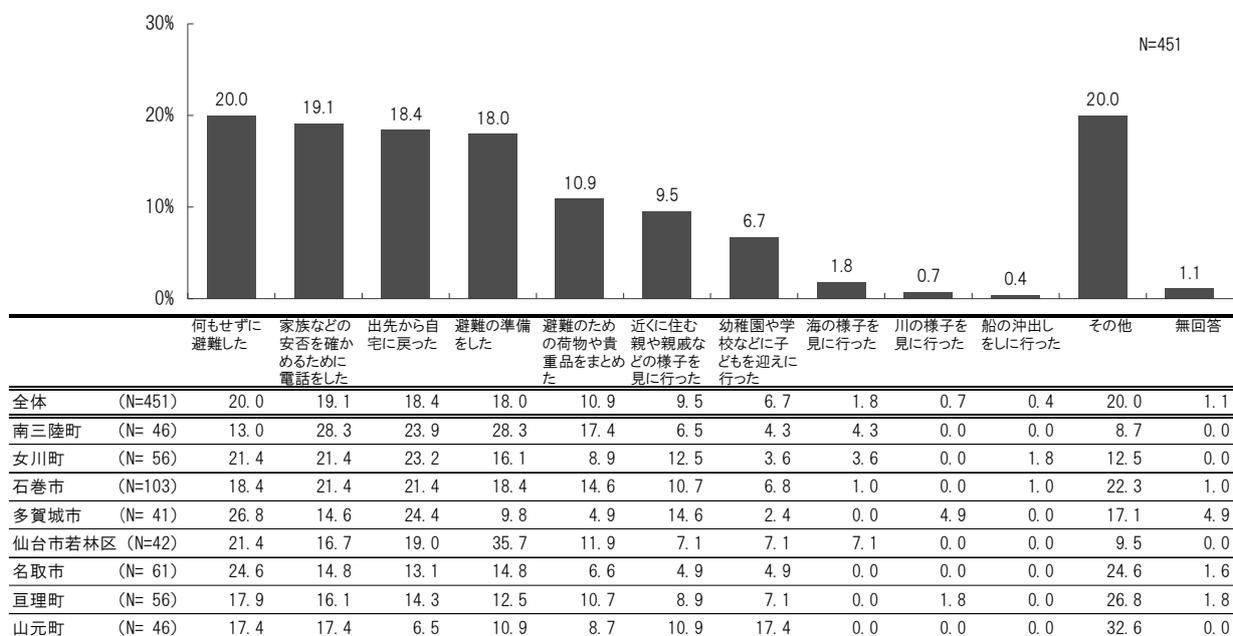
地域別にみると、「その場で様子を見た」人はリアス地域（南三陸・女川）や港湾地域（石巻・多賀城）に比べ、砂浜地域（若林・名取・亶理・山元）で多く、特に仙台市若林区では 31.0%となっている。

## (4) 地震直後の対応（揺れが収まってから）

直後に避難した人は約2割、避難準備行動もある一方、様子見なども目立つ

問2(2) 揺れが収まってから、避難を開始する前に、以下のようなことを行いましたか。

(あてはまるもの全てに○)



揺れが収まった直後の対応では、「何もせずに避難した」(20.0%)を筆頭に、「家族などの安否を確認するために電話した」(19.1%)、「出先から自宅に戻った」(18.4%)、「避難の準備をした」(18.0%)への回答がそれぞれ2割前後あり、行動の上位を占めている。

「その他」の回答も20.0%と多いが、内容を整理すると、①声かけや避難誘導をしていた、②家の片付けをしていた、③その場で様子をみていた、などがあげられている。

津波来襲の確信度別にみると、「津波が必ず来ると思った」と回答している津波への確信度が極めて高い人でも、地震直後の対応には、ばらつきがある(色々な行動を行っている)。

## ■津波来襲の確信度別

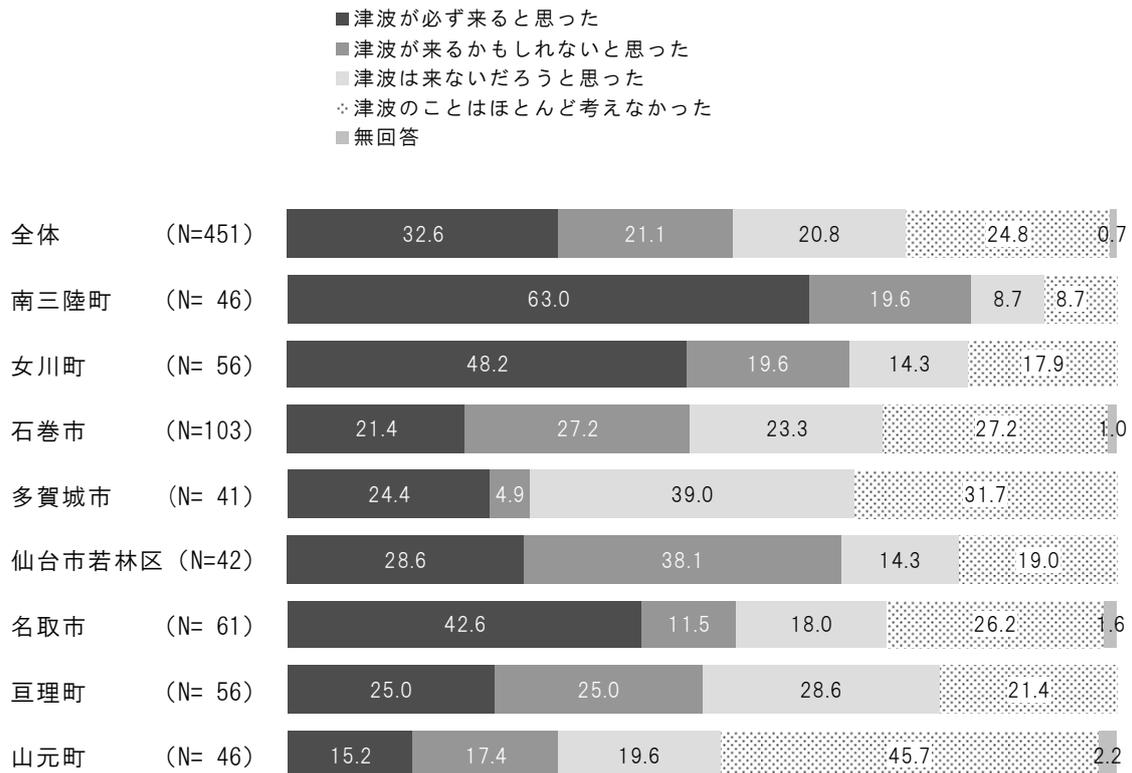
| 調査対象             | 調査数 (N) | 何もせずに避難した | 家族などの安否を確認するために電話をした | 出先から自宅に戻った | 避難の準備をした | 避難のための荷物や貴重品をまとめた | 近くに住む親や親戚などの様子を見に行った | 幼稚園や学校などに子どもを迎えに行った | 海の様子を見に行った | 川の様子を見に行った | 船の沖出しをしに行った | その他  | 無回答 |
|------------------|---------|-----------|----------------------|------------|----------|-------------------|----------------------|---------------------|------------|------------|-------------|------|-----|
| 全体               | 451     | 20.0      | 19.1                 | 18.4       | 18.0     | 10.9              | 9.5                  | 6.7                 | 1.8        | 0.7        | 0.4         | 20.0 | 1.1 |
| 津波が必ず来ると思った      | 147     | 16.3      | 18.4                 | 17.7       | 25.2     | 17.0              | 11.6                 | 4.8                 | 4.1        | 1.4        | 0.7         | 17.0 | 0.7 |
| 津波が来るかもしれないと思った  | 95      | 23.2      | 22.1                 | 15.8       | 21.1     | 13.7              | 11.6                 | 10.5                | 1.1        | 0.0        | 0.0         | 12.6 | 0.0 |
| 津波は来ないだろうと思った    | 94      | 18.1      | 20.2                 | 23.4       | 16.0     | 5.3               | 10.6                 | 7.4                 | 0.0        | 1.1        | 1.1         | 20.2 | 2.1 |
| 津波のことはほとんど考えなかった | 112     | 23.2      | 17.0                 | 17.9       | 8.0      | 5.4               | 4.5                  | 5.4                 | 0.9        | 0.0        | 0.0         | 30.4 | 0.0 |

## 2 津波に対する危機意識

### (1) 津波来襲の確信度（地震直後）

「来る・来るかもしれない」との認識は南三陸が最も高く、県内でも地域差がある

問3 あなたは、地震の直後、お住まいの地域に津波が来ると思いましたか。（○は1つだけ）



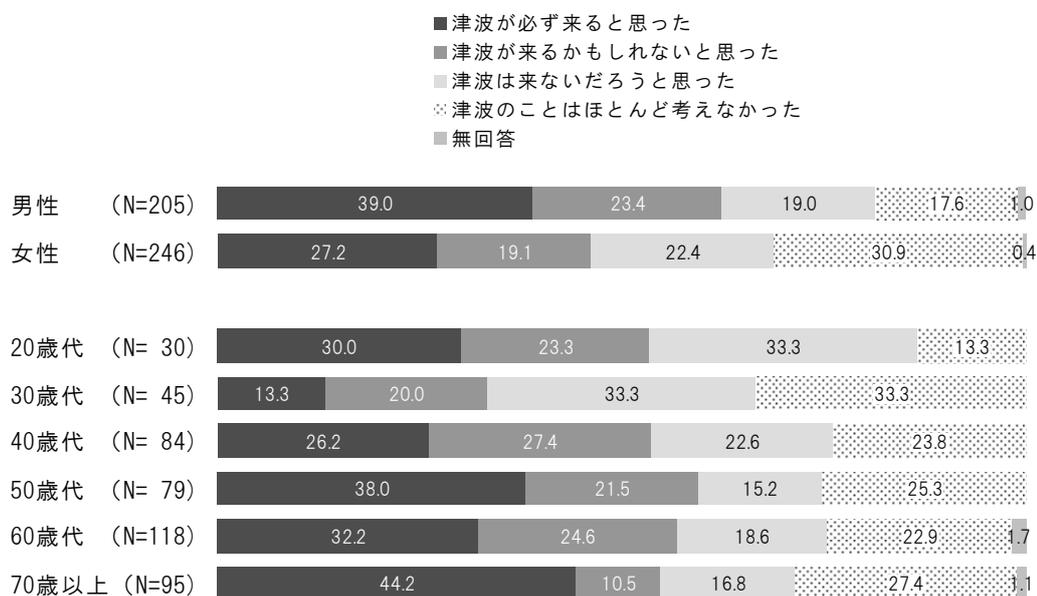
地震の直後、ただちに津波が来ると思ったかどうかについては、「津波が必ず来ると思った」との回答は32.6%、「津波が来るかもしれないと思った」（21.1%）を合わせても、津波来襲の可能性を考えた人は全体の半数となっている。

地域別にみると、「津波が必ず来ると思った」人はリアス地域で多く、南三陸町では約3分の2が津波の来襲を確信している。これに対し、港湾地域・砂浜地域では確信度が低く、山元町では「津波が必ず来ると思った」人が15.2%と南三陸町の約4分の1にとどまっている。

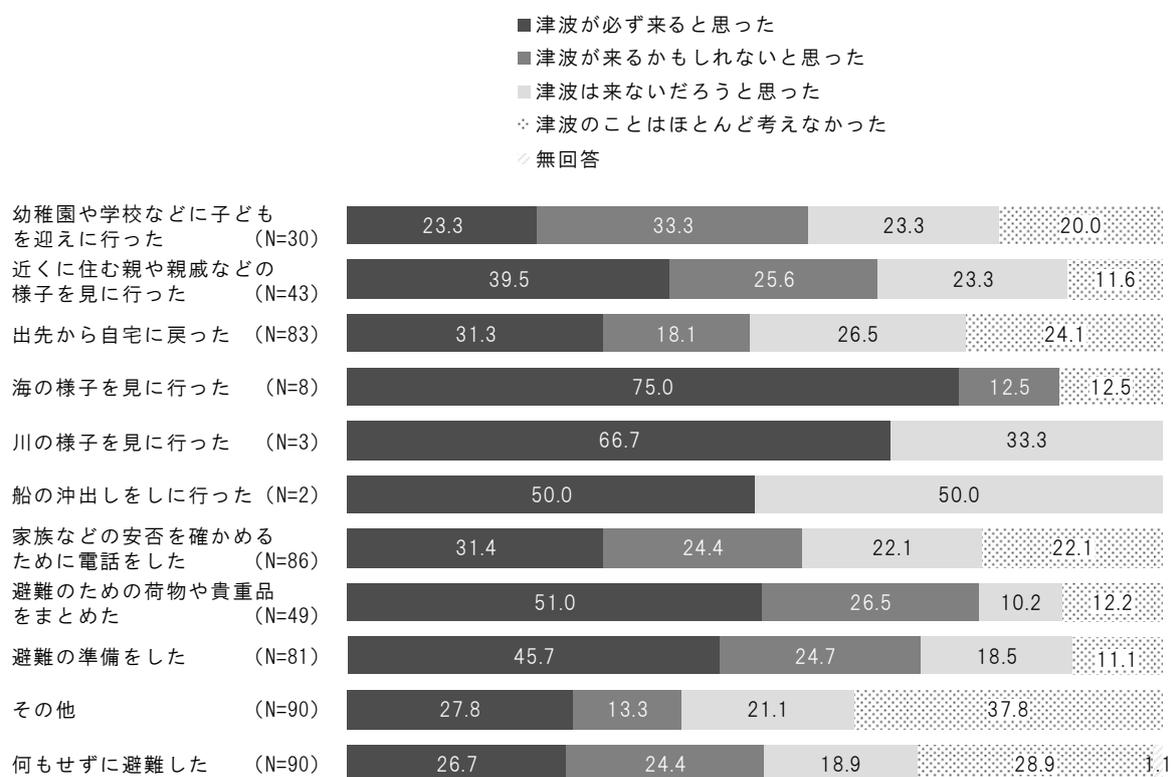
性別にみると、「津波が必ず来ると思った」人は女性（27.2%）に比べ男性（39.0%）に多い。

地震直後の対応別にみると、何もせずに避難した人のうち「津波が必ず来ると思った」人は26.7%にとどまっていることから、何もせずに避難した理由は、必ずしも津波への確信によるものばかりではなく、地震の揺れなどによる人も少なくないようである。

## ■性別／年齢別



## ■地震直後の対応別



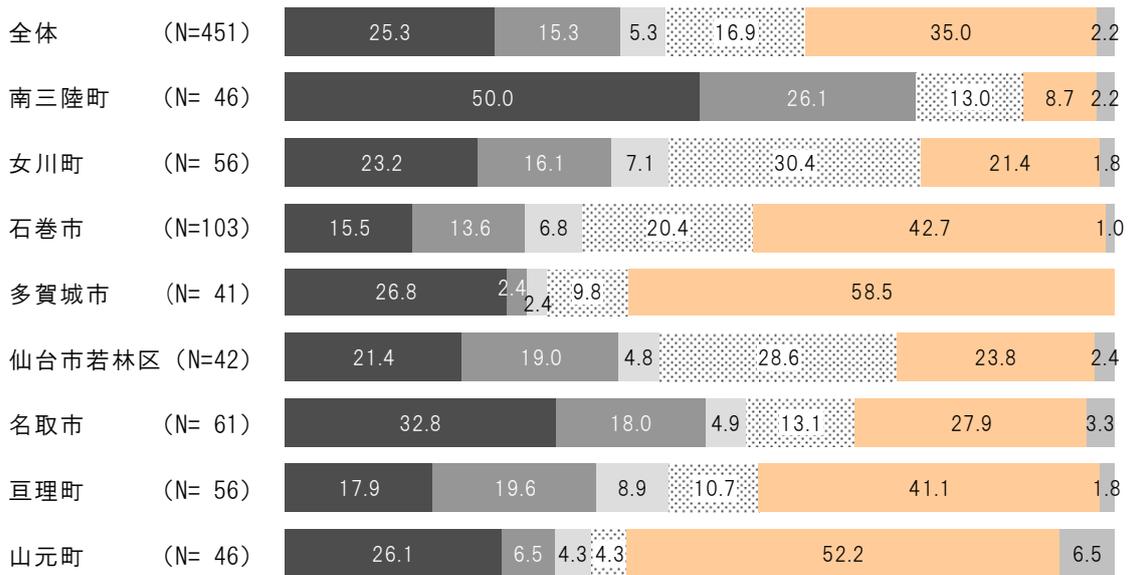
IV. 調査結果

(2) 津波到達までの余裕時間の見通し

余裕なしの判断は全体の約 25%、最も高い南三陸でも時間的余裕の認識は分かれる

問4 津波は、地震の後どのくらいで来ると思いましたか。(○は1つだけ)

- すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った
- 津波は早く来るが、荷物を持って逃げるくらいの余裕はあると思った
- 津波は早く来るが、子どもを迎えに行ったりする余裕はあると思った
- ⊙ 津波が来るまでには、かなりの余裕があった
- 津波が来るとは思わなかった
- 無回答



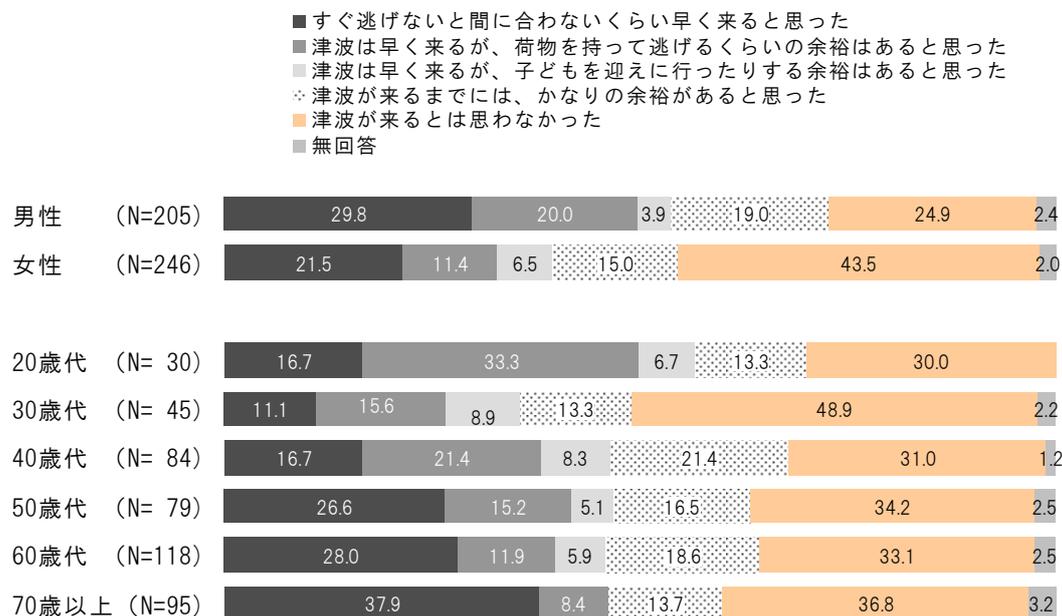
津波到達までの余裕時間については、「津波が来るとは思わなかった」が 35.0%と最も多かった。次いで「すぐに逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った」(25.3%)との回答が 4 人に 1 人となっており、荷物を持って逃げたり、子どもを迎えに行く程度の余裕があると思った人を合わせても、「津波が早く来る」と考えた人は全体の半数以下となっている。

地域別にみると、南三陸町では「すぐに逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った」との回答が過半数となっており、「津波が早く来る」と考えた人は 76.1%を占めている。

年齢別では、「すぐに逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った」との回答は、おおむね年代が上がるにつれ多くなっており、70 歳以上 (37.9%) で 4 割近くとなっている。

また、津波来襲の確信度との関係を見ると、両設問を通じて「津波は必ず来るし、すぐに逃げないと間に合わない」と思った人は回答者全体のうち 17.1%にとどまっていることがわかる。

■性別／年齢別



■津波来襲の確信度×津波到達までの余裕時間の見通し

| 調査数 (N=451)      | 全体    | 思な<br>すぐ<br>たく逃<br>げな<br>早い<br>くと<br>来間<br>ると<br>合わ<br>わ | 余<br>裕持<br>はつ<br>あて<br>る逃<br>く思<br>つら<br>いた<br>荷<br>物の | 津<br>波は<br>早く<br>来る<br>が、<br>荷<br>物の | 余<br>裕を<br>はあ<br>え早<br>く行<br>つた<br>りす<br>ると | た<br>な<br>津<br>波の<br>が来<br>るが<br>あ<br>るに<br>は、<br>思<br>つか | か<br>津<br>波が<br>来ると<br>は思<br>わな | 無<br>回<br>答 |
|------------------|-------|--|--|--------------------------------------|---|---|---------------------------------|-------------|
| 全体               | 100.0 | 25.3   | 15.3   | 5.3                                  | 16.9  | 35.0  | 2.2                             |             |
| 津波が必ず来ると思った      | 32.6  | 17.1   | 8.2  | 1.1                                  | 5.8   | 0.0   | 0.4                             |             |
| 津波が来るかもしれないと思った  | 21.1  | 5.1  | 4.4  | 3.8                                  | 7.1   | 0.0   | 0.7                             |             |
| 津波は来ないだろうと思った    | 20.8  | 1.6  | 2.0  | 0.4                                  | 3.1   | 13.3  | 0.4                             |             |
| 津波のことはほとんど考えなかった | 24.8  | 1.6  | 0.7  | 0.0                                  | 0.9   | 21.5  | 0.2                             |             |

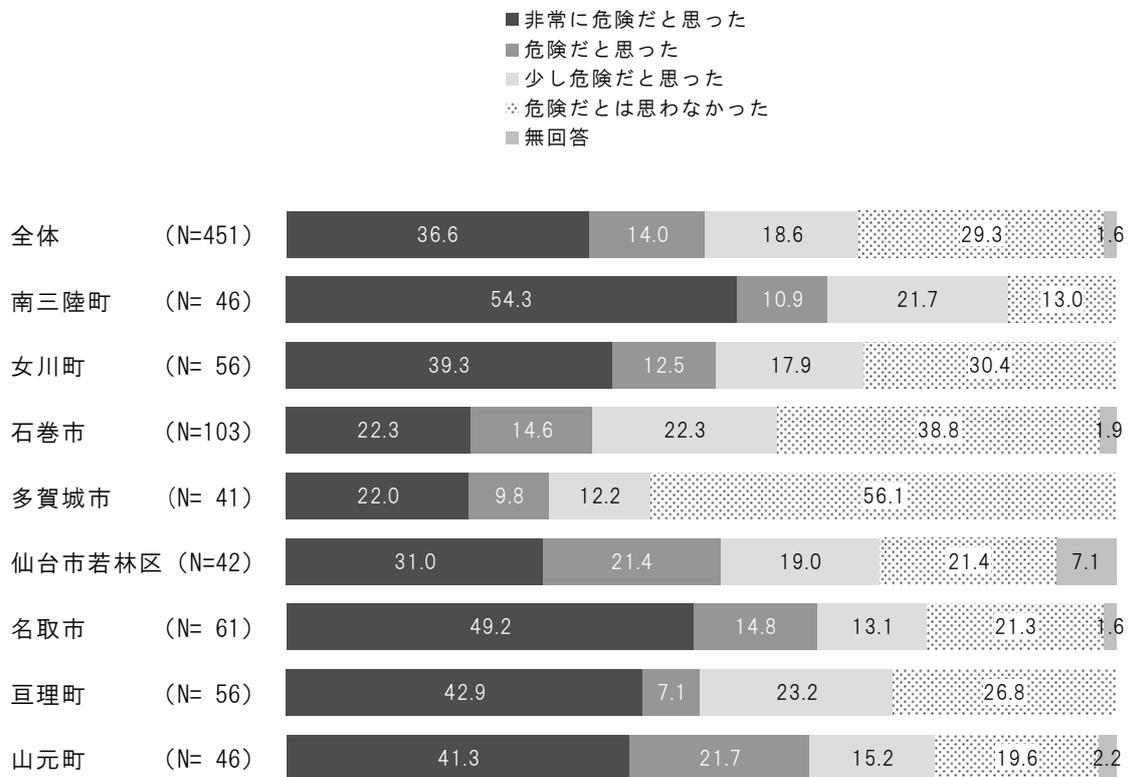
※回答者 451 人を基数として、両設問の各項目に該当する件数の割合

#### IV. 調査結果

### (3) 留まった場合の危険予想

全体の約半数が留まる危険を意識、港湾・市街地（多賀城、石巻）ではやや低い

問5 あなたは、その場所に留まると、どの程度津波の危険があると思われましたか。(○は1つだけ)



その場に留まった場合の危険については、「非常に危険だと思った」との回答が 36.6%と最も多く、「危険だと思った」(14.0%)を含めると約半数が危険を感じている。

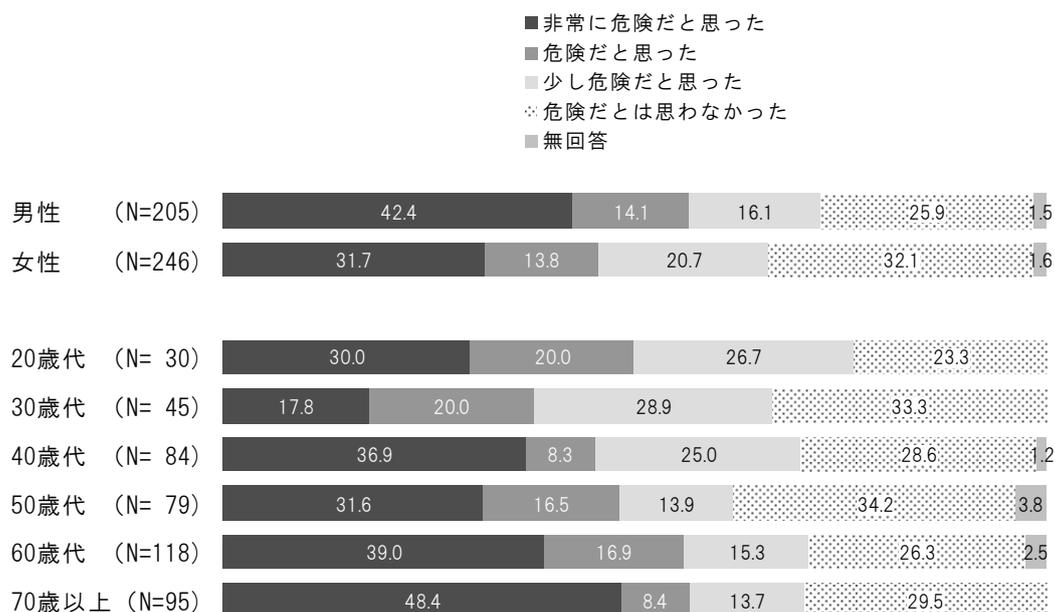
地域別にみると、「非常に危険だと思った」人は、南三陸町で 54.3%と最も多い他、各地域で 4~5 割り程度がそう感じていたのに対し、多賀城市、石巻といった港湾地域(市街地)では約 2 割と少ない。

性別では、「非常に危険だと思った」人は男性に多く 42.4%。年齢別では、70 歳以上(48.4%)で半数近くに達している。

また、津波来襲の確信度との関係を見ると、両設問を通じて「津波は必ず来るし、非常に危険だと思った」と回答した人は回答者全体のうち 21.5%であることがわかる。

さらに、余裕時間の見通しを含め、「津波は必ず来るし、非常に危険で、すぐに逃げないと間に合わないくらい早く来る」と思った人は、全体の 13.7%にとどまっている。

■性別／年齢別



■津波来襲の確信度×留まった場合の危険予想

| 調査数 (N=451)      | 全体    | 非常に危険だと思った | 危険だと思った | 少し危険だと思った | 危険だとは思わなかった | 無回答 |
|------------------|-------|------------|---------|-----------|-------------|-----|
| 全体               | 100.0 | 36.6       | 14.0    | 18.6      | 29.3        | 1.6 |
| 津波が必ず来ると思った      | 32.6  | 21.5       | 4.7     | 4.4       | 2.0         | 0.0 |
| 津波が来るかもしれないと思った  | 21.1  | 5.5        | 6.2     | 5.8       | 3.1         | 0.4 |
| 津波は来ないだろうと思った    | 20.8  | 5.8        | 1.1     | 3.8       | 10.2        | 0.0 |
| 津波のことはほとんど考えなかった | 24.8  | 3.8        | 1.8     | 4.7       | 14.0        | 0.7 |

※回答者 451 人を基数として、両設問の各項目に該当する件数の割合

【津波到達までの余裕時間の見通し：すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思ったと回答した人のみ】

| 調査数 (N=451)      | 全体   | 非常に危険だと思った | 危険だと思った | 少し危険だと思った | 危険だとは思わなかった | 無回答 |
|------------------|------|------------|---------|-----------|-------------|-----|
| 全体               | 25.3 | 17.7       | 3.1     | 2.9       | 1.3         | 0.2 |
| 津波が必ず来ると思った      | 17.1 | 13.7       | 1.6     | 1.3       | 0.4         | 0.0 |
| 津波が来るかもしれないと思った  | 5.1  | 2.7        | 1.3     | 0.7       | 0.2         | 0.2 |
| 津波は来ないだろうと思った    | 1.6  | 0.4        | 0.2     | 0.2       | 0.7         | 0.0 |
| 津波のことはほとんど考えなかった | 1.6  | 0.9        | 0.0     | 0.7       | 0.0         | 0.0 |

※回答者 451 人を基数として、両設問の各項目に該当する件数の割合

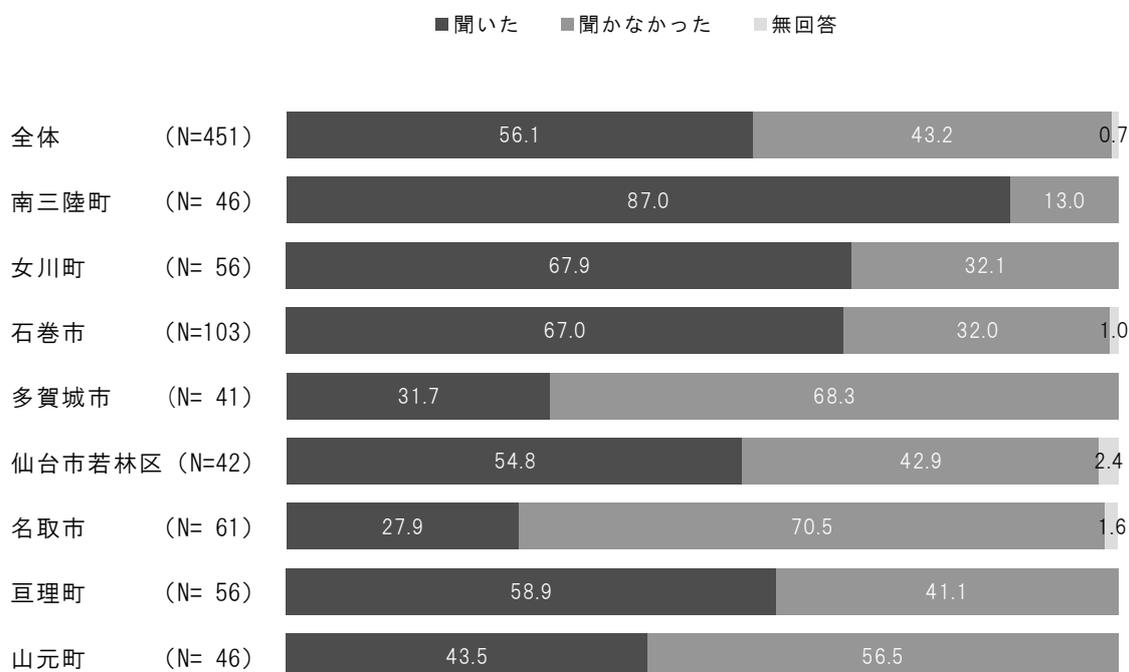
#### IV. 調査結果

##### (4) 大津波警報の認知

「聞いた」との回答が全体の過半数（56.1%）

問 6(1) 地震の直後に、大津波の警報が出されました。あなたは、この大津波の警報をお聞きになりましたか。

(○は1つだけ)



大津波警報の認知についてたずねたところ、「聞いた」（56.1%）との回答は過半数であった。

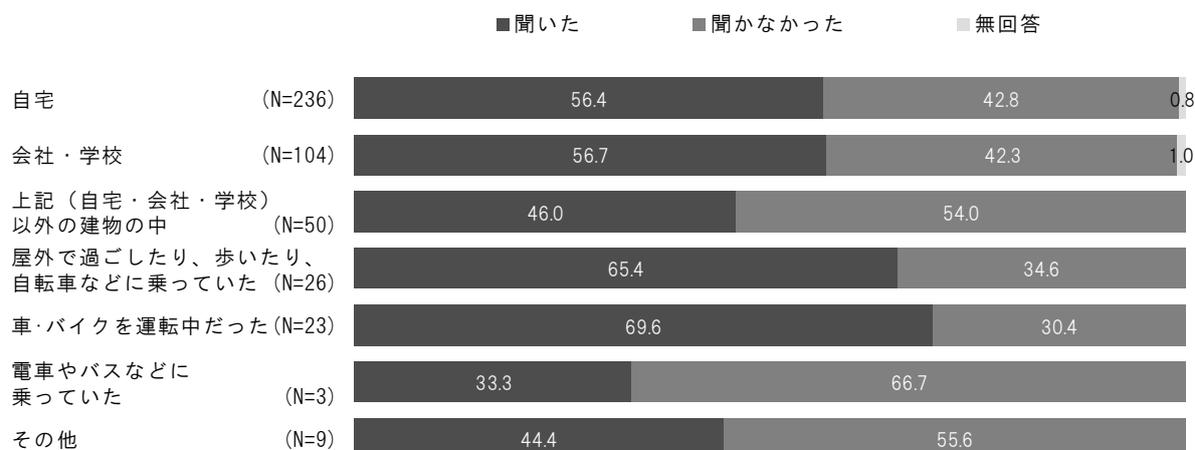
地域別にみると、南三陸町や女川町、石巻市で警報を「聞いた」人が多い。

地震発生時にいた場所別にみると、「屋外で過ごしたり、歩いたり、自転車などに乗っていた」「車・バイクを運転中だった」など屋外で「聞いた」人が6割以上とやや高い認知率を示しており、防災無線（屋外拡声器）を聞き取った人が多いようである。

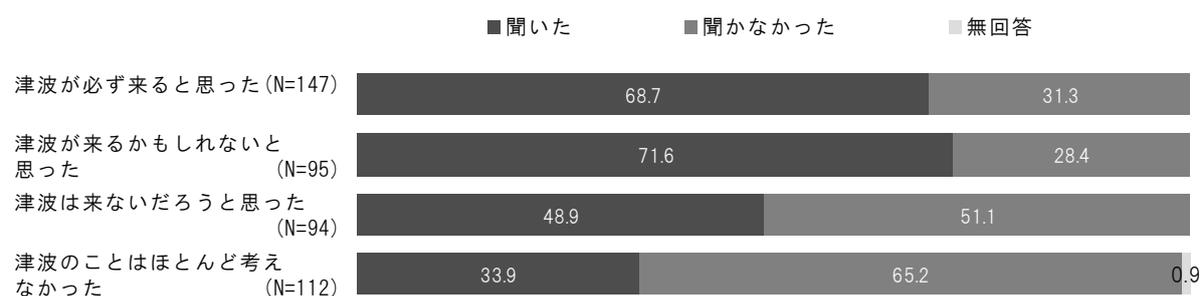
また、津波来襲の確信度別にみると、津波が必ず来る、あるいは来るかもしれないなどの確信度が高い人ほど警報の認知率も高く、7割前後が「聞いた」と回答している。

さらに、その場に留まった場合の危険予想別では、危険を感じている人は、危険を感じていなかった人に比べ警報の認知度が高い。

## ■回答者の居場所別



## ■津波来襲の確信度別



## ■留まった場合の危険予想別



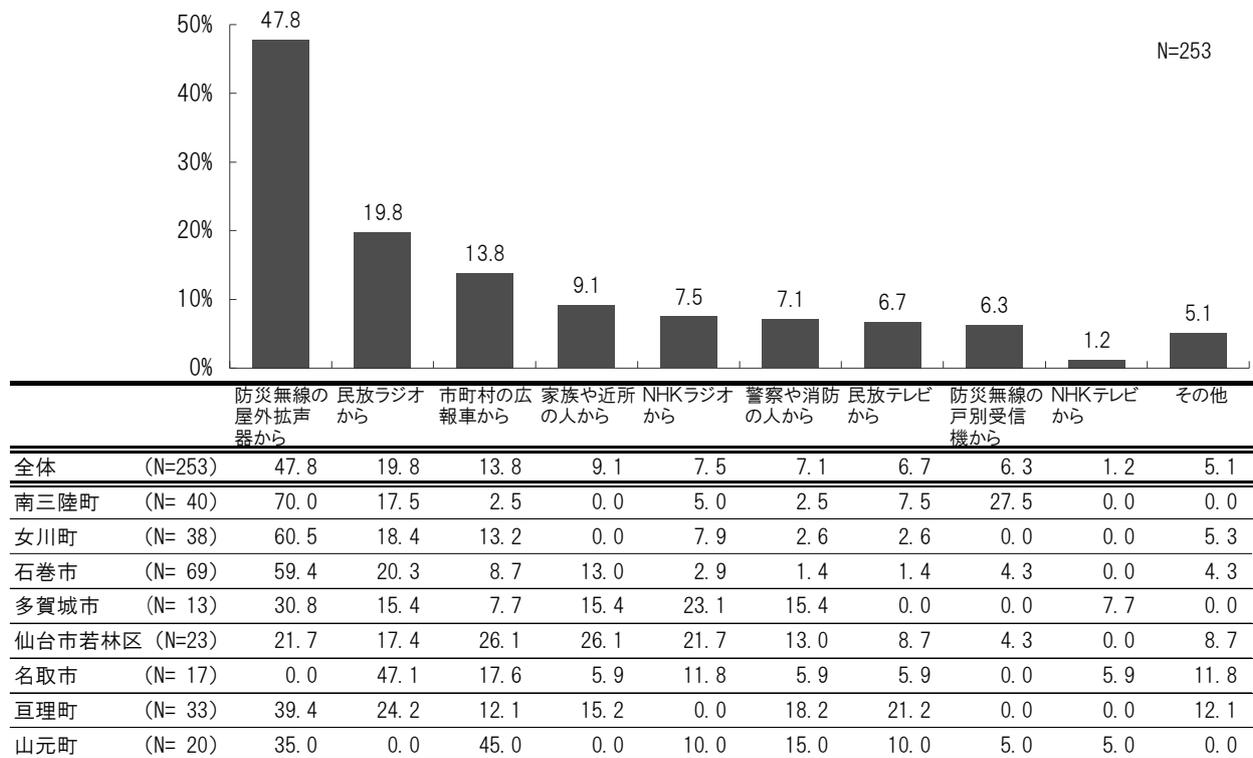
IV. 調査結果

(5) 大津波警報の認知媒体

「防災無線」が全体の約半数、停電等の影響でテレビは1割未満に留まっている

※大津波警報を聞いたと答えた方のみ

問6(2) あなたは、その大津波の警報をどのようにして知りましたか。(あてはまるもの全てに○)



大津波警報をどのように知ったかについては、「防災無線の屋外拡声器から」(47.8%)との回答が最も多く、警報を聞いた人の約半数を占める。他の手段は、ラジオや市町村の広報などがあげられており、「テレビ」は民法・NHKともに1割未満と低い。テレビによる大津波警報の把握の割合が低いことは、地震による大規模停電等の影響と考えられ、今回の震災の特徴の1つと言える。

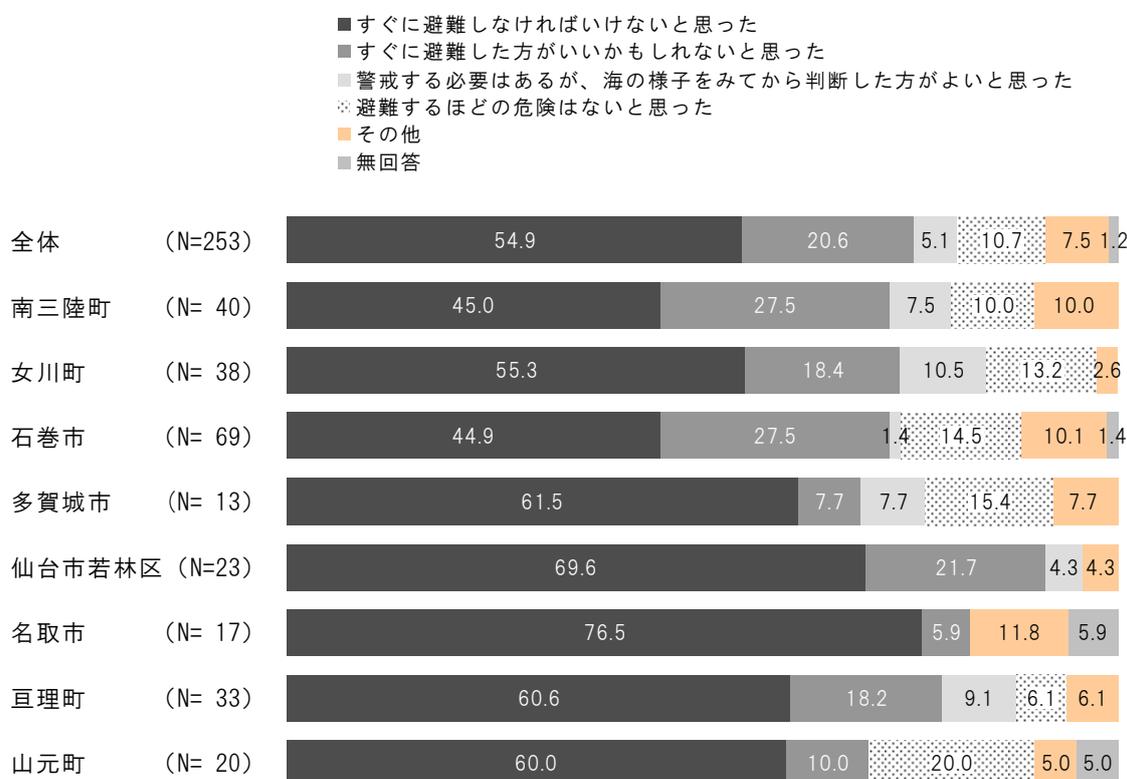
地域別に見ると、南三陸町や女川町では「防災無線の屋外拡声器から」が6~7割を占めているのに対し、名取市では「民報ラジオ」(47.1%)、山元町では「市町村の広報車から」(45.0%)の割合が高くなっている。

## (6) 大津波警報認知後の見通し

## 大津波警報を知った人の7割以上が避難の必要性を意識

※大津波警報を聞いたと答えた方のみ

問6(3) あなたは、この大津波の警報を聞いた時、どのように思いましたか。(○は1つだけ)



大津波警報の認知後の見通しについては、「すぐに避難しなければいけないと思った」(54.9%)との回答が過半数となった。「すぐに避難した方がいいかもしれないと思った」を合わせると、避難の必要性を感じた人は4分の3を占める。

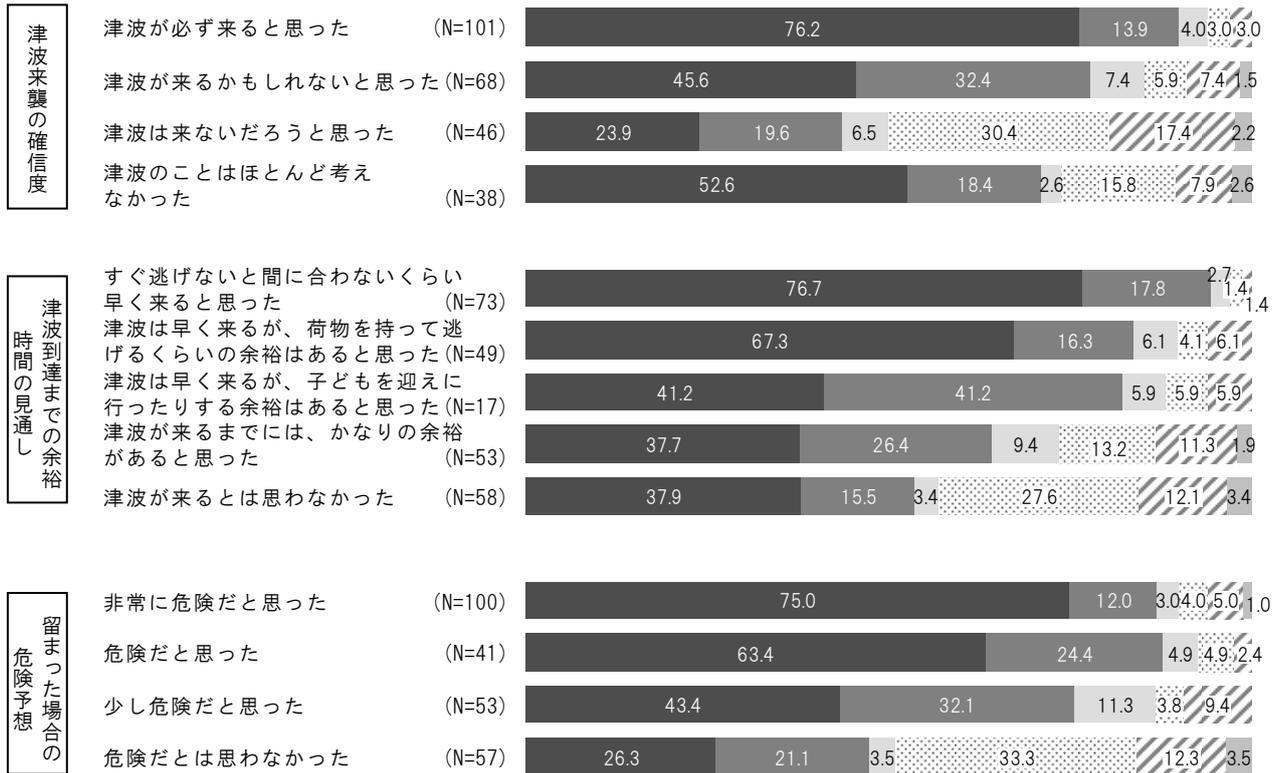
地域別にみると、「すぐに避難しなければいけないと思った」との回答が名取市や若林区で7割前後となっており、警報を認知した後に避難の必要性を感じた人が比較的多かったことがわかる。

津波来襲の確信度別、津波到達までの余裕時間の見通し別、留まった場合の危険予想別に、警報認知後の見通しをみると、危険への認識が高い人ほど「すぐに避難しなければいけないと思った」と回答し、多少の余裕を感じていた人の中にも避難の緊急性を感じた人が多いことがわかる一方、危険や避難への意識が低いまま「避難するほどの危険はないと思った」と感じ続けていた人も少なくない点から、地震の後、大津波警報を認知しても自身の安全のための行動に結びつかなかった状況も、うかがい知ることができる。

IV. 調査結果

■津波来襲の確信度別/津波到達までの余裕時間の見通し別/留まった場合の危険予想別

- すぐに避難しなければいけないと思った
- すぐに避難した方がいいかもしれないと思った
- 警戒する必要があるが、海の様子をみてから判断した方がよいと思った
- ⊙ 避難するほどの危険はないと思った
- ／ その他
- 無回答

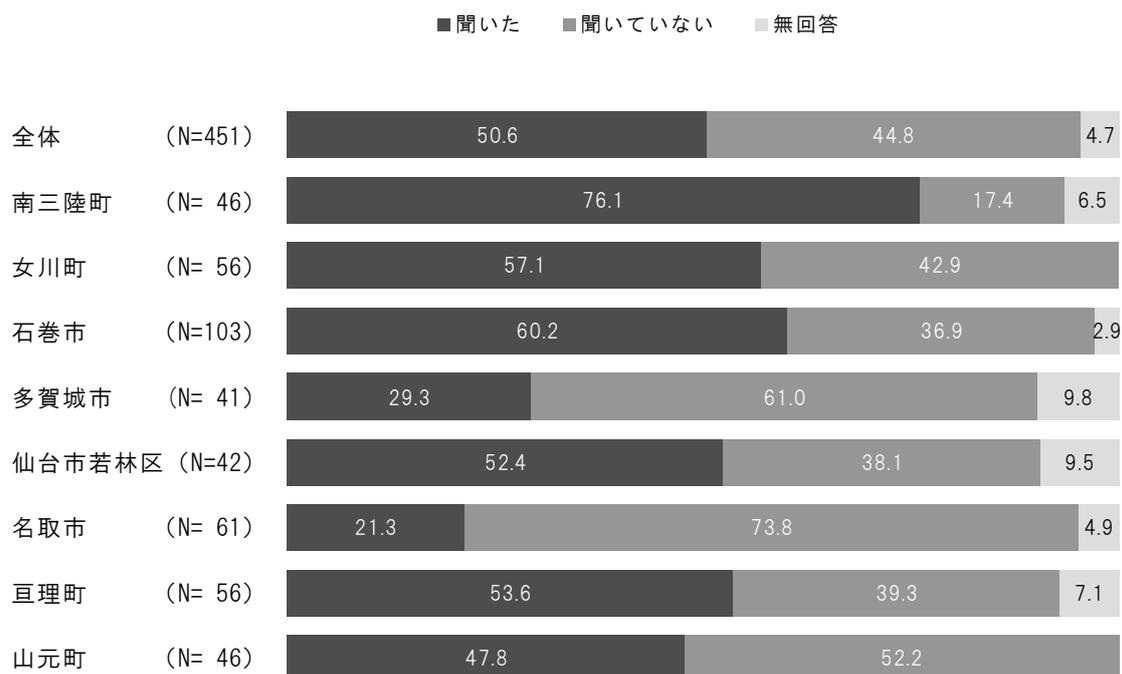


### 3 避難行動

#### (1) 自治体の呼びかけの認知

自治体の呼びかけを「聞いた」との回答は、全体の約半数（50.6%）

問 7(1) 地震のあと、市や町は「大津波が来るので避難するように」と呼びかけました。あなたは、この呼びかけを聞きましたか。（○は1つだけ）



自治体の避難の呼びかけの認知について、「聞いた」人は約半数となっている。

地域別にみると、「聞いた」人は大津波警報の認知と同様、南三陸町（76.1%）で多くなっている。

大津波警報の認知別にみると、大津波警報を聞いた人は自治体の呼びかけの認知率も高く、8割弱。これに対し、大津波警報を聞いていない人は自治体の呼びかけも聞いていない割合が多い。

#### ■大津波警報の認知別

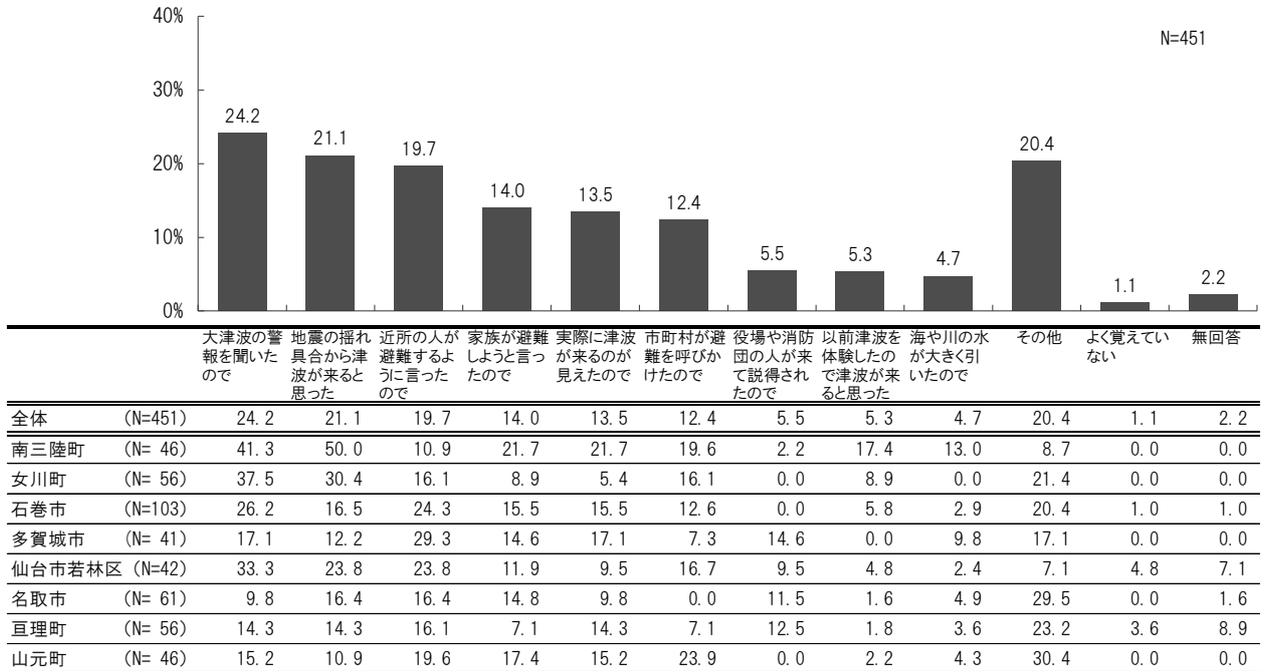


IV. 調査結果

(2) 避難のきっかけ

警報、自身の判断や声かけなどがきっかけに

問 7(2) あなたが避難したきっかけは何でしたか。(あてはまるもの全てに○)



避難行動のきっかけは、「大津波の警報を聞いたので」(24.2%)、「地震の揺れ具合から津波が来ると思った」(21.1%)、「近所の人や避難するよう言ったので」(19.7%) の順となっている。「その他」の回答も多いが、その内訳は、①避難できず津波にあった、②訪問先などでの誘導、③地震による揺れや被害、などである。

地域別にみると、「地震の揺れ具合から津波が来ると思った」との自己判断による避難は南三陸町(50.0%) で多い。

津波来襲の確信度別にみると、確信度が高い人は「地震の揺れ具合から津波が来ると思った」との自己判断により避難している人が 46.3% と多く、確信度が低い人は呼びかけによる避難が多い。

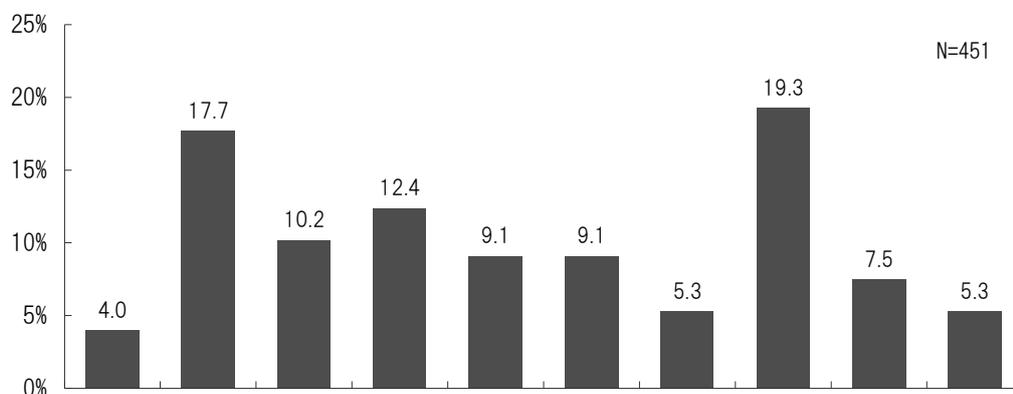
■津波来襲の確信度別

| 調査数 (N)          | 大津波の警報を聞いた | 地震の揺れ具合から津波が来ると思った | 近所の人や避難するよう言ったので | 家族が避難しようと言ったので | 実際に津波が来たのが見えたので | 市町村が避難を呼びかけたので | 役場や消防団の人が来て説得されたので | 以前津波を体験したのが大き引 | 海や川の水が大きい引 | その他 | よく覚えていない | 無回答 |     |
|------------------|------------|--------------------|------------------|----------------|-----------------|----------------|--------------------|----------------|------------|-----|----------|-----|-----|
| 全体               | 451        | 24.2               | 21.1             | 19.7           | 14.0            | 13.5           | 12.4               | 5.5            | 5.3        | 4.7 | 20.4     | 1.1 | 2.2 |
| 津波が必ず来ると思った      | 147        | 35.4               | 46.3             | 15.6           | 12.2            | 8.2            | 18.4               | 2.0            | 11.6       | 8.2 | 12.2     | 0.0 | 1.4 |
| 津波が来るかもしれないと思った  | 95         | 27.4               | 25.3             | 20.0           | 21.1            | 15.8           | 12.6               | 4.2            | 6.3        | 3.2 | 15.8     | 0.0 | 0.0 |
| 津波は来ないだろうと思った    | 94         | 17.0               | 3.2              | 17.0           | 13.8            | 18.1           | 6.4                | 8.5            | 0.0        | 4.3 | 27.7     | 4.3 | 4.3 |
| 津波のことはほとんど考えなかった | 112        | 12.5               | 0.0              | 26.8           | 10.7            | 14.3           | 8.9                | 8.9            | 0.0        | 1.8 | 29.5     | 0.9 | 2.7 |

## (3) 避難開始のタイミング（経過時間）

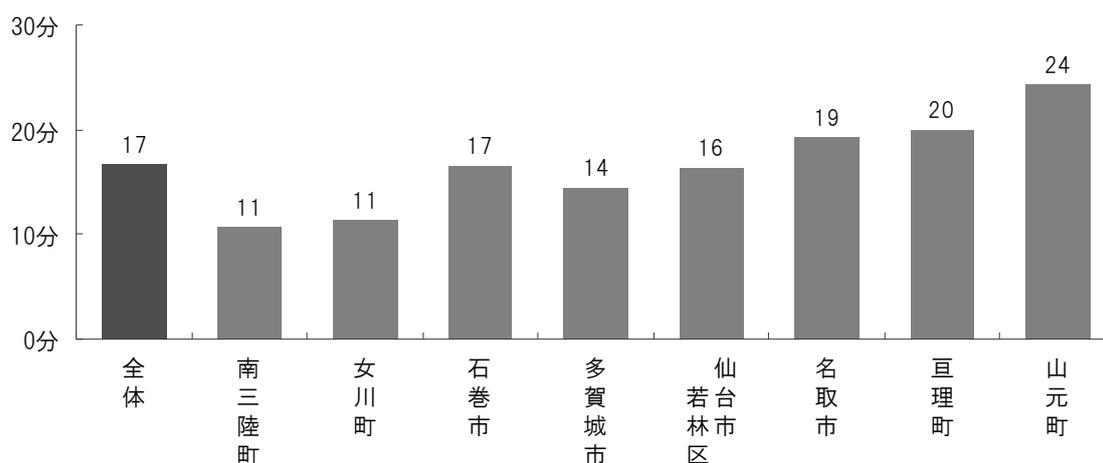
直後の避難から 30 分以上後まで様々、平均所要時間に地域差がみられる

問 8 あなたが避難をはじめたのは、地震の発生からどのくらい経ってからですか。（○は1つだけ）



|        |         | 揺れていてる間 | 揺れが収まった直後 | 揺れの5分くらい後 | 揺れの10分くらい後 | 揺れの15分くらい後 | 揺れの20分くらい後 | 揺れの25分くらい後 | 揺れの30分以上後 | よく覚えていない | 無回答 |
|--------|---------|---------|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|----------|-----|
| 全体     | (N=451) | 4.0     | 17.7      | 10.2      | 12.4       | 9.1        | 9.1        | 5.3        | 19.3      | 7.5      | 5.3 |
| 南三陸町   | (N= 46) | 10.9    | 30.4      | 10.9      | 8.7        | 8.7        | 10.9       | 2.2        | 8.7       | 2.2      | 6.5 |
| 女川町    | (N= 56) | 5.4     | 23.2      | 12.5      | 23.2       | 5.4        | 10.7       | 7.1        | 5.4       | 5.4      | 1.8 |
| 石巻市    | (N=103) | 1.9     | 20.4      | 9.7       | 13.6       | 9.7        | 3.9        | 3.9        | 20.4      | 9.7      | 6.8 |
| 多賀城市   | (N= 41) | 4.9     | 17.1      | 14.6      | 7.3        | 9.8        | 17.1       | 2.4        | 12.2      | 9.8      | 4.9 |
| 仙台市若林区 | (N=42)  | 2.4     | 9.5       | 4.8       | 14.3       | 14.3       | 19.0       | 4.8        | 9.5       | 11.9     | 9.5 |
| 名取市    | (N= 61) | 6.6     | 11.5      | 9.8       | 13.1       | 8.2        | 4.9        | 6.6        | 27.9      | 3.3      | 8.2 |
| 亶理町    | (N= 56) | 1.8     | 16.1      | 12.5      | 8.9        | 10.7       | 5.4        | 5.4        | 30.4      | 8.9      | 0.0 |
| 山元町    | (N= 46) | 0.0     | 10.9      | 6.5       | 6.5        | 6.5        | 10.9       | 10.9       | 34.8      | 8.7      | 4.3 |

## 【避難開始までの平均所要時間】



避難を開始した時間については、「揺れの30分以上後」（19.3%）との回答が約2割と最も多い。「揺れが収まった直後」（17.7%）との回答も2割弱あり、避難時間の差は幅広い。

地域別にみると、リアス地域では「揺れが収まった直後」に避難を開始している人が最も多くなっているのに対し、砂浜地域（特に亶理町・山元町）では「揺れの30分以上後」に避難している人が多い。

#### IV. 調査結果

これらの回答を目安となる数値に置き換え、平均所要時間を求めたところ、避難開始までの所要時間は平均 17 分となった。地域での差も大きく、南三陸町や女川町では 11 分と早いのにに対し、名取市や亘理町、山元町では避難開始まで 20 分前後かかっている。

津波に関する危機意識と避難開始のタイミングとの関係を見ると、「津波が必ずくる」、「すぐに逃げないと間に合わない」、その場に留まると「非常に危険」など危機意識の高い人ほど避難開始のタイミングは早く、5 分以内に避難を開始した人が 4 割以上となっている。

また、大津波警報や自治体の呼びかけを聞いた人は、聞いていない人よりも避難開始が早く、5 分以内に避難を開始した人は 3 割台半ば。また、「以前津波を体験したので津波が来ると思った」「地震のゆれ具合から津波が来ると思った」など自己判断で避難を始めた人ほど避難開始のタイミングは早く、5 分以内の避難開始が半数以上となっている。

津波に関する伝承と学習も避難開始のタイミングと関係しており、伝承が役に立った、学習が役に立ったとしている人ほど避難が早い。

#### ■各設問別避難開始のタイミング

|                                  | 調査数 (N) | 揺れている間 | 揺れが収まった直後 | 揺れの 5 分くらい後 | 揺れの 10 分くらい後 | 揺れの 15 分くらい後 | 揺れの 20 分くらい後 | 揺れの 25 分くらい後 | 揺れの 30 分以上後 | よく覚えていない | 無回答  | 5 分以内に避難を開始 | 避難開始までの平均所要時間 |
|----------------------------------|---------|--------|-----------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|----------|------|-------------|---------------|
| 全体                               | 451     | 4.0    | 17.7      | 10.2        | 12.4         | 9.1          | 9.1          | 5.3          | 19.3        | 7.5      | 5.3  | 31.9        | 17            |
| 津波来襲の確信度 (地震直後)                  |         |        |           |             |              |              |              |              |             |          |      |             |               |
| 津波が必ず来ると思った                      | 147     | 6.8    | 29.3      | 10.2        | 14.3         | 6.1          | 11.6         | 4.1          | 10.9        | 4.1      | 2.7  | 46.3        | 12            |
| 津波が来るかもしれないと思った                  | 95      | 2.1    | 17.9      | 14.7        | 16.8         | 12.6         | 5.3          | 9.5          | 12.6        | 6.3      | 2.1  | 34.7        | 15            |
| 津波は来ないだろうと思った                    | 94      | 4.3    | 11.7      | 10.6        | 10.6         | 11.7         | 8.5          | 3.2          | 26.6        | 9.6      | 3.2  | 26.6        | 19            |
| 津波のことはほとんど考えなかった                 | 112     | 1.8    | 8.0       | 5.4         | 8.0          | 8.0          | 8.9          | 5.4          | 30.4        | 11.6     | 12.5 | 15.2        | 23            |
| 津波到達までの余裕時間の見通し                  |         |        |           |             |              |              |              |              |             |          |      |             |               |
| すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った         | 114     | 6.1    | 27.2      | 15.8        | 15.8         | 5.3          | 10.5         | 2.6          | 10.5        | 3.5      | 2.6  | 49.1        | 12            |
| 津波は早く来るが、荷物を持って逃げるくらいの余裕はあると思った  | 69      | 7.2    | 18.8      | 14.5        | 11.6         | 11.6         | 8.7          | 10.1         | 13.0        | 2.9      | 1.4  | 40.5        | 14            |
| 津波は早く来るが、子どもを迎えに行ったりする余裕はあると思った  | 24      | 0.0    | 4.2       | 4.2         | 16.7         | 12.5         | 0.0          | 16.7         | 29.2        | 16.7     | 0.0  | 8.4         | 24            |
| 津波が来るまでには、かなりの余裕があると思った          | 76      | 1.3    | 21.1      | 9.2         | 17.1         | 10.5         | 11.8         | 6.6          | 13.2        | 6.6      | 2.6  | 31.6        | 15            |
| 津波が来るとは思わなかった                    | 158     | 3.2    | 10.1      | 5.7         | 7.6          | 9.5          | 8.9          | 3.2          | 29.7        | 12.0     | 10.1 | 19.0        | 22            |
| 留まった場合の危険予想                      |         |        |           |             |              |              |              |              |             |          |      |             |               |
| 非常に危険だと思った                       | 165     | 6.1    | 24.2      | 10.9        | 12.7         | 8.5          | 12.1         | 3.0          | 12.1        | 6.1      | 4.2  | 41.2        | 13            |
| 危険だと思った                          | 63      | 4.8    | 15.9      | 12.7        | 17.5         | 9.5          | 3.2          | 6.3          | 17.5        | 9.5      | 3.2  | 33.4        | 15            |
| 少し危険だと思った                        | 84      | 3.6    | 15.5      | 10.7        | 11.9         | 9.5          | 9.5          | 9.5          | 23.8        | 3.6      | 2.4  | 29.8        | 19            |
| 危険だとは思わなかった                      | 132     | 1.5    | 12.1      | 7.6         | 10.6         | 9.1          | 8.3          | 5.3          | 27.3        | 11.4     | 6.8  | 21.2        | 21            |
| 大津波警報の認知                         |         |        |           |             |              |              |              |              |             |          |      |             |               |
| 聞いた                              | 253     | 3.6    | 21.3      | 10.3        | 14.2         | 11.1         | 7.9          | 6.3          | 15.4        | 5.9      | 4.0  | 35.2        | 15            |
| 聞かなかった                           | 195     | 4.6    | 13.3      | 9.7         | 10.3         | 6.7          | 10.8         | 4.1          | 24.6        | 9.7      | 6.2  | 27.6        | 19            |
| 大津波警報の認知後の見通し                    |         |        |           |             |              |              |              |              |             |          |      |             |               |
| すぐに避難しなければいけないと思った               | 139     | 4.3    | 28.8      | 9.4         | 15.8         | 9.4          | 8.6          | 5.0          | 9.4         | 7.9      | 1.4  | 42.5        | 12            |
| すぐに避難した方がいいかもしれないと思った            | 52      | 1.9    | 15.4      | 15.4        | 17.3         | 19.2         | 5.8          | 7.7          | 11.5        | 1.9      | 3.8  | 32.7        | 14            |
| 警戒する必要があるが、海の様子をみてから判断した方がよいと思った | 13      | 7.7    | 7.7       | 15.4        | 15.4         | 0.0          | 15.4         | 23.1         | 15.4        | 0.0      | 0.0  | 30.8        | 18            |
| 避難するほどの危険はないと思った                 | 27      | 0.0    | 11.1      | 7.4         | 11.1         | 3.7          | 7.4          | 3.7          | 37.0        | 7.4      | 11.1 | 18.5        | 24            |
| その他                              | 19      | 5.3    | 10.5      | 5.3         | 0.0          | 21.1         | 5.3          | 5.3          | 26.3        | 5.3      | 15.8 | 21.1        | 21            |

## ■各設問別避難開始のタイミング（続き）

|                        | 調査数（N） | 揺れている間 | 揺れが収まった直後 | 揺れの5分くらい後 | 揺れの10分くらい後 | 揺れの15分くらい後 | 揺れの20分くらい後 | 揺れの25分くらい後 | 揺れの30分以上後 | よく覚えていない | 無回答  | 5分以内に避難を開始 | 避難開始までの平均所要時間 |
|------------------------|--------|--------|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|----------|------|------------|---------------|
| 全体                     | 451    | 4.0    | 17.7      | 10.2      | 12.4       | 9.1        | 9.1        | 5.3        | 19.3      | 7.5      | 5.3  | 31.9       | 17            |
| 自治体の呼びかけの認知            |        |        |           |           |            |            |            |            |           |          |      |            |               |
| 聞いた                    | 228    | 3.5    | 21.1      | 12.3      | 13.2       | 9.2        | 8.3        | 5.7        | 15.4      | 7.0      | 4.4  | 36.9       | 15            |
| 聞いていない                 | 202    | 5.0    | 13.4      | 7.9       | 11.9       | 7.4        | 10.9       | 5.4        | 24.8      | 8.4      | 5.0  | 26.3       | 19            |
| 避難のきっかけ                |        |        |           |           |            |            |            |            |           |          |      |            |               |
| 以前津波を体験したので津波が来ると思った   | 24     | 0.0    | 45.8      | 4.2       | 12.5       | 8.3        | 12.5       | 0.0        | 8.3       | 8.3      | 0.0  | 50.0       | 11            |
| 地震の揺れ具合から津波が来ると思った     | 95     | 5.3    | 32.6      | 15.8      | 13.7       | 6.3        | 12.6       | 5.3        | 5.3       | 2.1      | 1.1  | 53.7       | 10            |
| 海や川の水が大きく引いたので         | 21     | 9.5    | 33.3      | 9.5       | 4.8        | 14.3       | 4.8        | 9.5        | 9.5       | 0.0      | 4.8  | 52.3       | 12            |
| 家族が避難しようと言ったので         | 63     | 6.3    | 19.0      | 7.9       | 12.7       | 7.9        | 17.5       | 9.5        | 12.7      | 4.8      | 1.6  | 33.2       | 15            |
| 近所の人が避難するように言ったので      | 89     | 0.0    | 19.1      | 10.1      | 18.0       | 7.9        | 12.4       | 6.7        | 15.7      | 10.1     | 0.0  | 29.2       | 16            |
| 市町村が避難を呼びかけたので         | 56     | 0.0    | 16.1      | 12.5      | 17.9       | 8.9        | 12.5       | 5.4        | 12.5      | 8.9      | 5.4  | 28.6       | 15            |
| 大津波の警報を聞いたので           | 109    | 2.8    | 21.1      | 12.8      | 18.3       | 9.2        | 9.2        | 7.3        | 10.1      | 6.4      | 2.8  | 36.7       | 13            |
| 役場や消防団の人が来て説得されたので     | 25     | 0.0    | 16.0      | 12.0      | 4.0        | 20.0       | 4.0        | 0.0        | 24.0      | 16.0     | 4.0  | 28.0       | 19            |
| 実際に津波が来るのを見たので         | 61     | 3.3    | 14.8      | 1.6       | 4.9        | 6.6        | 13.1       | 4.9        | 39.3      | 11.5     | 0.0  | 19.7       | 24            |
| その他                    | 92     | 4.3    | 8.7       | 10.9      | 7.6        | 6.5        | 4.3        | 4.3        | 29.3      | 12.0     | 12.0 | 23.9       | 21            |
| よく覚えていない               | 5      | 40.0   | 0.0       | 20.0      | 0.0        | 20.0       | 0.0        | 0.0        | 0.0       | 20.0     | 0.0  | 60.0       | 5             |
| 津波との遭遇                 |        |        |           |           |            |            |            |            |           |          |      |            |               |
| 津波に巻き込まれた              | 44     | 2.3    | 18.2      | 4.5       | 6.8        | 4.5        | 2.3        | 2.3        | 27.3      | 20.5     | 11.4 | 25.0       | 21            |
| 津波に巻き込まれる寸前だった         | 100    | 3.0    | 17.0      | 7.0       | 10.0       | 10.0       | 8.0        | 8.0        | 28.0      | 5.0      | 4.0  | 27.0       | 20            |
| 少し離れたところから、津波が来るのを見ていた | 166    | 3.6    | 22.3      | 12.7      | 12.0       | 8.4        | 12.0       | 6.6        | 14.5      | 4.2      | 3.6  | 38.6       | 15            |
| 津波が来るのを見ていない           | 130    | 6.2    | 13.1      | 10.0      | 16.2       | 10.8       | 8.5        | 3.1        | 16.9      | 10.0     | 5.4  | 29.3       | 16            |
| 津波に関する伝承               |        |        |           |           |            |            |            |            |           |          |      |            |               |
| 聞いたことがあり、役に立った         | 111    | 6.3    | 27.9      | 11.7      | 10.8       | 8.1        | 14.4       | 1.8        | 10.8      | 6.3      | 1.8  | 45.9       | 12            |
| 聞いたことがあり、多少役に立った       | 43     | 4.7    | 14.0      | 14.0      | 14.0       | 11.6       | 14.0       | 9.3        | 14.0      | 0.0      | 4.7  | 32.7       | 16            |
| 聞いたことはあるが、あまり役に立たなかった  | 69     | 2.9    | 10.1      | 11.6      | 21.7       | 10.1       | 10.1       | 5.8        | 15.9      | 5.8      | 5.8  | 24.6       | 16            |
| 聞いたことはあるが、役に立たなかった     | 110    | 5.5    | 16.4      | 8.2       | 7.3        | 4.5        | 7.3        | 5.5        | 28.2      | 10.0     | 7.3  | 30.1       | 20            |
| 聞いたことがなかった             | 110    | 0.9    | 14.5      | 8.2       | 13.6       | 13.6       | 3.6        | 6.4        | 24.5      | 10.0     | 4.5  | 23.6       | 19            |
| 津波に関する学習               |        |        |           |           |            |            |            |            |           |          |      |            |               |
| 習ったことがあり、役に立った         | 60     | 5.0    | 28.3      | 13.3      | 11.7       | 6.7        | 10.0       | 0.0        | 11.7      | 10.0     | 3.3  | 46.6       | 12            |
| 習ったことがあり、多少役に立った       | 42     | 4.8    | 14.3      | 14.3      | 21.4       | 11.9       | 11.9       | 14.3       | 7.1       | 0.0      | 0.0  | 33.4       | 14            |
| 習ったことはあるが、あまり役に立たなかった  | 33     | 3.0    | 18.2      | 12.1      | 15.2       | 21.2       | 9.1        | 3.0        | 9.1       | 6.1      | 3.0  | 33.3       | 13            |
| 習ったことはあるが、役に立たなかった     | 74     | 6.8    | 12.2      | 8.1       | 12.2       | 6.8        | 6.8        | 4.1        | 23.0      | 12.2     | 8.1  | 27.1       | 18            |
| 習ったことがなかった             | 229    | 3.1    | 16.6      | 9.2       | 11.4       | 8.7        | 9.2        | 5.7        | 24.9      | 7.0      | 4.4  | 28.9       | 19            |

避難開始までの平均所要時間の算出にあたっては、「2003年十勝沖地震における津波避難行動調査」と同一の集計方法とするために、回答選択肢に下記の重みづけを行った。

揺れている間：0分

揺れが収まった直後：3分

揺れの5分くらい後：5分

～

揺れの25分くらい後：25分

揺れの30分以上後：40分

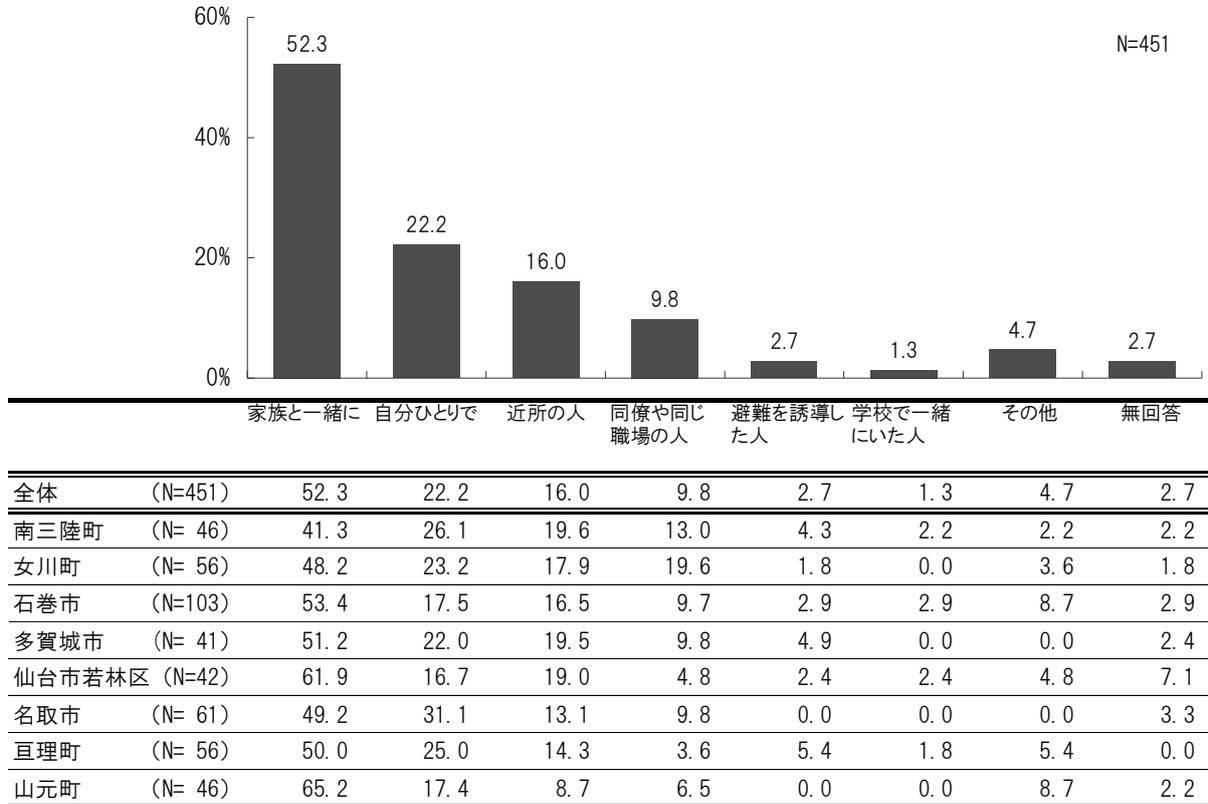
※よく覚えていない・無回答を除く

IV. 調査結果

(4) 避難時の同行者

「家族と一緒に」避難した人が全体の約半数 (52.3%)

問9 あなたはどなたかと一緒に避難しましたか。(あてはまるもの全てに○)



一緒に避難した人をたずねたところ、「家族と一緒に」(52.3%)との回答が最も多く、約半数を占める。「自分ひとりで」避難した人は22.2%だった。

単身者の約半数は「自分ひとりで」避難しているが、同居家族のいる人は約6割が家族と避難している。

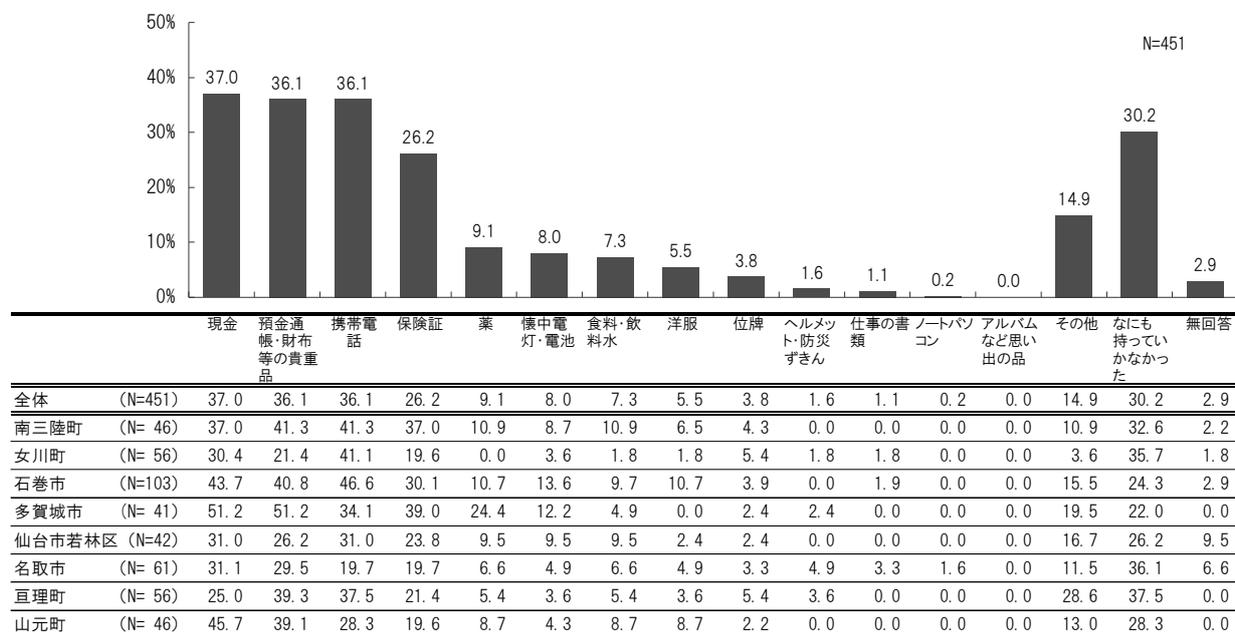
■ 家族の居場所別

| 調査数 (N)       | 家族と一緒に (%) | 自分ひとりで (%) | 近所の人 (%) | 同僚や同じ職場の人 (%) | 避難を誘導した人 (%) | 学校で一緒にいた人 (%) | その他 (%) | 無回答 (%) |     |
|---------------|------------|------------|----------|---------------|--------------|---------------|---------|---------|-----|
| 全体            | 451        | 52.3       | 22.2     | 16.0          | 9.8          | 2.7           | 1.3     | 4.7     | 2.7 |
| 同居家族あり        | 400        | 58.8       | 19.0     | 14.3          | 9.8          | 2.8           | 1.5     | 4.3     | 2.5 |
| 自宅            | 283        | 64.7       | 16.3     | 13.8          | 9.9          | 2.5           | 1.4     | 3.9     | 2.8 |
| 職場            | 178        | 50.6       | 21.9     | 16.3          | 7.3          | 2.8           | 2.8     | 5.6     | 3.4 |
| 学校            | 66         | 51.5       | 25.8     | 12.1          | 10.6         | 1.5           | 3.0     | 6.1     | 0.0 |
| 幼稚園・保育所       | 11         | 72.7       | 18.2     | 9.1           | 0.0          | 0.0           | 0.0     | 9.1     | 0.0 |
| 買い物・通院などで外出中  | 40         | 65.0       | 20.0     | 12.5          | 2.5          | 0.0           | 2.5     | 2.5     | 2.5 |
| その他の場所        | 39         | 51.3       | 20.5     | 7.7           | 23.1         | 2.6           | 2.6     | 7.7     | 0.0 |
| 同居家族はいない(単身者) | 51         | 2.0        | 47.1     | 29.4          | 9.8          | 2.0           | 0.0     | 7.8     | 3.9 |

## (5) 避難時の持ち物

現金、貴重品、携帯電話が多い一方、何も持たない（着の身着のままの）人も

問 10 あなたは避難する時にどのようなものを持ちましたか。（あてはまるもの全てに○）



避難時の持ち物では、「現金」(37.0%)、「預金通帳・財布等の貴重品」(36.1%)、「携帯電話」(36.1%)が上位3項目となっている。また、南三陸町や女川町、名取市や亶理町では3～4割近くの人が「何も持っていかなかった」と、着の身着のままの状況を回答している。

性別にみると、女性は男性に比べ「預金通帳・財布等の貴重品」(42.7%)、「保険証」(31.7%)を持っていった人が多く、男性は女性より「何も持っていかなかった」(35.6%)人が多い。

年齢別では、「現金」と「携帯電話」を持っていった人が40歳以下で多く、「何も持っていかなかった」人は60歳以上で多い。

## ■性別／年齢別

| 調査対象  | 調査数 (N) | 現金   | 預金通帳・財布等の貴重品 | 携帯電話 | 保険証  | 薬    | 懐中電灯・電池 | 食料・飲料水 | 洋服   | 位牌  | ヘルメット・防災ずきん | 仕事の書類 | ノートパソコン | アルバムなど思い出の品 | その他  | なにも持っていかなかった | 無回答 |
|-------|---------|------|--------------|------|------|------|---------|--------|------|-----|-------------|-------|---------|-------------|------|--------------|-----|
| 全体    | 451     | 37.0 | 36.1         | 36.1 | 26.2 | 9.1  | 8.0     | 7.3    | 5.5  | 3.8 | 1.6         | 1.1   | 0.2     | 0.0         | 14.9 | 30.2         | 2.9 |
| 男性    | 205     | 34.1 | 28.3         | 36.1 | 19.5 | 7.8  | 7.8     | 6.3    | 4.4  | 3.4 | 2.9         | 1.0   | 0.5     | 0.0         | 10.7 | 35.6         | 3.4 |
| 女性    | 246     | 39.4 | 42.7         | 36.2 | 31.7 | 10.2 | 8.1     | 8.1    | 6.5  | 4.1 | 0.4         | 1.2   | 0.0     | 0.0         | 18.3 | 25.6         | 2.4 |
| 20歳代  | 30      | 53.3 | 26.7         | 66.7 | 23.3 | 16.7 | 3.3     | 23.3   | 13.3 | 3.3 | 0.0         | 0.0   | 0.0     | 0.0         | 13.3 | 13.3         | 0.0 |
| 30歳代  | 45      | 51.1 | 57.8         | 62.2 | 37.8 | 11.1 | 8.9     | 15.6   | 11.1 | 2.2 | 0.0         | 2.2   | 0.0     | 0.0         | 8.9  | 20.0         | 0.0 |
| 40歳代  | 84      | 59.5 | 38.1         | 54.8 | 33.3 | 6.0  | 10.7    | 8.3    | 8.3  | 3.6 | 2.4         | 2.4   | 0.0     | 0.0         | 14.3 | 16.7         | 1.2 |
| 50歳代  | 79      | 36.7 | 48.1         | 38.0 | 29.1 | 13.9 | 12.7    | 5.1    | 3.8  | 6.3 | 1.3         | 0.0   | 0.0     | 0.0         | 17.7 | 22.8         | 5.1 |
| 60歳代  | 118     | 28.0 | 33.1         | 23.7 | 23.7 | 6.8  | 7.6     | 4.2    | 3.4  | 3.4 | 2.5         | 1.7   | 0.8     | 0.0         | 17.8 | 33.9         | 5.9 |
| 70歳以上 | 95      | 16.8 | 21.1         | 11.6 | 15.8 | 7.4  | 3.2     | 3.2    | 2.1  | 3.2 | 1.1         | 0.0   | 0.0     | 0.0         | 12.6 | 53.7         | 1.1 |

IV. 調査結果

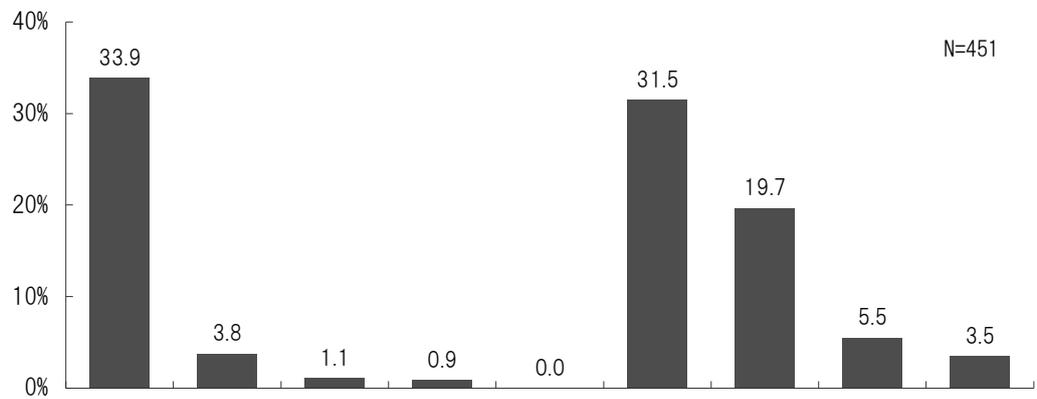
(6) 避難時の移動手段

①移動手段

徒歩と自動車に分かれており、自動車の利用は砂浜地域により多い

問 11 あなたはどのように避難をしましたか。(○は1つだけ)

(※ただし、途中で移動手段を変えた場合は、1次手段を○、2次手段を◎)



|        |         | 自分で歩いて避難した | 自分で自転車に乗って避難した | 自転車に乗せてもらい避難した | 自分でバイクを運転して避難した | バイクに乗せてもらって避難した | 自分で車を運転して避難した | 車に乗せてもらい避難した | その他 | 無回答 |
|--------|---------|------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|---------------|--------------|-----|-----|
| 全体     | (N=451) | 33.9       | 3.8            | 1.1            | 0.9             | 0.0             | 31.5          | 19.7         | 5.5 | 3.5 |
| 南三陸町   | (N= 46) | 60.9       | 2.2            | 0.0            | 0.0             | 0.0             | 26.1          | 6.5          | 2.2 | 2.2 |
| 女川町    | (N= 56) | 41.1       | 0.0            | 0.0            | 0.0             | 0.0             | 37.5          | 16.1         | 3.6 | 1.8 |
| 石巻市    | (N=103) | 37.9       | 4.9            | 1.0            | 2.9             | 0.0             | 25.2          | 15.5         | 9.7 | 2.9 |
| 多賀城市   | (N= 41) | 53.7       | 4.9            | 2.4            | 0.0             | 0.0             | 17.1          | 12.2         | 7.3 | 2.4 |
| 仙台市若林区 | (N=42)  | 16.7       | 4.8            | 0.0            | 2.4             | 0.0             | 40.5          | 21.4         | 4.8 | 9.5 |
| 名取市    | (N= 61) | 19.7       | 4.9            | 1.6            | 0.0             | 0.0             | 31.1          | 31.1         | 3.3 | 8.2 |
| 亶理町    | (N= 56) | 19.6       | 7.1            | 1.8            | 0.0             | 0.0             | 39.3          | 25.0         | 7.1 | 0.0 |
| 山元町    | (N= 46) | 23.9       | 0.0            | 2.2            | 0.0             | 0.0             | 39.1          | 30.4         | 2.2 | 2.2 |

避難時の移動手段は、「自分で車を運転して移動した」(31.5%)「車に乗せてもらい避難した」(19.7%)と車での避難が約半数を占めている。また、徒歩での避難は3人に1人となっている。

地域別にみると、リアス地域や港湾地域では徒歩での避難が多くみられ、特に南三陸町では徒歩避難者が約6割を占める。これに対し、砂浜地域では車での避難が多い。

年齢別にみると、20歳代では「自分で歩いて避難した」人が多く、30歳代～50歳代では「自分で車を運転して避難した」、60歳以上では「車に乗せてもらい避難した」が多い。

## ■性別／年齢別

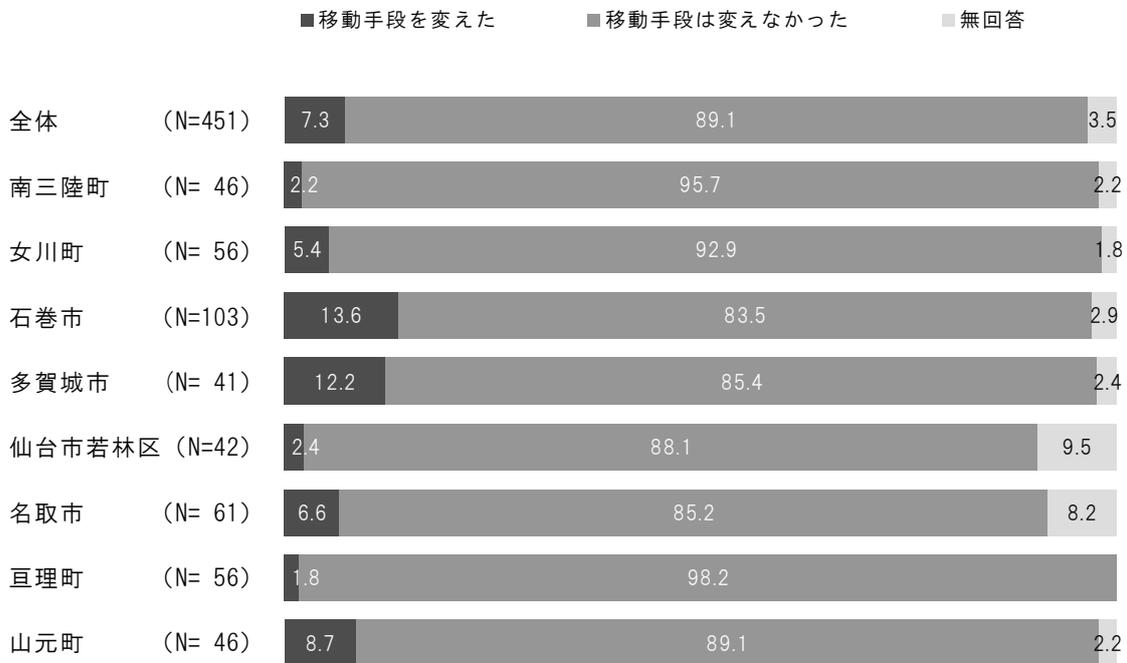
|       | 調査数<br>(N) | 自分で歩いて避難した | 自分で自転車で避難した | 自転車で避難した | 自分でバイクを運転して避難した | バイクに乗せてもらった | 自分で車を運転して避難した | 車に乗せてもらい避難した | その他 | 無回答 |
|-------|------------|------------|-------------|----------|-----------------|-------------|---------------|--------------|-----|-----|
| 全体    | 451        | 33.9       | 3.8         | 1.1      | 0.9             | 0.0         | 31.5          | 19.7         | 5.5 | 3.5 |
| 男性    | 205        | 36.6       | 4.9         | 1.0      | 1.5             | 0.0         | 35.6          | 11.2         | 4.9 | 4.4 |
| 女性    | 246        | 31.7       | 2.8         | 1.2      | 0.4             | 0.0         | 28.0          | 26.8         | 6.1 | 2.8 |
| 20歳代  | 30         | 46.7       | 6.7         | 0.0      | 10.0            | 0.0         | 13.3          | 16.7         | 6.7 | 0.0 |
| 30歳代  | 45         | 31.1       | 4.4         | 0.0      | 0.0             | 0.0         | 53.3          | 11.1         | 0.0 | 0.0 |
| 40歳代  | 84         | 41.7       | 2.4         | 0.0      | 1.2             | 0.0         | 36.9          | 11.9         | 3.6 | 2.4 |
| 50歳代  | 79         | 29.1       | 5.1         | 1.3      | 0.0             | 0.0         | 44.3          | 11.4         | 3.8 | 5.1 |
| 60歳代  | 118        | 25.4       | 5.1         | 1.7      | 0.0             | 0.0         | 25.4          | 26.3         | 8.5 | 7.6 |
| 70歳以上 | 95         | 38.9       | 1.1         | 2.1      | 0.0             | 0.0         | 18.9          | 30.5         | 7.4 | 1.1 |

IV. 調査結果

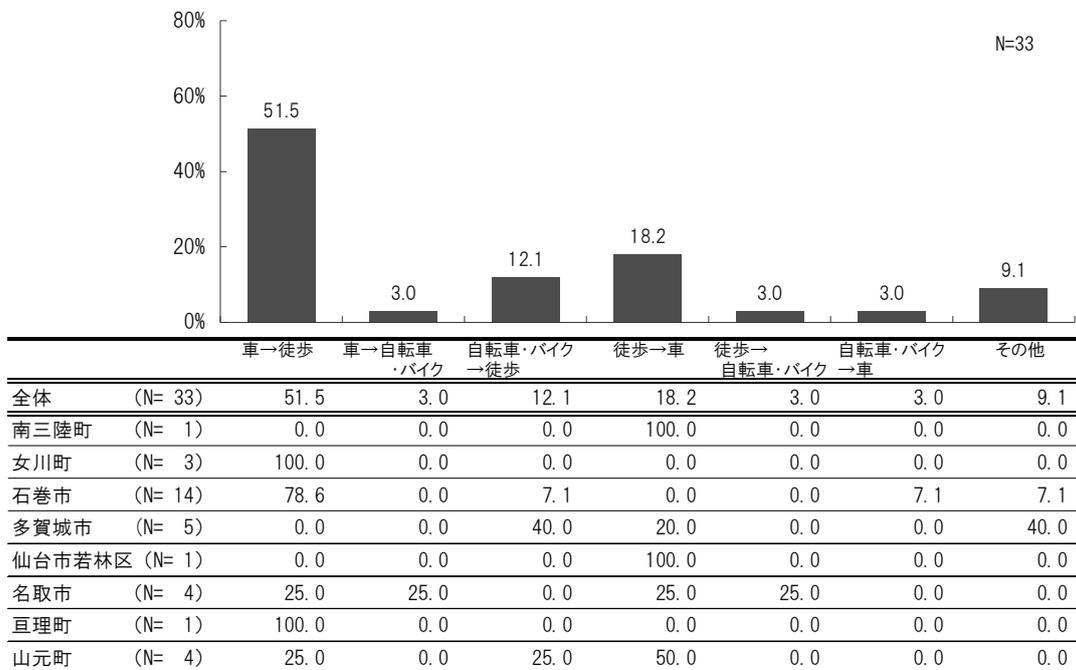
②移動手段変更の有無

変えなかった人が全体の約9割、港湾・市街地（石巻、多賀城）で変更がやや多い

※問11で1次手段のみ回答した人：移動手段は変えなかった  
2次手段も回答した人：移動手段を変えた として集計



【移動手段変更パターン】

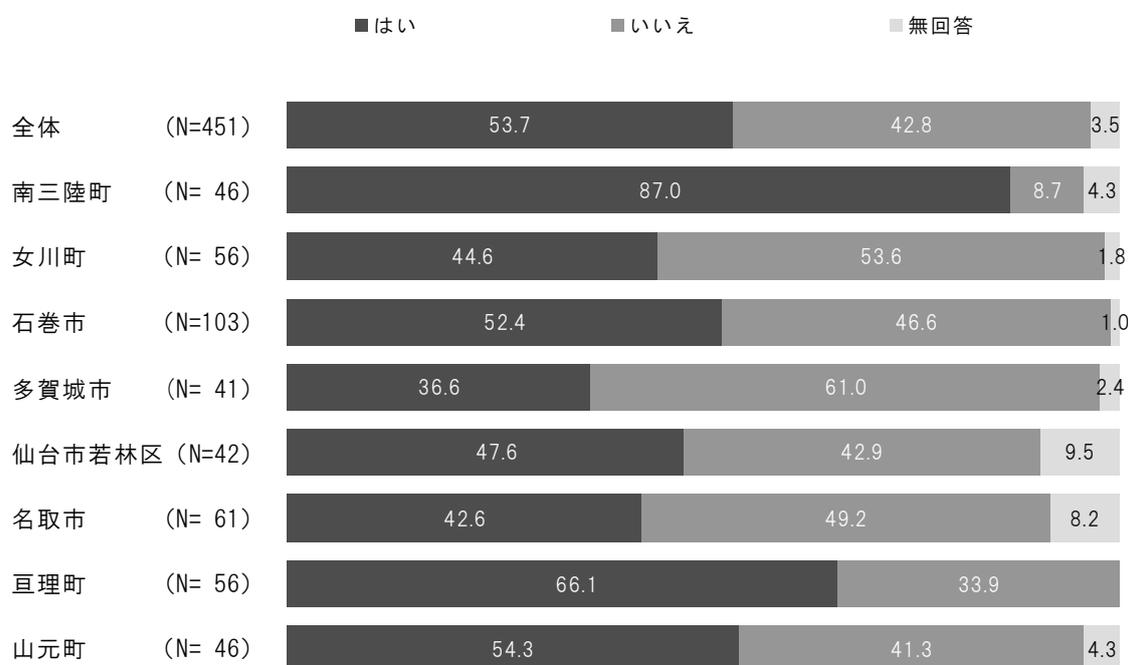


避難途中の移動手段変更の有無をたずねたところ、「移動手段を変えた」人は7.3%にとどまった。地域別では、石巻市、多賀城市でやや移動手段の変更が多かったようである。また、移動手段を変えた人のうち、約半数が「車から徒歩」に手段を変更している。（※移動手段の変更者（集計の基数）が少ないため、結果は参考程度に留められたい）

## (7) 最初の避難場所は普段から考えていたところか

予定通りの避難場所だった人は全体の過半数（53.7%）、南三陸で特に多い

問 12 あなたが最初に避難した場所は、普段から避難先と考えていたところですか。（○は1つだけ）

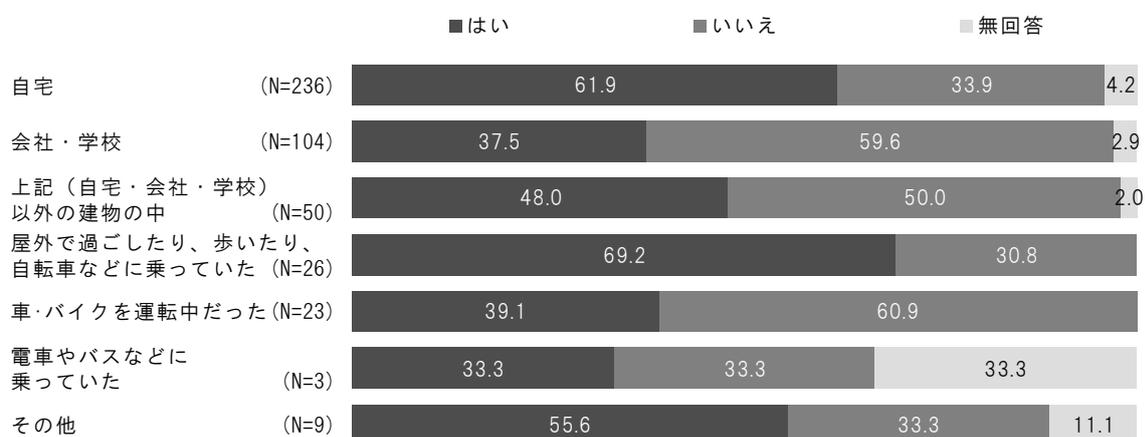


最初の避難場所が普段から考えていた場所だった人は全体の約半数であった。

地域別にみると、南三陸町では9割近くが普段から考えていた場所に最初に避難しており、他の地域に比べ多い。

回答者の居場所別にみると、自宅にいた人は普段考えていた場所への避難が多く、会社や学校にいた人はそれ以外の場所に避難した人が多い。

#### ■回答者の居場所別

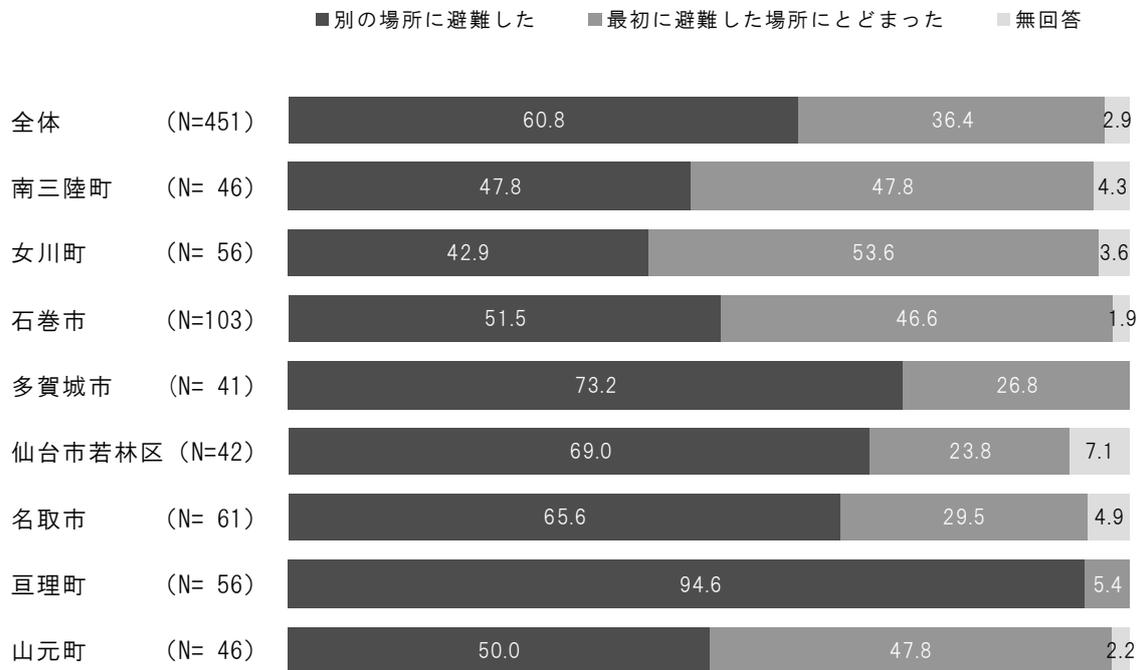


IV. 調査結果

(8) 津波の危険による避難先の変更

避難が二段階になった人が全体の約6割(60.8%)

問13 最初に避難した場所から別の場所に避難しましたか。(〇は1つだけ)



今回の避難行動で、最初の避難場所からの変更(二段階の避難)の有無をたずねたところ、「別の場所に避難した」人は6割を占めた。

地域別にみると、亶理町で「別の場所に避難した」人が94.6%と特に多く、他に、多賀城市、若林区、名取市でも7割前後と他の地域に比べて二段階の避難を経験した人が多い。

前頁(問12)の「最初の避難場所が普段から避難場所と考えていたか否か」と、避難場所変更の有無の関係をみると、最初から普段の避難場所に避難していた人でも「別の場所に避難した」人は半数以上となっており、日頃の想定では安全を確保できなかった状況が示されている。

■最初の避難場所別

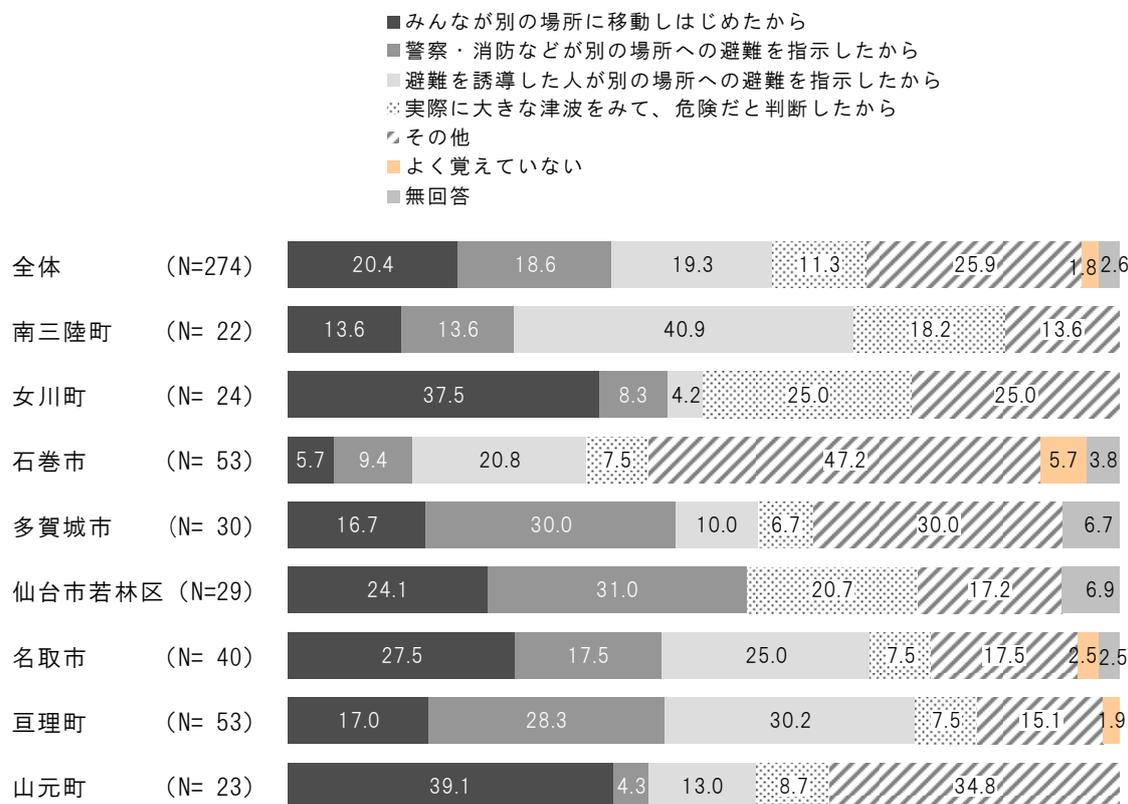


## (9) 避難先を変更した理由

周囲の移動や指示による理由の他、その他（他の家族との合流のためなど）も

※別の場所に避難した方のみ

問 14 あなたが別の場所に避難した最も強い理由は何ですか。（○は1つだけ）



避難先を変更した理由は、各項目に意見が分散しており、警察や消防などの移動指示や、周囲の人が移動したことなど他者の促しによる移動が約6割となっている。「その他」への回答も多く、①家族と合流するため、②津波に巻き込まれてしまった（最初にいた場所に被害が出た、孤立し救助された）、などがあげられている。

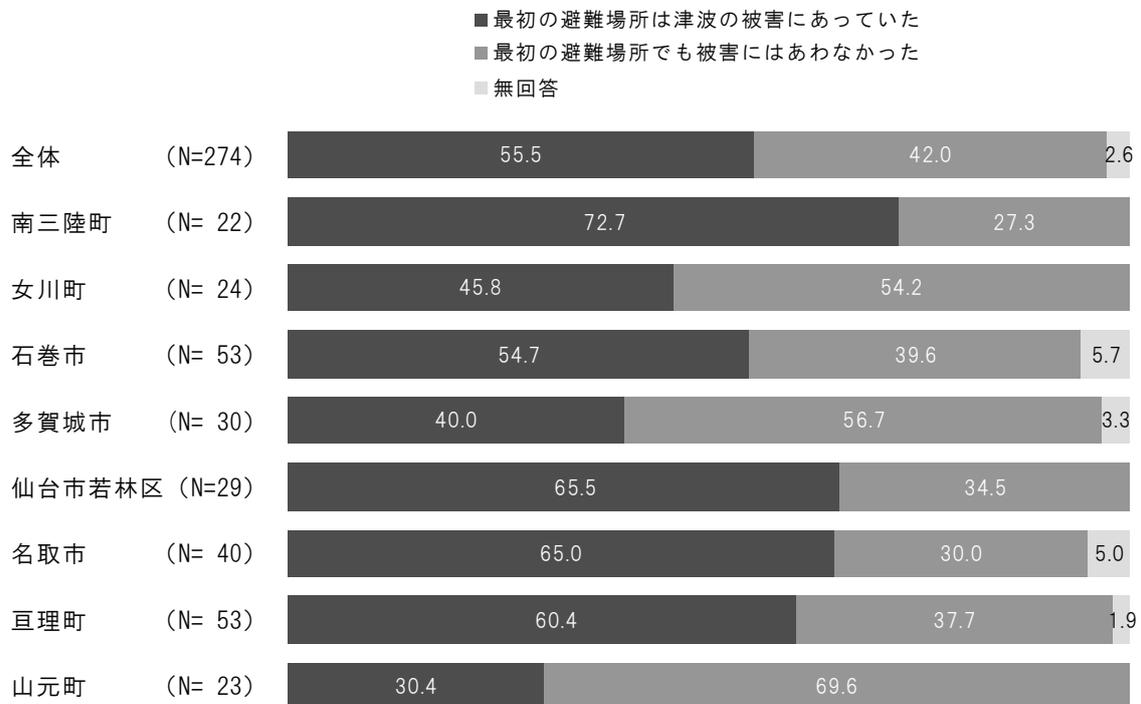
#### IV. 調査結果

##### (10) 避難場所変更の結果

最初に選んだ避難場所が、津波にあったとの回答が過半数 (55.5%)

※別の場所に避難した方のみ

問 15 あなたが最初に避難した場所は、結果的に津波の被害にあいましたか。(○は1つだけ)



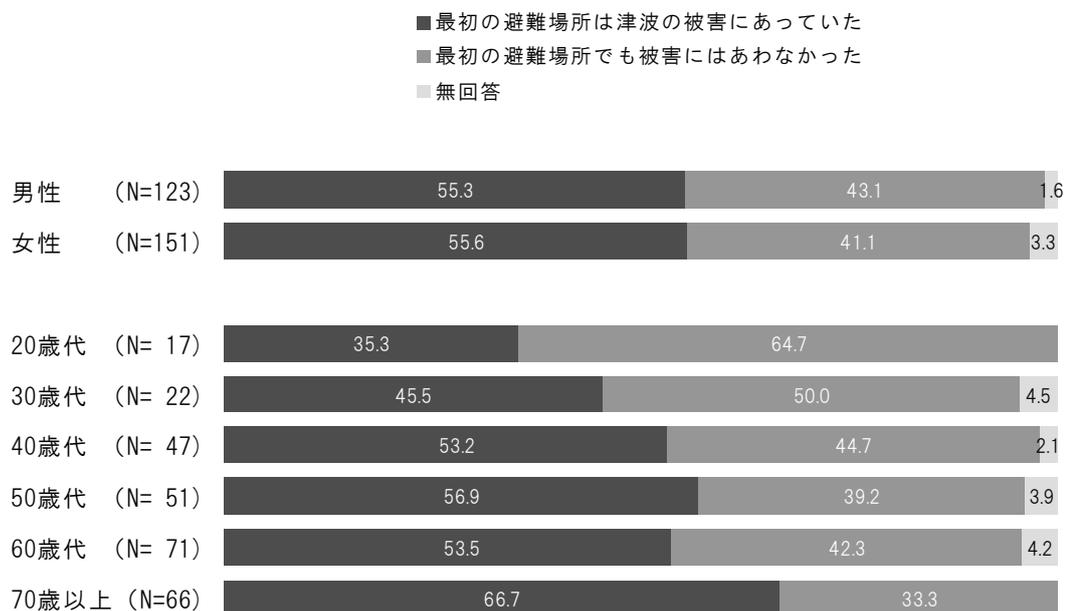
避難場所変更の結果、最初の避難場所の被害状況をたずねたところ、「最初の避難場所は津波の被害にあっていた」(55.5%)との回答が過半数となり、この回答からも、今回の震災では、最初の避難場所が津波の危険性が高い場所となったケースが少なくないことが示されている。

特に南三陸町では、二段階の避難をした人の約7割が、最初の避難場所のままだった場合、津波の被害にあっていたことになる。

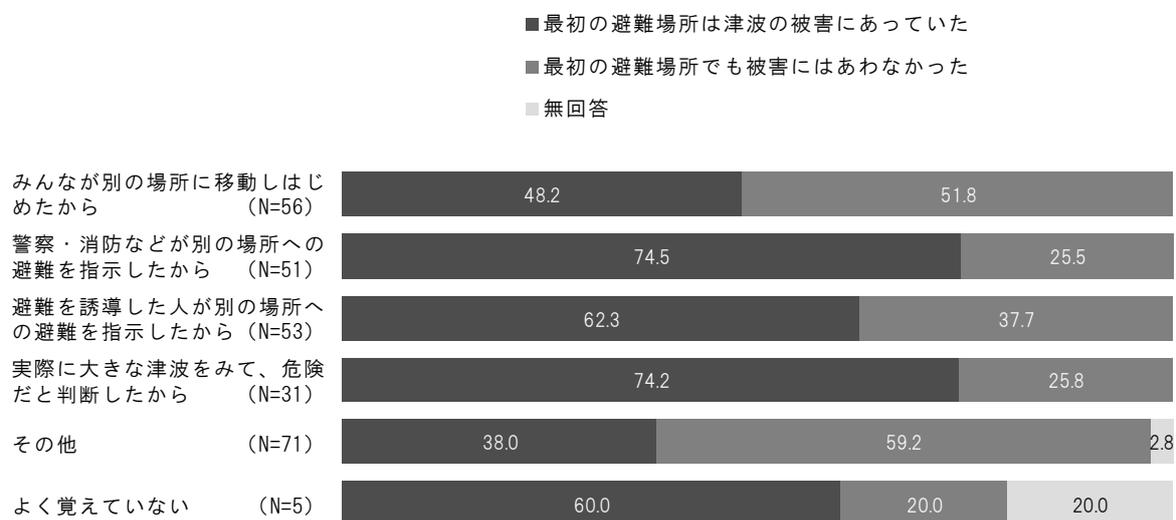
年齢別にみると、おおむね年代が上がるにつれ、「最初の避難場所は津波の被害にあっていた」との回答比率が高く、70歳以上では66.7%を占める。

避難先を変更した理由別にみると、警察・消防などから別の場所への避難の指示を受けたり、実際に大きな津波を見て危険だと判断した人のうち7割以上の人が、そのままの避難場所であれば津波被害にあっていたと回答している。

## ■性別／年齢別



## ■避難先を変更した理由別

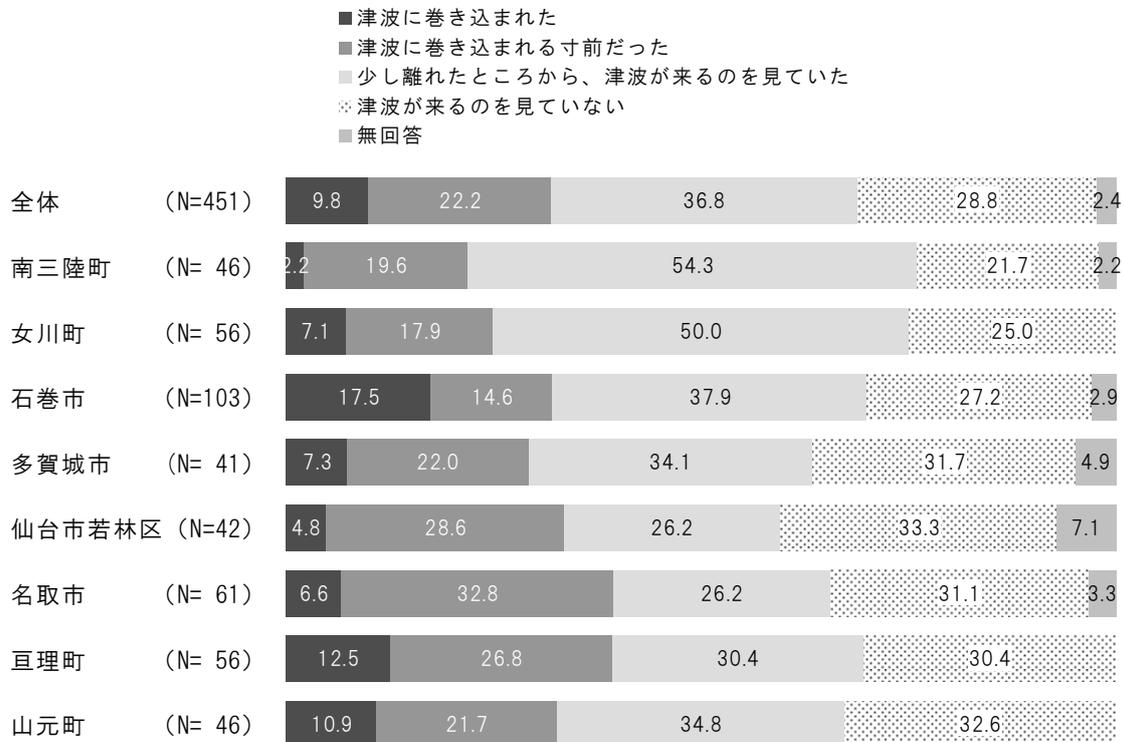


#### IV. 調査結果

##### (11) 津波との遭遇

見ていた（36.8%）の他、巻き込まれる寸前あるいは巻き込まれた人も全体の約3割

問 16 あなたは今回の地震で直接、津波を見ましたか。（○は1つだけ）



津波との遭遇についてたずねたところ、「津波に巻き込まれた」人が 9.8%、「津波に巻き込まれる寸前だった」人（22.2%）を合わせると、回答者のおよそ3人に1人が津波との切迫した状況下で避難していたことがわかる。

津波への確信度や余裕時間の見通しと、実際の津波との遭遇の関係をみると、「津波が必ずくる」、「すぐに逃げないと間に合わない」、などの回答をした危機意識の高い人の方が、津波に巻き込まれたり、巻き込まれる寸前となった割合は低い。

また、大津波警報を聞き、その後「すぐに避難しなければいけない」と感じた人では、津波に遭遇している人が3割以下であるのに対し、「避難するほどの危険はない」と考えたり、役場や消防に説得されたり、実際に津波を見てから避難を開始するなど、自発的な避難を行わなかった人は半数以上が津波に遭遇している。同様に、避難開始の時間の面からみても、「揺れの30分以上後」に避難した人の半数近くが津波に巻き込まれるか、その寸前であったことから、いかに速やかな判断がその後の安全に関わるかを表している。

津波に関する伝承や学習については、「(多少)役に立った」と答えている人は、そうでない人に比べ津波に巻き込まれる危険を回避することができている。

総じて、危機意識の高さや伝承・学習を役立てることができた人が、より安全に避難できていることがわかる一方、そうした人たちの中でも、津波に遭遇する危機に陥ったケースが少なくないことも回答からうかがい知ることができる。

## ■各設問別津波との遭遇

|                                  | 調査数<br>(N) | 津波に<br>巻き込まれた | 前津波に<br>巻き込まれる寸<br>だった | 少し離れたところか<br>津波が来るのを見<br>ていた | 津波が来るのを見て<br>いない | 無回答  | 巻き込まれなかった・<br>巻き込まれる寸前だった |
|----------------------------------|------------|---------------|------------------------|------------------------------|------------------|------|---------------------------|
| 全体                               | 451        | 9.8           | 22.2                   | 36.8                         | 28.8             | 2.4  | 32.0                      |
| <b>津波来襲の確信度（地震直後）</b>            |            |               |                        |                              |                  |      |                           |
| 津波が必ず来ると思った                      | 147        | 6.1           | 23.8                   | 40.1                         | 27.9             | 2.0  | 29.9                      |
| 津波が来るかもしれないと思った                  | 95         | 9.5           | 17.9                   | 41.1                         | 31.6             | 0.0  | 27.4                      |
| 津波は来ないだろうと思った                    | 94         | 13.8          | 23.4                   | 24.5                         | 30.9             | 7.4  | 37.2                      |
| 津波のことはほとんど考えなかった                 | 112        | 11.6          | 23.2                   | 38.4                         | 26.8             | 0.0  | 34.8                      |
| <b>津波到達までの余裕時間の見通し</b>           |            |               |                        |                              |                  |      |                           |
| すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った         | 114        | 4.4           | 22.8                   | 37.7                         | 33.3             | 1.8  | 27.2                      |
| 津波は早く来るが、荷物を持って逃げるくらいの余裕はあると思った  | 69         | 8.7           | 23.2                   | 39.1                         | 24.6             | 4.3  | 31.9                      |
| 津波は早く来るが、子どもを迎えに行ったりする余裕はあると思った  | 24         | 8.3           | 29.2                   | 45.8                         | 16.7             | 0.0  | 37.5                      |
| 津波が来るまでには、かなりの余裕があった             | 76         | 7.9           | 14.5                   | 44.7                         | 31.6             | 1.3  | 22.4                      |
| 津波が来るとは思わなかった                    | 158        | 15.2          | 23.4                   | 31.0                         | 27.8             | 2.5  | 38.6                      |
| <b>留まった場合の危険予想</b>               |            |               |                        |                              |                  |      |                           |
| 非常に危険だと思った                       | 165        | 9.1           | 29.1                   | 35.2                         | 23.6             | 3.0  | 38.2                      |
| 危険だと思った                          | 63         | 7.9           | 15.9                   | 44.4                         | 30.2             | 1.6  | 23.8                      |
| 少し危険だと思った                        | 84         | 7.1           | 17.9                   | 38.1                         | 35.7             | 1.2  | 25.0                      |
| 危険だとは思わなかった                      | 132        | 13.6          | 18.2                   | 34.8                         | 31.1             | 2.3  | 31.8                      |
| <b>大津波警報の認知</b>                  |            |               |                        |                              |                  |      |                           |
| 聞いた                              | 253        | 8.3           | 20.9                   | 41.9                         | 26.5             | 2.4  | 29.2                      |
| 聞かなかった                           | 195        | 11.8          | 24.1                   | 29.7                         | 32.3             | 2.1  | 35.9                      |
| <b>大津波警報の認知後の見通し</b>             |            |               |                        |                              |                  |      |                           |
| すぐに避難しなければいけないと思った               | 139        | 7.2           | 17.3                   | 43.2                         | 29.5             | 2.9  | 24.5                      |
| すぐに避難した方がいいかもしれないと思った            | 52         | 7.7           | 21.2                   | 42.3                         | 28.8             | 0.0  | 28.9                      |
| 警戒する必要があるが、海の様子をみてから判断した方がよいと思った | 13         | 0.0           | 30.8                   | 53.8                         | 15.4             | 0.0  | 30.8                      |
| 避難するほどの危険はないと思った                 | 27         | 7.4           | 44.4                   | 37.0                         | 11.1             | 0.0  | 51.8                      |
| その他                              | 19         | 21.1          | 10.5                   | 36.8                         | 21.1             | 10.5 | 31.6                      |
| <b>自治体の呼びかけの認知</b>               |            |               |                        |                              |                  |      |                           |
| 聞いた                              | 228        | 9.6           | 23.7                   | 39.5                         | 25.0             | 2.2  | 33.3                      |
| 聞いていない                           | 202        | 10.9          | 22.3                   | 33.7                         | 31.2             | 2.0  | 33.2                      |

IV. 調査結果

■各設問別津波との遭遇（続き）

|                         | 調査数（N） | 津波に巻き込まれた | 前津波に巻き込まれる寸 | てら少し津波が来たところを見 | ない津波が来るのを見てい | 無回答 | た巻津波に巻き込まれる寸前だった |
|-------------------------|--------|-----------|-------------|----------------|--------------|-----|------------------|
| 全体                      | 451    | 9.8       | 22.2        | 36.8           | 28.8         | 2.4 | 32.0             |
| <b>避難のきっかけ</b>          |        |           |             |                |              |     |                  |
| 以前津波を体験したので津波が来ると思った    | 24     | 8.3       | 8.3         | 50.0           | 29.2         | 4.2 | 16.6             |
| 地震の揺れ具合から津波が来ると思った      | 95     | 3.2       | 22.1        | 49.5           | 24.2         | 1.1 | 25.3             |
| 海や川の水が大きく引いたので          | 21     | 19.0      | 38.1        | 23.8           | 19.0         | 0.0 | 57.1             |
| 家族が避難しようと言ったので          | 63     | 4.8       | 11.1        | 47.6           | 33.3         | 3.2 | 15.9             |
| 近所の人が避難するように言ったので       | 89     | 4.5       | 27.0        | 38.2           | 27.0         | 3.4 | 31.5             |
| 市町村が避難を呼びかけたので          | 56     | 7.1       | 21.4        | 42.9           | 23.2         | 5.4 | 28.5             |
| 大津波の警報を聞いたので            | 109    | 6.4       | 17.4        | 45.9           | 26.6         | 3.7 | 23.8             |
| 役場や消防団の人が来て説得されたので      | 25     | 20.0      | 32.0        | 28.0           | 20.0         | 0.0 | 52.0             |
| 実際に津波が来るのが見えたので         | 61     | 14.8      | 37.7        | 47.5           | 0.0          | 0.0 | 52.5             |
| その他                     | 92     | 16.3      | 18.5        | 27.2           | 37.0         | 1.1 | 34.8             |
| よく覚えていない                | 5      | 20.0      | 0.0         | 20.0           | 60.0         | 0.0 | 20.0             |
| <b>避難開始のタイミング（経過時間）</b> |        |           |             |                |              |     |                  |
| 揺れている間                  | 18     | 5.6       | 16.7        | 33.3           | 44.4         | 0.0 | 22.3             |
| 揺れが収まった直後               | 80     | 10.0      | 21.3        | 46.3           | 21.3         | 1.3 | 31.3             |
| 揺れの5分くらい後               | 46     | 4.3       | 15.2        | 45.7           | 28.3         | 6.5 | 19.5             |
| 揺れの10分くらい後              | 56     | 5.4       | 17.9        | 35.7           | 37.5         | 3.6 | 23.3             |
| 揺れの15分くらい後              | 41     | 4.9       | 24.4        | 34.1           | 34.1         | 2.4 | 29.3             |
| 揺れの20分くらい後              | 41     | 2.4       | 19.5        | 48.8           | 26.8         | 2.4 | 21.9             |
| 揺れの25分くらい後              | 24     | 4.2       | 33.3        | 45.8           | 16.7         | 0.0 | 37.5             |
| 揺れの30分以上後               | 87     | 13.8      | 32.2        | 27.6           | 25.3         | 1.1 | 46.0             |
| よく覚えていない                | 34     | 26.5      | 14.7        | 20.6           | 38.2         | 0.0 | 41.2             |
| <b>津波に関する伝承</b>         |        |           |             |                |              |     |                  |
| 聞いたことがあり、役に立った          | 111    | 4.5       | 14.4        | 48.6           | 29.7         | 2.7 | 18.9             |
| 聞いたことがあり、多少役に立った        | 43     | 2.3       | 20.9        | 44.2           | 25.6         | 7.0 | 23.2             |
| 聞いたことはあるが、あまり役に立たなかった   | 69     | 7.2       | 20.3        | 40.6           | 29.0         | 2.9 | 27.5             |
| 聞いたことはあるが、役に立たなかった      | 110    | 17.3      | 30.9        | 26.4           | 25.5         | 0.0 | 48.2             |
| 聞いたことがなかった              | 110    | 12.7      | 24.5        | 30.0           | 31.8         | 0.9 | 37.2             |
| <b>津波に関する学習</b>         |        |           |             |                |              |     |                  |
| 習ったことがあり、役に立った          | 60     | 6.7       | 16.7        | 41.7           | 30.0         | 5.0 | 23.4             |
| 習ったことがあり、多少役に立った        | 42     | 4.8       | 14.3        | 59.5           | 19.0         | 2.4 | 19.1             |
| 習ったことはあるが、あまり役に立たなかった   | 33     | 9.1       | 27.3        | 36.4           | 24.2         | 3.0 | 36.4             |
| 習ったことはあるが、役に立たなかった      | 74     | 14.9      | 33.8        | 23.0           | 28.4         | 0.0 | 48.7             |
| 習ったことがなかった              | 229    | 10.0      | 21.8        | 35.4           | 31.0         | 1.7 | 31.8             |

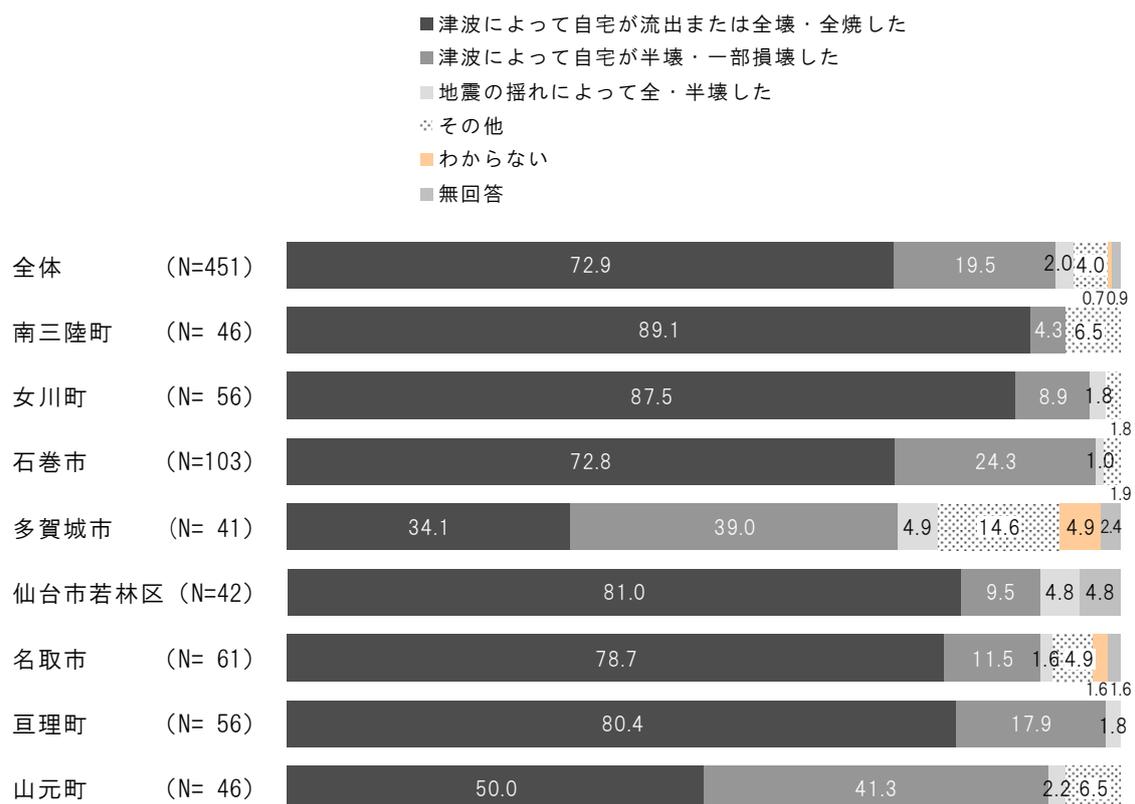
## 4 被災状況

### (1) 被災状況

#### ① 自宅

津波による全半壊が多くを占める

問 17(1) この度の地震や津波で、あなたのご自宅やご家族はどのような被害を受けましたか。(○は1つだけ)



自宅の被災状況は、「津波によって自宅が流出または全壊・全焼した」人(72.9%)が約7割を占め、「津波によって自宅が半壊・一部損壊した」(19.5%)を合わせると津波による被害が9割以上と大多数を占める。

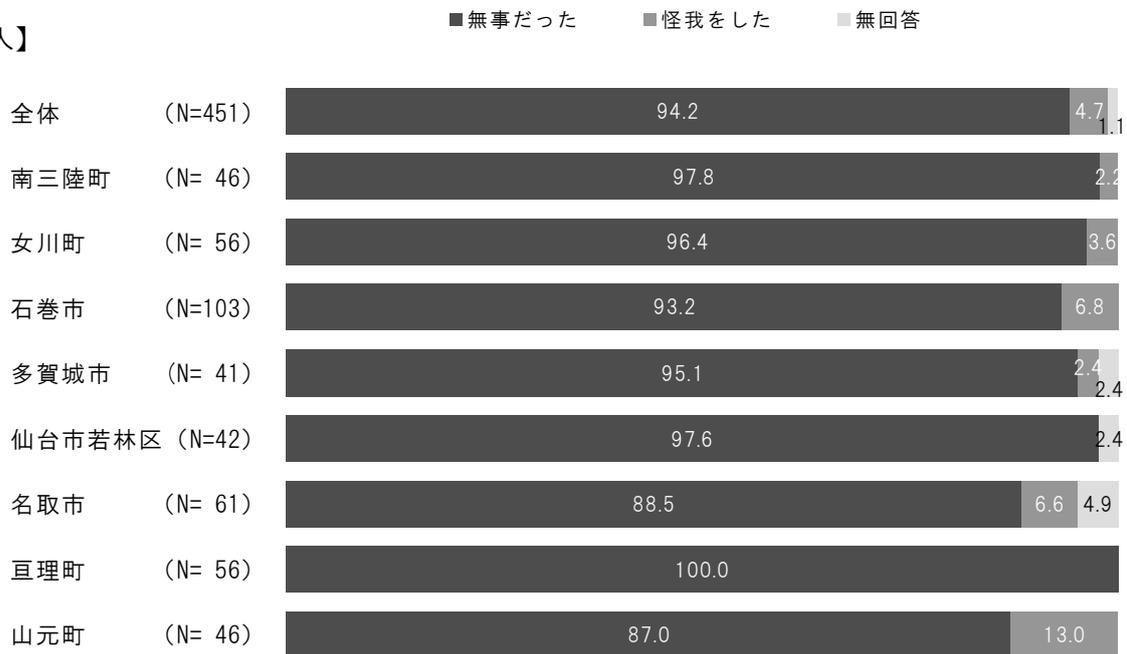
地域別にみると、多賀城市と山元町を除く地域で、7割以上の人が「津波によって自宅が流出または全壊・全焼した」と回答、特に南三陸町では約9割を占める。

IV. 調査結果

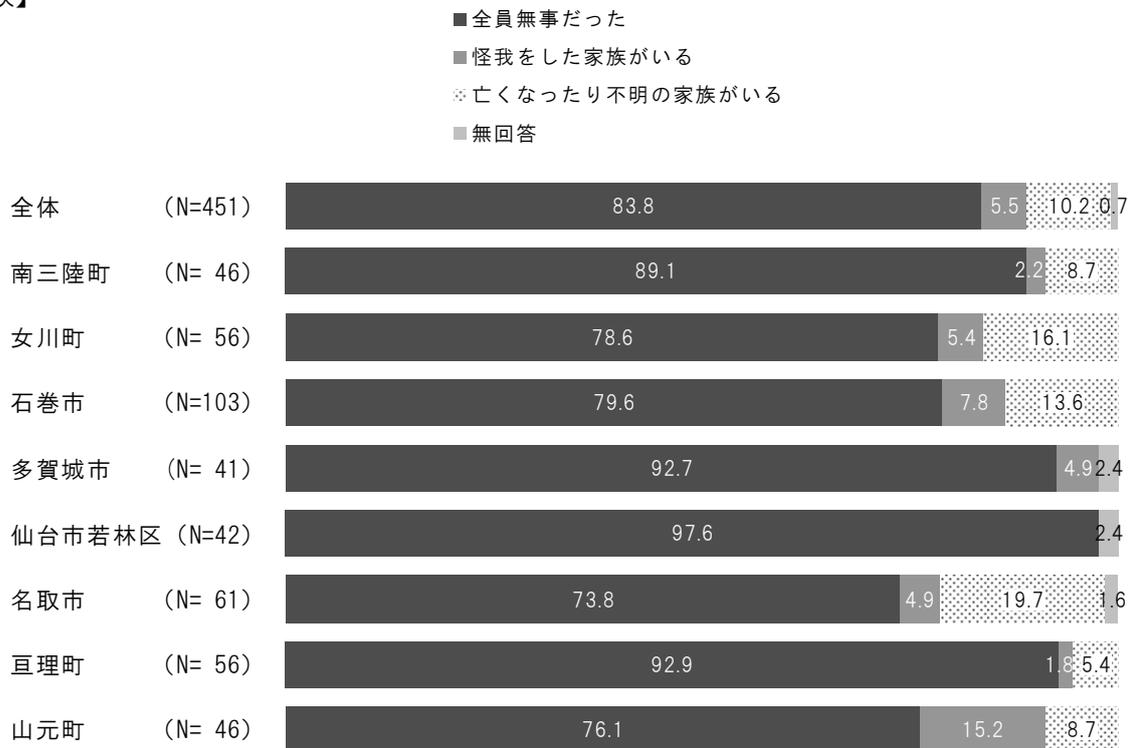
②本人・家族

問 17(1) この度の地震や津波で、あなたのご自宅やご家族はどのような被害を受けましたか。(○は1つだけ)

【本人】



【家族】



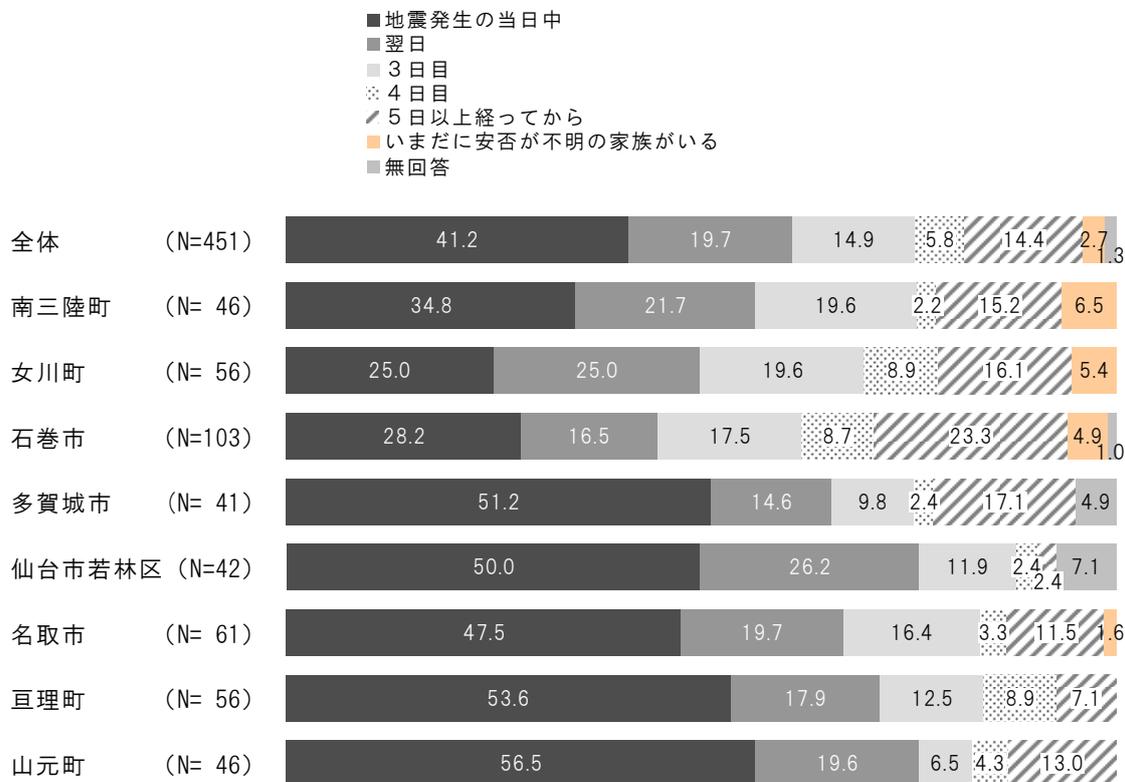
本人の被災状況は、怪我をした人が 4.7%となっており、避難できた人の大多数が「無事だった」と回答している。

家族の被災状況は、「亡くなったり不明の家族がいる」人が 10.2%、「怪我をした家族がいる」人は 5.5%となっている。

(2) 安否確認に要した時間

不明を含め、安否確認に3日以上を要している人が全体の4割近く

問 17(2) ご家族全員の安否がわかったのは、地震当日からどの位経ってからですか。(○は1つだけ)

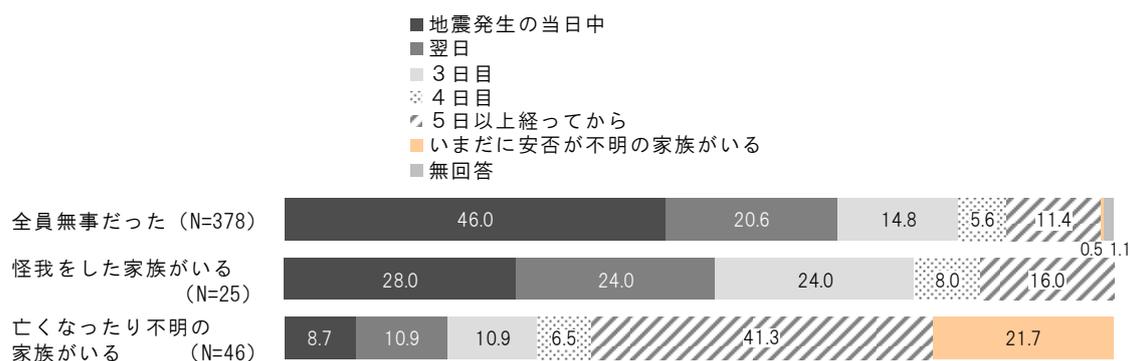


安否確認に要した時間をたずねたところ、「地震発生の当日中」(41.2%)に家族全員の安否がわかった人は約4割。いまだ不明を含め、安否確認に3日以上時間を要している人が4割近くとなっている。

地域別にみると、南三陸町、石巻市、女川町で特に安否確認に時間を要しており、「地震発生の当日中」に安否確認できた人は3割前後にとどまっている。

家族の被災状況別にみると、当然のことながら被害の度合いが高いほど、家族の安否確認に時間を要している。

■家族の被災状況別

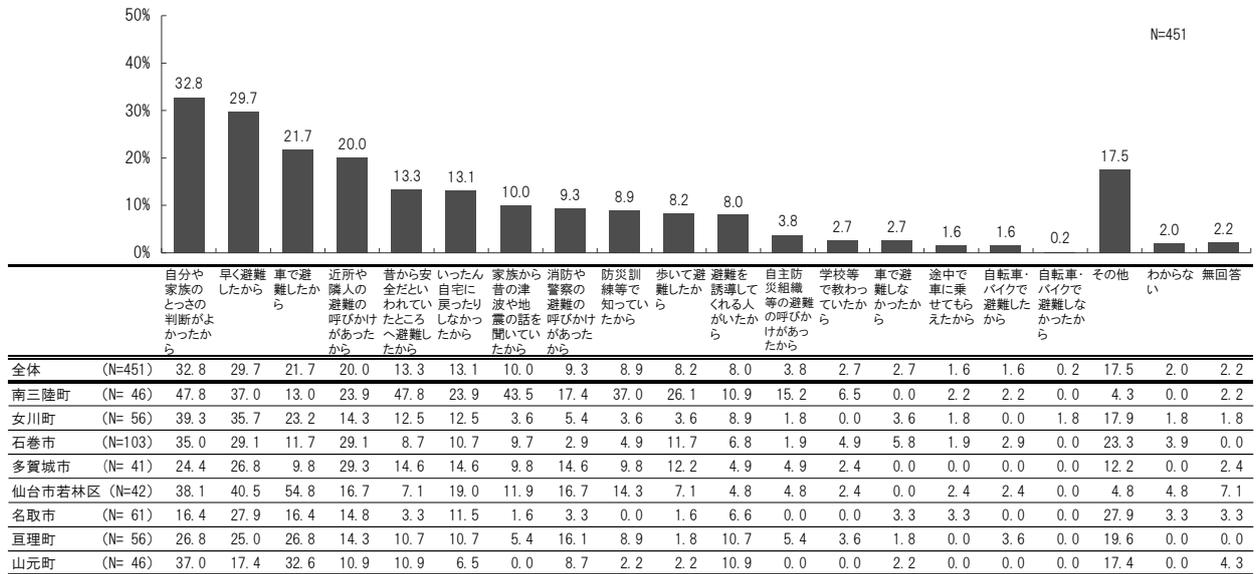


IV. 調査結果

(3) 津波から助かった要因

「とっさの判断」や「早い避難」が寄与、車の避難もケースによって助かる要因

問 18 あなたが津波から避難できた理由はどのようなことですか。(あてはまるもの全てに○)



津波から避難できた理由と考えられることは、「自分や家族のとっさの判断がよかったから」(32.8%)との回答が約3割と最も多く、以下「早く避難したから」(29.7%)、「車で避難したから」(21.7%)、「近所や隣人の避難の呼びかけがあったから」(20.0%)の順となっている。

「その他」も17.5%と多く、主な意見の内訳では、①他の地域(職場など)にいたため、②津波に巻き込まれ逃れた(あるいは救助された)、③予め高台や安全な場所にいたこと、などがあげられている。

回答には地域による差がみられ、南三陸町では「昔から安全だと言われていたところへ避難したから」(47.8%)、若林区では「車で避難したから」(54.8%)、多賀城市では「近所や隣人の避難の呼びかけがあったから」(29.3%)への回答比率が高い。

避難のきっかけ別にみると、以前の津波体験や揺れ具合などから津波が来ると考えて避難した人は、「自分や家族のとっさの判断がよかったから」や「早く避難したから」と共に、「昔から安全だといわれていたところへ避難したから」や「家族から昔の津波や地震の話聞いていたから」といった伝承のおかげであると考えている人が多い。

(※分析軸(縦軸)の「避難のきっかけ」は多肢式の設問であることを留意されたい)

■避難のきっかけ別

|                      | 調査数 (N) | 自分や家族のつさの判断がよかつたから | 早く避難したから | 車で避難したから | 近所や隣人の避難の呼びかけがあつたから | 昔から安全だといわれていたところへ避難したから | りしなかつたから | 地震の話や津波の家族から聞いたか | 消防や警察の避難の呼びかけがあつたから | 防災訓練等で知つてい | 歩いて避難したから | 避難を誘導してくれる人がいたから | 自主防犯組織等の避難の呼びかけがあつたから | から学校等で教わつていた |
|----------------------|---------|--------------------|----------|----------|---------------------|-------------------------|----------|------------------|---------------------|------------|-----------|------------------|-----------------------|--------------|
| 全体                   | 451     | 32.8               | 29.7     | 21.7     | 20.0                | 13.3                    | 13.1     | 10.0             | 9.3                 | 8.9        | 8.2       | 8.0              | 3.8                   | 2.7          |
| 以前津波を体験したので津波が来ると思つた | 24      | 45.8               | 45.8     | 20.8     | 33.3                | 41.7                    | 20.8     | 41.7             | 12.5                | 29.2       | 20.8      | 8.3              | 4.2                   | 4.2          |
| 地震の揺れ具合から津波が来ると思つた   | 95      | 51.6               | 42.1     | 26.3     | 20.0                | 25.3                    | 14.7     | 25.3             | 7.4                 | 18.9       | 11.6      | 4.2              | 6.3                   | 3.2          |
| 海や川の水が大きく引いたので       | 21      | 42.9               | 28.6     | 9.5      | 23.8                | 23.8                    | 14.3     | 33.3             | 9.5                 | 9.5        | 23.8      | 4.8              | 4.8                   | 0.0          |
| 家族が避難しようと言つたので       | 63      | 58.7               | 34.9     | 23.8     | 19.0                | 6.3                     | 17.5     | 15.9             | 9.5                 | 12.7       | 17.5      | 4.8              | 3.2                   | 1.6          |
| 近所の人や避難するように言つたので    | 89      | 28.1               | 37.1     | 23.6     | 55.1                | 11.2                    | 11.2     | 10.1             | 5.6                 | 11.2       | 10.1      | 4.5              | 4.5                   | 3.4          |
| 市町村が避難を呼びかけたので       | 56      | 30.4               | 35.7     | 26.8     | 19.6                | 10.7                    | 23.2     | 16.1             | 19.6                | 16.1       | 10.7      | 7.1              | 12.5                  | 3.6          |
| 大津波の警報を聞いたので         | 109     | 26.6               | 44.0     | 33.0     | 18.3                | 23.9                    | 20.2     | 17.4             | 12.8                | 17.4       | 11.9      | 9.2              | 10.1                  | 2.8          |
| 役場や消防団の人が来て説得されたので   | 25      | 24.0               | 32.0     | 20.0     | 36.0                | 12.0                    | 20.0     | 12.0             | 64.0                | 4.0        | 8.0       | 12.0             | 12.0                  | 0.0          |
| 実際に津波が来るのが見えたので      | 61      | 39.3               | 16.4     | 19.7     | 23.0                | 9.8                     | 19.7     | 9.8              | 9.8                 | 14.8       | 16.4      | 11.5             | 4.9                   | 3.3          |
| その他                  | 92      | 21.7               | 20.7     | 18.5     | 5.4                 | 6.5                     | 7.6      | 1.1              | 4.3                 | 5.4        | 5.4       | 13.0             | 0.0                   | 2.2          |
| よく覚えていない             | 5       | 20.0               | 40.0     | 0.0      | 0.0                 | 20.0                    | 20.0     | 0.0              | 20.0                | 20.0       | 20.0      | 20.0             | 0.0                   | 20.0         |

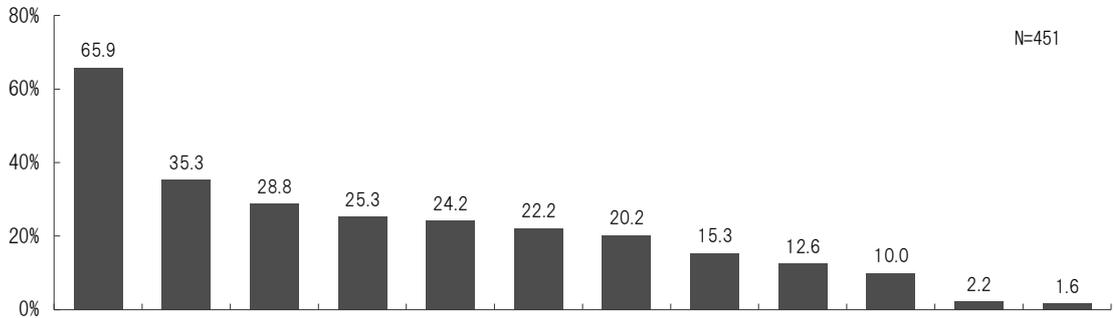
|                      | 車で避難しなかつたから | 途中で車に乗せてもら | 自転車で避難 | 自転車でバイクで避難 | その他  | わからない | 無回答 |
|----------------------|-------------|------------|--------|------------|------|-------|-----|
| 全体                   | 2.7         | 1.6        | 1.6    | 0.2        | 17.5 | 2.0   | 2.2 |
| 以前津波を体験したので津波が来ると思つた | 0.0         | 4.2        | 0.0    | 0.0        | 8.3  | 0.0   | 0.0 |
| 地震の揺れ具合から津波が来ると思つた   | 2.1         | 1.1        | 4.2    | 0.0        | 7.4  | 0.0   | 1.1 |
| 海や川の水が大きく引いたので       | 0.0         | 4.8        | 4.8    | 0.0        | 14.3 | 4.8   | 0.0 |
| 家族が避難しようと言つたので       | 3.2         | 0.0        | 0.0    | 0.0        | 14.3 | 0.0   | 1.6 |
| 近所の人や避難するように言つたので    | 1.1         | 3.4        | 2.2    | 0.0        | 6.7  | 0.0   | 1.1 |
| 市町村が避難を呼びかけたので       | 1.8         | 1.8        | 0.0    | 0.0        | 10.7 | 1.8   | 1.8 |
| 大津波の警報を聞いたので         | 1.8         | 1.8        | 1.8    | 0.0        | 12.8 | 0.9   | 0.9 |
| 役場や消防団の人が来て説得されたので   | 0.0         | 4.0        | 0.0    | 0.0        | 12.0 | 0.0   | 4.0 |
| 実際に津波が来るのが見えたので      | 8.2         | 0.0        | 0.0    | 1.6        | 19.7 | 3.3   | 0.0 |
| その他                  | 5.4         | 2.2        | 1.1    | 0.0        | 32.6 | 5.4   | 3.3 |
| よく覚えていない             | 0.0         | 0.0        | 0.0    | 0.0        | 20.0 | 0.0   | 0.0 |

IV. 調査結果

(4) 重要だと感じた行動

「地震が発生したらすぐに避難する」が 65.9%

問 19 あなたは、今回の津波被害でどのような行動が重要だと思いましたか。(あてはまるもの全てに○)



|               | 地震が発生したらすぐに避難する | 津波に対して、避難する場所や方向をよく知っておく | 一旦自宅に戻ったりしない | 離れている家族などが心配でも、各自が急いで高所に避難する | 地震や津波について学習する | 地震や津波に対する避難訓練を行う | 車での避難の危険性を判断する | 地震や津波に関する指示を理 | 解する  | その他  | わからない | 無回答 |
|---------------|-----------------|--------------------------|--------------|------------------------------|---------------|------------------|----------------|---------------|------|------|-------|-----|
| 全体 (N=451)    | 65.9            | 35.3                     | 28.8         | 25.3                         | 24.2          | 22.2             | 20.2           | 15.3          | 12.6 | 10.0 | 2.2   | 1.6 |
| 南三陸町 (N= 46)  | 78.3            | 50.0                     | 41.3         | 39.1                         | 30.4          | 41.3             | 37.0           | 45.7          | 19.6 | 0.0  | 0.0   | 0.0 |
| 女川町 (N= 56)   | 67.9            | 35.7                     | 32.1         | 25.0                         | 19.6          | 14.3             | 17.9           | 14.3          | 10.7 | 3.6  | 1.8   | 1.8 |
| 石巻市 (N=103)   | 62.1            | 34.0                     | 25.2         | 35.9                         | 18.4          | 22.3             | 25.2           | 13.6          | 10.7 | 8.7  | 1.9   | 1.9 |
| 多賀城市 (N= 41)  | 61.0            | 36.6                     | 19.5         | 22.0                         | 24.4          | 26.8             | 22.0           | 12.2          | 26.8 | 9.8  | 4.9   | 0.0 |
| 仙台市若林区 (N=42) | 81.0            | 31.0                     | 35.7         | 26.2                         | 35.7          | 28.6             | 31.0           | 14.3          | 11.9 | 2.4  | 2.4   | 2.4 |
| 名取市 (N= 61)   | 67.2            | 23.0                     | 24.6         | 9.8                          | 21.3          | 13.1             | 8.2            | 4.9           | 6.6  | 21.3 | 1.6   | 3.3 |
| 亶理町 (N= 56)   | 58.9            | 46.4                     | 28.6         | 23.2                         | 23.2          | 19.6             | 14.3           | 10.7          | 8.9  | 17.9 | 3.6   | 0.0 |
| 山元町 (N= 46)   | 56.5            | 28.3                     | 28.3         | 13.0                         | 30.4          | 17.4             | 6.5            | 13.0          | 13.0 | 13.0 | 2.2   | 2.2 |

今回の津波被害で重要だと感じた行動は、「地震が発生したらすぐに避難する」(65.9%)との回答が最も多い。以下、「津波に対して、避難する場所や方向をよく知っておく」(35.3%)、「一旦自宅に戻ったりしない」(28.8%)が3割前後となっている。

地域別にみると、南三陸町では、「地震や津波に関する昔からの言い伝えや慣習を理解する」(45.7%)ことや「地震や津波に対する避難訓練を行う」(41.3%)といった伝承や訓練を重視する回答が他の地域に比べ多い。

年齢別にみると、20歳代で特に「津波に対して、避難する場所や方向をよく知っておく」(50.0%)「地震や津波に対する避難訓練を行う」(43.3%)「避難に関する指示を理解する」(33.3%)「地震や津波に関する昔からの言い伝えや慣習を理解する」(30.0%)など、日頃からの津波に対する備えの重要性が感じられている。

## ■性別／年齢別

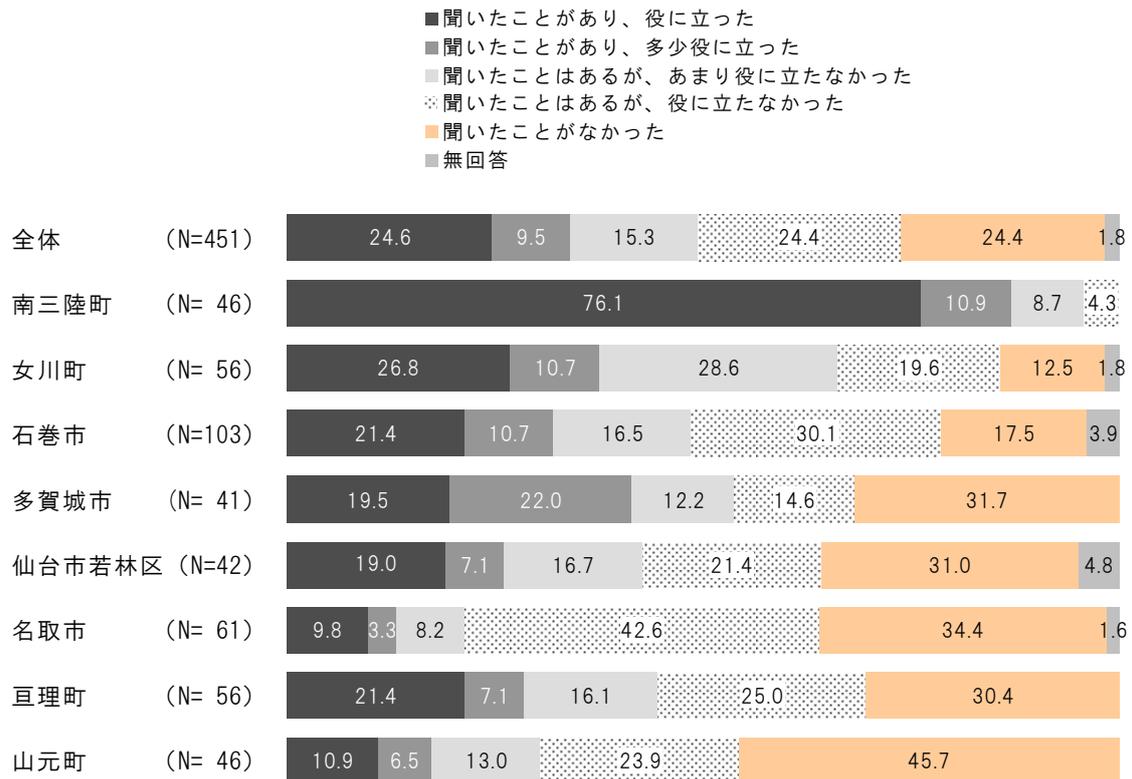
|       | 調査数（N） | 地震が発生したらすぐに避難する | 津波に対しても、避難する場所や方向をよく知っておく | 一旦自宅に戻ったりしない | 離れていても、各自が急いで高所に避難する | 心配している家族などが | 地震や津波について学習する | 地震や津波に対する避難訓練を行う | 車での避難の危険性・有効性を判断する | 昔からの言い伝えや慣習を理解する | 地震や津波に関する指示を理解する | その他 | わからない | 無回答 |
|-------|--------|-----------------|---------------------------|--------------|----------------------|-------------|---------------|------------------|--------------------|------------------|------------------|-----|-------|-----|
| 全体    | 451    | 65.9            | 35.3                      | 28.8         | 25.3                 | 24.2        | 22.2          | 20.2             | 15.3               | 12.6             | 10.0             | 2.2 | 1.6   |     |
| 男性    | 205    | 66.8            | 34.1                      | 28.8         | 19.0                 | 21.5        | 22.0          | 19.0             | 17.1               | 14.1             | 7.3              | 2.9 | 2.4   |     |
| 女性    | 246    | 65.0            | 36.2                      | 28.9         | 30.5                 | 26.4        | 22.4          | 21.1             | 13.8               | 11.4             | 12.2             | 1.6 | 0.8   |     |
| 20歳代  | 30     | 70.0            | 50.0                      | 23.3         | 30.0                 | 33.3        | 43.3          | 30.0             | 30.0               | 33.3             | 0.0              | 0.0 | 0.0   |     |
| 30歳代  | 45     | 60.0            | 40.0                      | 22.2         | 24.4                 | 28.9        | 24.4          | 31.1             | 8.9                | 13.3             | 8.9              | 0.0 | 0.0   |     |
| 40歳代  | 84     | 66.7            | 35.7                      | 32.1         | 33.3                 | 27.4        | 19.0          | 25.0             | 16.7               | 9.5              | 9.5              | 1.2 | 0.0   |     |
| 50歳代  | 79     | 60.8            | 38.0                      | 26.6         | 24.1                 | 20.3        | 22.8          | 17.7             | 8.9                | 10.1             | 13.9             | 5.1 | 3.8   |     |
| 60歳代  | 118    | 68.6            | 32.2                      | 37.3         | 27.1                 | 21.2        | 24.6          | 20.3             | 16.1               | 13.6             | 10.2             | 1.7 | 2.5   |     |
| 70歳以上 | 95     | 67.4            | 29.5                      | 22.1         | 15.8                 | 23.2        | 13.7          | 9.5              | 16.8               | 9.5              | 10.5             | 3.2 | 1.1   |     |

## 5 地震や津波に関する学習・伝承

### (1) 津波に関する伝承

聞いたことがあり（多少）役に立ったとの回答が3割以上、南三陸で特に多い

問 20 あなたは、家族などから過去の地震や津波のことを聞いたことがありますか。（○は1つだけ）



津波に関する伝承を聞いた経験の有無については、伝承を《聞いたことがある》人が約7割を占めた。また、その経験が「(多少)役に立った」と回答した人は34.1%、「(あまり)役に立たなかった」と回答した人は39.7%となっており、伝承が今回の震災時の行動に役立ったかの評価は分かれた。

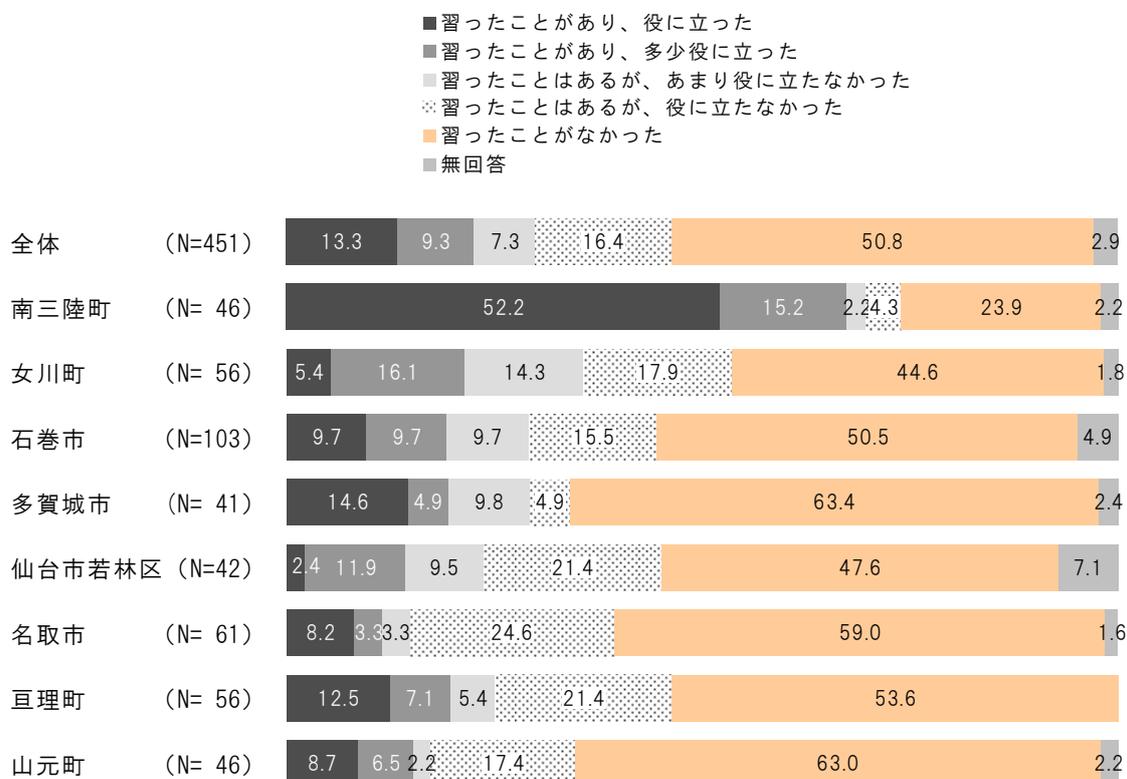
地域別にみると、「聞いたことがあり、役に立った」との回答は、南三陸町で76.1%と非常に高くなっている。

## (2) 津波に関する学習

習ったことがあり（多少）役に立ったとの回答が2割程度、南三陸で特に多い

問21 あなたは、学校や生涯学習などで、この地域の地震や津波について習ったことがありますか。

(○は1つだけ)



地震や津波に関する学習経験をたずねたところ、「習ったことがない」との回答が過半数を占めた。学習した経験が「(多少)役に立った」との回答が22.6%、「(あまり)役に立たなかった」との回答が23.7%と拮抗している点については、伝承の評価と同様である。

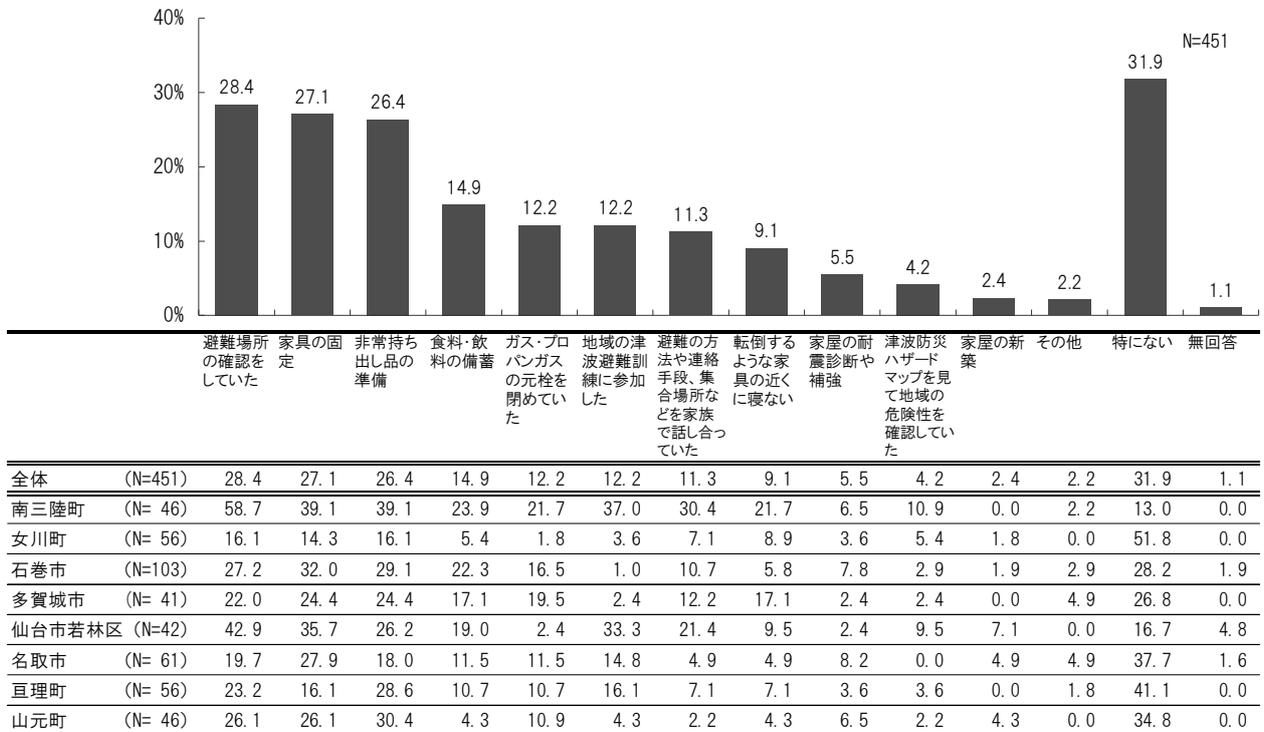
地域別にみると、「習ったことがあり、役に立った」との回答が、全般的に1割前後であるのに対し、南三陸町では52.2%と過半数を占めている。

IV. 調査結果

(3) 地震への備え

避難場所の確認、家具の固定、持出品の準備などが多いが、「特にない」も約3割

問 22 お宅では、今回の大震災が発生する前にどのような備えをしていましたか。(あてはまるもの全てに○)



震災発生前の地震への備えをたずねたところ、「避難場所の確認をしていた」(28.4%)、「家具の固定」(27.1%)、「非常持ち出し品の準備」(26.4%)の3項目が多いが、いずれも3割弱であり、「特にない」の回答が31.9%となっている。

宮城県沖地震の発生確率が高いと指摘されてきた地域であったが、「地域の津波避難訓練に参加した」(12.2%)や「避難の方法や連絡手段、集合場所などを家族で話し合っていた」(11.3%)などの備えも約1割と低い。

これらは、地域による差がみられ、備えの上位項目や避難訓練への参加などの項目には、南三陸町や仙台市若林区で比較的高い回答比率がみられる。

また、「津波防災ハザードマップを見て地域の危険性を確認していた」人自体は4.2%と少数派だが、避難のタイミングとの関係性をみると、これらの人のうち7割近くの人が揺れの10分後までに避難を開始していることがわかる。

(※分析軸(縦軸)の「地震への備え」は多肢式の設定であることを留意されたい)

## ■性別／年齢別

|       | 調査数（N） | 避難場所の確認をしていた | 家具の固定 | 非常持ち出し品の準備 | 食料・飲料の備蓄 | ガス・プロパンガスの元栓を閉めていた | 地域の津波避難訓練に参加した | 避難の方法や連絡手段、集合場所などを家族で話し合っていた | 転倒するような家具の近くに寝ない | 家屋の耐震診断や補強 | 津波防災ハザードマップを見て地域の危険性を確認していた | 家屋の新築 | その他 | 特にない | 無回答 |
|-------|--------|--------------|-------|------------|----------|--------------------|----------------|------------------------------|------------------|------------|-----------------------------|-------|-----|------|-----|
| 全体    | 451    | 28.4         | 27.1  | 26.4       | 14.9     | 12.2               | 12.2           | 11.3                         | 9.1              | 5.5        | 4.2                         | 2.4   | 2.2 | 31.9 | 1.1 |
| 男性    | 205    | 27.3         | 29.3  | 25.9       | 11.7     | 10.7               | 8.3            | 9.8                          | 7.8              | 6.3        | 4.9                         | 2.9   | 1.0 | 33.2 | 1.5 |
| 女性    | 246    | 29.3         | 25.2  | 26.8       | 17.5     | 13.4               | 15.4           | 12.6                         | 10.2             | 4.9        | 3.7                         | 2.0   | 3.3 | 30.9 | 0.8 |
| 20歳代  | 30     | 33.3         | 33.3  | 20.0       | 23.3     | 10.0               | 3.3            | 13.3                         | 3.3              | 3.3        | 10.0                        | 0.0   | 3.3 | 30.0 | 0.0 |
| 30歳代  | 45     | 26.7         | 22.2  | 22.2       | 4.4      | 6.7                | 8.9            | 8.9                          | 6.7              | 0.0        | 0.0                         | 2.2   | 4.4 | 46.7 | 0.0 |
| 40歳代  | 84     | 25.0         | 27.4  | 16.7       | 15.5     | 16.7               | 10.7           | 14.3                         | 13.1             | 7.1        | 7.1                         | 1.2   | 1.2 | 34.5 | 0.0 |
| 50歳代  | 79     | 26.6         | 22.8  | 21.5       | 19.0     | 7.6                | 7.6            | 7.6                          | 6.3              | 6.3        | 1.3                         | 3.8   | 1.3 | 39.2 | 2.5 |
| 60歳代  | 118    | 36.4         | 33.1  | 33.1       | 16.9     | 16.1               | 22.9           | 14.4                         | 11.0             | 9.3        | 3.4                         | 4.2   | 2.5 | 20.3 | 1.7 |
| 70歳以上 | 95     | 22.1         | 23.2  | 34.7       | 10.5     | 10.5               | 8.4            | 8.4                          | 8.4              | 2.1        | 5.3                         | 1.1   | 2.1 | 31.6 | 1.1 |

## ■地震への備え×避難のタイミング

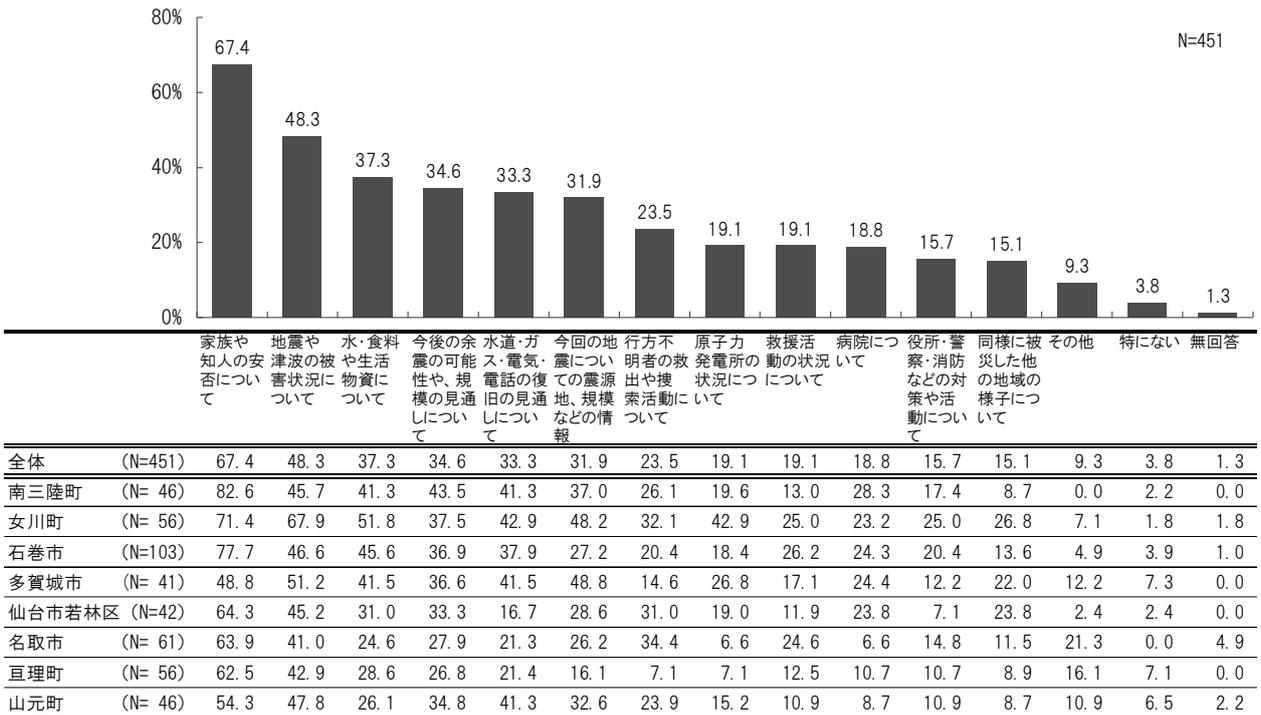
|                              | 調査数（N） | 揺れている間 | 揺れが収まった直後 | 揺れの5分くらい後 | 揺れの10分くらい後 | 揺れの15分くらい後 | 揺れの20分くらい後 | 揺れの25分くらい後 | 揺れの30分以上後 | よく覚えていない | 無回答  |
|------------------------------|--------|--------|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|----------|------|
| 全体                           | 451    | 4.0    | 17.7      | 10.2      | 12.4       | 9.1        | 9.1        | 5.3        | 19.3      | 7.5      | 5.3  |
| 家具の固定                        | 122    | 4.9    | 23.0      | 6.6       | 12.3       | 9.0        | 9.8        | 4.1        | 20.5      | 4.9      | 4.9  |
| 家屋の耐震診断や補強                   | 25     | 4.0    | 12.0      | 8.0       | 12.0       | 12.0       | 12.0       | 4.0        | 20.0      | 12.0     | 4.0  |
| 家屋の新築                        | 11     | 9.1    | 0.0       | 9.1       | 18.2       | 9.1        | 9.1        | 0.0        | 36.4      | 9.1      | 0.0  |
| 非常持ち出し品の準備                   | 119    | 3.4    | 26.1      | 8.4       | 11.8       | 3.4        | 11.8       | 2.5        | 24.4      | 5.0      | 3.4  |
| 食料・飲料の備蓄                     | 67     | 3.0    | 17.9      | 10.4      | 16.4       | 9.0        | 7.5        | 3.0        | 19.4      | 4.5      | 9.0  |
| ガス・プロパンガスの元栓を閉めていた           | 55     | 1.8    | 20.0      | 14.5      | 10.9       | 7.3        | 16.4       | 1.8        | 18.2      | 5.5      | 3.6  |
| 転倒するような家具の近くに寝ない             | 41     | 7.3    | 26.8      | 12.2      | 17.1       | 2.4        | 14.6       | 2.4        | 9.8       | 4.9      | 2.4  |
| 津波防災ハザードマップを見て地域の危険性を確認していた  | 19     | 0.0    | 26.3      | 0.0       | 42.1       | 5.3        | 5.3        | 0.0        | 10.5      | 0.0      | 10.5 |
| 避難場所の確認をしていた                 | 128    | 2.3    | 16.4      | 8.6       | 14.8       | 9.4        | 9.4        | 6.3        | 22.7      | 4.7      | 5.5  |
| 避難の方法や連絡手段、集合場所などを家族で話し合っていた | 51     | 0.0    | 21.6      | 9.8       | 19.6       | 9.8        | 9.8        | 2.0        | 15.7      | 5.9      | 5.9  |
| 地域の津波避難訓練に参加した               | 55     | 0.0    | 16.4      | 18.2      | 14.5       | 5.5        | 16.4       | 1.8        | 16.4      | 5.5      | 5.5  |
| その他                          | 10     | 0.0    | 10.0      | 10.0      | 10.0       | 10.0       | 0.0        | 20.0       | 40.0      | 0.0      | 0.0  |
| 特にない                         | 144    | 4.2    | 16.0      | 11.1      | 11.1       | 9.7        | 7.6        | 4.9        | 18.1      | 12.5     | 4.9  |

## 6 情報のニーズや入手について

### (1) 地震発生後に欲しかった情報

「家族や知人の安否」が67.4%、他、被害状況、水や物資、余震や復旧の見通しなど

問 23 あなたは、地震発生から数日間、どのようなことが知りたかったですか。(あてはまるもの全てに○)



地震の発生後に欲しかった情報は、「家族や知人の安否について」(67.4%) との回答が最も多く 7 割弱、「地震や津波の被害状況について」(48.3%) も約半数を占める。

地域別にみると、「水・食料生活物資について」「水道・ガス・電気・電話の復旧見通しについて」など生活関連の情報については多賀城市以北のリアス地域・港湾地域で多く、「行方不明者の救出や捜索活動について」は女川町、若林区、名取市に多い。また、原発立地町である女川町では「原子力発電所の状況について」への回答も 42.9% と多い。

年齢別にみると、ほとんどの項目で年齢層が低いほど回答比率が高い傾向にあり、全ての項目で 20 歳代の回答が最も多くなっている。

## ■性別／年齢別

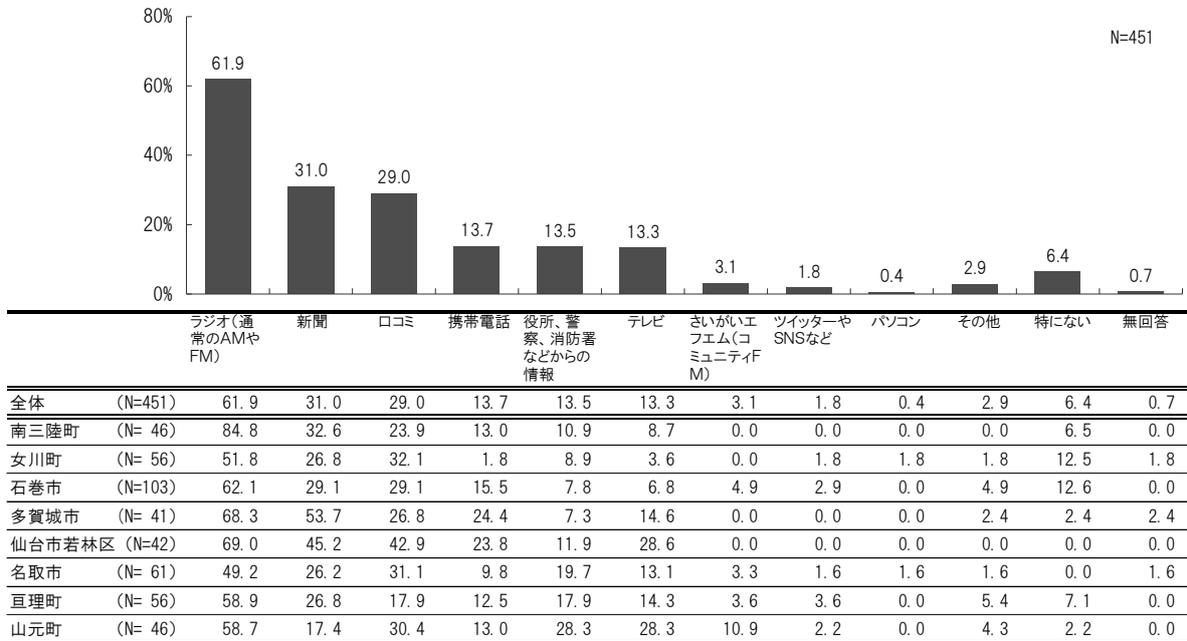
|       | 調査数（N） | い家族や知人の安否について | 地震や津波の被害状況について | 水・食料や生活物資について | 今や、後の余震の可能性について | 話の復旧の見通しについて | 水道・ガス・電気・電報 | 今回の地震について | 行方不明者の救出や捜索活動について | 原子力発電所の状況について | 救援活動の状況について | 病院について | 役所・警察・消防などの対策や活動について | 同様に被災した他の地域について | その他  | 特になし | 無回答 |
|-------|--------|---------------|----------------|---------------|-----------------|--------------|-------------|-----------|-------------------|---------------|-------------|--------|----------------------|-----------------|------|------|-----|
| 全体    | 451    | 67.4          | 48.3           | 37.3          | 34.6            | 33.3         | 31.9        | 23.5      | 19.1              | 19.1          | 18.8        | 15.7   | 15.1                 | 9.3             | 3.8  | 1.3  |     |
| 男性    | 205    | 66.8          | 48.3           | 39.5          | 36.6            | 34.6         | 35.1        | 26.3      | 18.0              | 22.0          | 18.0        | 16.6   | 15.1                 | 8.8             | 4.4  | 0.5  |     |
| 女性    | 246    | 67.9          | 48.4           | 35.4          | 32.9            | 32.1         | 29.3        | 21.1      | 19.9              | 16.7          | 19.5        | 15.0   | 15.0                 | 9.8             | 3.3  | 2.0  |     |
| 20歳代  | 30     | 80.0          | 63.3           | 63.3          | 46.7            | 56.7         | 46.7        | 36.7      | 33.3              | 33.3          | 36.7        | 30.0   | 36.7                 | 0.0             | 10.0 | 0.0  |     |
| 30歳代  | 45     | 73.3          | 57.8           | 55.6          | 40.0            | 51.1         | 40.0        | 22.2      | 17.8              | 26.7          | 22.2        | 13.3   | 11.1                 | 8.9             | 0.0  | 0.0  |     |
| 40歳代  | 84     | 75.0          | 56.0           | 44.0          | 40.5            | 38.1         | 35.7        | 31.0      | 23.8              | 23.8          | 13.1        | 17.9   | 19.0                 | 7.1             | 1.2  | 0.0  |     |
| 50歳代  | 79     | 70.9          | 46.8           | 31.6          | 30.4            | 25.3         | 25.3        | 24.1      | 15.2              | 12.7          | 20.3        | 12.7   | 11.4                 | 11.4            | 2.5  | 1.3  |     |
| 60歳代  | 118    | 66.9          | 42.4           | 31.4          | 33.1            | 31.4         | 31.4        | 26.3      | 22.9              | 22.0          | 19.5        | 17.8   | 17.8                 | 9.3             | 2.5  | 3.4  |     |
| 70歳以上 | 95     | 51.6          | 41.1           | 26.3          | 28.4            | 22.1         | 26.3        | 9.5       | 9.5               | 8.4           | 14.7        | 10.5   | 6.3                  | 12.6            | 8.4  | 1.1  |     |

IV. 調査結果

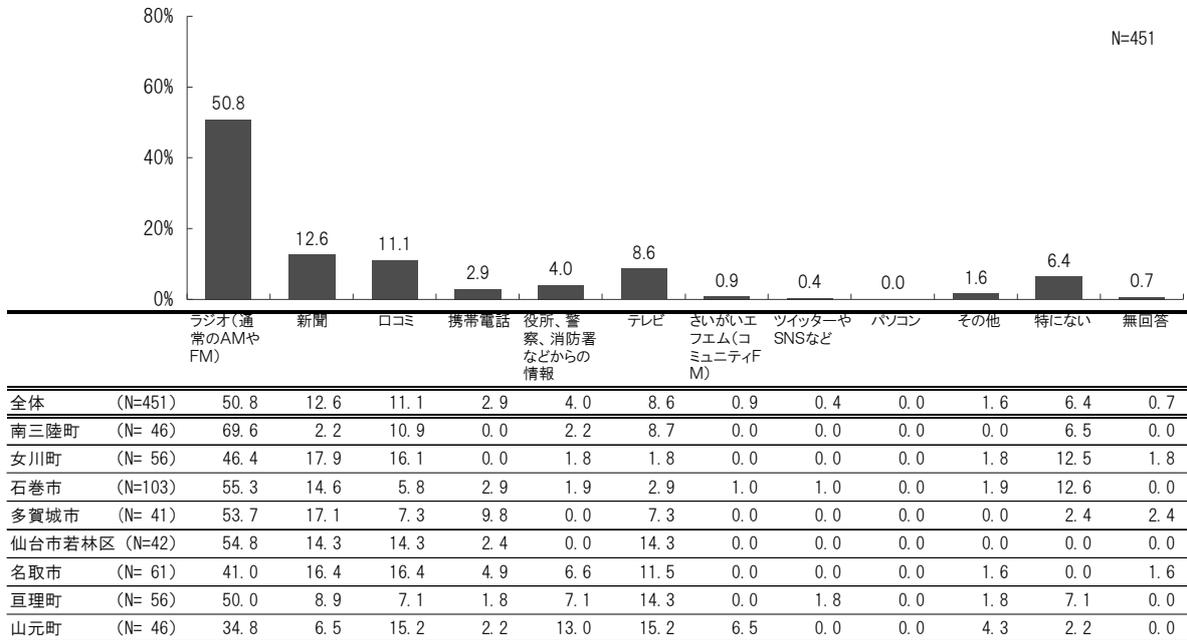
(2) 地震発生後の情報源

ラジオが約6割、他、新聞や口コミが約3割

問 24 地震発生から数日間、情報入手の手段が限られる中で、災害に関する情報は主にどこから入手しましたか。  
(あてはまるもの全てに○)



【最も役に立ったもの】



地震発生後の情報源は、「ラジオ (通常の AM や FM)」が 61.9%と最も多く、以下、新聞や口コミとなっている。「新聞」は、特に多賀城市や若林区で回答比率が高くなっている。

また、最も役に立った情報源も「ラジオ (通常の AM や FM)」が最も多く、震災による電気やインターネット回線の途絶などから、被災地においてラジオが主たる情報源となっていたことがわかる。

年齢別にみると、「携帯電話」が 20～30 歳代を中心に若年層ほど利用されている特徴がある。

## ■性別／年齢別

|       | 調査数<br>(N) | ラジオ<br>(FM)<br>(通常のAMや | 新聞   | 口コミ  | 携帯電話 | 役所、警察、消防署な<br>どからの情報 | テレビ  | さいがいエフエム(コ<br>ミュニティFM) | ツイッターやSNSな<br>ど | パソコン | その他 | 特<br>に<br>ない | 無<br>回<br>答 |
|-------|------------|------------------------|------|------|------|----------------------|------|------------------------|-----------------|------|-----|--------------|-------------|
| 全体    | 451        | 61.9                   | 31.0 | 29.0 | 13.7 | 13.5                 | 13.3 | 3.1                    | 1.8             | 0.4  | 2.9 | 6.4          | 0.7         |
| 男性    | 205        | 65.9                   | 28.3 | 29.3 | 14.6 | 15.1                 | 13.2 | 3.4                    | 3.4             | 0.5  | 2.0 | 6.3          | 0.5         |
| 女性    | 246        | 58.5                   | 33.3 | 28.9 | 13.0 | 12.2                 | 13.4 | 2.8                    | 0.4             | 0.4  | 3.7 | 6.5          | 0.8         |
| 20歳代  | 30         | 86.7                   | 36.7 | 26.7 | 30.0 | 3.3                  | 10.0 | 3.3                    | 6.7             | 0.0  | 0.0 | 0.0          | 0.0         |
| 30歳代  | 45         | 71.1                   | 24.4 | 31.1 | 33.3 | 13.3                 | 20.0 | 8.9                    | 0.0             | 0.0  | 4.4 | 4.4          | 0.0         |
| 40歳代  | 84         | 61.9                   | 31.0 | 33.3 | 16.7 | 15.5                 | 7.1  | 1.2                    | 4.8             | 2.4  | 1.2 | 3.6          | 0.0         |
| 50歳代  | 79         | 69.6                   | 34.2 | 22.8 | 11.4 | 13.9                 | 12.7 | 2.5                    | 1.3             | 0.0  | 2.5 | 5.1          | 1.3         |
| 60歳代  | 118        | 56.8                   | 32.2 | 26.3 | 9.3  | 11.9                 | 16.9 | 1.7                    | 0.0             | 0.0  | 2.5 | 10.2         | 0.0         |
| 70歳以上 | 95         | 49.5                   | 28.4 | 33.7 | 4.2  | 16.8                 | 12.6 | 4.2                    | 1.1             | 0.0  | 5.3 | 8.4          | 2.1         |

## ■性別／年齢別

|       | 調査数(N) | 仮設住宅の入居時期 | 復興支援の具体的な時期や内容 | 生活に必要な身の回りの情報 | 各被災地の復旧・復興の状況 | 失業対策や就職のこと | 復興に関する国の方針やメツセージ | 避難所や避難生活の状況 | その他の被災者救援対策について | 各被災地の被害の状況 | 不明者の捜索や発見に関する情報 | 原発関連の情報 | 学校の再開や転校などのこと | 広域避難計画の内容 | その他  | 特にない | 無回答 |
|-------|--------|-----------|----------------|---------------|---------------|------------|------------------|-------------|-----------------|------------|-----------------|---------|---------------|-----------|------|------|-----|
| 全体    | 451    | 67.8      | 36.8           | 31.5          | 31.3          | 23.5       | 22.0             | 21.1        | 16.9            | 14.4       | 13.7            | 13.5    | 12.4          | 7.8       | 7.8  | 4.0  | 0.9 |
| 男性    | 205    | 68.3      | 38.0           | 33.7          | 29.8          | 27.3       | 22.0             | 21.0        | 18.0            | 19.0       | 14.6            | 12.7    | 8.8           | 8.3       | 5.9  | 3.4  | 0.5 |
| 女性    | 246    | 67.5      | 35.8           | 29.7          | 32.5          | 20.3       | 22.0             | 21.1        | 15.9            | 10.6       | 13.0            | 14.2    | 15.4          | 7.3       | 9.3  | 4.5  | 1.2 |
| 20歳代  | 30     | 70.0      | 46.7           | 46.7          | 40.0          | 36.7       | 20.0             | 30.0        | 16.7            | 23.3       | 23.3            | 20.0    | 20.0          | 0.0       | 3.3  | 3.3  | 0.0 |
| 30歳代  | 45     | 66.7      | 40.0           | 33.3          | 37.8          | 28.9       | 13.3             | 20.0        | 17.8            | 13.3       | 11.1            | 13.3    | 17.8          | 4.4       | 11.1 | 0.0  | 0.0 |
| 40歳代  | 84     | 69.0      | 40.5           | 40.5          | 35.7          | 34.5       | 28.6             | 31.0        | 19.0            | 13.1       | 19.0            | 13.1    | 21.4          | 13.1      | 2.4  | 0.0  | 0.0 |
| 50歳代  | 79     | 72.2      | 43.0           | 31.6          | 26.6          | 31.6       | 26.6             | 11.4        | 17.7            | 10.1       | 10.1            | 10.1    | 10.1          | 6.3       | 8.9  | 3.8  | 1.3 |
| 60歳代  | 118    | 70.3      | 35.6           | 26.3          | 32.2          | 19.5       | 22.0             | 22.0        | 17.8            | 15.3       | 15.3            | 16.9    | 10.2          | 11.0      | 12.7 | 1.7  | 1.7 |
| 70歳以上 | 95     | 60.0      | 25.3           | 24.2          | 24.2          | 5.3        | 16.8             | 16.8        | 12.6            | 15.8       | 8.4             | 10.5    | 4.2           | 4.2       | 5.3  | 12.6 | 1.1 |

## ■情報の提供度合別

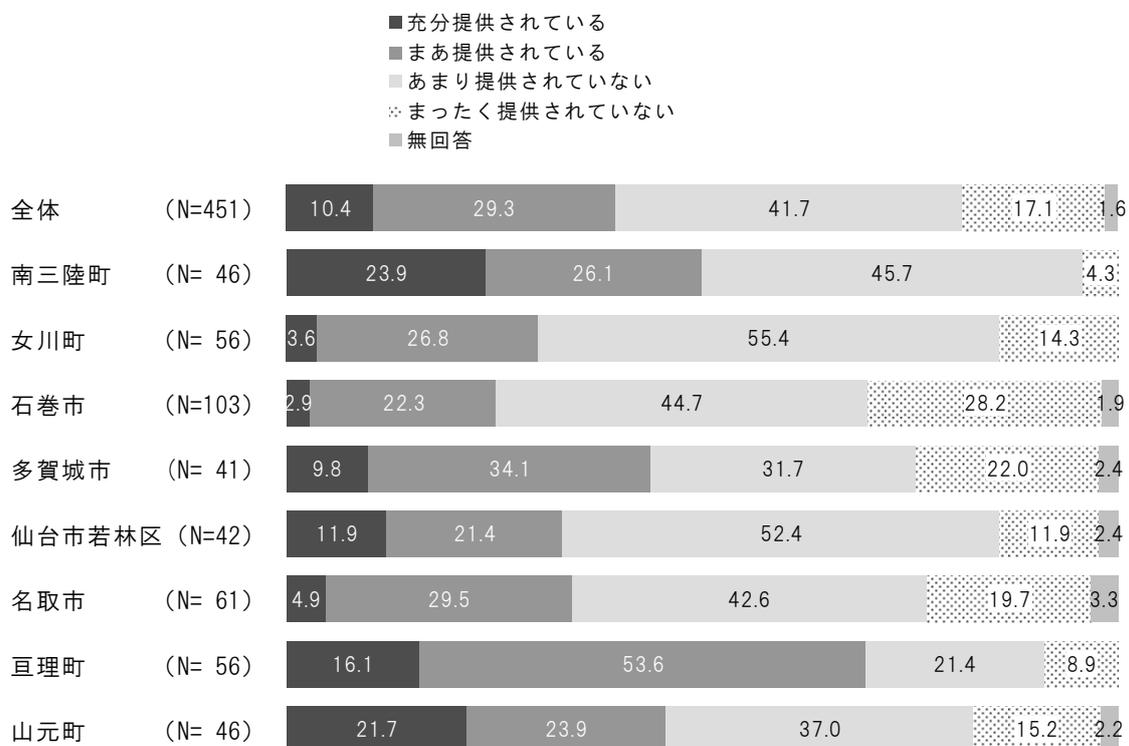
|              | 調査数(N) | 仮設住宅の入居時期 | 復興支援の具体的な時期や内容 | 生活に必要な身の回りの情報 | 各被災地の復旧・復興の状況 | 失業対策や就職のこと | 復興に関する国の方針やメツセージ | 避難所や避難生活の状況 | その他の被災者救援対策について | 各被災地の被害の状況 | 不明者の捜索や発見に関する情報 | 原発関連の情報 | 学校の再開や転校などのこと | 広域避難計画の内容 | その他  | 特にない | 無回答 |
|--------------|--------|-----------|----------------|---------------|---------------|------------|------------------|-------------|-----------------|------------|-----------------|---------|---------------|-----------|------|------|-----|
| 全体           | 451    | 67.8      | 36.8           | 31.5          | 31.3          | 23.5       | 22.0             | 21.1        | 16.9            | 14.4       | 13.7            | 13.5    | 12.4          | 7.8       | 7.8  | 4.0  | 0.9 |
| 充分提供されている    | 47     | 55.3      | 8.5            | 23.4          | 27.7          | 8.5        | 12.8             | 21.3        | 10.6            | 17.0       | 8.5             | 6.4     | 10.6          | 2.1       | 10.6 | 17.0 | 0.0 |
| まあ提供されている    | 132    | 64.4      | 37.1           | 37.9          | 34.8          | 31.8       | 28.0             | 21.2        | 17.4            | 18.9       | 17.4            | 18.2    | 13.6          | 9.1       | 6.8  | 3.8  | 0.0 |
| あまり提供されていない  | 188    | 71.3      | 43.6           | 30.9          | 32.4          | 23.4       | 20.7             | 19.7        | 19.7            | 12.8       | 14.4            | 12.8    | 12.8          | 5.3       | 6.4  | 0.5  | 0.5 |
| まったく提供されていない | 77     | 74.0      | 40.3           | 27.3          | 27.3          | 18.2       | 20.8             | 24.7        | 14.3            | 9.1        | 10.4            | 13.0    | 11.7          | 15.6      | 11.7 | 5.2  | 1.3 |

#### IV. 調査結果

#### (4) 情報の提供度合

全体の約4割が「あまり提供されていない」と回答

問26 生活上の不安や問題を解消するような情報がどの程度提供されていると思いますか。(○は1つだけ)

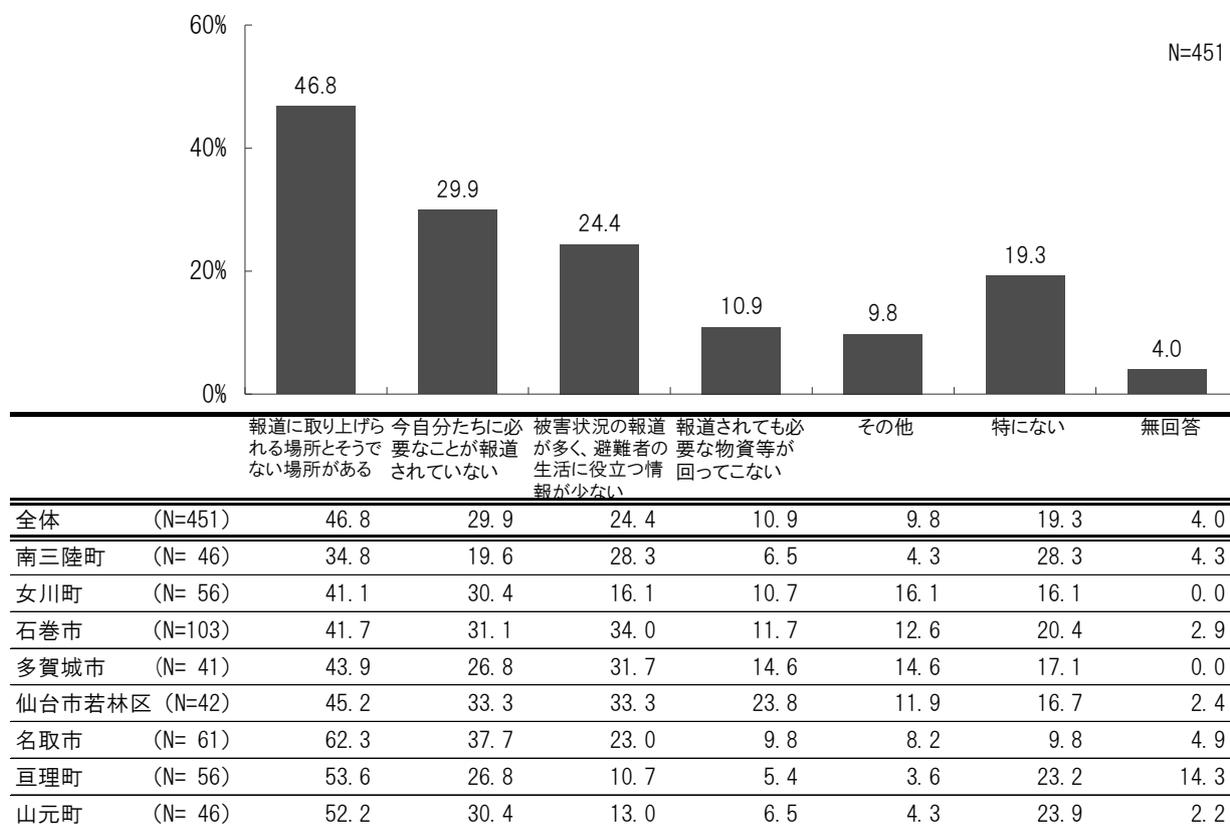


情報の提供度合をたずねたところ、「あまり提供されていない」(41.7%)との回答が最も多く、「十分提供されている」との回答は約1割にとどまった。

## (5) 震災に関する報道の問題点

半数近くが報道の地域差を指摘、以下被災者に必要な情報、役立つ情報の不足

問 27 今回の震災に関する報道で、問題があると感じていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)



今回の震災に関する報道について問題と感じていることについてたずねたところ、「報道に取り上げられる場所とそうでない場所がある」が46.8%と最も多い。

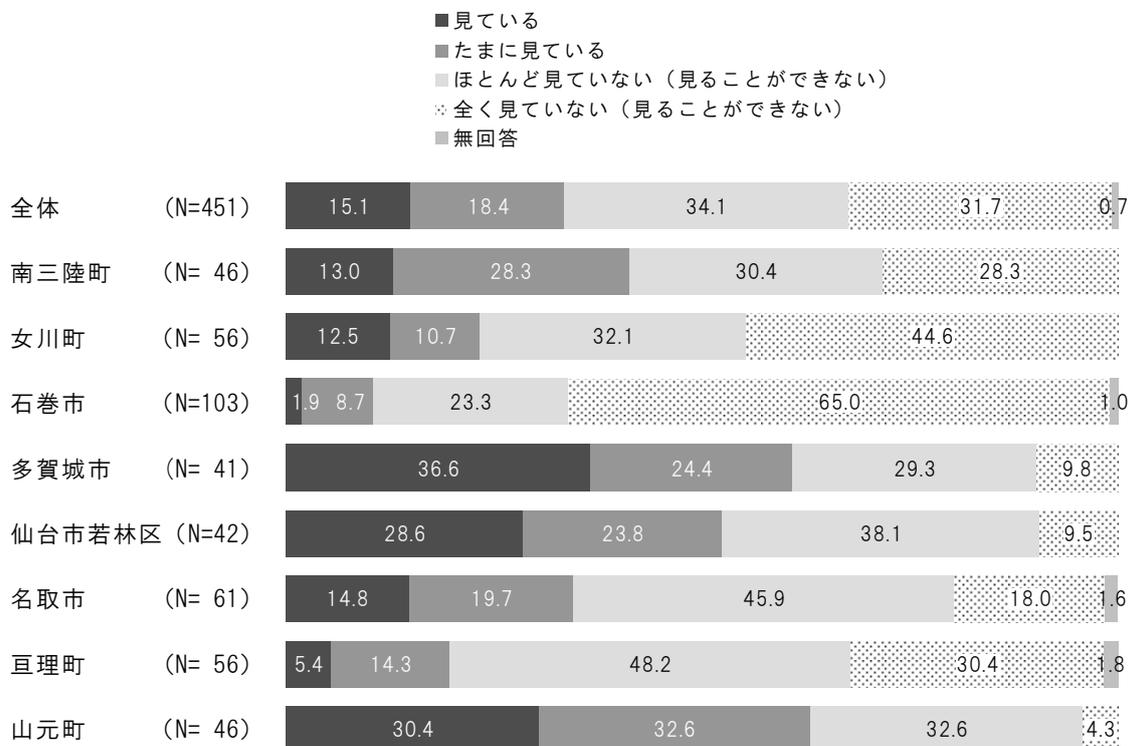
地域別にみると、「報道に取り上げられるところとそうでない場所がある」との回答は名取市、亶理町、山元町の県南地域で多く、特に名取では6割を超える。また、「被害状況の報道が多く、避難者の生活に役立つ情報が少ない」との回答は石巻市、多賀城市、若林区などで3割強と、他の地域に比べ多くなっている。

#### IV. 調査結果

### (6) テレビ視聴の有無

避難生活でのテレビ視聴は、非視聴が6割以上

問 28 最近、テレビをよく見ていますか。(○は1つだけ)



最近のテレビの視聴状況をたずねたところ、「ほとんど見ていない (見るできない)」が 34.1% と最も多い。

「見ている」人は 15.1%にとどまり、「たまに見ている」を合わせても、避難生活者のテレビ視聴の割合は約 3割となっている。

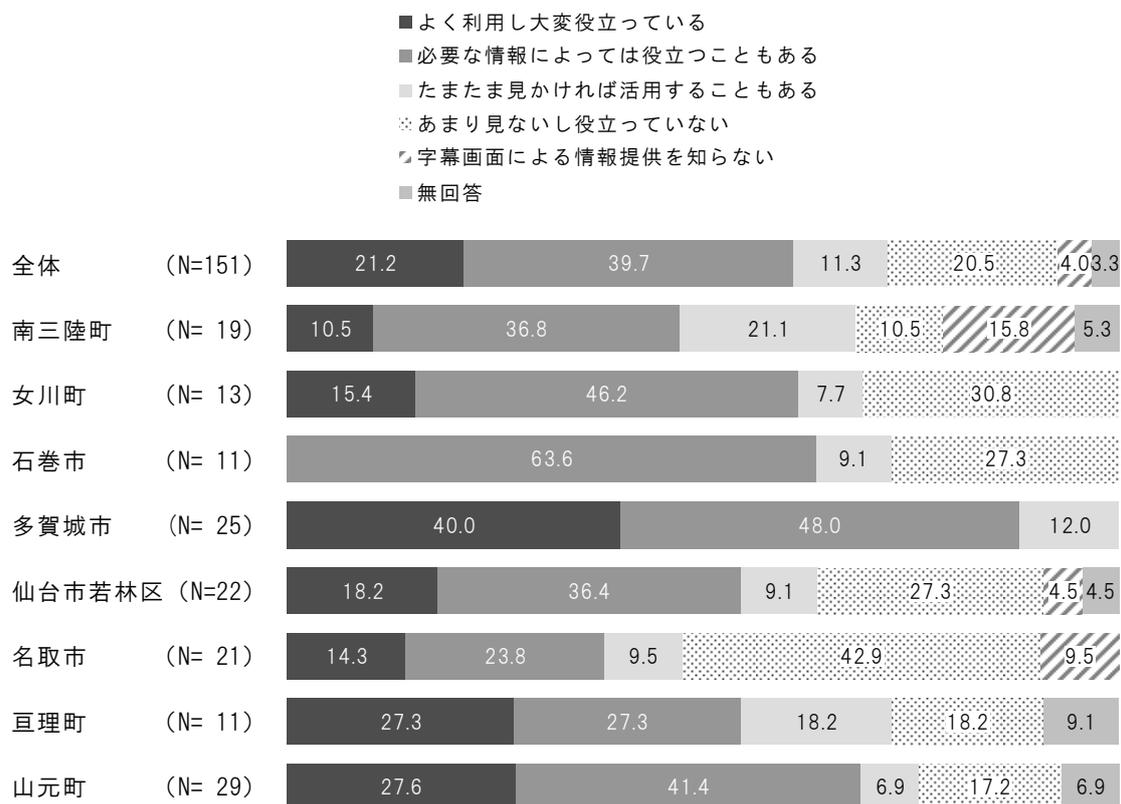
地域別にみると、テレビを「見ている」人は多賀城市、若林区、山元町で約 3割からそれ以上となっており、他の地域に比べて多い。一方、石巻市では 9割近くが、ほとんどあるいは全く見ていないと回答している。

## (7) L字情報の活用状況

「役立っている・役立つこともある」が視聴者の約6割

※問28で1・2と回答した方のみ

問29 今回の震災では、NHK・民放各社が、通常放送中にL字型などの字幕画面を使って震災や原発の情報、ライフラインの復旧状況、受診できる病院や買い物などの生活に関する情報などを流し続けています。被災後の生活の中で、これらはどの程度活用されていますか。(○は1つだけ)



問28でテレビを(たまに)見ていると回答した人に対し、L字型の字幕画面についてたずねたところ、「必要な情報によっては役立つこともある」との回答が約4割と最も多くなっており、「よく利用し大変役立っている」(21.2%)を合わせると約6割の人がL字画面による情報提供情報を評価している。

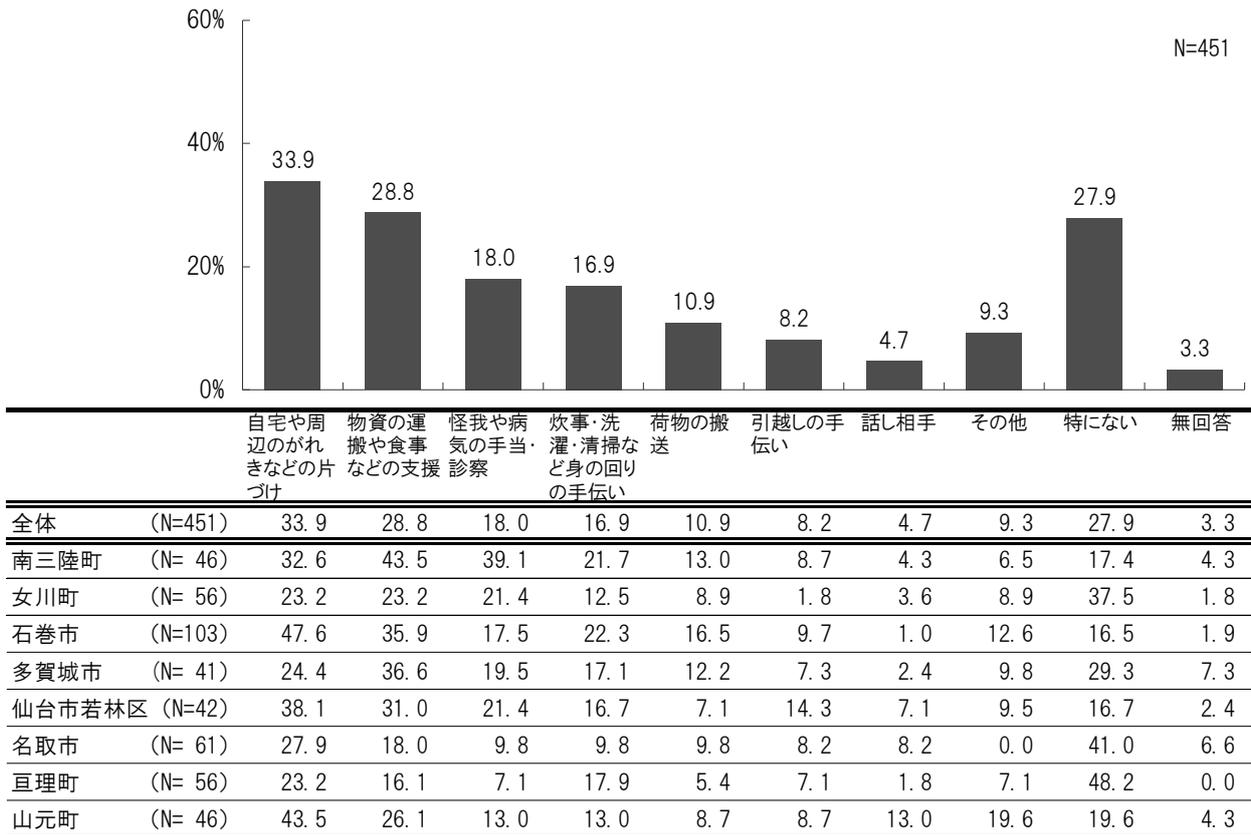
地域別にみると、多賀城市で比較的评价が高く、「よく利用し大変役立っている」が約4割に達している。

## 7 今後の要望

### (1) ボランティアに望む支援

がれきの片づけ、物資運搬や食事などの支援がそれぞれ3割前後

問 30 震災の直後から、赤十字や民間ボランティアの人たちが様々な救援活動を行っています。  
あなた自身にとって、今どのような支援が必要ですか。(あてはまるもの全てに○)



被災地におけるボランティア活動について、今、どのような支援が必要かをたずねたところ、「自宅や周辺のがれきの片づけ」が 33.9%と最も多く、次いで「物資の運搬や食事などの支援」(28.8%)となった。

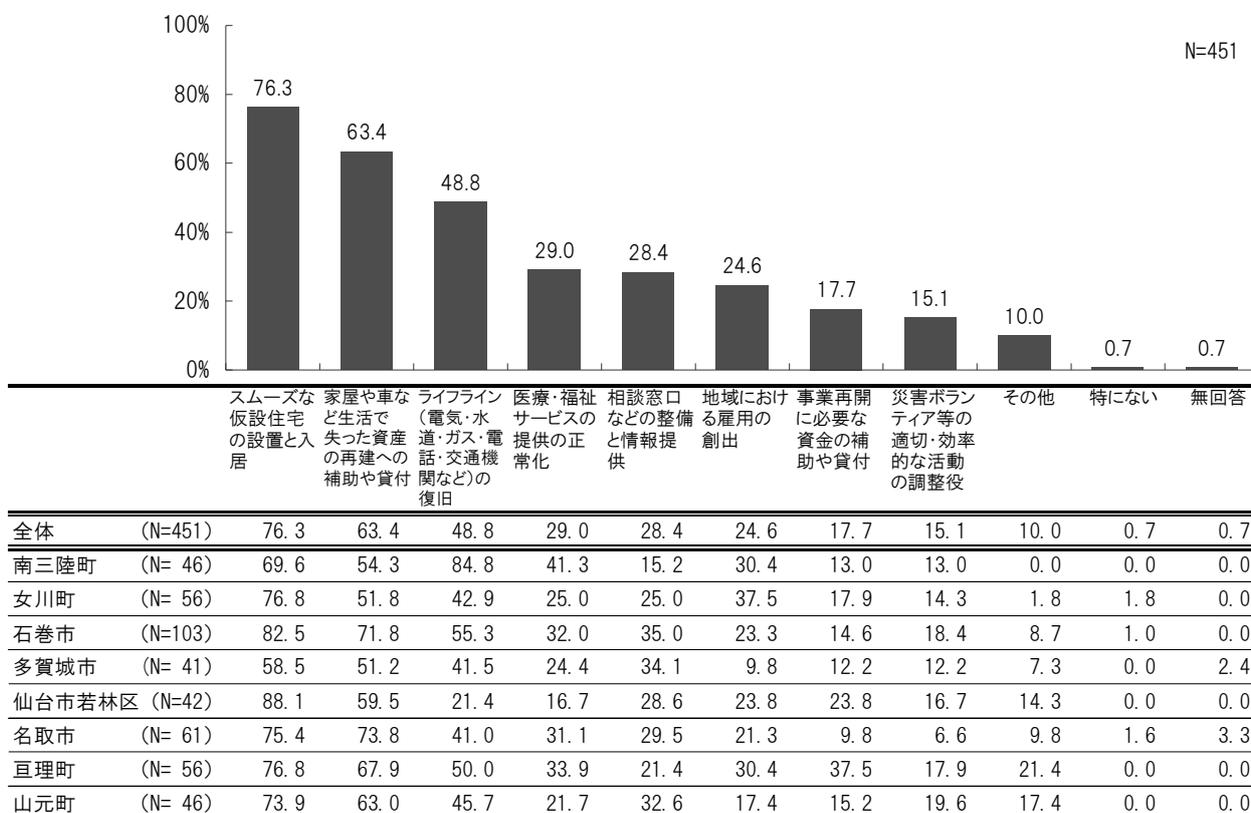
地域別にみると、「自宅や周辺のがれきの片づけ」は石巻市や山元町で4割以上と多く、「物資の運搬や食事などの支援」「怪我や病気の手当・診察」は南三陸町で特に多くなっている。また、亶理町、名取市、女川町では「特にない」との回答が多くなっている。

## (2) 行政に望む支援

「スムーズな仮設住宅の設置と入居」(76.3%)、「再建への補助や貸付」(63.4%)

問 31 あなたが安心できる生活を取り戻すために、行政に望む主な支援策はどのようなことですか。

(あてはまるもの全てに○)



今後行政に望む支援としては、「スムーズな仮設住宅の設置と入居」(76.3%)が最も多く、全体の約4分の3が回答している。以下、「家屋や車など生活で失った資産の再建への補助や貸付」(63.4%)、「ライフライン（電気・水道・ガス・電話・交通機関など）の復旧」(48.8%)の順となっており、生活再建の基盤部分に対するニーズが高い。

地域別にみると、「スムーズな仮設住宅の設置と入居」との回答は石巻市や若林区で特に高く8割超、「家屋や車など生活で失った資産の再建への補助や貸付」では石巻市、名取市で約7割と他の地域に比べて多い。また、南三陸町では「ライフライン（電気・水道・ガス・電話・交通機関など）の復旧」への回答が8割半ばと他地域を大きく上回っている。

年齢別にみると、「スムーズな仮設住宅の設置と入居」、「家屋や車など生活で失った資産の再建への補助や貸付」、「ライフライン（電気・水道・ガス・電話・交通機関など）の復旧」は若年層ほどニーズが高く示されている。また、「地域における雇用の創出」では40歳代の回答が多くなっている。

IV. 調査結果

■性別／年齢別

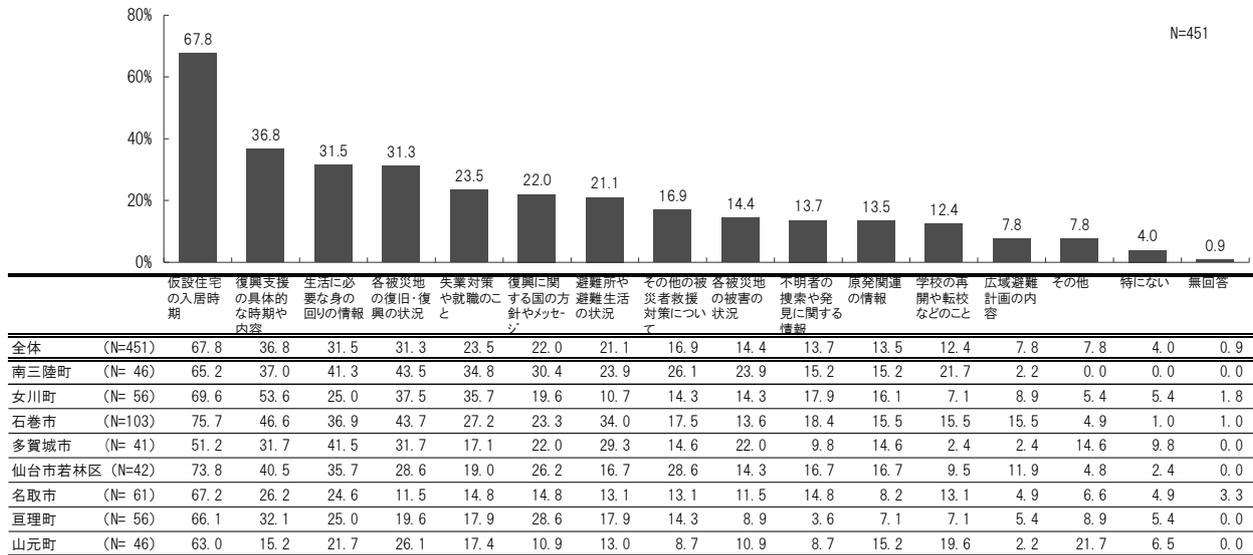
|       | 調査数（N） | 設置と入居 | スムーズな仮設住宅の | 補助や貸付 | 失った資産の再建への | 家屋や車など生活での | 通機関などの復旧 | 水道・ガス・電気・交 | ライフライン（電気・ | 医療・福祉サービスの | 提供の正常化 | 相談窓口などの整備と | 情報提供 | 地域における雇用の創 | 出 | 事業再開に必要な資金 | の補助や貸付 | 調整 | 適切・効率的な活動等の | 災害ボランティア等の | その他 | 特 | に | な | い | 無 | 回 | 答 |  |
|-------|--------|-------|------------|-------|------------|------------|----------|------------|------------|------------|--------|------------|------|------------|---|------------|--------|----|-------------|------------|-----|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 全体    | 451    | 76.3  | 63.4       | 48.8  | 29.0       | 28.4       | 24.6     | 17.7       | 15.1       | 10.0       | 0.7    | 0.7        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 男性    | 205    | 74.1  | 63.4       | 48.8  | 26.3       | 29.3       | 26.3     | 21.0       | 15.6       | 8.3        | 0.0    | 1.0        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 女性    | 246    | 78.0  | 63.4       | 48.8  | 31.3       | 27.6       | 23.2     | 15.0       | 14.6       | 11.4       | 1.2    | 0.4        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 20歳代  | 30     | 86.7  | 73.3       | 63.3  | 23.3       | 26.7       | 23.3     | 16.7       | 26.7       | 0.0        | 0.0    | 0.0        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 30歳代  | 45     | 84.4  | 77.8       | 51.1  | 40.0       | 26.7       | 26.7     | 13.3       | 26.7       | 11.1       | 0.0    | 0.0        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 40歳代  | 84     | 76.2  | 72.6       | 56.0  | 33.3       | 32.1       | 40.5     | 22.6       | 16.7       | 8.3        | 0.0    | 0.0        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 50歳代  | 79     | 74.7  | 70.9       | 48.1  | 26.6       | 27.8       | 30.4     | 17.7       | 11.4       | 11.4       | 0.0    | 1.3        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 60歳代  | 118    | 76.3  | 60.2       | 42.4  | 25.4       | 26.3       | 22.9     | 19.5       | 11.9       | 11.0       | 1.7    | 0.8        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 70歳以上 | 95     | 70.5  | 43.2       | 45.3  | 28.4       | 29.5       | 7.4      | 13.7       | 11.6       | 11.6       | 1.1    | 1.1        |      |            |   |            |        |    |             |            |     |   |   |   |   |   |   |   |  |

IV. 調査結果

(3) 現時点で必要な情報

震災から 40 日近くの時点で「仮設住宅への入居時期」が 67.8%

問 25 現時点で必要と感じる情報は、どのようなものですか。(あてはまるもの全てに○)



現時点で必要な情報は、「仮設住宅の入居時期」(67.8%) が最も多く 7 割弱を占める。住宅が全半壊・全焼している人が多いことから、仮設への入居時期は最も知りたい情報となっている。

以下、「復興支援の具体的な時期や内容」(36.8%)、「生活に必要な身の回りの情報」(31.5%)、「各被災地の復旧・復興の状況」(31.3%) がそれぞれ 3 割台となっている。

地域別にみると、上位項目の情報を必要と回答している割合は、県北地域により高い傾向がある。

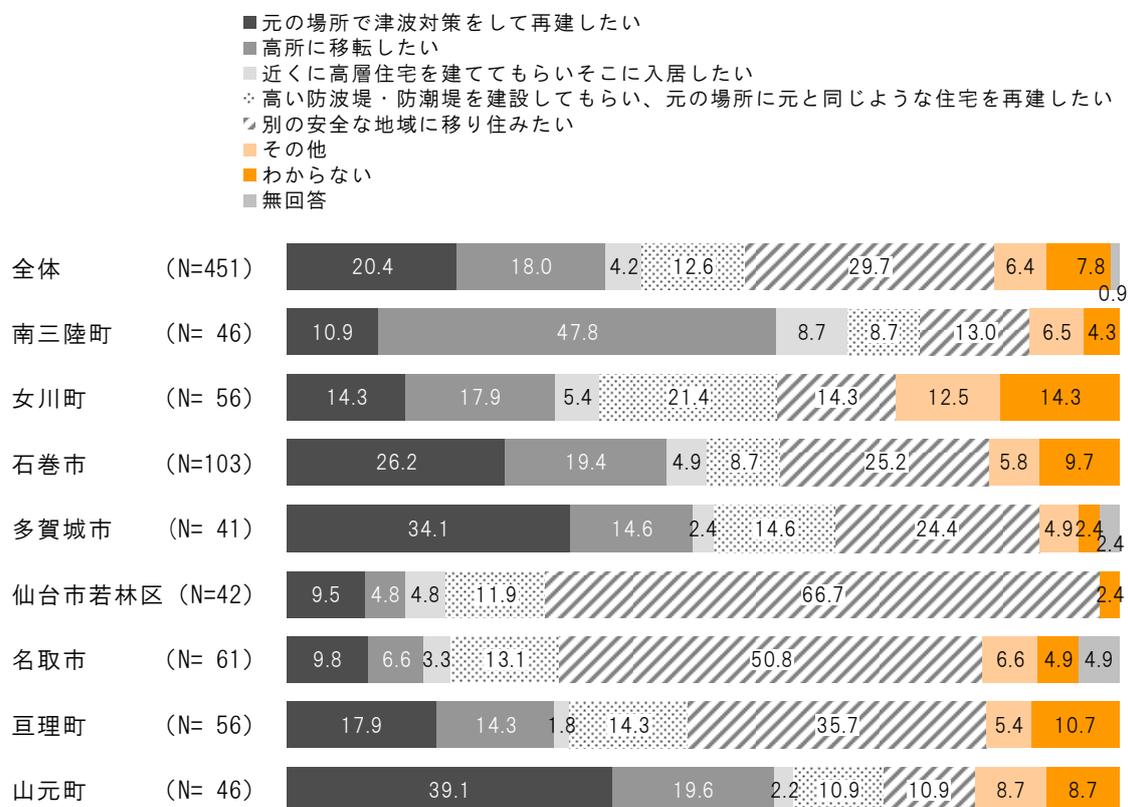
年齢別にみると、「復興支援の具体的な時期や内容」との回答は 20～50 歳代で多く、「生活に必要な身の回りの情報」は 20 歳代が多い。

問 26 でたずねている情報の提供度合別にみると、情報が「あまり提供されていない」「まったく提供されていない」と感じている人は、現時点で必要な情報として「仮設住宅の入居時期」への回答が 7 割以上と高く、避難生活の最大の課題となっている住まいの問題について、情報が不足していることへの不満がうかがえる。

## (3) 今後の居住について

## 元の居住地での生活再建と安全な地域への移住が様々に分かれている

問 32 あなたは、今後も被災前の地域での生活再建することを望んでいますか。(〇は1つだけ)



今後、生活再建を希望する地域をたずねたところ、防潮堤の建設や高層住宅への入居などの何らかの対策を含めて、「被災前の地域内で生活を再建したいと思っている」人が 55.2%と過半数を占めている。

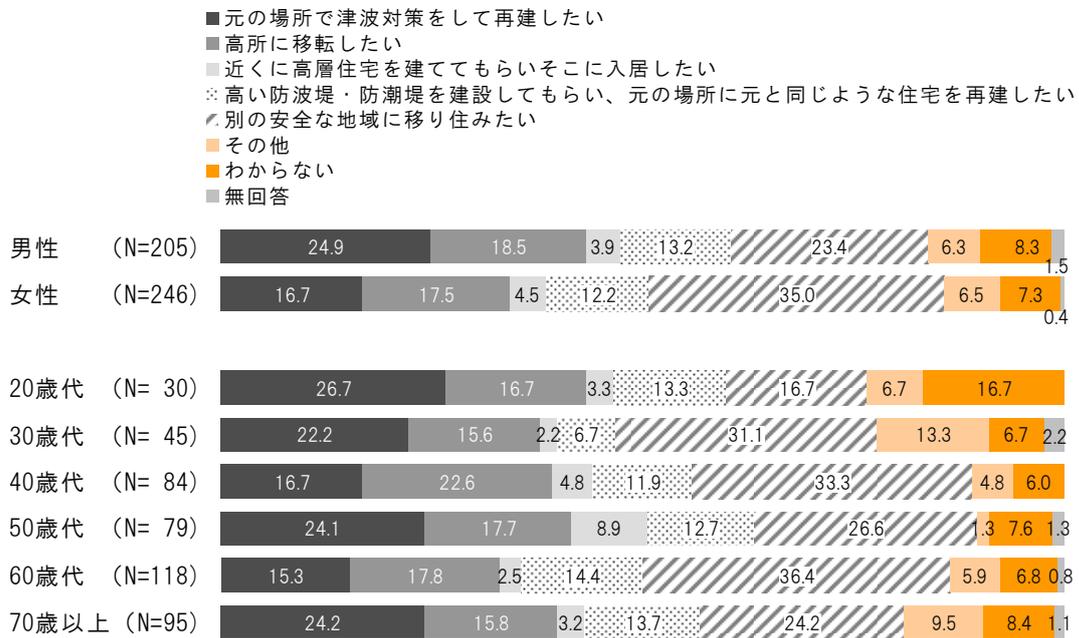
一方、「別の安全な地域に移り住みたい」(29.7%)との回答も全体の約3割みられる。

これらの回答は、地域による差が大きく、若林区や名取市、亶理町では「別の安全な地域に移り住みたい」と回答している人が最も多く、若林区では7割近くに及んでいる。これに対し、南三陸町では「高所に移転したい」(47.8%)が約半数。山元町や多賀城市では「元の場所で津波対策をして再建したい」という希望が多くなっている。

性別にみると、「元の場所で津波対策をして再建したい」との回答は女性(16.7%)に比べ、男性(24.9%)にやや多くなっている。

IV. 調査結果

■性別／年齢別



V

調査票（単純集計結果）



V. 調査票（単純集計結果）

問 2(2) 揺れが収まってから、避難を開始する前に、以下のようなことを行いましたか。

（あてはまるもの全てに○）

N=451

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 幼稚園や学校などに子どもを迎えに行った (6.7%)   |
| 2. 近くに住む親や親戚などの様子を見に行った (9.5%)  |
| 3. 出先から自宅に戻った (18.4%)           |
| 4. 海の様子を見に行った (1.8%)            |
| 5. 川の様子を見に行った (0.7%)            |
| 6. 船の沖出しをしに行った (0.4%)           |
| 7. 家族などの安否を確かめるために電話をした (19.1%) |
| 8. 避難のための荷物や貴重品をまとめた (10.9%)    |
| 9. 避難の準備をした (18.0%)             |
| 10. その他 ( ) (20.0%)             |
| 11. 何もせずに避難した (20.0%)           |

無回答 (1.1%)

問 3 あなたは、地震の直後、お住まいの地域に津波が来ると思いましたか。(○は1つだけ)

N=451

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 津波が必ず来ると思った (32.6%)     | 3. 津波は来ないだろうと思った (20.8%)    |
| 2. 津波が来るかもしれないと思った (21.1%) | 4. 津波のことはほとんど考えなかった (24.8%) |

無回答 (0.7%)

問 4 津波は、地震の後どのくらいで来ると思いましたか。(○は1つだけ)

N=451

- |   |
|---|
| 1. すぐ逃げないと間に合わないくらい早く来ると思った (25.3%)                           |
| 2. 津波は早く来るが、荷物を持って逃げるくらいの余裕はあると思った (15.3%)                    |
| 3. 津波は早く来るが、子どもを迎えに行ったり、近所に住んでいる親の様子を見に行くくらいの余裕はあると思った (5.3%) |
| 4. 津波が来るまでには、かなりの余裕があったと思った (16.9%)                           |
| 5. 津波が来るとは思わなかった (35.0%)                                      |

無回答 (2.2%)

問 5 あなたは、その場所に留まると、どの程度津波の危険があると思いましたか。(○は1つだけ)

N=451

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 非常に危険だと思った (36.6%) | 3. 少し危険だと思った (18.6%)   |
| 2. 危険だと思った (14.0%)    | 4. 危険だとは思わなかった (29.3%) |

無回答 (1.6%)

問 6(1) 地震の直後に、大津波の警報が出されました。あなたは、この大津波の警報をお聞きになりましたか。(○は1つだけ)

N=451

- |                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1. 聞いた → 問 6(2)~6(3)へ (56.1%) | 2. 聞かなかった → 問 7(1)へ (43.2%) |
|-------------------------------|-----------------------------|

無回答 (0.7%)

【聞いたと答えた方におたずねします】

問 6(2) あなたは、その大津波の警報をどのようにして知りましたか。(あてはまるもの全てに○)

N=253

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 民放テレビから (6.7%)      | 6. 防災無線の屋外拡声器から (47.8%) |
| 2. NHKテレビから (1.2%)     | 7. 市町村の広報車から (13.8%)    |
| 3. 民放ラジオから (19.8%)     | 8. 家族や近所の人から (9.1%)     |
| 4. NHKラジオから (7.5%)     | 9. 警察や消防の人から (7.1%)     |
| 5. 防災無線の戸別受信機から (6.3%) | 10. その他 ( ) (5.1%)      |

## 【聞いたと答えた方におたずねします】

問 6(3) あなたは、この大津波の警報を聞いた時、どのように思いましたか。(○は1つだけ)

N=253

- |  |
|--|
| 1. すぐに避難しなければいけないと思った (54.9%)              |
| 2. すぐに避難した方がいいかもしれないと思った (20.6%)           |
| 3. 警戒する必要があるが、海の様子をみてから判断した方がよいと思った (5.1%) |
| 4. 避難するほどの危険はないと思った (10.7%)                |
| 5. その他 ( ) (7.5%)                          |

無回答 (1.2%)

問 7(1) 地震のあと、市や町は「大津波が来るので避難するように」と呼びかけました。あなたは、この呼びかけを聞きましたか。(○は1つだけ)

N=451

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1. 聞いた (50.6%) | 2. 聞いていない (44.8%) |
|----------------|-------------------|

無回答 (4.7%)

問 7(2) あなたが避難したきっかけは何でしたか。(あてはまるもの全てに○)

N=451

- |                                |
|--------------------------------|
| 1. 以前津波を体験したので津波が来ると思った (5.3%) |
| 2. 地震の揺れ具合から津波が来ると思った (21.1%)  |
| 3. 海や川の水が大きく引いたので (4.7%)       |
| 4. 家族が避難しようと言ったので (14.0%)      |
| 5. 近所の人から避難するように言ったので (19.7%)  |
| 6. 市町村が避難を呼びかけたので (12.4%)      |
| 7. 大津波の警報を聞いたので (24.2%)        |
| 8. 役場や消防団の人が来て説得されたので (5.5%)   |
| 9. 実際に津波が来るのが見えたので (13.5%)     |
| 10. その他 ( ) (20.4%)            |
| 11. よく覚えていない (1.1%)            |

無回答 (2.2%)

問 8 あなたが避難をはじめたのは、地震の発生からどのくらい経ってからですか。(○は1つだけ)

N=451

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 揺れている間 (4.0%)        | 6. 揺れの 20 分くらい後 (9.1%) |
| 2. 揺れが収まった直後 (17.7%)    | 7. 揺れの 25 分くらい後 (5.3%) |
| 3. 揺れの 5 分くらい後 (10.2%)  | 8. 揺れの 30 分以上後 (19.3%) |
| 4. 揺れの 10 分くらい後 (12.4%) | 9. よく覚えていない (7.5%)     |
| 5. 揺れの 15 分くらい後 (9.1%)  |                        |

無回答 (5.3%)

問 9 あなたはどなたかと一緒に避難しましたか。(あてはまるもの全てに○)

N=451

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. 自分ひとりで (22.2%)   | 5. 学校で一緒にいた人 (1.3%) |
| 2. 家族と一緒に (52.3%)   | 6. 避難を誘導した人 (2.7%)  |
| 3. 同僚や同じ職場の人 (9.8%) | 7. その他 ( ) (4.7%)   |
| 4. 近所の人 (16.0%)     |                     |

無回答 (2.7%)

V. 調査票（単純集計結果）

問 10 あなたは避難する時にどのようなものを持ちましたか。（あてはまるもの全てに○）

|       |                         |                          |
|-------|-------------------------|--------------------------|
| N=451 | 1. 現金 (37.0%)           | 9. ヘルメット・防災ずきん (1.6%)    |
|       | 2. 預金通帳・財布等の貴重品 (36.1%) | 10. アルバムなど思い出の品 (—)      |
|       | 3. 保険証 (26.2%)          | 11. 位牌 (3.8%)            |
|       | 4. 食料・飲料水 (7.3%)        | 12. 仕事の書類 (1.1%)         |
|       | 5. 薬 (9.1%)             | 13. ノートパソコン (0.2%)       |
|       | 6. 洋服 (5.5%)            | 14. その他 ( ) (14.9%)      |
|       | 7. 携帯電話 (36.1%)         | 15. なにも持っていかなかった (30.2%) |
|       | 8. 懐中電灯・電池 (8.0%)       |                          |

無回答 (2.9%)

問 11 あなたはどのように避難をしましたか。（○は1つだけ）

（※ただし、途中で移動手段を変えた場合は、1次手段を○、2次手段を◎）

|       |                           |                          |
|-------|---------------------------|--------------------------|
| N=451 | 1. 自分で歩いて避難した (33.9%)     | 5. バイクに乗せてもらって避難した (—)   |
|       | 2. 自分で自転車に乗って避難した (3.8%)  | 6. 自分で車を運転して避難した (31.5%) |
|       | 3. 自転車に乗せてもらい避難した (1.1%)  | 7. 車に乗せてもらい避難した (19.7%)  |
|       | 4. 自分でバイクを運転して避難した (0.9%) | 8. その他 ( ) (5.5%)        |

無回答 (3.5%)

問 12 あなたが最初に避難した場所は、普段から避難先と考えていたところですか。（○は1つだけ）

|       |               |                |
|-------|---------------|----------------|
| N=451 | 1. はい (53.7%) | 2. いいえ (42.8%) |
|-------|---------------|----------------|

無回答 (3.5%)

問 13 最初に避難した場所から別の場所に避難しましたか。（○は1つだけ）

|       |                            |             |
|-------|----------------------------|-------------|
| N=451 | 1. 別の場所に避難した (60.8%)       | → 問 14~15 へ |
|       | 2. 最初に避難した場所にとどまった (36.4%) | → 問 16 へ    |

無回答 (2.9%)

【別の場所に避難した方におたずねします】

問 14 あなたが別の場所に避難した最も強い理由は何ですか。（○は1つだけ）

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| N=274 | 1. みんなが別の場所に移動しはじめたから (20.4%)       |
|       | 2. 警察・消防などが別の場所への避難を指示したから (18.6%)  |
|       | 3. 避難を誘導した人が別の場所への避難を指示したから (19.3%) |
|       | 4. 実際に大きな津波をみて、危険だと判断したから (11.3%)   |
|       | 5. その他 ( ) (25.9%)                  |
|       | 6. よく覚えていない (1.8%)                  |

無回答 (2.6%)

【別の場所に避難した方におたずねします】

問 15 あなたが最初に避難した場所は、結果的に津波の被害にあいましたか。（○は1つだけ）

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| N=274 | 1. 最初の避難場所は津波の被害にあっていた (55.5%) |
|       | 2. 最初の避難場所でも被害にはあわなかった (42.0%) |

無回答 (2.6%)

問 16 あなたは今回の地震で直接、津波を見ましたか。（○は1つだけ）

|       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| N=451 | 1. 津波に巻き込まれた (9.8%)               |
|       | 2. 津波に巻き込まれる寸前だった (22.2%)         |
|       | 3. 少し離れたところから、津波が来るのを見ていた (36.8%) |
|       | 4. 津波が来るのを見ていない (28.8%)           |

無回答 (2.4%)

問 17(1) この度の地震や津波で、あなたのご自宅やご家族はどのような被害を受けましたか。

①自宅（○は1つだけ）

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| N=451 | 1. 津波によって自宅が流出または全壊・全焼した (72.9%) |
|       | 2. 津波によって自宅が半壊・一部損壊した (19.5%)    |
|       | 3. 地震の揺れによって全・半壊した (2.0%)        |
|       | 4. その他 ( ) (4.0%)                |
|       | 5. わからない (0.7%)                  |
|       | 無回答 (0.9%)                       |

②ご自身（○は1つだけ）

|       |                  |                 |
|-------|------------------|-----------------|
| N=451 | 1. 無事だった (94.2%) | 2. 怪我をした (4.7%) |
|       | 無回答 (1.1%)       |                 |

③ご家族（あてはまるもの全てに○）

|       |                      |                           |
|-------|----------------------|---------------------------|
| N=451 | 1. 全員無事だった (83.8%)   | 3. 亡くなったり不明の家族がいる (10.2%) |
|       | 2. 怪我をした家族がいる (5.5%) |                           |
|       | 無回答 (0.7%)           |                           |

問 17(2) ご家族全員の安否がわかったのは、地震当日からどの位経ってからですか。（○は1つだけ）

|       |                     |                           |
|-------|---------------------|---------------------------|
| N=451 | 1. 地震発生の当日中 (41.2%) | 4. 4日目 (5.8%)             |
|       | 2. 翌日 (19.7%)       | 5. 5日以上経ってから (14.4%)      |
|       | 3. 3日目 (14.9%)      | 6. いまだに安否が不明の家族がいる (2.7%) |
|       | 無回答 (1.3%)          |                           |

問 18 あなたが津波から避難できた理由はどのようなことですか。（あてはまるもの全てに○）

|       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| N=451 | 1. 昔から安全だといわれていたところへ避難したから (13.3%) |
|       | 2. 家族から昔の津波や地震の話聞いていたから (10.0%)    |
|       | 3. 防災訓練等で知っていたから (8.9%)            |
|       | 4. 学校等で教わっていたから (2.7%)             |
|       | 5. 自分や家族のとっさの判断がよかったから (32.8%)     |
|       | 6. 近所や隣人の避難の呼びかけがあったから (20.0%)     |
|       | 7. 消防や警察の避難の呼びかけがあったから (9.3%)      |
|       | 8. 自主防災組織等の避難の呼びかけがあったから (3.8%)    |
|       | 9. 歩いて避難したから (8.2%)                |
|       | 10. 車で避難したから (21.7%)               |
|       | 11. 車で避難しなかったから (2.7%)             |
|       | 12. 途中で車に乗せてもらったから (1.6%)          |
|       | 13. 自転車・バイクで避難したから (1.6%)          |
|       | 14. 自転車・バイクで避難しなかったから (0.2%)       |
|       | 15. 避難を誘導してくれる人がいたから (8.0%)        |
|       | 16. 早く避難したから (29.7%)               |
|       | 17. いったん自宅に戻ったりしなかったから (13.1%)     |
|       | 18. その他 ( ) (17.5%)                |
|       | 19. わからない (2.0%)                   |
|       | 無回答 (2.2%)                         |

V. 調査票（単純集計結果）

問 19 あなたは、今回の津波被害でどのような行動が重要だと思いましたか。（あてはまるもの全てに○）

N=451

1. 地震が発生したらすぐに避難する（65.9%）
2. 地震や津波について学習する（24.2%）
3. 地震や津波に関しての昔からの言い伝えや慣習を理解する（15.3%）
4. 地震や津波に対する避難訓練を行う（22.2%）
5. 津波に対して、避難する場所や方向をよく知っておく（35.3%）
6. 一旦自宅に戻ったりしない（28.8%）
7. 車での避難の危険性・有効性を判断する（20.2%）
8. 避難に関する指示を理解する（12.6%）
9. 離れている家族などが心配でも、各自が急いで高所に避難する（25.3%）
10. その他（ ）（10.0%）
11. わからない（2.2%）

無回答（1.6%）

問 20 あなたは、家族などから過去の地震や津波のことを聞いたことがありますか。（○は1つだけ）

N=451

1. 聞いたことがあり、役に立った（24.6%）
2. 聞いたことがあり、多少役に立った（9.5%）
3. 聞いたことはあるが、あまり役に立たなかった（15.3%）
4. 聞いたことはあるが、役に立たなかった（24.4%）
5. 聞いたことがなかった（24.4%）

無回答（1.8%）

問 21 あなたは、学校や生涯学習などで、この地域の地震や津波について習ったことがありますか。

（○は1つだけ）

N=451

1. 習ったことがあり、役に立った（13.3%）
2. 習ったことがあり、多少役に立った（9.3%）
3. 習ったことはあるが、あまり役に立たなかった（7.3%）
4. 習ったことはあるが、役に立たなかった（16.4%）
5. 習ったことがなかった（50.8%）

無回答（2.9%）

問 22 お宅では、今回の大震災が発生する前にどのような備えをしていましたか。（あてはまるもの全てに○）

N=451

1. 家具の固定（27.1%）
2. 家屋の耐震診断や補強（5.5%）
3. 家屋の新築（2.4%）
4. 非常持ち出し品の準備（26.4%）
5. 食料・飲料の備蓄（14.9%）
6. ガス・プロパンガスの元栓を閉めていた（12.2%）
7. 転倒するような家具の近くに寝ない（9.1%）
8. 津波防災ハザードマップを見て地域の危険性を確認していた（4.2%）
9. 避難場所の確認をしていた（28.4%）
10. 避難の方法や連絡手段、集合場所などを家族で話し合っていた（11.3%）
11. 地域の津波避難訓練に参加した（12.2%）
12. その他（ ）（2.2%）
13. 特にない（31.9%）

無回答（1.1%）

問 23 あなたは、地震発生から数日間、どのようなことが知りたかったですか。

（あてはまるもの全てに○）

N=451

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 今回の地震についての震源地、規模などの情報 (31.9%)  |
| 2. 今後の余震の可能性や、規模の見通しについて (34.6%)  |
| 3. 地震や津波の被害状況について (48.3%)         |
| 4. 家族や知人の安否について (67.4%)           |
| 5. 行方不明者の救出や捜索活動について (23.5%)      |
| 6. 役所・警察・消防などの対策や活動について (15.7%)   |
| 7. 水道・ガス・電気・電話の復旧の見通しについて (33.3%) |
| 8. 水・食料や生活物資について (37.3%)          |
| 9. 病院について (18.8%)                 |
| 10. 原子力発電所の状況について (19.1%)         |
| 11. 同様に被災した他の地域の様子について (15.1%)    |
| 12. 救援活動の状況について (19.1%)           |
| 13. その他 ( ) (9.3%)                |
| 14. 特にない (3.8%)                   |

無回答 (1.3%)

問 24 地震発生から数日間、情報入手の手段に限られる中で、災害に関する情報は主にどこから入手しましたか。（あてはまるもの全てに○、最も役に立った情報媒体に◎）

N=451

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1. テレビ (13.3%)               | 7. ツイッターやSNSなど (1.8%)       |
| 2. ラジオ（通常のAMやFM） (61.9%)     | 8. 口コミ (29.0%)              |
| 3. さいがいエフエム（コミュニティFM） (3.1%) | 9. 役所、警察、消防署などからの情報 (13.5%) |
| 4. 新聞 (31.0%)                | 10. その他 ( ) (2.9%)          |
| 5. パソコン (0.4%)               | 11. 特にない (6.4%)             |
| 6. 携帯電話 (13.7%)              |                             |

無回答 (0.7%)

問 25 現時点で必要と感じる情報は、どのようなものですか。（あてはまるもの全てに○）

N=451

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 各被災地の被害の状況 (14.4%)      | 9. 学校の再開や転校などのこと (12.4%)     |
| 2. 各被災地の復旧・復興の状況 (31.3%)   | 10. 失業対策や就職のこと (23.5%)       |
| 3. 避難所や避難生活の状況 (21.1%)     | 11. その他の被災者救援対策について (16.9%)  |
| 4. 生活に必要な身の回りの情報 (31.5%)   | 12. 復興に関する国の方針やメッセージ (22.0%) |
| 5. 不明者の捜索や発見に関する情報 (13.7%) | 13. 復興支援の具体的な時期や内容 (36.8%)   |
| 6. 原発関連の情報 (13.5%)         | 14. その他 (7.8%)               |
| 7. 仮設住宅の入居時期 (67.8%)       | ( )                          |
| 8. 広域避難計画の内容 (7.8%)        | 15. 特にない (4.0%)              |

無回答 (0.9%)

V. 調査票（単純集計結果）

問 26 生活上の不安や問題を解消するような情報がどの程度提供されていると思いますか。

（○は1つだけ）

- N=451
- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 充分提供されている (10.4%) | 3. あまり提供されていない (41.7%)  |
| 2. まあ提供されている (29.3%) | 4. まったく提供されていない (17.1%) |

無回答 (1.6%)

問 27 今回の震災に関する報道で、問題があると感じていることはありますか。

（あてはまるもの全てに○）

- N=451
- |  |
|--|
| 1. 報道に取り上げられる場所とそうでない場所がある (46.8%)     |
| 2. 今自分たちに必要なことが報道されていない (29.9%)        |
| 3. 被害状況の報道が多く、避難者の生活に役立つ情報が少ない (24.4%) |
| 4. 報道されても必要な物資等が回ってこない (10.9%)         |
| 5. その他 ( ) (9.8%)                      |
| 6. 特にない (19.3%)                        |

無回答 (4.0%)

問 28 最近、テレビをよく見えていますか。（○は1つだけ）

- N=451
- |                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 見ている (15.1%)    | 3. ほとんど見ていない (見るのができない) (34.1%) |
| 2. たまに見ている (18.4%) | 4. 全く見ていない (見るのができない) (31.7%)   |

無回答 (0.7%)

【問 28 で 1・2 と回答した方におたずねします】

問 29 今回の震災では、NHK・民放各社が、通常放送中にL字型などの字幕画面を使って震災や原発の情報、ライフラインの復旧状況、受診できる病院や買い物などの生活に関する情報などを流し続けています。被災後の生活の中で、これらはどの程度活用されていますか。

（○は1つだけ）

- N=151
- |                               |
|-------------------------------|
| 1. よく利用し大変役立っている (21.2%)      |
| 2. 必要な情報によっては役立つこともある (39.7%) |
| 3. たまたま見かければ活用することもある (11.3%) |
| 4. あまり見ないし役立っていない (20.5%)     |
| 5. 字幕画面による情報提供を知らない (4.0%)    |

無回答 (3.3%)

問 30 震災の直後から、赤十字や民間ボランティアの人たちが様々な救援活動を行っています。

あなた自身にとって、今どのような支援が必要ですか。（あてはまるもの全てに○）

- N=451
- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 物資の運搬や食事などの支援 (28.8%)      |
| 2. 怪我や病気の手当・診察 (18.0%)        |
| 3. 自宅や周辺のがれきなどの片づけ (33.9%)    |
| 4. 炊事・洗濯・清掃など身の回りの手伝い (16.9%) |
| 5. 荷物の搬送 (10.9%)              |
| 6. 引越しの手伝い (8.2%)             |
| 7. 話し相手 (4.7%)                |
| 8. その他 ( ) (9.3%)             |
| 9. 特にない (27.9%)               |

無回答 (3.3%)

問 31 あなたが安心できる生活を取り戻すために、行政に望む主な支援策はどのようなことですか。

（あてはまるもの全てに○）

N=451

- |     |                                      |
|-----|--------------------------------------|
| 1.  | ライフライン（電気・水道・ガス・電話・交通機関など）の復旧（48.8%） |
| 2.  | スムーズな仮設住宅の設置と入居（76.3%）               |
| 3.  | 相談窓口などの整備と情報提供（28.4%）                |
| 4.  | 家屋や車など生活で失った資産の再建への補助や貸付（63.4%）      |
| 5.  | 地域における雇用の創出（24.6%）                   |
| 6.  | 事業再開に必要な資金の補助や貸付（17.7%）              |
| 7.  | 医療・福祉サービスの提供の正常化（29.0%）              |
| 8.  | 災害ボランティア等の適切・効率的な活動の調整役（15.1%）       |
| 9.  | その他（<br>）（10.0%）                     |
| 10. | 特になし（0.7%）                           |

無回答（0.7%）

問 32 あなたは、今後も被災前の地域での生活再建することを望んでいますか。（○は1つだけ）

N=451

- |    |   |
|----|---|
| 1. | 元の場所で津波対策をして再建したい（20.4%）                      |
| 2. | 高所に移転したい（18.0%）                               |
| 3. | 近くに高層住宅を建ててもらいそこに入居したい（4.2%）                  |
| 4. | 高い防波堤・防潮堤を建設してもらい、元の場所に元と同じような住宅を再建したい（12.6%） |
| 5. | 別の安全な地域に移り住みたい（29.7%）                         |
| 6. | その他（<br>）（6.4%）                               |
| 7. | わからない（7.8%）                                   |

無回答（0.9%）

〔属性項目〕

F1 性別

N=451

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. 男（45.5%） | 2. 女（54.5%） |
|-------------|-------------|

F2 年齢

N=451

- |                |                |                 |
|----------------|----------------|-----------------|
| 1. 20歳代（6.7%）  | 2. 30歳代（10.0%） | 3. 40歳代（18.6%）  |
| 4. 50歳代（17.5%） | 5. 60歳代（26.2%） | 6. 70歳以上（21.1%） |

F3 職業

N=451

- |                |                         |              |
|----------------|-------------------------|--------------|
| 1. 漁業従事者（3.5%） | 2. 農業従事者（5.3%）          | 3. 自営業（8.4%） |
| 4. 旅館・民宿（—）    | 5. 勤め人（パートタイム含む）（35.9%） | 6. 主婦（17.5%） |
| 7. 学生（2.7%）    | 8. 無職（24.6%）            | 9. その他（2.0%） |

F4 同居家族の人数（ご自身を含め）

N=451

平均 3.51 人

V. 調査票（単純集計結果）

**自由記述**

設問の中で、折々、エピソードやキーワードが発せられる場合は、調査員が自由記述としてメモを行う。

①避難時の状況

②伝承や学習の内容

③要望や意見など

VI

自由回答

## VI. 自由回答

## 1 避難時の状況

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況  |
|-------|----|-------|---|
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 会社の外から津波が近づくのを見て走って逃げた。中にいたら、今頃どうなっていたかわからない。   |
| 南三陸町  | 女性 | 50歳代  | 地震の直後すぐに避難の放送になった。あと2~3分で津波に巻き込まれるところだった。   |
| 南三陸町  | 男性 | 70歳以上 | 海が見えるところに家があり、危なく巻き込まれるところだった。裏山に無理やり避難し、まぬがれた。その後その山を越えベイサイドアリーナに。防災無線も最初は4~5mと言っていたので津波は来ないと思った。最初から、全員に大津波が来ると教えていたらもっと助かった。   |
| 南三陸町  | 男性 | 70歳以上 | 海辺で作業しており、地震後海がひいたのでわかめを片付け、すぐに高台に上がった。   |
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | (職場が学校)津波が見えたので先生・生徒達と一緒に揺れが収まったあとに避難した。  |
| 南三陸町  | 男性 | 20歳代  | 地震の直後は、水門があるから大丈夫だと思っていた。   |
| 南三陸町  | 男性 | 60歳代  | 不安だったが、大津波警報を聞く前にすぐ避難しなくてはいけないと思った。   |
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 地震発生後、勤務先に戻ってバックなどを手に取り学校に避難した。地震の揺れが凄く、自宅は山手なので津波は来ないと思ったが、土台まで無くなった。避難先の学校では30人ぐらいの教室に水2リットル1本、朝はカンパン2枚で食べ物が届くか不安だった。自衛隊のヘリコプターが来た時にはほっとした。パンが届いたのは3~4日位。入谷地区のほうから山道を通って食べ物(おにぎり等)を運んでくれた人もいた。  |
| 南三陸町  | 男性 | 40歳代  | 職場が津波の心配がないところだったので、建物の外に出た。  |
| 南三陸町  | 女性 | 70歳以上 | 防潮堤が倒れるのを見た。  |
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | 地震の後自宅に戻り、大事なものだけを持って志津川小学校へ自転車に向かって。そのときは道路は車と逃げる人で混んでいた。  |
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | R45号線が混んでいる状態だったが主人が仕事場から自宅に迎えに来てくれて、タイミングよく横断できたので、小学校までこれた。あと5分遅かったらダメだった。  |
| 南三陸町  | 男性 | 50歳代  | 地震後、津波が来るので会社から家に帰った。1~6m位の津波はちよこちよこあったので、間違いなく津波は来ると思った。アパートの上の階に避難した(船が流れてきた)。  |
| 南三陸町  | 女性 | 20歳代  | 津波は自分のところには来ないと思った。   |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | 外で洗濯物を入れていて、大きな揺れだったので、物干しにつかまっていた。家に入って貴重品や懐中電灯を取りに行ったが、電気が切れたので外に出た。その時20m位先の海で潮が引いて船が逆さまになり、防潮堤から波が来て家や車が流されていた。すぐに高い場所に避難したが、もっと安全にとベイサイドアリーナにきた。TVの取材で全国的に放映されたのでよかった。   |
| 南三陸町  | 女性 | 50歳代  | 家で揺れが落ち着くのを待って、ネコを連れて車で指定された場所に行った。役場の方がたまたまいて、この場所は危ないと言われたので、アリーナにきた。波が落ち着いてから車のところまで行ったら、水が来ていて、ネコも半分水につかっていた。   |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | 家で仕事をしていて揺れた。揺れがひどかったので津波は来ると思ったが、自分の家まで来るとは思わなかった。そうしたら津波が見えたので、すぐに神社まで逃げた。津波は大丈夫だったが、ここにはダメだと思い、部落の人達とアリーナにきた。  |
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 職場で揺れがひどく、ミシンの下に入ったが上から物が落ちてきたので外に出た。高台に逃げるように言われたが、家が心配だったので、車で戻った。先日3~4mの津波が来ると言われたが1m位だったので大丈夫だと思っていた。家に戻って線路上がって海を見ていたら津波が来たので、高台にある畑まで、家族と逃げて一晩そこでたき火をして過ごした。その後、歩いて山を越え、アリーナにきた。  |
| 南三陸町  | 女性 | 50歳代  | 仕事場から自宅まで車で戻った。津波が来ると聞いて車でアリーナに向かったが、自分の後には1台の車もいなかった。  |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | 地震発生時は老人会で高野会館にいた。老人会の人たち50人と一緒に建物の4階屋上に避難した。夜の電気のつかない場所で一晩過ごしたが、会館の従業員の誘導に従い皆行動し、2日目に歩いて無事に帰れた。  |
| 女川町   | 女性 | 40歳代  | 石巻市内の会社で地震があり、女川の自宅に向かう途中で津波が来た。途中の湾も静かだったが、車も往來していたので津波は来ると知っていたが軽く考えていた。途中、避難している人に「津波が来たから逃げろ」と言われ、そのまま町立病院の駐車場に逃げ、その後4階まで移動した。  |
| 女川町   | 男性 | 40歳代  | 海のすぐ近くで作業をしていた。揺れている間から津波が来ると騒いでいたので現場の人みんなですぐ避難を開始した。海の色が変わり、潮が引いたのですぐ来ると思った。普段は学校に逃げる訓練をしていたが、津波が来るとわかったとき、車で逃げると巻き込まれるので親会社の判断で現場のウインチ室の屋上(高さ7~8m)に逃げた(親会社は北海道の会社で奥尻島の津波経験があり避難指示が適切だった)。ウインチ室は1波のときは大丈夫だったが、2波のとき船などが流されてきてぶつかりそうで危険だと思った。水位は1波が4m、2波で5m、3波で6mとなり、一昼夜ウインチ内にとどまった。朝5時ぐらいにウインチから降り、石巻市内の石巻商業高校に2日間避難し、3日目に歩いて女川へ帰ってきた。見てすぐにアパートはダメだとわかり、そのまま体育館へ来た。 |
| 女川町   | 女性 | 40歳代  | 鉄筋コンクリートの会社の2階にいた。まわりに高い建物がないしどうしようかと思った。会社には津波は来なかったが、自宅へ戻ろうとしたら道がふさがれていて帰れず、大沢集会所へ行った。  |

VI. 自由回答

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況   |
|-------|----|-------|--|
| 女川町   | 女性 | 40歳代  | 訪問介護の仕事で買い物に同行中地震が発生。地震の発生前にタクシーを呼んでいたのもので、そのタクシーで介護者を送り届けた。その後、ほかの介護者の安否を確認し、一度会社（女川町驚神）に戻った。施設の人の避難誘導をして、その後自分も一緒に避難。桜ヶ丘の高台に一度避難し、雪も降り始めたので2時間後ぐらいに第一保育所へ避難した。会社は津波の被害にあってしまった。  |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | 防災無線も聞こえず、周りの避難者が高台へ逃げたので息子の車で夢中で逃げた。  |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | 地震で家の中のものが倒れ、避難。津波のことは考えなかったが、ほかの人が逃げてきて津波が来ることがわかり、高台に逃げた。第二小学校の裏に避難した（2晩車中）。家の3階に逃げた人もいたがそのまま流された。   |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 地震の直後は、津波は来ると思ったが自宅（自営業）の2階に逃げれば大丈夫と思い、避難せずに店の物を2階に上げていた。最初に女川公民館に避難したが古くて崩れると考えて生涯センターに。3階も4階もダメで役場の人の指示で屋上のタンクまで逃げた。   |
| 女川町   | 男性 | 50歳代  | 自分のタクシーをすぐ高台へ運ばなければいけないと思い、町立病院へ行った。1階はダメで2階へ逃げた。その後町の指示で総合体育館へ。   |
| 女川町   | 男性 | 40歳代  | 買い物を終えて車に乗り込むところで、地震がきた。津波が来ると3時ぐらいにカーラジオで知った。津波は来ないかもしれないと半信半疑の気持ちで車内にいた。15：15に自宅に着いたが、15：20には津波が見えたので逃げた。  |
| 女川町   | 男性 | 60歳代  | 地震発生後すぐに船を沖に出さないといけないと考えて動き出した。船を出しそのまま沖に1晩いた。   |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 地震後何もせず部屋にとどまっていた。津波がくるまで、聞いてから30分しかなく逃げる時間がなかった。避難しようとしたら津波がもう来ていた。自宅のアパート3階で津波に巻き込まれ、首の近くまで水が来た。水が引けなくてハンマーで窓をはたいて水を出した。その後総合体育館へ徒歩で避難した。  |
| 女川町   | 女性 | 50歳代  | 裏山に逃げたとき、工事の人がいて無線があったので助かった。  |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | 知り合いの車に乗せてもらい、自宅へ行きその後走って山へ避難した。ヘリでこの避難所まで送ってもらった。   |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 近所の人全員に声をかけ、1回皆集まったが、家に戻った人がおりその人達は流された。   |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | 津波がとても速くて、一瞬で何もなくなった。知人の車に乗せてもらい、中学校の前まで行ったが、皆が移動を始めたので歩いてこの避難所まで来た。   |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 近所の人呼びかけが凄かったので、走って2～3分の高台へ避難した。まさかここまで大きな津波が来るとは思わなかった。   |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 4日間車の中にいたが、自衛隊のヘリでここまで来た。  |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 普段は海を見に行くがそんな余裕はなかった。最初は裸足で自宅の山の集会所（指定避難所）に走った。その次に高い集会施設に。そこも流され、さらに高い神社に避難した。山より大きい波が来た。近くに山があるのに遠くの集会所（指定避難所）に行く老人が多い。行政が指定した場所に行けばいいと思う人が多い。   |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 1日目は山の上に避難し、車の中にいた。  |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | いったん自動車で出かけたが、戻って物を取りまた出た。   |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 1日目は山の上に避難し、車の中にいた。2日目にこの避難所に来た。   |
| 女川町   | 女性 | 20歳代  | 地震の後旦那の職場に向かい、高台にある会社の人の家に避難した。  |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | 高台の家にいたが、役場の人に避難所に案内された。   |
| 女川町   | 男性 | 30歳代  | 近くの山に避難し、たき火をして過ごした。次の日に別の場所に避難をした。  |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 1回目は高台に避難、1～2日目に女川の別の施設に移動し、3日目にこの避難所に来た。  |
| 女川町   | 男性 | 50歳代  | 運転中に地震が来たので、自宅の母が心配で家に戻った。時間がなく自宅の2階に逃げたが、家が流され屋根に登ってそのまま流された。木造なので壊れてしまうと思ったので、鉄骨の屋根が見えた時に乗り移った。引き潮で引かれたり、2波3波も来たが崩れなかったので落ち着くまで待っていた。黒いカバンが屋根にありその中のジャンパーなどを身に付け寒さをしのいだ。その後、積み重なった瓦礫をつたって降り、避難所に行ったのだが、先についた人から避難所も危ないと知らされ、山に避難。そこに60名ほど集まりたき火をした。ラジオを持ってきた人がいたが女川の情報は一切流れず、残った家の中から菓子や水を持ってきてみんなで回して食べた。2日間も山の中だと高齢者もいたので体力的に厳しい。遠くから来た人に救援をお願いしたら役所に伝わり、救援隊に助けをもらうことができた。 |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 今までの地震に比べて、家の物が落ちてきて叫んでしまった。揺れが収まった後、孫と一緒に外に出て車で逃げた。3階から、津波に流されている車を見た。  |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 海岸沿いにいた猫が山の方に上っていったので、なにかあると思った。スマトラ沖と同じような真っ黒な波が見えた。車の中に居たが、車内まで水が入ってきて車のまま流された。  |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 揺れが収まってから、外に出たら親子がいて一緒に逃げた。その為物は置いてきた。   |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 家の天井まで水がきた。屋根に掴まって、子供を上にした。夜まで水に浸かっていたが、男性が助けてくれた。その人の家は2階が無事だったので、1日そこにいた。その後この避難所に来た。普段から防災グッズを用意していたが、子供がパニックになったりして時間がかかってしまい、置いてある場所まで取りにいかず、持ってくるのが出来なかった。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 勤め先から自宅に戻った。津波に巻き込まれた。水が引いた後に避難した。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 体育館の壁2mくらいまで水が来た。波が引かず、水は朝6～7時くらいまで1mくらいあり、とても不安だった。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 周りも慌てていて、よく覚えていない部分も多い。  |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | たまたま女川の裏にいたから助かっただけ。   |
| 石巻市   | 男性 | 30歳代  | 知らない人に早く逃げろと言われ、逃げた。母親を迎えに行ったら車が流された。体育館も2m位まで水が来てもう駄目だと思ったが、それより水が上がらずホッとした。  |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況   |
|-------|----|-------|--|
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 市の避難警報は頭の中が真っ白で聞こえていなかった。会社に一度戻る時から、渋滞が発生し、その時から既に車を置いて逃げている人がいた。逃げている人は津波が来ると言っていた。門脇5丁目の実家で両親を高台に移動させた後、南浜町の自宅へプレーカーを落としに行くと、津波が見えたので（20～30m近くまで）自宅へは戻らず高台へ避難した。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 会社のバスで自宅に戻った。揺れがすごかったので日和大橋が壊れると自宅へ帰れないと考えた。車で親を探しているうちに、周りの人たちの感じが変わってきて、高台へ行こうと連れて行ってくれた。  |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 揺れが収まったあと、津波ではなく地震の揺れで家の中が危険と思い、外の隣の公園に避難した。その後門脇小学校へ避難するも、波が来て屋上に逃げた。火災と津波発生で後ろの校舎へ移動し、屋上へ行くがまた火災発生。2階の窓から板を渡して外の墓へ逃げた。しかしそこも火災の危険があるため、夜中に石巻中学校へ避難した。朝になり、門脇中学校へ来た。  |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 大津波警報は初めて聞いたので、必ず来ると思いすぐ避難と考えた。  |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 津波は来ないと思っていて、来たとしてもたいたことはないだろうと思っていた。近所の人が避難しようと言ってきて、一緒になんとなく避難した。車での避難も考えたが、道路が全く動かず、大渋滞していたので歩いて避難してよかったと思うが、自宅においてきた車は流された。  |
| 石巻市   | 男性 | 30歳代  | 地震の後に余震が何度もあり、うろたえている時に近所の方がすぐ避難しないといけなと言ってくれて、一緒に避難した。車を運転してくれた人が道を良く知っていて、渋滞しないところを通ってくれた。別の道は渋滞していて波にのみ込まれていた。車で避難して助かったのも運だった。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | スマトラ地震で大津波警報がでたとき、どこが安全か考えて蛇田のイオンが安心と思っていた。イオンの駐車場に3日間車中泊した。食べ物などの配布あり。その後水が引いて1人きりで不安だったので、皆が居そうな避難所へ移動した。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 最初門脇小学校へ行ったが、体育館の物が落ちて入れなかった。市立女子高へ行ったが火事が発生して風向きで火が移る危険があり、門脇中学校へ。  |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | 親は足が悪く、避難所に連れて行きたくても出来ず、津波が来るのは分かっていたが逃げ切れなかった。自宅1Fで波にのまれ、自分だけは何とか2Fに逃げられた。3日間自宅の2Fにいて、その後水が引いてやっと門脇中へ避難した。ずぶ濡れのまま避難所に行った。1Fから逃げられなかった、母・父・娘は亡くなった。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 1回目は山の上において、2回目は市立女子高にいた。下の方で火災と爆発があって危険だったのでこの避難所に来た。家族のとっさの判断で渋滞に巻き込まれず避難できた。遅かった人は車ごとのみ込まれていた。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 津波が車を寄せてしまい、車が爆発して火事になった。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 職場から自宅の様子を見に行き帰途途中で津波が来た。車に水が入ってエンジンもかからず、降りて会社の雨樋に掴まっていたが流されてしまった。いつの間にか看板にしがみついていたら消防隊員に救助された。消防局に1日いたが、2日目にここに来た。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 実家が近くで、親が様子を見にきてくれたので一緒に逃げた。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 娘の帰りを待って一緒に車で逃げた。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 車で避難したが渋滞していたので、迂回したら目の前が瓦礫の山だった。津波が来た後だった。娘が心配で自宅に帰ったが、家がつぶれていたので避難所を探し回ってここに来た。3日間車中泊だった。娘2人は自宅を飛び出し、隣の避難所で知り合いの方の車に乗せてもらい避難できた。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 足が不自由な為、夫とベッドに乗ったまま、大橋まで流された。橋にぶつかり夫は海に落ちたが自分は泳いで岸まで行き通行人に助けられた。   |
| 石巻市   | 女性 | 20歳代  | 初めは車の中で待機してたが、近所の人地震に気づいた。隣のアパートの2Fに上がった。津波が来た後子供がいたので消防署に行った。   |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 隣家に1人住まいの老人がいたので、地震直後2階からその家の庭を見ていたら、その老人がリュックを背負ってうろろしているのを見たので、何処へ行くのかと尋ねたところ、高いところを探していた。それなら近くの中学校と一緒にいこうと手をとって、中学校の3階までたどり着いた。着いた途端に大津波が来た。その老人がガタガタ震えだしたので、大丈夫といい続けた。津波はその後まったく見ていない。津波の真ん中にいながら一部始終を見ていなかった。自分の避難のためではなく、隣人の為と思っていたことが、自分が生き残った結果となった。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 車で外出先よりようやく自宅付近に帰れたが、行けないもどかしさは翌朝まで続いた。車では走行不能で途中車を置き徒歩で30分かかりようやくついた。自宅で家族2名が亡くなっており、翌日近くの指定先の中学校に近所の方2名と家族を連れて膝までの水をくぐりたどり着いた。翌日東松島市より徒歩で帰ってきた主人と再会した。   |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 全く広報の警報が聞こえなく、近所の人「津波だ」と叫ぶまで気づかなく、死ぬか生きるかのギリギリだった。近所の家2階に津波と共に押し上げられて助かった。   |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | 会社は、南港、門脇で被害が酷い所（周りで火事があったが会社は大丈夫だった）。当日から翌朝の5時まで消防の人達と一緒に日和大橋への避難誘導や、市女高のプールから水を引っ張って消火活動をした。その後、自宅まで水に浸かりながら進み、途中から泳ぎ（その間たくさん亡くなった人を見た）、1人助けて一緒に避難所へ行った。新潟のレスキューが次の日に一番早く来た。アルミボートが役に立った（ゴムボートは瓦礫で穴が空く）。息子（20歳）は自宅で20～30分くらい避難準備をしてからの避難だったが、道路も渋滞していて道の選択を間違えていたらダメだった。家を出て車で左に曲がったらもう水が後ろから来ていた（右に曲がったらダメだった）。 |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 一度目の波で首まで浸かり、二度目で頭の上まで。カーテンにしがみついたが外に流された。アンテナにつかまり屋根に上り、その後2Fに移って2日半過ごした。その後新潟のレスキューの人に助けられた。   |

VI. 自由回答

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況   |
|-------|----|-------|--|
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 波が静かに来ていた。自宅まわりの片づけをしていたが、2Fに避難し、翌日の16時に救助された。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 会社（お店）でお客様の安全を優先して避難誘導、そのまま店に残って21時まで営業した。自宅の母は後ろの家の人に車で避難させてもらった。その日の夜に母がお店に来て合流した。2日間2人で駐車場の車の中で過ごし、3日目ここに来た。弟は会社の1Fで水に浸かって一晩過ごし、2日目に合流した。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 仕事の伝票を書いて、次の利用者さん宅に向かった。渋滞し、波も来ていたので途中で方向を変えて安全な方へ行行った。車を停めて利用者宅に歩いて行こうとしたが、途中で通行人に危ないと言われて会社に戻った。会社にいる利用者さんを隣の北高へ避難させようとしていたが、家から電話があり母親が見つからないと言われ自宅に向かった。しかし途中から冠水して通行できず、一晩石巻イオンで過ごした。携帯で両親が避難したことを知ったので翌日ここへ来た。   |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 自宅にいたら玄関から水が入ってきたので2Fに上った。3日間そこにいて、救助隊が来てボートで助けられた。  |
| 石巻市   | 男性 | 30歳代  | 職場に戻った。  |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 会社から自宅に車で戻る途中、津波にのまれた。貞山堀からの水と、海からの水に挟まれて動けなくなった。近くの駐車場で身動きがとれない20人位の人達と水にぬれて一晩過ごした。その後近所の自宅の2Fで2晩過ごし、青葉中にきた。  |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 出先からバイクで自宅に戻る途中、津波に巻き込まれた。バイクを捨て、走って奥松島の小学校に避難した。  |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | ラジオで、あと10分くらいで津波がくると知り、すぐ来ると思った。   |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 避難は考えておらず、家の片づけをしていたが、別居の息子から避難を指示され河南町公園に避難した（津波が来るかは半信半疑で、どちらかというとき余震から身を守る為）。家に戻ったら既に津波にのまれており、青葉中に避難した。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 地震で家を飛び出した時、かすかに防災無線が聞こえた（聞き取りづらい）。  |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | 津波が来るとは思ってなく、家の片づけをしていた。他の家族は車で避難したが自分は大丈夫と思い、家に留まった。その後、津波が見えたので車で逃げたが巻き込まれ、近くの家に逃げ込んだ。その後救助の舟が来て助けられ、青葉中へ。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 地震後、釜小へ孫を迎えに行き、自宅へ戻った。波が来ていたのが見えて大街道方向へ車に向かい、ゲオの2Fのダンススクールで一晩過ごした（管理人さんに入りなさいと誘導され）。その時はひざ下まで水きていたが、翌日は胸の上くらいまで水があった。水がひいてから釜小にいき、そのまま釜会館に向かったが支援物資も食べ物もなく、双葉町の親戚の家にいった。アパートを借りたが、そのアパートも浸水していて、ピニールをしいていても良ければという条件ではあったが、やはりじめじめし体が良くなく青葉中へ移動した。                                     |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 最初は近所のお宅の屋根に避難した。その後2Fに移り、1週間くらいたった後に自衛隊に保護され、青葉中へきた。  |
| 石巻市   | 女性 | 30歳代  | ご主人が川の引きをみて津波が来るからとすぐに避難した。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 車に乗って自宅に戻る時、避難中の人々が車の窓をコンコンと叩いて、津波が来るから逃げるように言ってくれた。大街道の平禄寿司の近くの民家へ車を置いたら、すぐに津波が来た。少し高台の民家のブロック塀に登り、首まで水に浸かりながら移動し、そちらのお宅の2Fに2時間いて、少し水がひいたので歩いて青葉中へ向かった。   |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 従業員に声掛けをし、避難指示をしていたところ、会社の2Fまで水が来た。来てても床の上くらいとっていたし、あんなに早く来るとは思わなかった。牧山に避難したが、救援物資も届かず、山の水を飲んで、火をたいて2晩野宿した。その後レスキューに救助され青葉中へ。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 学校に着いて5～7分後に波が来た。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 地震があったのでとりあえず避難した。その避難先の学校の3Fから津波を見た。  |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 最初の1週間は3人でパンひとつや、バナナひとつだった。毛布等もなく、カーテンで寝た。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 大津波警報を聞き、一応避難所に行ってみようかと思った。  |
| 石巻市   | 女性 | 20歳代  | 仕事の続きと、地震で落ちた物、壊れた物の片づけをし、職場の動物病院で1晩過ごした。  |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 最初の頃はパン1枚を3等分にして食べた。食料が来たのが1週間くらいしてから。お風呂も3週間くらい入れなかった。  |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 車で逃げたけど渋滞がひどく、車をすてて走って逃げた。   |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 石巻大橋から津波が押し寄せてきた。避難後3月いっぱい着替えも出来なかった。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 津波に流され、ご主人と茶の間で3時間水の中にいた。2人で手をつなぎ絶対に離さなかった。水はあたたかく寒いとは感じなかった。その後、水が少し引きはじめたので2階に避難し、10日間自宅にいた。自衛隊が来た時に大丈夫といったが、その後ご主人の具合が悪くなってしまい、移動した。  |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 揺れている時に歩くことができなくなったのは始めて。津波は来ないと思っていたので、また戻るつもりで手ぶらで避難所まで来てしまった。学校には歩いて5分くらいで着き、はじめは2階にいたが、すぐ3階に上がった。近所の人が1人自宅に戻って流されてしまった。自分は荷物を取りに行こうかと思っていたが止められて戻らなかった。南浜町の火事が凄かった。津波は堤防を越えてくるとは思わなかった。あと10年後くらいかと思っていた…。避難後は3日間は何も口にできず、3日目に水を飲んだ。おにぎり食べたのは1週間後、20日間ずっとお風呂に入れず、その時ようやく着替えることができた。 |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況   |
|-------|----|-------|--|
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 家の片づけをした後、逃げた。水が大きく引いたので津波がくると誰かが叫び、水がくるのも見えた。車が流されていたので泳いで追いかけて、一度屋根に上り、6時間後にここに来た。避難後は3日間くらい水もなく、1週間くらいは食べ物ももらえず、子供の服を着てカーテンを巻いて過ごした。  |
| 石巻市   | 女性 | 30歳代  | ベットを連れ、子供を迎えに行き避難した。車で逃げようとする人が多く渋滞し、助かる命も助からなかった状況を招いたと思う。  |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | 地震後会社から帰宅。その後津波が来て、自宅の2階に避難したが、車や車庫・物置が流されて一階の天井まで水が来てダメかと思った。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 会社が海（港）のすぐ目の前にあり、屋上から見ていた。道路はお客様の車で渋滞中。そこに津波が…多くの人達が亡くなった。でも店長が店から泥まみれになりながら、うまい棒、ジュースを持ってきてくれて助かった。でもお客様の中には自分だけ多くよこせ！とかおっしゃる方がいて、とても悲しかった。   |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 近所のお年寄りに避難するよう声掛けをした。  |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | 乗船中だったので、沖へ向かった。   |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 揺れている間はベットに掴まり、その後トイレに行ってからすぐに避難所に向かった（足が悪いので30分くらいかかった）。  |
| 石巻市   | 女性 | 30歳代  | 近所の人達の様子を見に行った。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 地震が強くていつもと違うと思った。高台へすぐ逃げた。   |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | 防災無線（放送）が確認できなかった。   |
| 多賀城市  | 男性 | 70歳以上 | 市町村の広報は聞こえず、近くにいた人がラジオで「津波が来る」と聞いたと教えてくれたので避難した。地震がひどかったので貴重品を持ってきたが津波がくるとは思わなかった。足が悪くなかなか歩けずもうダメだと思ったが、避難所について2階まで男性におぶってもらった。上がってすぐすごい水が来た。津波はすごく恐ろしくて映画で見るような生易しいものではなかった。12日の昼ごろ（1日何も食べずに）ソニーの体育館から自衛隊に救助され多賀城中に移動した。  |
| 多賀城市  | 女性 | 60歳代  | 津波が来るのが分らなかつた。防災無線も何も聞こえないし、停電して津波の情報が分からないのは不安。こんな状態では困るのでどうかしてほしい。   |
| 多賀城市  | 女性 | 60歳代  | 自宅アパートの3階に逃げた。   |
| 多賀城市  | 男性 | 70歳以上 | 台所の片づけをしていたら、津波が来るとラジオで聞いた息子が来てくれ、介護が必要な妻を2階に連れて行ってくれた。そのまま1晩家で過ごした。津波が2階まであと1m位のところまで来た。自衛隊の人がボートで何回か助けに来てくれたが、ストーブもあったし、他にも助けを呼んでいる人がいたので、自分たちは朝にボートで多賀城の自衛隊に避難した。   |
| 多賀城市  | 女性 | 70歳以上 | 逃げる前に津波がきた。妻が助けを呼んできてくれたのでボートで救助された（仙塩病院へ）。  |
| 多賀城市  | 男性 | 60歳代  | 会社で6mの津波が来ると知ったので、車椅子の妻を仙塩病院に避難させた。その後、川の様子を見に行き、近くにいた人にも病院に避難するように声をかけた。病院に避難したが電気が切れ、指定の場所に移動した。病院には食料もなかった。   |
| 多賀城市  | 男性 | 50歳代  | 船岡から5時間かけて戻ってきた。   |
| 多賀城市  | 女性 | 70歳以上 | 自治体からの避難の呼びかけはスピーカーからは聞こえず、近所の人から聞いただけ。  |
| 多賀城市  | 男性 | 60歳代  | 自動車で12・13分で自宅に帰った。信号は停止していた。自宅は仙台港の近くにあり、全て流されていた。建ててまだ8年目の家なのに。自宅に着いた後、20～30分で津波が来た。防災無線の屋外拡声器は壊れていて、警報は聞こえなかった。避難場所は八幡小と分かっていたが、津波が来た時、何処に避難すればいいか全く分からなくなってしまった。自宅に水が入った時点で荷物を2階に全部持っていった。その後、「ゴー」と音が鳴ったので、そのまま2階に避難した。自宅は流れなかったが、土台だけが流れてしまった。自宅周辺の隣3件は偶然流されず、他の家は全て流された。また、遺体も多く流れているのを見てしまった。その後、消防のボートで救出された。 |
| 多賀城市  | 男性 | 40歳代  | 地震発生時、会社にいた。会社の避難マニュアルに従って行動した。その後水が引いたのを確認したので、自宅に戻って母親を連れて、高台なので最初は市役所へ行ったが、危ないと思い、多賀城文化センター（現避難所）へ避難した。   |
| 多賀城市  | 女性 | 40歳代  | 店舗で来客中に地震が発生、従業員を外へ避難させた。その後、子供の安否を確認するために、自宅へ戻ったら、子供がいなかったため慌てたが、地震発生以前から、地震があったらジャスコの駐車場へ集合すると決めていたので、そこへ向かったら家族全員揃っていた。ただ最初に避難したジャスコの駐車場も浸水してしまい、消防の方の誘導で、多賀城文化センターへ移動した。   |
| 多賀城市  | 男性 | 70歳以上 | 最初は他の家の2階に避難させてもらったが、ライフラインが停止したため、今の避難所へ移動した。   |
| 多賀城市  | 男性 | 40歳代  | 地震発生時、病院の外来で診察を受けていた時だったが、その後自宅へ戻り、今の避難所へ移動した。   |
| 多賀城市  | 女性 | 50歳代  | 自宅から避難する際、非常持出袋が自宅にあったが、パニックになって戸を開けて外へ出てしまった。その後、直接多賀城文化センターへ車に乗せてもらい送ってもらった。何日間かして落ち着いてから自宅へ戻った時があったが、今は怖くて自宅へ帰れない。  |
| 多賀城市  | 女性 | 70歳以上 | 普段から通帳・保険証は枕元に置いていたので持参し、その他にリュック2つを持っていった。今回は家族全員がまたま一緒だったが、家族の間では何かあったら、多賀城文化センターへ避難しようとしていた。最初は車で避難しようとしたが渋滞で無理だと思い、車を置いて徒歩で避難して助かった。   |
| 多賀城市  | 男性 | 70歳以上 | 避難するのが遅かったので一度逃げようと思ったら、道路に水が流れてきて避難できなかった。その夜自宅から仙台新港のガスタンクの爆発が見えて、不安で眠れなかった。今でも頭の中に残っている。その後は東小学校に1ヶ月いて、そこから多賀城文化センターへ移った。   |

VI. 自由回答

| 調査自治体  | 性別 | 年齢    | 避難時の状況  |
|--------|----|-------|---|
| 多賀城市   | 男性 | 60歳代  | 自宅の前に生活排水が流れる4mの幅の川があったが、その川を挟んだ知らない人の家の2階から「津波が来たぞ、逃げる」という声が聞こえて、同じアパート内に住んでいる仲の良い住人たちも含めて、その声を聞いてバラバラに逃げた。そして近くのマンションに一時避難して、知らない人のお宅にお世話になった。翌日膝まで水を被り、家の状況を確認しに戻った。自宅の光景をみて、そこでどうしたらよいか分からなくなり、避難所へ移動した。あの時対岸から声を発した人とマンションの住人には本当に感謝している。                    |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | ラジオだったか、ヘリからかわからないが2分後に津波が来ると聞いたのですぐ車に乗った。信号が止まって大きい道路が通れなかったので、農道を逃げたので助かった。以前船に乗っていたので、海の怖さは知っていた。指定避難所は危ないと思っていたので、その場所にはいかなかった。指定避難所には津波が来ていた。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 家の被害が少なかったため、家の中でじっとしていた。町内会長さんが逃げろと言っていたが、大きい津波が来るとは思わなかったためそのまま家にいた。消防の人が津波が来ると言っていたので、車で荒浜小学校に行き、階段を昇り始めた津波が来て急いで屋上に上がった。自衛隊のボートが近くまで来たが近づけず、ヘリコプターで避難所に来た。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 職場で第一貨物のトラックの人から大津波が来ると聞いたので、自宅におじいさんを迎えに行き、そのまま車で荒浜小に行った。すぐに（10分くらい）津波がきて、屋上には300人くらいが避難していた。おじいさんはヘリコプターで、自分は次の日水が引いてから七郷中に行った。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 揺れが収まってから、小1と6ヶ月の子供の頭に毛布をかけて、車で自宅に戻った。主人と合流し、車で七郷中まで逃げた。市道が混んでいたため、農道を通ったおかげで間に合った。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 若林区役所に2日間いた。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 利府の職場から自宅に向かう途中、中野栄のところで津波を見たので車を降りて近くの人達と逃げた。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 40歳代  | 中学校が卒業式だったため、家族全員が無事でいられたと思う。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 地震発生時に柴田町にいて、津波に対する避難はしていない。3日目に家族と合流できた。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 七郷中のそばに3日間車中泊していた。車にいたので、名簿に記載されなかった。以前から、防潮堤が途切れているのを指摘していた。結果、そこから急激に流れ込み被害が増えたと思う。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 側溝が液状化していた。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 30歳代  | 道路が渋滞で車は何の役にも立たなかった。自分の足が一番早いと感じた。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 70歳以上 | 身震いが止まらなくて動揺した。何もできなかった。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 50歳代  | 車で七郷中学校へ避難した。県道は混んでいなかったが、警官は一生懸命、七郷方面へ誘導していた。無線が何か言っていたが何を言っていたかわからない。以前より大きい津波でこんなのが来るとは思わなかった。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 60歳代  | 高砂小に急いで避難（車で）。後ろから壁のような波が迫ってきていた。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 避難場所は「学校」というのが前提なのに、荒浜小には入れず、入れてもらえなかったため、その後七郷小に行った。津波は見えていないが、ラジオを聞いて愕然とした。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 50歳代  | タクシー会社の寮にいて被災。津波が来るとは思わず3階に避難した。轟音とともに大量の波がきて、2階付近まであつという間に浸水した。3階から見ると全部海になっていた。その時セブンイレブンの人が流されて助けを求めているが今でもその姿がフラッシュバックする。他にも数人は助けを求めているが、どうしようもなかった。毎日夢に見るし、自分に後悔している。その後、一晩過ごしてヘリで救助された。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 娘と二人で家において、30分くらい片付けをしている間に外が騒がしくなった。外に出てみたら、後ろから黒い波が次々と家を飲み込んでいるのが見えたので急いで逃げたが、すぐに波をかぶった。電柱に二人でつかまりなんとかあったので、向かいの家に窓ガラスを割って侵入。2階で一晩過ごした。翌日14時ごろ、自衛隊のヘリで救出。今は1階の片づけをして出来れば、別の場所に移転したい。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 60歳代  | 冒険広場にて被災。海を見ていたが管理人に逃げるように言われたので自宅に戻り、自転車町内を回って避難を呼びかけていた。その後自分も避難しなくてはと思い、荒浜小に。その1~2分後に黒い波がせまってきてしまい至急学校4階に逃げた（2階まで水につかった）。家や車、人がたくさん流れてきた。爆発音とともにあの衝撃は一生忘れない。一晩学校で過ごした後に大型ヘリで20~30人ずつ救出。避難している人は300人くらいいた。奥さんは知人の車で逃げていたが波にのまれてしまった。しかし東部道路まで行けたので無事だった→3日後に再会。 |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 東六郷小に避難した。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 孫が迎えにきて隣の人と車で東六郷小に逃げた。黒い津波が壁のようにやってきて、ほんの10秒くらいであつという間に車や人、家、全部が飲み込まれた。2階に逃げろと言われた。1階は全滅し、1階にいた人は流された。学校の入口にも何人も流されてきた。県道が大混雑していたのでその人達ではないか（自分は横道にそれて来た）。東六郷小に2日いて、その後救出された。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 30歳代  | 地震の時長町にいたので、至急戻ったが途中で津波が来て東六郷小に行けなかった。電話もできずどうしていいかわからなかったが、2日後に子供たちと再会できた。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 40歳代  | 地震発生時、閑上りきの市営バスに乗っていた。地震後も運行を続けたが、津波が来ると無線で聞いたのか二木バス停で8~10人くらい降ろされた。2~3人は家に帰ろうとして流された。消防団の人が来て車で東六郷小に行った。着いた時にはもう波の音が聞こえており、恐怖で2階に駆け上がって助かった。市営バスはその後北へ（営業所へ向かったのでは?）。絶対に許せない。消防団の人が来なかったら確実に死んでいた。その後2日間も取り残された。   |

| 調査自治体  | 性別 | 年齢    | 避難時の状況  |
|--------|----|-------|---|
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 避難所に大津波が来た。目の前のもの、車も何もかもが流されていった。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | とにかく子供のことが心配だった。  |
| 名取市    | 男性 | 40歳代  | 自宅にいたが仙台空港にいる家族を迎えに行った。そこで津波を見た。携帯電話の灯りを電気変わりにしていた。滑走路だけ水が引いていった。一緒にいない家族に、メールでもっと遠くに（文化会館の近くくらい）逃げるよう指示した。   |
| 名取市    | 男性 | 60歳代  | 木に掴まった。泳いで屋根に上り助かった。仙台空港のところまで距離2.5kmくらい。パトロールの人に助けられた。翌日近くの病院へ行った。   |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 外を津波が来るといって走っている人がいたので、水や食べ物をもって自転車で学校に行った。   |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 空港に津波が来たと聞いて慌てて避難した。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 黒い砂埃と水が家の中に入ってきた。ご近所の方と老人ホームに逃げる約束をしていたが逃げられなかった。隣の老人ホームの方たちと一緒にヘリコプターで救助された。   |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 出先から学校に行っている家族を迎えに行き、その後自宅へ戻った。翌日の午後3時頃救助された。   |
| 名取市    | 男性 | 30歳代  | 勤務先から閑上の自宅へ戻ったが津波が来ると思い引き返した。その後文化会館に避難した。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 外出先から会社に行き、自宅へ戻った。周りの田んぼに水が浸水してきたのを見て文化会館に避難した。   |
| 名取市    | 男性 | 60歳代  | サイレンが倒れて壊れてしまった。自宅から公民館へ行き、その後中学校、2日目に館腰小へ行ったが別の場所への避難指示があり、文化会館に来た。  |
| 名取市    | 女性 | 30歳代  | 外出先から閑上に向かったが水浸しで田に車が浮かんでいる状態だった。2週間くらい保健センターにいたが別の場所への避難指示があり文化会館に来た。  |
| 名取市    | 女性 | 50歳代  | 公民館の体育館がいっぱいで避難できなかった。車で文化会館まで行った。  |
| 名取市    | 男性 | 70歳以上 | 自宅の2階に避難。   |
| 名取市    | 女性 | 40歳代  | すぐ迎えに来るからと両親を自宅に残し、息子を学校まで迎えに行った。その後、自宅に戻ろうとしたが、危ないからやめると消防団の方に止められた。未だに両親は行方不明。なぜ別行動をしてしまったのか。一緒に連れて行けばよかったと後悔。どうすればいいのか分からない。自分だけ助かった。あんなに良くしてくれた両親だったのに。   |
| 名取市    | 女性 | 70歳以上 | 飯坂温泉からすぐにバスで帰宅した。   |
| 名取市    | 女性 | 70歳以上 | 消防と隣の人から危ないと言われ、外に出てみたら黒い山のような物が迫ってきているのが見えたので、すぐ車で移動した。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 職場で震災があり、すぐに自宅に戻った。家族と一緒に車で移動。孫が保育所の先生と一緒に移動したとのことで、中学校にいった。孫を連れ、小学校に移動中、海側を見たら黒い津波が見えた。一晩小学校に泊まり、翌日文化会館へ移動した。仙台市新港近くに勤務している息子とは翌日まで安否が確認できなかった。  |
| 名取市    | 男性 | 60歳代  | 閑上1丁目で肉屋を経営。15:45頃から急に水があふれてきて、30分くらいで水に浸かった。1m50～60cmくらいで、かろうじて顔が出るくらいの水が入ってきた。お店の柱に一生懸命掴まっていた。消防のヘリがその日のうちに来てくれて救出され、文化会館にきた。   |
| 名取市    | 男性 | 30歳代  | タクシーの運転手で仕事だった。15:30頃名取駅からお客さんを乗せた。閑上へ向かっていたが、白い波が煙を上げて向かってくるのが見えたので、横道を抜けひたすら内陸へ移動した。その日は午前1時まで仕事をして、無線で会社に連絡するも閑上にあるため繋がらず、会社へ行くこうにも津波で近づけなかった。その後3日間市役所の中で待機。3日後に会社に戻るも何もなし。会社の人は無事で今は休業中。車6台が流された。自宅も流された。    |
| 名取市    | 男性 | 40歳代  | 勤務先において、会社の指示で屋根上へと避難した。  |
| 名取市    | 男性 | 40歳代  | 閑上大橋のところが地震直後に通行止めになり、仙台方面に戻れなかった。その為閑上街道が大渋滞になり、横道にそれていったので助かった。トレーラーが横転していて、流されるをみた。  |
| 名取市    | 女性 | 70歳以上 | 地震が終わって近所の人から避難しろと言われて慌てて車で避難した。夫と2人で避難して、自分だけ閑上中に避難したが夫は車を停めて近所の人と話しているうちに津波が来て目の前でのみこまれてしまった。   |
| 名取市    | 女性 | 70歳以上 | 最初公民館に避難したが、近所の人を車に乗せてもらい、閑上中学校に避難した。その近所の方は家族の帰りを待っていた為に死亡。40～50分後、南東方向から雷のような音をたてて津波が壁になって襲ってきた。途中で人が乗っている車数台と家が流されているのを見ていた。手を振って救助を待っているようだったがどうなったのだろうか。閑上中の前に止まっていた車が根こそぎ波にのみ込まれていた。中に人が乗っている車が何台かあった。      |
| 名取市    | 女性 | 40歳代  | 公民館に避難したが、そこで津波被害にあった。2階にいたが、膝上ぐらいまで水が来た。20人ぐらいの人がそこで一晩すごした。1階にいた人がひたすら流され、周りの家がぶつかる音を聞いた。翌日自衛隊に救助された。  |
| 名取市    | 女性 | 40歳代  | 自宅がアパート3Fなので津波が来ると思わず、ずっとその場にいた。15:40頃雷のような音を立てて津波が黒い壁になって流れてきた。アパートより高いのではないと思うくらい波。車や周りの家を流すのが見えていた。母と、2階に住んでいる人と一晩過ごして、とてもヘドロの臭いが気になった。水が引いたのは翌日。海の中にいるみたいで潮風が冷たかった。翌日歩いて閑上中に避難。しかし水が引いてないため入れず、自衛隊の車で一緒に避難した。 |
| 名取市    | 男性 | 50歳代  | 家族3人で急いで中学校に避難した。西側の方が津波で火災になっていた。家族は当日中に連絡が取れたので良かった。  |
| 名取市    | 男性 | 30歳代  | 仙台市にいた。地震で津波が来るのはワンセグで見ていたので、急いで戻ろうとしたが警察に止められ、動けなくなった。地震後メールで無事だったのは分かっていたが、心配でどうしようも無かった。   |

VI. 自由回答

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況  |
|-------|----|-------|---|
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | 公民館に15：20頃行ったが、人がいっぱいいて中学校に逃げた。閉上中学校に入ってから8～9mの波。学校の2Fまで水が来た。200人くらいの人と一緒に一夜過ごした。一中に来たのは2日後。  |
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | 地震の後、会社から自宅に帰る時に津波にあったが、運よく逃げられた。   |
| 名取市   | 男性 | 30歳代  | こんなになってしまうのかと思った。   |
| 名取市   | 女性 | 60歳代  | 全て見てしまって助けられなかった。   |
| 名取市   | 女性 | 30歳代  | 公民館にいたが、自衛隊の人に言われここに避難した。   |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 最初に避難した荒浜小の3階で津波を見た。避難2日目2km歩いて、その後バスで3km移動して、別の場所に避難した。  |
| 亶理町   | 女性 | 40歳代  | 会社の上の人の指示に従って避難した。会社の人と一緒に（車は別々）角田市に向かったが様子が分からない。警察から亶理小に避難する事を聞いたので、そちらに向かった。知り合いがいなくて不安になった。   |
| 亶理町   | 女性 | 20歳代  | おばあさんが海の近くで作業していて、水が湧いてきたので、車が出せなくなり、歩いて自宅に戻り、本人と一緒に避難した。最初避難した場所から次の日逢隈小へ避難して、4月10日に亶理小へ避難した。  |
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 地震が異常に長かった。外に出て松林を見た。下がっていた地面が上がってきて松林がダンスをしているようだった。庭が液状化し、道路が水浸し、そのうち甥の嫁さんが迎えにきた。犬も一緒に自宅からお姉さんと自動車で見送りに行った。割山に逃げて津波を見た。   |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 地震発生後、重要書類や金庫などを2階へ上げた。   |
| 亶理町   | 男性 | 30歳代  | 最初2日間は荒浜小へ避難して、その後徒歩で逢隈小、亶理小へと避難場所を移った。荒浜小で2日間ラジオを持っている人がいたので、避難所の移動ができた。避難している人を小学校の2階に誘導している内に自分は水に濡れてしまった。   |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | ご主人は自宅と学校を2往復して歩いている親子を乗せたりした。その後まもなく津波が来た。   |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 地震直後、お店（アクセサリ一店）で写真を撮るなど気持ちの上では余裕があった。今思えば無茶だった。自宅も店も流出した。  |
| 亶理町   | 男性 | 50歳代  | 職場で全員揃ってから帰宅した。岩手県からの帰宅だったので大変心配しながら、6時間車を走らせて、姉のいる岩沼市に戻った。岩沼市から亶理高校、亶理小へと避難所を移動した。その際、居住地区ごとの移動の指示があった。  |
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 自宅の社内で海苔製造乾燥中に地震にあった。社内でも働いていた人を確認しスイッチを切って、家族と近くの人を車に乗せて急いで逃げた。  |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 荒浜中からの避難は自衛隊のヘリコプター（初体験で隊員さんの対応が優しく、機敏なことに驚き、有難かった）に乗った。その後、岩沼ビッグアリーナ、亶理高、亶理小へと移った。亶理高の方が物資が豊富。   |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 地震で瓦が壊れたり、家具が倒れたりした程度だったが7～8mの津波で何もかもなくなった。避難場所は最初1日荒浜小へ行き、その後、逢隈小、亶理小へ移った。   |
| 亶理町   | 男性 | 50歳代  | 校庭まで20～30m流された（胸までの水の高さだったが、津波の力は人や車を流す）。避難場所は最初荒浜小へ行った。荒浜小体育館にいる時、男性2人が校庭まで流された。その後逢隈小、亶理小へ移った。避難してからは、おじいさん、おばあさんの状態が家に居る時より悪くなったので、毎日病院通い。   |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 仙台市から自宅のある荒浜まで6～7時間歩いて移動した。最初は車の中で数日間過ごしていた。  |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 避難場所は最初亶理中だったが、亶理小へ移った。   |
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 避難場所は最初荒浜小であったが、その後、逢隈小、亶理高校となり、4月10日に亶理小学校へ移った。  |
| 亶理町   | 男性 | 60歳代  | 地震発生時、自宅にいて、収まった後、部屋の片づけをしていた。その最中に津波がきて、2階へ避難した。水が引いてから30分後に荒浜小へ避難を開始した。その後逢隈小へ移動した後、今の避難所で生活している。   |
| 亶理町   | 男性 | 60歳代  | 地震発生後、鳥の海から自宅へ戻った。自宅の両親を逃げさせ、近所の人を逃げさせて、自分が避難しようとした時に津波に飲み込まれた。無我夢中で流れ、家の2階のベランダにつかまった。他に流されてきた人も腕を伸ばして助けた。その後自分は助かり荒浜小へ避難。今度は逢隈小へ移り、4月9日に今避難している亶理小へ移った。   |
| 亶理町   | 男性 | 50歳代  | 最初は逢隈小へ避難したが、ここは危ないと言われた、亶理中に避難した。  |
| 亶理町   | 男性 | 30歳代  | 岩沼の仕事場から30分後ぐらいに自宅に向かい、家があるのを確認してから避難した。5～10分後に津波が来て家は土台だけになってしまった。自宅に向かう途中、道路が陥没し、水道管が破裂していたのでゆっくり走った。   |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 津波は来ると思ったが大したことはないと思っていた。最初自宅にいたが、消防車が避難を呼びかけていたので荒浜小に避難した。中にいた人が、津波が来るので「3階に上がれ」と言ったので上に逃げた。その5分後ぐらいに津波が来た。家屋は全壊。翌日役所の指示で逢隈小に移動した。   |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 生協で買い物中に被災した。自宅に戻ったが被害がないのですぐ戻るつもりで何もせず鍵をかけてまた、生協にろうとしたが遠いので荒浜中に。車を止めて横を見たら、真っ黒い壁がすごい音をたてて迫ってきた。中学校の3階から「早く走れ！上がれ！」と言われたが腰が抜けてしまい引き上げてもらった。3階から止めた車が流されるのを見たし、自宅が流されるのも見えてショックだった。荒浜に来て1年4ヶ月。すべてが無くなった。こなければよかった。 |
| 亶理町   | 女性 | 70歳以上 | 皆で2Fにいて4日目にやっと救助された。もうこのまま死ぬと思っていた。   |
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 皆バラバラで避難していたが、行く場所は一緒。  |
| 亶理町   | 女性 | 70歳以上 | 1回目の地震では家の中は何ともなかったがただごとじゃないと思った。2度目の揺れで津波が来る！と思い、家の権利所、土地の権利所、実印etc全てまとめたバックを持って出た。  |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況  |
|-------|----|-------|---|
| 亶理町   | 男性 | 30歳代  | 母親は職場にいた。いつも海の方の道を使っていたが、なぜか6号を使って助かった。同じ職場の人は海沿いの道を使って巻き込まれて亡くなった。父親は消防団で避難誘導の為外へ。息子に「避難しろ!」と伝えた。自分は全く避難するつもりはなかった。無線で「6mの津波」と流れていたが堤防はそれ以上だから大丈夫だろうと思った。最終勧告で「津波だ逃げる!」と聞こえた。やっと外に出て阿武隈川の川沿いの土手を歩いて川を見ると、川の水が引いていたので、やっと津波がくると感じた。すぐに横を見ると大きな真っ黒な水が迫ってきたので、猛ダッシュし、巻き込まれそうなところでやっと小学校の3Fへ避難できた。   |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 地震発生時は自宅におり、停電して倒れたものは冷蔵庫だけだった。その後ラジオを聞いて、布団・毛布・懐中電灯を自分の車の中に入れた。自宅には車が2台あって、1台は私も含めた夫婦と娘、もう1台は私の両親が乗る予定で待っていたが、父親が家から出てこなかった。車の中で待っていたが津波の音が聞こえたので、家にいる父を呼ぼうとした時に津波に襲われた。私は咄嗟に母を捕まえたが、30~40m流されて、ハウスのパイプに引っかかって助かった。父は木にしがみ付いて助かった。奥さんと娘は車のドアから出てきて、材木の上にあがり屋根に上って流されたが、助かった。全員で一緒に逃げることは本当に難しい。  |
| 亶理町   | 男性 | 50歳代  | 自宅から外に出て車で前進しようと思ったら正面から2m~3mの津波が見えた。Uターンしたが間に合わず車に乗ったまま流された。車は浮かんだまま流され、川を渡ったところの道路に上手く乗っかって助かった。その後長瀬小の体育館に案内された。   |
| 亶理町   | 女性 | 70歳以上 | 鳥の海から自宅へ戻るため、いつもは15:12のバスに乗るつもりが、たまたま14:23のバスに乗った。14:30頃生協の前で降りて、その後生協の中でご飯を食べていたら、地震にあった。揺れが収まったあと、「津波が30分後に来る」という噂が流れて、店にいた人たちが全員いなくなって1人取り残された。そこで偶然友人が生協の前を車で通りつけてくれたので、自宅まで連れてってくれた。自宅には主人・娘がいて、その後消防の人から避難するよう声をかけられた。避難しようとした際、偶然区長がいたので区長の車で長瀬小の体育館に避難した。その後長瀬小から線路を2km歩き、一本松の部落まで辿り着き、そこから避難所までバスが走っていたので、それに乗ってこまできた。                                 |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 自宅に戻ったら息子が来たので一緒に吉田浜の農業改善センターへ逃げた。着いて30分ぐらいした後、水が来て、流れてきた木で戸が壊れてしまった。そこから水が入ってきたので、2階へと避難した。2階から水しぶきをあげて真っ白の海を見た。次の日消防の船に乗せてもらい、娘の自宅に1週間滞在した。私は車椅子生活だったので住みにくく不便だったので、逢隈中に避難場所を移した。その後学校が始まるというので、4月10日から今の避難所で生活している。子供がいる人は吉田小に避難している。  |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 家の中で母のバック詰めをしていたら地震にあった。収まったあと自宅にいるお婆さんが気になり戻ったが見つけれず、やっと畑に父とお婆さんがいたのを見つけた。その後訓練通り、皆で農業改善センターへ向かった。改善センターの2階から、松林の上にピカピカ光っているのが見えて、その上の梯子に登れという指示があったが、登れる梯子ではなかったので諦めた。避難して3日目に逢隈中へ避難したが、その間はボートで救援物資が送られるのみの生活を過ごした。旦那は1日漂流していたが、改善センターで再会した。旦那の話だと津波の際にトタン屋根につかまって、その後県道に屋根が引っかかり、歩いて民家に辿り着いた。その後改善センターへ行った。   |
| 亶理町   | 女性 | 70歳以上 | 自宅から公民館、その後亶理小へ避難した。  |
| 亶理町   | 女性 | 70歳以上 | 地震発生時、夫と二人で自宅にいたが、実際に津波が見えたので家の2階に上った。1階に物が入ったカバンはあったが波が見えたので、そのカバンを取る時間はなかった。2階に避難して次の日に吉田小学校に避難して、その後亶理高校へ移った。  |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 自宅の茶の間でテレビを見て洗濯物を干していたら地震にあつて、外に飛び出した。揺れている最中、庭の塀が倒れたり、古い蔵がものすごい勢いで崩れた。その後消防のサイレンが鳴ったので、すぐに農業改善センターへ逃げた。改善センターで30分話していた後、水が入ってきたので2階へ移り1泊した。改善センターから線路の間をボートでピストン輸送で救出していたので、それに乗せてもらい踏切を渡って、浜吉田郵便局へ着いた。そこから東部道路までトラックに乗せてもらい、そこに娘の迎えがあったので、吉田小へ避難した。吉田小で生活後、娘が住んでいる山形に行った(娘の旦那さんの会社が外資系で家族を原発80km以上に離すよう指示があったため)。ただ私は地元が気になったため、また吉田小に戻った。その後、亶理高校へ移って避難している。 |
| 亶理町   | 男性 | 60歳代  | 公民館の駐車場で奥さんの所得税の申告終わりを待っていた時、地震にあった。揺れが収まったあと、車から出て公民館の中に入り、奥さんと合流した後、30分かけて自宅に帰った。自宅には20分滞在し、車で10分かけて役場の吉田支所(農業改善センター)に行った(部落の総会で避難場所が決まっていた)。改善センター内のマイクで「津波が来た」と呼びかけがあった。改善センターで1泊後、義姉の場所(携帯の充電器が欲しくて)へ1泊し、亶理高校へ1泊、逢隈小へ2週間避難生活を送り、環境整備が整っていないからと、今の避難所へ移った。  |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 名取エアリで娘と映画を見ている時に地震があった。従業員の人たちに誘導されて外へ出て、夫が勤務している岩沼へ車で迎えに行き、そこから県道亶理線を通って、自宅のある浜吉田へ向かっていた。その最中ラジオから、津波の情報を聞いて国道6号線へ移った。もし6号線に出ていなかったら、亶理大橋の渋滞につかまって流されていたかも、と別の人から言われた。自宅に戻ってから10分後に津波が来ると消防の人に言われて、歩いて2分の農業改善センターへ避難した。改善センターにあった50台ほどの車は全て流された。最初は毛布1枚しか支給されず、2階は人がぎゅうぎゅうだった。主人は知らない人の民家へ行って毛布を調達した。改善センターで2泊した後、逢隈中へ移り、そして今の避難所にいる。                         |

VI. 自由回答

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況   |
|-------|----|-------|--|
| 亘理町   | 男性 | 60歳代  | 津波が来るとは思わなかった。2mほど木に登って避難した。   |
| 亘理町   | 女性 | 40歳代  | 津波で庭先に魚やシャコ・カニがいる。   |
| 亘理町   | 女性 | 40歳代  | 利用者を車に乗せて、近場にあったものを何でも乗せて家に送った。15：20分ごろにワゴンで移動していた人が海へ流れていた。   |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 津波が家の両側に来て見る間に飲み込まれたのですぐ2階に行って助かった。  |
| 山元町   | 女性 | 40歳代  | 人が集まっているところで、新しくよさそうな場所を選んで避難した。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 大津波の広報が町からあった。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 山にいたが地震が来たので座って様子を見ていた。津波が見えたので逃げようと思ったが、水で車が木に挟まれて乗ることができなくなり、歩いた。泥に足を取られて転んだが目の前をボラが流れて来たので捕まえた。足を流木でぶつけてまだ痛みがある（頭にもケガをしている様子）。  |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 買い物先から家まで戻ったが家が津波に襲われそうだったので、庭木によじ登り助かった。夕方家に入ったが、余震が恐ろしく、水が太ももあたりまであったが移動した。近くの民家の2階で光が見えたので上げてもらおうと園児と先生方がいた。民家の主は亡くなったので非常時のため2階に上がったそうだ。遠くで園児が流されるのが見えたが何もできなかった。                            |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 息子さんが地震の後他へ様子を見に行った。最初は避難する気はなかったが、息子さんが言うので避難することにした。   |
| 山元町   | 男性 | 50歳代  | 貨物列車が走るような音で津波に気づいた。   |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 周りが逃げていたので、車で妻と娘と避難したが、6号線に抜ける道が渋滞していたので横道で一目散に逃げた。渋滞の車は流されているのが見えた。途中で津波が見えたので、走って6号線まで逃げた。小学生と中学生の孫はバラバラに避難していた。家族の安否は夜にわかった。  |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 自宅まで津波が来るとは思わなかった。白い波が壁のようだった（7～8m）。夫婦二人で一目散に逃げて助かった。役場の放送などは建物が一部地震で壊れていたはこの辺り（花釜）では聞けなかった。車のテレビで空港が水につかっているのを見て本気でやばいと思った。   |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 今まで一度もなかったのに、まさか津波が来るとは思わなかった。松の木の上に津波が見えた。10m以上絶対にあつたと思う。自分の田んぼにも車が10台流されてきた。とても不安だったが2階なら大丈夫だと思い急いで自宅2階に避難し、一晩そこで過ごした。翌日、自衛隊にボートで救出された。  |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 次の余震のために避難してきた。山下二小が避難所だったが、自分の家より海側なので無理だと思った。6号へ向かって逃げたが、渋滞してどうしていいかわからなかった。小さいラジオをとっさに持って逃げた、それが情報源。  |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 子供のために、家に戻ったところで波が来て、車を乗り捨て見知らぬ人の家の2階に逃げた。15：30ごろに海を見たら白い壁が迫っていた。役場の防災無線が折れていたの聞こえなかった。消防か何かで呼びかけていたのは聞いた。水は夕方6時ぐらいには腰のあたりまであったが、翌朝にはくるぶしぐらいまでに引いていた。翌日までそこにいて自衛隊に救助された。                         |
| 山元町   | 男性 | 50歳代  | 15：40分ごろ白い波が見えた。5mぐらい。津波が来るので避難したが、山下二小はいっぱいで無理だったので6号側へ逃げた。山下駅より先に津波がくるなんて思わなかった。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 津波が来るとは思わなかった。地震の2～3分後に停電になった（テレビで津波が10m来るというのを聞いた直後に消えた）。広報車の音は20～30分後に消えた。庭に波が流れてきてあわてて自宅の2階に避難した。翌日には水は引いていた。地震自体は前の宮城県沖地震より弱かったと思う。津波さえなければ・・・自宅から避難する気はなかったが、3日後に近所の人に通報されて、役場にいやいや連れて行かれた。 |
| 山元町   | 男性 | 40歳代  | 会社から津波が見えたので屋上に避難した。直後にみんな帰宅したが、1週間後に会社したら1/3（7～8人）が行方不明になっていた。会社再建のめどが立たない。   |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 公民館1階ロビーに避難。段ボールがなかった。   |
| 山元町   | 女性 | 60歳代  | 歩いて10分ぐらいのところにある高瀬集落センターに逃げた。白い波が壁のように迫ってくるのがわかり、怖かった。1階は2m位津波が来て、車が川のように火花を出しながら流れていくのが見えた。センターは指定の避難所ではなかったので10日後に山下中へきた。小規模だったのであまり物資が来なかった。電気・水道がなく地震の当日はとても寒かった。                            |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 地震の時は庭木につかまっていたが、津波が来ると思っていた。その後町内放送で津波が来ることを知ったので車で逃げた。近所の人たちは周りの様子をうかがっていたので声をかけて逃げた。貨物が線路の近くに来て踏切が落ちたが、上げて逃げた。  |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 放送が異常だった。すごいしゃべり方でびっくりした。車で避難しその中で聞いたが、放送がなかったら逃げなかったと思う。松林の上に波が来て竜巻の雲みたいなのが見えた。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 海から2.5km離れている。6mの波が来るという町の放送は聞こえた。自宅の2階に至急避難したら3mぐらいの波が来た。津波のあとは液状化現象が起こり、地下水がでてきた。山下中には翌日避難した。  |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 以前津波を経験して怖い思いをした。今回はそれが活かされたと思う。ただ、職場でみんなと一緒にいたから避難できたのだと思う。一人だったらどうなっていたか・・・まだ怖くて自宅には行けない。  |
| 山元町   | 女性 | 60歳代  | こんなに大きな津波が来るとは予想していなかったの、地震で家屋の倒壊を恐れて避難を考えた。主人も定年し自宅にいたので情報が入りにくく、今回近くの職場に勤めている娘が小3の子供を迎えに行き学校からの情報をもらったので避難できた。避難勧告があったのも聞こえないほどにパニックになってしまった。  |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 避難時の状況  |
|-------|----|-------|---|
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 地震の後、外に出て周りを確認していたら、南面にキラキラしたものが見えた。そのあと大きな黒い壁が見えバリバリというような音がした。役場の無線はだめになっていた。近所の人に避難するから車に乗ってと言われたが、家の中に主人がいたので自宅に戻った。その瞬間、窓ガラスが割れ濁流が押し寄せてきた。渦を巻いた波が来たので急いで2階に上がった。自宅は1.5mくらい浸水した。地獄絵図のようだった。2日間自宅の2階でりんごやお餅餅を食べてしのぎ、3日目に瓦礫の中を這って、やっとの思いで役所へたどりついた。   |
| 山元町   | 女性 | 50歳代  | 自宅に両親と息子がいたので、連絡が取れず、不安だった。職場の人から、自宅に戻るのには危険と言われ、亙理の西のほうにある実家（亙理町吉田）に避難した。家族が心配だったが、たぶんこの避難所に来てくれるだろうと思い、仙台の弟に頼んで安否確認できた。   |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 仙台に職場があり、山下駅に車を止めて通勤。車は流されてしまった。家がとても心配だったが、もう戻れないと思い娘の家（仙台）へ避難した。自宅に戻っていたら巻きこまれていたと思う。   |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 子供を迎えに行く途中に津波に巻きこまれそうになった。道路は渋滞しているし、人の叫び声や「ゴーツ」「バキバキッ」という音が怖かった。泣き叫ぶ声が聞こえて黒いものが見えた。沿岸部にも津波の恐ろしさはわからなかった。   |
| 山元町   | 男性 | 30歳代  | 自宅の2階に何もせずいた。   |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 地震後5～10分くらい車に乗って様子を見ていたが、テレビで小名浜の様子を見て、子供のおむつを急いで用意し、すぐに上の子供を迎えに行った。津波が来る実感はなかったがどうしていいかわからず、ここにはダメかもしれないと思い、とにかく子供を守ろうと思った。ふじ幼稚園に通っていたのだが、幼稚園のほかの子は流されていた。迎えに行っていないかったら……。消防車の「カンカン」という音が聞こえた。普段の地震の避難所はもっと海側の避難所だが、お迎え後すぐにこの避難所に来た。   |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 地震後にすぐ息子が迎えに来てくれたので逃げた。そのあと、嫁の働いている幼稚園に迎えに行ったが、子供たちがいるので一緒に避難できないと言われた。そのあと嫁は津波に巻き込まれたが、翌日救助された。避難所は人が多くて中に入れず、3～4日は車の中で生活していた。   |
| 山元町   | 女性 | 60歳代  | 地震後、近所のお年寄りの安否を確認しに回った。片付けをしようとしていたお年寄りを止めて、役場に避難誘導した。声をかけ終わって自分が避難しようとして車に乗った時に津波に巻き込まれ、車が横倒しになった。そのまま流され、気がついたときには17：10分ごろになっていた。2～3時間くらい流されていた。しばらく車の中で様子を見ていたが、怖くなったので波も引いてきたし、自力で避難した。角材が流れて来たので、その棒で水の深さを測り、道路を探しながら、水の中を歩いているうちは必死で歩いたが、水がひいた場所までくるとヘドロで足がとられて何度も転んだ。途中で自転車の人に声をかけられ、役場に連れて行ってもらった。役場ならすぐに本部が立ち上がるだろうと思ってここに来た。役場について一晩バスの中で過ごした。家族とは次の日に再会。当日は毛布も1人1枚でとても寒く、夜も眠れない日が続いた。  |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 地震のあと避難所には避難せず、自宅にいた。川沿いの家なので息子が外に様子を見に行ったら津波が来ていた。逃げる時間もなく、自宅の2階に避難した。1階に寝ていたところだったので息子に声をかけてもらって助かった。1晩自宅にいて、翌日昼ごろ自衛隊に救助された。前回の津波の時は蒲生にいたが、その時は津波が浜までしか来なかったもので、今回もそうかと思った。自宅に後日戻ったら、残っていた2階部分にあったものがすべて盗まれていた。もう何も残っていなかった。近所の家もほとんど同じ。  |
| 山元町   | 女性 | 40歳代  | 職場から直接避難してきた。役場なら本部が立つだろうと思ってここに来た。息子がたまたまその日卒業式で、家に早く帰ってきており、流されてしまった。普段ならまだ学校にいた時間。学校にいれば助かったのに……。浜のほうは普段から防災無線が聞き取りにくい。消防団の人たちが一生懸命回ってくれたから、助かった人も多いと思う。もっと大きなサイレンとかアンテナを増やしてきちんと聞こえるようにしてほしい。農家の人たちも普段ラジオを聴きながら仕事をしているので、津波から逃げられた人も多い。農家の人が近所の小学校に緊急性を知らせに行ったという話も聞いた。浜通りに人がたくさん住んでいるが、昼間は仕事で留守の人が多く、残されるのは女・子供・老人ばかり。避難訓練はしていたが、そんな状況で津波や地震が来た時にどれだけ避難させることができるか普段から疑問だった。地震の際の避難所に指定されているところは海の近く（第2小）に指定されているし、役場までは浜から遠いのでお年寄りは自力でここまで避難してくるのが困難。どうするつもりなのか疑問に思っていた。 |
| 山元町   | 男性 | 40歳代  | 確定申告でちょうど役場に来ていた。子どもを迎えに小学校に向かい、そのあと自宅にいったん戻ったが、津波がくると近所の人に言われ、また役場に戻ってきた。防災無線は壊れて何も聞こえなかった。役場から自分の住む部落に水がどーっとくるのが見えた。近所の神社も粉々になったとあとから自衛隊の人に聞いた。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 地震のあと、区の人たちを避難誘導していた。92歳のお年寄りのお宅に向かっていた時に6mぐらいの津波に巻き込まれ、車ごと30mぐらい流された。ブロック塀で止められ、瓦礫が車の下に入り車体が持ち上がった。1時間ぐらい車の中にいたが、足首ぐらいまで水が引いたので、避難誘導に向かっていたお年寄りの家に逃げ込んだ。そのまま一晩一緒に過ごした。12日にはいくら助けを呼んでも気づいてもらえず、13日の夕方にやっと自衛隊に助けられてここに来た。避難誘導していて自分の避難が一番最後になってしまった。津波が来た時は松に波が当たってしびきが白くなってきらきらしていた。  |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 地震が来てから、仙台で勤務する妻から津波が来るとメールが来た。防災無線からもせっぱつまった感じの放送が流れており、あの放送で逃げないのではよほど意識が低い人なのではと思った。重い潮のにおいもしたのですぐに避難した。   |
| 山元町   | 女性 | 40歳代  | 地震発生後、無線が凄くなっていた。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 岩沼の実家から帰ってくるときに津波を見た。自宅にいったん戻っていたら助からなかった。携帯を持っていなかったので家族と連絡がなかなかとれなかった。  |

## 2

## 伝承や学習の内容

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 伝承や学習の内容   |
|-------|----|-------|--|
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | 昔の津波の経験が逆に作用することもある。それによって油断してしまい、逃げ遅れた人も多数いる。   |
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 海辺に近いところで育ったので津波のことはよく聞いていた。   |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | いつもと違う揺れ方だったので、津波は必ず来ると思ったが、これだけ高い津波が来るとは思わなかった。S53年の震度7のとき（宮城県沖地震）は津波が来なかったし、2日前の地震では50cmくらいだった。  |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | 昔のチリ地震の経験は役に立たなかった。  |
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | 生まれた所が歌津だったので、おじいちゃんから「地震があったら津波」というのは聞いていたので高い所に避難すると家族で話し合っていた。  |
| 南三陸町  | 男性 | 50歳代  | 自宅が海のそばなので、まず海を見に行っただ。S35年のチリ地震津波の経験があるから、すぐ津波と直感した。   |
| 南三陸町  | 男性 | 20歳代  | S35年のチリ地震の話を知っていたので地震が来たら津波が来るものと思っていた。チリ地震が来た日には毎年防災訓練に参加していた。  |
| 南三陸町  | 女性 | 50歳代  | 1960年のチリ地震を体験したのが、5歳の時で家が高台にあり、市場のところに水がなくなったことだけしか覚えていない。父親からは地震が来たら津波が来るからすぐに逃げるようには言われていた。  |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | ご主人がS35年のチリ地震津波を経験しているので話は聞いていた。   |
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 会社の人から地震が来たらここも危ないと言われていた。昨年のチリ地震の時にも、自宅まではこなかったのが大丈夫だと思っていた。  |
| 南三陸町  | 女性 | 50歳代  | 昨年のチリ地震で3～6mの津波が来ると聞いていたが1m以下だったので、今回も大きいのが来るとは思わなかった。昔のチリ地震でも自宅までは来なかったのだから、この場所は大丈夫とほかの人に言われていたことが良くなかったのかも知れない。   |
| 南三陸町  | 女性 | 70歳以上 | 地震の時とはとにかく高い所に。近くの人に声をかけること。地域の防災体験が活かされた。   |
| 南三陸町  | 女性 | 70歳以上 | S35年のチリ地震を経験したから。  |
| 女川町   | 男性 | 40歳代  | 会社の避難訓練が役に立った。学校では地震の避難訓練はしたが津波の訓練はしていない。清水町のアパート（自宅）は1・2階が浸水、昔のチリ地震の時とはこなかったと聞いていたのだから、自宅にいたら逃げなかったかも知れない。  |
| 女川町   | 女性 | 40歳代  | 聞いたことと違っており、判断が甘くなった。50年前のチリ地震で津波がここまで来たという目安が駅にあるが、今回はそれどころではない。ここまでは来ないという感覚を持ってしまっていた。  |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | S35年のチリ地震のことが頭にあり油断した。こんなに早く来るとは思わなかった。  |
| 女川町   | 男性 | 50歳代  | S35年のチリ津波の経験があり、油断した。あのとき程の津波は来ないと思った。   |
| 女川町   | 男性 | 40歳代  | 地震の時は津波があるので、高台に逃げるように幼い時から教えられていた。  |
| 女川町   | 男性 | 60歳代  | S8年の津波（昭和三陸地震）は聞いていた。  |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 昔保育士をしていたので、子供たちに過去の津波や高台に避難することを伝えていた。自分に負けない自分になれと教えていた。   |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | お年寄りを助けるなど部落で毎年教えている。  |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 石碑に注意書きがあった。   |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 昔のチリ津波や、三陸地震のことを教える立場だった。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 昔から地層などの勉強をするのが好きで、4つのプレートのずれを調べていた。去年のうちらから大きい地震が来ると聞いて、周りの人に話していたが、誰も信じてくれなかった。もっと早く皆に広めていれば子供たちを守るはずだ。  |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | S35年のチリ地震のことを聞いていて、津波の高さに対して大丈夫と考えてしまっていた。全く規模が違う津波だった。  |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | S35年のチリ津波で近所の川近くに建っていた建物が流れたことを聞いていた。  |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 防災訓練などあったが、今回は災害が大きくて、役に立たなかった。  |
| 石巻市   | 男性 | 30歳代  | 宮城県沖地震が30年以内に来るとのことで訓練などもあったが、想像以上のことが起こり役に立たなかった。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 昔のチリ地震のことを聞いていた。主人が海の仕事をしているので常々津波を軽く考えないよう言われていた。   |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 前回の津波の際の市の防災無線がテスト放送のようなゆったりとした話し方であったが、今回は切迫した口調で言っていた。危険という気持ちは前よりも感じたが、自分は甘く聞いてしまった。津波は河口、入江等のように大きいのが来ると聞いていたのに、今回は海水浴場から来ていたので、今までの学習には無かったことだった。                 |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 地震や津波に対して関心が薄かったと思います。大地震が来るとの予測にもっともっと家族で話しておけば良かったと悔やみます。この津波で実母と娘（17才）を失ってからでは遅すぎました。やはり災害時の家族との安否確認の方法や、物より何より体のみ避難することの大切さ。飲み水・食料・ラジオ・ライト等を常時用意しておくことが必須事項だと思います。 |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | S35年のチリ津波のことを聞いたことはあるが、全然違った。  |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 地震＝津波すぐ逃げるということ。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 昔のチリ津波のことを聞いていたが、ここまでは津波はこなかったのだから教訓にはならなかった。  |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 昔のチリ地震のことを習ったが忘れていた。   |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 聞いたことはあるが、津波はここまでこないと思ったし、その時には考えられなかった。   |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | 聞いたことはあるが、津波がここまでとは考えられなかった。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | S35年のチリ津波は大丈夫だったので油断した。宮城県沖の地震が起きると言われていたがまだまだ先と思っていた。   |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 聞いたことはあるが、そこまでとは考えなかった。前とは規模が違う。   |

| 調査自治体  | 性別 | 年齢    | 伝承や学習の内容   |
|--------|----|-------|--|
| 石巻市    | 女性 | 30歳代  | 地震に対しては訓練がしてあったが、津波に対しての訓練はない。地震に対しては役に立った。  |
| 石巻市    | 女性 | 50歳代  | 昭和35年のチリ地震はこちらまでこなかった。今までできたことがないと聞いていた。   |
| 石巻市    | 男性 | 50歳代  | 昔のチリ地震の時も親に連れられて、牧山に逃げた。   |
| 石巻市    | 女性 | 70歳以上 | 川の近く、堀の近くには逃げない（またいでも行かない）高い所へ逃げる。船は沖にできれば大丈夫。昭和8年の牡鹿半島の津波も経験しており災害を知っていたので、みんなに水をくませたりした。持ち物として、普段からカバンに笛をつけ、湿布などもいれていた。常に財布を持って、連絡先を控えておく緊急カードのようなものを用意し、いつ地震がきてもいいように、枕元においておくこと。地震が揺れている時にその後のことを考える（こわいこわいだけじゃダメ！）冷静な判断が必要。 |
| 石巻市    | 女性 | 50歳代  | 実際に体験したことがあった。ここに来たのが7～8年前。  |
| 石巻市    | 女性 | 70歳以上 | 母親に生まれた次の年の事を聞いた（昭和8年）。昭和35年のチリ地震。   |
| 多賀城市   | 男性 | 70歳以上 | 以前から避難訓練には参加していたが、指定された場所に津波がくるとは思わなかった。   |
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | この場所は危ないと聞いていた。  |
| 多賀城市   | 男性 | 70歳以上 | 船乗りだったので、「船で海に入ったら死ぬ」という言い伝えがあったので家に残った。   |
| 多賀城市   | 男性 | 50歳代  | 自分の判断で避難所を決める。   |
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | 地震と津波は一緒に考えた。  |
| 多賀城市   | 男性 | 50歳代  | とにかく、地盤の良いところ・高い所に避難すること。あわてないこと。冷静さを保つこと。   |
| 多賀城市   | 女性 | 70歳以上 | 津波といえば50cm～1mのイメージしかなく、完全に油断していた。多賀城では訓練してたけれど、想像以上であった。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 町内では災害時の食料などを保管していたが何の役にも立たないと思っていた。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 昔のチリ地震の話は知っていたが、まさか自分のところまで来るとは思わなかった。今まで津波が来ると言われていても大したことがなかったので大丈夫だと思った。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 荒浜はベタ浜なので、昔から津波は来ないと言われていたので安心してた。言い伝えはあてにならない。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 60歳代  | 素早い対応と自らの判断力が一番大事。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 30歳代  | 今後もありうる話だということを学ばせてほしい。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 津波は必ず来ると思ったが、こんなに高い津波が来るとは思わなかった。やはり去年のチリ地震が来なかったので・   |
| 名取市    | 男性 | 40歳代  | 地域での避難訓練に7～8年振りで参加したが、今回の地震では役立たなかった。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 避難訓練はしていた。津波の訓練はしていなかった。   |
| 名取市    | 男性 | 30歳代  | 津波のことを知っていても今回は役に立たなかった。   |
| 名取市    | 女性 | 30歳代  | 3/11の大震災の2日前に起こった地震で子供たちを集団下校させていたが、これは間違っている。今回集団下校させていたら津波に巻き込まれていた。避難行動自体間違っている。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 閑上には津波は来ないだろうという話をしていた。  |
| 名取市    | 男性 | 60歳代  | 何の役にも立たない。   |
| 名取市    | 女性 | 70歳以上 | 今回は避難訓練をしていたとしても、役に立っていない。津波の際の避難行動も確認できれば。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | ほとんど無い。まさか津波が来るとは思わなかった。1～2年前の津波の時も家でテレビを見ていた。   |
| 亘理町    | 女性 | 40歳代  | 津波の怖さを教育の中でも伝えていってほしい。   |
| 亘理町    | 女性 | 50歳代  | 南三陸町志津川の出身で、子どもの頃から習慣で身についていた。   |
| 亘理町    | 男性 | 30歳代  | 今回の災害を伝えていかなければ。   |
| 亘理町    | 男性 | 40歳代  | 親から昔のチリ地震津波のことは聞いていた。  |
| 亘理町    | 男性 | 40歳代  | 津波はきても被害がないと言われていた。  |
| 亘理町    | 男性 | 60歳代  | 津波の2波、3波が来るとは思わなかった。   |
| 亘理町    | 男性 | 40歳代  | 昔のチリ地震の話はお年寄りから聞いていたが、大した被害ではなかったので今回も大したことはないだろうと思っていた。   |
| 亘理町    | 女性 | 70歳以上 | 今回の津波は想定外。誰もがこんな事になるなんて思っていない。学習しても無駄。   |
| 亘理町    | 男性 | 70歳以上 | こんな経験はもうないだろう。小さい時からの津波の学習が必要。昔のチリ津波でも堤防決壊までいかなかったのだから、油断というか皆そこまで思っていなかった。  |
| 亘理町    | 男性 | 40歳代  | 昔のチリ地震津波は1m～2mぐらいだったので、今回もそれぐらいと思っていた。   |
| 亘理町    | 女性 | 70歳以上 | 津波は30cm～50cmだと思っていた。   |
| 亘理町    | 女性 | 50歳代  | 2月28日は全く避難をしなかった。地震で火事の訓練はあったが、津波訓練はなかった。津波は1mぐらいだと思った。  |
| 亘理町    | 女性 | 60歳代  | 風習で「いなわらの伝説」を聞いたことがあった。稲に火をつけて、ここに避難しろという指示。小学校の時、S35年のチリ地震も体験したが、その時は全く大丈夫だったので、油断した。津波に対して甘かった。  |
| 亘理町    | 男性 | 60歳代  | 津波は1mぐらいと思っていた。33年前の宮城県沖地震の際は全く大丈夫だった、だから信じられない。   |
| 亘理町    | 女性 | 60歳代  | 1年前のチリ地震津波の際も避難したが、その時は大丈夫だった。テレビで3月11日の前にもう大きな地震は来ないと言っていたので、安心してたのに……。   |
| 山元町    | 女性 | 30歳代  | 津波は線路は越えないという定説があった。   |
| 山元町    | 男性 | 70歳以上 | 津波は子供のころあったが、常磐線の線路までだと思った。線路を越えるとは思わなかった。   |
| 山元町    | 男性 | 70歳以上 | この地域に住んでいる人は津波のことはわかっていると思う。教えは大切だと思う。   |
| 山元町    | 女性 | 60歳代  | 小さい頃から子供には津波について学習させるべき。大人にも、何らかの形で学ばせる必要がある。これは徹底すべき。   |
| 山元町    | 女性 | 50歳代  | 津波については学んでいなかった。もっと小さい時から学習が必要。  |
| 山元町    | 男性 | 60歳代  | S35チリ津波。   |
| 山元町    | 女性 | 60歳代  | 以前にも津波が来ると言っていた時があったが、その時は来なかった。今回もそうだったと思った。線路の西側までは津波は来ないので大丈夫だと思った。   |
| 山元町    | 男性 | 60歳代  | 宮城県沖地震の話は聞いていた。  |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|-------|----|-------|---|
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 避難所にPCのリストがない。避難所格差。  |
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 子供には、以前から教えていた避難所はあったが、その場所は今回の津波で被害にあったところなので、これからは、とにかく山でも何でもいから、高所へ逃げるように教える。隣が避難所だがそこも流された。   |
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 各学校に今後のための非常食等（毛布も十分に）用意してほしい。防災等に関して用意はしていたがさらにもっと準備すべきだと思った。小中学校だけでなく、特例として高校も町で支援してほしい。避難マニュアルなどはあるが、今までは波が来ないと思って下校させたりしていたが、もうそれは危ないのでやめてほしい。ニュースなどは原発のことが多いようだが、私たちは漁業関係者ではないのであまり関係ない。もっと復興のことをやってほしい。 |
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | 役所も流されてしまったので、うまく統制がとれていないからか、志津川のことがきちんと伝わっているかが心配。  |
| 南三陸町  | 男性 | 70歳以上 | 支援金が足りず、家を建てられない。金額も不公平感があり、なんとかしてほしい。子孫のことを考えるともう同じところには住めない。お金の問題は地元の再建にかかわる。正直援助が不十分なら他地域に移住を考えている。  |
| 南三陸町  | 男性 | 20歳代  | 町内の高い場所にアパートなど増やしてほしい。  |
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | 小さい単位で避難をしている人たちに情報や支援が届いているか心配である。他の地域に移動してしまった人たちに情報が届いているのか。   |
| 南三陸町  | 男性 | 50歳代  | 仕事ができるか心配。復興の見通しが知りたいし、仕事や産業ができなければ復興はできないと思う。  |
| 南三陸町  | 女性 | 20歳代  | プライベートの空間がほしい。  |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | 家族だけのプライベートの場所がほしい。仮設住宅を高くして安全な所に建ててほしい。もう海は見たくない。  |
| 南三陸町  | 女性 | 50歳代  | ボランティアの人にはとても助けてもらって感謝している。プライベートがないので、早く仮設住宅を建ててほしい。人が多くかぜをひいたり病気になったりする人もいるし、自分の体調が悪くてもほかの人の迷惑になるのが気になって精神的につらい。  |
| 南三陸町  | 女性 | 60歳代  | 罹災証明書などの件で、詳しく役場の人に聞きたい。  |
| 南三陸町  | 女性 | 40歳代  | 病気が心配。胃腸炎で3日間高校に隔離された。1ヶ月目に入りみんながストレスでイライラしている。トラブルがなければよいと思う。  |
| 南三陸町  | 女性 | 50歳代  | これらの生活が不安。仕事やお金、住む場所など・・・   |
| 南三陸町  | 女性 | 30歳代  | 仮設住宅をとにかく早く建ててほしい。食事のバランスが悪い。   |
| 南三陸町  | 男性 | 70歳以上 | 食事は満足。電気はまだつかない。決定事項を第一に（行政事業）。生活が不安（住居や仕事、金銭面、子供の学校など）   |
| 南三陸町  | 男性 | 60歳代  | 義援金の支給を早めにしてほしい。  |
| 南三陸町  | 男性 | 40歳代  | つらい情報ばかりの中、避難所で明るいニュースを聞いた。ボランティア活動の方との出会いで心が通じ合い結婚するまでに進展したとのこと。とてもうれしく、明るい気持ちになり、地元での生活に元気がでた。  |
| 南三陸町  | 女性 | 70歳以上 | 近所の人が優しくかった。老人を先に扱ってくれたので。今は命あるだけで幸せ。   |
| 南三陸町  | 女性 | 70歳以上 | 食べ物も満足。   |
| 女川町   | 女性 | 40歳代  | この避難所は自衛隊がほとんどやってくれているので恵まれていると思う。  |
| 女川町   | 男性 | 40歳代  | 女川はまったく報道に取り上げられていない。最初の3日間位女川は食べるものがなかった。石巻はなんとか食べるものがあつた。津波で会社が解散した。建築の仕事に出たいと思うが車がなくて仕事に行けない。車を貸してほしい。   |
| 女川町   | 女性 | 40歳代  | サイズがないので下着が不足している。自衛隊が風呂・洗たくしてくれているが水。夢の中にあるようで現状をまだ受け止められない。国から正しい情報がほしい。お金の支援がどうなるのか地元で情報がまったく入らず、関東の友達から聞いたり情報が錯そうしている。はっきりすれば、女川にとどまれる人が増える。  |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | 町で毛布、食料の備蓄が必要と思った。町内での訓練も必要。原発で町にお金が入っている割に備蓄など何もなくて最低だと思った。2日間何も食べられずがっかりした。役場は何もしてくれなかった。お金を10～20万ぐらい渡してほしい。お金を持たずに逃げてきた人もいっぱい。   |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 避難後は情報が全く入ってこず、女川は陸の孤島になっていた。何もなくなったけど、今は逆にあきらめた。自分で生活したいが、方法がない。支援を受けたままはいや。情報が地震関連ばかりで、もっと大きな面で見たい。   |
| 女川町   | 男性 | 50歳代  | アンケートが広く届いてほしい。   |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 今の土地を政府が買い取ってほしい。避難所生活が長くなると不安がつる。  |
| 女川町   | 男性 | 40歳代  | 母が車いす生活で労健に入っていた。町から、「お兄さんがいるし、お母さん家に帰ってくれないか？」と追い出されるようだった。私の拠点は東京だったが、仕事のあてもないのに、こちらに戻り被災。母も亡くなった（家は流出）。町には住民票が埼玉なので罹災証明が出せませんと言われた。助けてください。ほとんどの人が、住所（手紙の届く場所）、仕事を失った。職業差別がないように国に働きかけてほしい。                |
| 女川町   | 男性 | 50歳代  | 家族の死を乗り越えないと次に進めない。不明家族の扱いをどうするか（何日で死とするか）。   |
| 女川町   | 男性 | 20歳代  | ボランティアを受け入れる側の自治体のキャパシティなどを考慮した報道はされていない。   |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 毎日ある余震がなくなってほしい。ここは噂話が多いので何が本当のことか分からない。夢だったら良かったのと思う。  |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|-------|----|-------|---|
| 女川町   | 男性 | 40歳代  | 行政からの的確な情報がほしい。新聞を見ても女川が遅れている。  |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 家族単位で動くことが一番安全だと痛感した。全てが1からのスタートとなった。生活レベルを下げて毎日を送れるかすごく不安だ。一生涯間に合うくらいの物品や金も全部めぐり取られた。残念無念だ。  |
| 女川町   | 女性 | 70歳以上 | 助かって良かった。主人が船で亡くなっているのを守ってくれたのではないと思う。この皆は優しく、ただ有りがたい。炊き出しは1日2回ある。昼が出ないので朝・夕ではなく、1回目・2回目の食事というようだ。  |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 災害に備えて備蓄をしても、持ってこれなかった人が多いようだ。今は1日1日のことでいっぱいいっぱい。   |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 身体が不自由な為、トイレに行くのも一苦勞。今まであった薬が病院に無いと言われた。薬がないと不安。同じような薬といわれても安心できない。以前自衛隊の人にお風呂に入れてもらってとても嬉しかった。今1人用の布団に2人で寝ているのもっとスペースがほしい。病気を持っている人が楽に眠れるベッドがほしい。テレビを気にせずゆっくり見たい。                    |
| 女川町   | 女性 | 30歳代  | 住むところを早く確保したい。  |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 体育館の中に班長がいて、毎日の情報をマイクで伝えてくれる。   |
| 女川町   | 男性 | 70歳以上 | 仮設住宅より、地元に戻りたい。しかし建てる場所がない。二次避難所(秋田県)に行きたい人は少ない。土地を買ってもらい高所に家を建ててもらいたい。南三陸町のように。早く施設から出たい。自衛隊や全国からきてくれる医者はありがたい。  |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | 女川は報道されるのが遅かった。仮設住宅(プレハブ)ではなく、町営アパートに入りたい。  |
| 女川町   | 男性 | 30歳代  | ニュースが見れないのでみたい。   |
| 女川町   | 男性 | 50歳代  | 物資が少し足りない。三食食べたい。   |
| 女川町   | 女性 | 40歳代  | 暖かい飲み物が飲みたい。  |
| 女川町   | 女性 | 60歳代  | ボランティアの方や支援に来てくれた方々に感謝。物資は十分。ほかに比べれば恵まれている。   |
| 女川町   | 男性 | 50歳代  | この街に残れるのかどうかを早く知りたい。町民の要望、町民の立場に立って国は復興の案を提示してほしい。仮設に住むには収入が必要。仕事があるのだろうか。また、避難所の生活の質の向上が必要。外履きと内履きをはき分けたら衛生状況が改善された。これから暑くなって生活が厳しくなる。クーラー設置など阪神大震災のデータを元に今から対策をしてほしい。目安箱の設置もしてほしい。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 生きている人間にこそ、早く義援金がほしい。水害にあったところも保証してほしい。この先働き口も無いのに、お金はどこから持ってくればよいのか? 行政は子供が亡くなった人にさえ出て行けという。市長・上の人で差があまりすぎる。新聞やテレビで言っていることは上辺だけ。仮設住宅への入居は抽選で決まるのか?                                   |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 津波は早く来るから、高いところへ逃げたほうが良いともっと伝えるべき。義援金の配分をちゃんと決めてほしい。行政は過去の地震を理解すべき。政策は生ぬるい。戦争の時は下で、津波は上へ逃げた。  |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 避難訓練の域を超えていて、チリ地震や三陸沖地震と比べ物にならない。自家用車がなくなってしまった人への対応、移動手段を考えてほしい。バス時刻や電車時間を知りたい。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 石巻市長はたまにここにも来ているようだが、普段は仙台市に行っている。市民をどうにかしようという気持ちはないようだ。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 物資があるのに、なぜ皆に配らないのか?   |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 学校に物資はあるようだが、自分達には来ない。今夜話があるようだが、21日で学校を出なければならぬ。急な話で少し戸惑う。なんとかならないものか?   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 今日の夕方、21日から学校が使えなくなるという話があるが、どうしたらいいか分からない。家はあるが生活は出来ない。  |
| 石巻市   | 女性 | 20歳代  | 早く安心できるところに行きたい。  |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | 15日に市から学校を出て行けと言われたが今は無理だと思う。マスコミとして今日の話し合いを放送してほしい。市の人間は鬼だ。  |
| 石巻市   | 男性 | 30歳代  | 市のやりたいことが分からない。自分達はまだいいが、家のない人がここから出て行けるわけがないし、急すぎる。  |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 政府対応が石巻地区は遅く感じる。税金の支払いの説明が全くないので、支払いが心配。今の状況だと支払えない。  |
| 石巻市   | 男性 | 30歳代  | ボランティアの人たちにはよくやってもらっている。今以上は特に望んでいない。早いうちから医療の人など来てくれている。また、避難している人の中でリーダーが出ていて、まとめたりお世話をしてくれている。ここではあまりボランティアの人は目立たない。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | り災証明書、被災証明書について良く内容が分からない。もっと説明が必要だと思う。区画整理の話(うわさレベル)があるが、内容はよく分からないし、自分の土地がなくなるのではないかと不安。きちんと説明が必要だと思う。住宅ローンについて何か助けてほしい。石巻は市の対応が遅い。役所の人間が、地震発生時、役所にいなかった。公の仕事ではなく自宅のことをしていたのではないのか? |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 大きな被害で何から手をつけて良いか分からない。今は1日1日生活するので一杯。  |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | グーグルの安否確認で詐欺行為があった。偽の安否をのせ、別人が本人の名前を使ってお金が必要と書き込まれていた。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 行政が後ろ手に回っている。市長もまだここを見に来ていない。不満を持っている人もいるので一言あればいいのに。手続きもスムーズにしてほしい。校舎も学校が始まるので、ここにいる人は山下中へ移動しなければならない。町内の役員もいないので、町内の人の情報・状況が分からなく心配。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 阪神の時は他人事だったが、我が身になると支援をありがたく思う。役所の仕事が遅い。  |

VI. 自由回答

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など  |
|-------|----|-------|--|
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 自衛隊やボランティアには本当に感謝している。携帯電話が使えないのが辛い。安否情報など一番必要な時に使えるようにしてほしい。NTT安否情報も使えない。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 命があってよかった。   |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 仮設住宅を早く作ってほしい。   |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 現場を見ないで状況が分かるはずがない。市長はここに1週間でも泊まってほしい。市長が来ずに下の職員が来て2次避難の説明をしてみんなから批判を受けていた。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 予想外で頭が空っぽ。何も考えられない。早く家がほしい。  |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | 予想できなかった。チリ地震の時は被害が無かった。泥水の色の津波で、引き潮がさらに強かった。モデル地区の場合ではない。生きるのにやっとなので、仮設住宅を十分に作ってほしい。優しさは言葉や文字ではない。食べさせてもらってありがたく思い感謝している。メッセージ入りのパンなど、人に生まれてよかった。   |
| 石巻市   | 女性 | 20歳代  | 二度とこんな地震にあいたくない。心が安定できる場所に行きたい。報道のカメラマンが勝手に入ってくるのは控えてほしい。  |
| 石巻市   | 女性 | 20歳代  | 避難所での洗濯を出来るようにしてください。トイレやベッド、お風呂など介護が必要な人の助けがほしい。  |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 避難者へは少しでも明るい情報を流してほしい。毎日毎日メディアは被害の大きさばかりで明るくなる話がない。頑張れ頑張れと言うけれども何か先に見えるものに向かっては頑張れるが、何の灯りもないのに何を頑張ればよいのか。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 情報を客観的に捉えることが出来ると思うのでTVの視聴が出来れば良いと思う。オンエアではなく、録画でも良い。是非要望をかなえていただければと思う。この地域(石巻・栄田・黄金浜地区)は電気も水道も無く、状況としては酷い方だと思うのが、このみではなく、偏った情報や提供ではなく、心の要望を聞いてほしい。   |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | 避難所のライフライン早めに復旧してほしい。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | せまい教室内の他人との関わりがとても大変だった。初めは物資も届かず、先生方や被災者自身で何日間か力を合わせて乗り切った。今はだいぶ良い状態になっている。ペットが一緒だったのには驚いた。これから新学期が始まるとうしているが先生方も生徒さんたちと共に生活をする事になる。両者とも何かと大変かと思うが、ルールを守り私達は「おいてもらっている」ということを忘れないようにしたい。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 1日も早く仮設住宅の建設が進んで、皆が入れるようにしてもらいたい。それだけが今一番の要望。  |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 何十人という小さな避難所だと、支援物資が来なかったり、励ましが無い。初めは2日ほど自宅の2階にいたが食料がなくなってきたので大きな学校に行ったが断られた。子供が通っている学校に行ったら？と進められたのでここに来た。先に避難した人が優先になっている。   |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | 3か月はこの避難所に入る。それまでには仮設も作れると安住淳が来て説明した。地震4日目に、まだ母親が実家の2Fにいたので助けに行こうとゴムボートを持ったボランティアの人たちに助けを求めたら「自分で泳いで助けに行け」と言われた。家族や知人らに協力を呼び掛けて助けに行ったら、すでに別のボートの人達が助けていたので良かった。他にも友人や知人の行方不明者を一緒に探して回って何か助けることができた。町内会や近所のつながりは心強い。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 家はヘドロだらけで臭い。女川近くの小洲の家は砂でまだいい。タンスにも泥が詰まって開けられず壊して開けた。ピアノも最初音が出ていたがもう出なくなった。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 対策を早くしてほしい。市役所での手続きが手間かかりすぎ。地域のアパートなどを借り上げて転居させてほしい。   |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 避難所の衛生面が少し良くないので換気ができれば…。地震の2日目には民間の賃貸の空きがなくなったので市が一番に借り上げたりすればいい。行政は危機管理体制ができていない。津波に対する警戒心がなかった。行政がうまく機能できておらず、対応に不手際がある。市の話と避難所の校長の話が食い違いがあったり、市役所の課毎に動いている様子で市民が一番望まれる対策を考えていない。市役所全員が一丸となって対応すべき。全てを失った人に市役所が手続きに来いというのはどうなのか、現状を把握する為に現地に来てほしい(市長が一度も来ていない)。県も仙台市ばかり。国民の声を聞いて対策してほしい。自分たちのことしか考えていない。              |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 会社に不満。すぐ働いてほしいと言ってきたが、高齢の両親がおり、半壊近い家の片づけもあるので行けないと伝えたところ、懲戒解雇にするとされた。こちらの状況を理解してほしい。市に来ている弁護士さんに相談する予定。  |
| 石巻市   | 男性 | 30歳代  | 人間の特性として不利な事は受け入れられない(二次避難の提案など)。日が経つにつれて文句が増えてきている。自分は医師であるが、はじめは家族を捜して仕事が終わった後、白衣のまま避難所を回っていた。「先生」と声を掛けられると申し訳ないと思断るしかなかった。現在仕事をしながら、自宅を片づけ、不明家族を捜している。  |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 避難所で彼女が出来た(同じ地区の一つ年下の人)。   |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 他に比べて芸能人が来ない。もっと来て欲しい。   |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | これから先の生活が不安。自営で、収入や再開する為の資金も運転資金にも不安がある。   |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 仮設住宅を早くしてほしい。それが無いと他のことを考えていけない。   |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 仮設住宅に入って落ち着きたい。それ以外は今はまったく考えられない。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 避難所生活は三食きちんと食べれて、シャワーを使え、雨風もしのいで有難いが、でも本当にそれだけ。家の再建をするとしても資金に不安がある。自宅を片づけたいと気ばかり焦るけど、まだやってもらえない。市へ瓦礫などの片づけを申込みしにいても、ボランティアの申込みをしても、まだ自宅のほうにまわってこない(市の対応が遅い?)。21日から学校が始まり、他の避難所(広瀬中70名、河南西中30名)へ移動してほしいと言われているが、仮設住宅もどうなるかもわからず心配。学校が始まるのもわかるが、追い出されるような気分。5月から民間の部屋が借りられそうだが、孫の学区を変えたくないで迷っている。地区外に移っても同じ学校に通えるようにしてほしい。 |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|-------|----|-------|---|
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 市の対応が悪い（避難所を移される）。娘は市立病院に勤めていたが、津波で病院もなくなり仕事を失い、家も夫も失った。仮設住宅を早くしてほしい。そうしないと何も始まらないし、不安でいっぱい。  |
| 石巻市   | 女性 | 30歳代  | 避難所で生活している間は市からの情報が集まるが、自宅に戻った後は情報なく、孤立するのではないかと。避難所に説明に来た行政に、質問しても回答が得られない。もっときちんとしてほしい。行政には状況を知ってもらい、策を考えて欲しい。ひとつひとつ進んでいけるように、ひとつひとつ一緒に動いてほしい。たとえば先生の人事異動が3/31であったが、人事を1年据え置くことはできなかったのか？（教え子の安否もわからない状態で異動があったり、子供達も不安定だ）。役所の手続きで身分証・印鑑・決算書などが必要と言われてもなくなってしまった人もいっぱいいる。ヘリで病人を搬送するのに、首相が来る為空の規制がかかり、ヘリが飛べなかった。パフォーマンズはいらない。芸能人の炊き出しも来ているが被害の大きいところにしかいかない。報道も良いところしか映さないの、復興が進んでいると思っている人も多いと思う。地震直後とまったくかわっていない所もいっぱいあるので、そこを報道しないと取り残されてしまう。子供達の（小・中・高など）制服、ジャージ、靴、かばんを用意してほしい。服はなんでも良いと言われても着たきりの服しかない人もいる。 |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 早く自宅に。元の生活に戻りたい。  |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 家がなくても仕事があれば張り合いもあるし、なんとかなる。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 小さくても安心して住める家。16日に言われた体育館の移動はあまりにも突然すぎる。人として扱え！   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 何よりも住むところがほしい。それからライフラインの事を徐々にやってほしい。   |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 市や県はもう少しだけ家のない人の事を考えてほしい。今も風呂は一週間に1回あるかないか。   |
| 石巻市   | 男性 | 20歳代  | 早急に市からの情報を発信してほしい。  |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 行政の対応がいまだに遅い。お風呂がほしい。食事のバランスも悪い。子供のストレスの発散をさせて欲しい。  |
| 石巻市   | 男性 | 60歳代  | 市の対策が遅い。特に大街道小の避難場所。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 早く復旧して、前の生活に戻りたい。   |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 借家を取り壊すと大家が言っている。中のものをだせと言うが、息子も仕事で時間がない。犬も仙台のセンターに預かってもらっている。住む場所がないので一日も早く、仮設住宅に住みたい（消防署近く）。  |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 自分の家に住みたいが、もとの家には住めないようだ。家の中も汚れ、4台くらい車が流れついていて、1階はもう使えない。2階は大丈夫だがもうだめだと思う。壊して、アパートに今度住むつもりだ。瓦礫やゴミをどうにかしてほしい。車がスムーズに通らないので道路の脇のものも取り除いてほしい。  |
| 石巻市   | 男性 | 70歳以上 | 住むところが問題、早く仮設住宅に住みたい（プレハブでもよい）が、どのようにして決めるのか。トイレが大変。掃除の水もプールの水を使っていた。ティッシュと水が必要。金など今までためていたものが全て流されてしまった。通帳はひとつだけ見つかったが、これから判子を作って銀行や市役所にも行って届けを出さなければいけない。り災証明も1日の人数が決まっているのでなかなか作れない。   |
| 石巻市   | 女性 | 60歳代  | 落ち着いてから家に戻ってみたら服など水浸しだった。この先どこへ行けばいいのか？役所に言ってもどうしようもない。   |
| 石巻市   | 女性 | 30歳代  | 携帯が一切繋がらなくなり、家族とのやり取りも出来なかった。何の為の携帯か！？各電話会社はこのような場合でも繋がるよう技術向上に努めて頂きたい。一日も早く「自宅」を必要とする方々に、仮設住宅の提供をお願いしたい。車も失い、移動にも荷物が多く大変困難な状況を強いられている。仕事の事を考えると、仮設に落ち着くまでの間は、今現在の避難所からは動かないで留まりたい。ペットも一人の家族。一緒にいられるよう、もう少し心ある受け入れをしてほしい。   |
| 石巻市   | 男性 | 50歳代  | 全国から誠意ある炊き出しやボランティア活動に感謝している。必ずこの石巻の再建の為にがんばろうと思う。  |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | 津波の恐さ。人の優しさ。全国からの支援はありがたい。  |
| 石巻市   | 女性 | 40歳代  | 避難所でははじめ食料が少なく、自分達の所へ来ない事もたくさんあった。本当につらい日々だったが、私はどんな時でも自分より弱い人達を守りたいと思う。物資の中であたたかいジャンパーの中にホッカイロ2ヶが入っていたのは、本当に涙が出た。メッセージも書いてあり（大阪の人で…）、私も人の優しさにふれて、もし他の県で災害があったら絶対ボランティアに行こうと思う。全国の皆さん、あたたかい支援本当にありがとう。私達が元気でいられるのも皆さんのおかげ。とても感謝している。  |
| 石巻市   | 女性 | 50歳代  | 足が悪いので荷物、アパートの瓦礫片づけなど手伝ってほしい。住むところとお金が不安。20日以降どこにいけばよいのか？ライフラインは電気が2~3日前にやとついた。10日くらい前にベッドに寝れた。足が悪いので助かった、ありがたかった。  |
| 石巻市   | 女性 | 30歳代  | 金銭的な問題。不安。  |
| 石巻市   | 女性 | 70歳以上 | 家がなくなった人もいる。仮設住宅を早く考えてほしいと思っている。子供優先だが、他の人達はいれないのでは？抽選に漏れたらどうしたらよいのか…。この教室から体育館へ行っても、その後はどうしたらよいのか？家が残っていても（2階）また余震がきたら怖い。みんなが住めるように考えて欲しい。   |
| 石巻市   | 男性 | 40歳代  | 企業の責任はどうなっているのか！流出した産業ゴミの片づけはどうなっているのか！（日本製紙、西北ベニヤ他）東京電力とは違うのか！！  |
| 多賀城市  | 男性 | 70歳以上 | 今までの場所に住むのにどれくらいのお金がかかって、その資金は年金でまかなえるのか不安。どれから手をつけていいのかわからない。避難所でも、食べるものがおにぎりやパンだけなので、野菜や温かいものが食べたい。   |

VI. 自由回答

| 調査自治体  | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|--------|----|-------|---|
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | ボランティアやいろいろな情報がわからない。仮設住宅を申し込まないで自宅を修理して住みたいと思っているが、材料が不足している。仮設住宅のほうが優先されるなら自分たちはいつまでここにいることになるのか不安。役所に行っても混んでいて何も聞けないので、避難所に聞ける場所がほしい。  |
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | 仮設住宅ができるのも時期が不明だし、入れても2年だと聞いたのでその後どうすればよいのかわからない。   |
| 多賀城市   | 男性 | 70歳以上 | 市役所の人とは他から応援に来た人に任せっきりだ。災害弱者に対してどのように考えているのか。妻が要介護3でポータブルトイレが必要だった。ポータブルトイレと書いてあったので行ったら、仮設トイレだったので苦情を言ったら介護が必要な人が避難してくることは想定外だと言われた。施設に入れることになったが1ヶ月10万円もかかる費用のことも不安。仮設住宅や資金などの相談もしたいが役所に行けない。行っても時間がかかってはっきりしたことがわからない。避難所に相談窓口を持ってほしい。 |
| 多賀城市   | 女性 | 70歳以上 | 仙塩病院でも食べるものがなかった。買いに行っても何も買えなかった。   |
| 多賀城市   | 男性 | 70歳以上 | 体の不自由な妻のことが心配。仮設住宅に入りつつデイサービスやショートステイを考えている。義援金を少しずついいので早くほしい、生存者優先で！家の中のものが全部流されて、逆に他人の家の物が入ってきてしまった。各行政区ごとにまとまりがない。とにかく、まずは住むところの確保。貸家だから違うところに引っ越したら？と職員に簡単に言われた。  |
| 多賀城市   | 女性 | 70歳以上 | 野菜不足。リンゴを切って渡してほしい。   |
| 多賀城市   | 男性 | 70歳以上 | 仮設住宅など安心できる生活がほしい。  |
| 多賀城市   | 女性 | 30歳代  | 各メディアの情報の相違が問題。避難所の悪いところも報道されていない。  |
| 多賀城市   | 女性 | 70歳以上 | 市長が顔を出さない。  |
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | 自己中心的になりやすい状況の中、和を保つのが大変である。健康管理（特にこれからは食中毒など）が難しくなりそう。   |
| 多賀城市   | 男性 | 50歳代  | 食糧。住居。  |
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | 防寒用具等の配布をしてほしい。年齢にあった食料がほしい。  |
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | 足が不自由なのでトイレが困る。また、整理券の配布について相談したい。まだ心の整理がつかないが今回の震災で家族愛が感じられた。  |
| 多賀城市   | 女性 | 40歳代  | 年齢に合った食事など栄養バランスを考えてほしい。  |
| 多賀城市   | 女性 | 60歳代  | 食事の栄養バランスが疑問。温かいものが食べたい。  |
| 多賀城市   | 男性 | 50歳代  | 避難所での指示系統がバラバラなこと、食事、順番などルールを守らないことなどが不満。みんなの意見を聞いてほしい。集会・会議の場がほしい。   |
| 多賀城市   | 男性 | 60歳代  | 支援金は何に使っているのか情報が無い。国・自治体が積極的に応援・支援してほしい。ただ他の沿岸地域の人たちの方が、ここよりもっと大変なので……。仮設住宅30～50は少ない。市営・県営の住宅を開放してほしい。  |
| 多賀城市   | 女性 | 30歳代  | 今までテレビで見ている限り、岩手県の三陸地方、石巻市周辺の情報ばかり報道されているので、多賀城市の情報もほしい。  |
| 多賀城市   | 女性 | 50歳代  | 物資は来るけど欲しい物資が来ない。   |
| 多賀城市   | 女性 | 70歳以上 | この近くにある国家公務員の社宅は空室が多いのは知っているのでも、全て開放してほしい。市議会議員に要望を出したら、それは国の仕事ですと言われた。国・県・市の区別なく、皆で力を合わせて再建に臨んでほしい。またその市議会議員は私たちの前を素通りしていき、かなり不満である。自分たちが作った原子力発電所でこういう目にあってしまった。関東の人たちが福島で電気を使っているのでも、福島の人に謝ってほしい。私たちは贅沢しすぎたかも。                         |
| 多賀城市   | 男性 | 70歳以上 | 甥・姪など親戚が福島原発10km圏内において、お互い連絡も取っていないし、取れる状態ではない。自分たちの住んでいる地域がいつも最後に行政が回ってくる。前回の水害時、市長の家のエリアが先に復帰した。今回も同じような対応をされるだろう。もう今のところには住みたくない。  |
| 多賀城市   | 男性 | 60歳代  | 南三陸・石巻・荒浜・福島の情報ばかりで、多賀城の情報が全く報道されていない。多賀城の情報も少しはほしい。仮設住宅は45件で1,000分の1の確率しかないのでも、申し込まなかった。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 浜のほうは防災無線があるが、荒浜はなかったのでも今後はほしい。仮設住宅は犬がいるので入れない。現在犬は車の中で生活している。動物は仮設住宅で犬を飼うことができないので、ここにしばらくいて、飼えるところができるまで待つ。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 物資等は2階にかなりあるが、今まで2～3回しかもらっていない。ほしいものがあっても、言えない人が多い。せっかくあるのだから、「ほしいものがあれば」と聞いてくれれば話せる人もいる。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | 余震が来てからみんながピリピリしている。ほしいものや、要望があるが言えない。東北人だからなのか…神戸にきたボランティアの人からももっと積極的に行政に働きかけたほうが良いと言われたができない。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 50歳代  | どの道路を通って逃げるか知っておく（脇道）ことが重要。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 主人が59歳でこの地震で職場がなくなった。これから復興などでお金がかかるのにこれから働けるのか心配である。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 今は週に1回秋保の温泉に無料で連れて行ってもらい、お風呂に入れてもらっている。シャワーはあるが水になってしまったりするので、自分たちは使用していない。食事やお風呂などこれからも続けてもらえるのか不安。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 避難所に来てから1週間近く食べる物も少なかった。シャワーを使用していると途中で水になる。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 40歳代  | 今まで住んでいた土地がどうなるのか、また、保障はどうなるのか迅速に行ってほしい。そうしないと先のことが考えられない。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 40歳代  | テレビが見れるようになったのは1週間後。七郷小は各教室に1台づつあった。  |

| 調査自治体  | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|--------|----|-------|---|
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 義援金やお金のことを早く何とかしてほしい。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 働いている人は朝ごはんがカップラーメンだけでかわいそう。仮設住宅はペット不可なので、入れない。何とかしないと暮らしていけない。避難所の移動が大変。今は大丈夫だが、ボランティアが今後も継続してくれるか心配。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | ボランティアは指導者がいなくて統率がとれていない。テレビは増やしてほしい（局で援助）。とにかく、瓦礫の撤去を早くしてほしい。そうしないと先のことが見えない。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 30歳代  | 瓦礫はなくなってきたが、どうなるかわからないから、しっかりと方針を示してほしい。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 早急に今までの土地について方針を示してほしい。国が土地を買い取り、代替地があれば海から離れた所がいい。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 60歳代  | 七郷中が寒く七郷小へ移動。七郷小では物資を捨てていてビックリ。余るなら倉庫を借りてまとめる。まとめ役不足で今のリーダーに疑問。相当不満を感じている。行政は責任者が責任を持って返事してほしい。衛生面については、不特定多数の人がはいたスリッパをはきたくない。衛生上良くないだろう。ズボンの裾も汚いので、各自・行政とももう少し気を使ってほしい。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 70歳以上 | 今回の報道は問題がありすぎて特定できない。テレビも七郷小はたくさんあったのに、ここではほとんど見えない。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 方針を早く打ち出してほしい。仙台市は遅いので。震災によって一人になってしまった高齢者をすくってほしい。行政が自ら訪問して意見を聞くように。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 30歳代  | 決まったことをもっと正直に発表してほしい。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 30歳代  | ライフラインが完全に途切れたために現在どうなっているかわからなかった。そういう状態でもはやく情報を流せるようにしてほしい。マスコミは正しい情報を流すように心掛けてほしい。それで大変なことになる人もたくさんいるはず。   |
| 仙台市若林区 | 女性 | 70歳以上 | とにかく落ち着きたい。   |
| 仙台市若林区 | 男性 | 50歳代  | 職場は全部流されてしまい、今後の生活再建を考えなければならない。できれば、荒浜に戻りたいが、やっぱり津波が怖い。高校生の娘のことも考えると、仙台市内近くが良い。すべてを失った。市の対応について遅いと思う。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 70歳以上 | 避難所のトイレが4～5日使えず、恐ろしいことになっていた。95歳のご老人が入れるような仮設住宅が必要。ケアが足りない。ボランティアもだんだん少なくなっており、厳しくなっている。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 60歳代  | 3/12に荒浜小で地区の防災会議の予定だった。今は荒井地区などに集団移転を考えており、地区代表と市役所の人も含め話を進めている。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 60歳代  | 震災後、海岸の砂浜がなくなり、近所にあった10軒の家もすべてなくなった。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 30歳代  | 【お母さんの話】市や県など行政に不満。市長は何で全部の避難所を見に来ないのか。お見舞いの一言もない。行政（区役所）はたらき回しにすぎ。忙しいのかわからないが、怒りをこちらに向けなくてほしい。子どもたちはほぼ全員東六郷小にいたので無事だったが、心の傷が心配。避難訓練をもっと広げて、特に小学校では津波に対する広域的な訓練すべき。小6と小4の娘は、10日ほど前まで毎晩、夜中に突然泣き出していた。徘徊などもしている。子どもたちのケアが少なすぎる。小規模な所には来ないのか？学校の先生たちにも不満。【お父さんの話】毎日怖くて眠れない。早くみんなに会いたい。 |
| 仙台市若林区 | 女性 | 40歳代  | 子供たちのケアをもっとしてほしい。小6と小2の子供たちがかわいそう。助けられた時そこらじゅうに遺体があり、見ていられない状態。子供の心に悪影響を与えている。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 70歳以上 | 元の場所で家族と一緒に住みたい。いろんなものを買いたいからお金がほしい。  |
| 仙台市若林区 | 女性 | 60歳代  | 早く家族ともっと落ち着けるところに行きたい。  |
| 仙台市若林区 | 男性 | 40歳代  | 今は住まいがほしい。  |
| 名取市    | 男性 | 40歳代  | 給料の保証や休暇や有給の措置がどうなるのか心配。出来るだけ自立したい。知らない方からの義援金はあるのに、会社としての対応を考えてほしい。今回は想定外だったので、頑張っていると思うが。   |
| 名取市    | 女性 | 50歳代  | 皆顔見知りなので、閉上全体で移動したい。名取市内の違うところに集団移動し、やり直したい。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | とにかく早く仮設住宅に移動したい。住むところが落ち着かないと、復興できない。  |
| 名取市    | 男性 | 60歳代  | スタッフは充分やってくれているが、すべきことがありすぎてやりきれない。商売をすることによって地域も活性化すると思う。借入も普通と同じでは出来ない。見舞金を他の地域と統一してほしい。  |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | ここにいてロコミ頼りだったので、避難所をでて家に戻ると情報が少なくなり不安。情報をもっと早く知りたい。   |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 周りはみんな駄目だった。うちだけが残っていないので、戻るに戻れない。閉上の街づくりを国・県・市でどのように考えているのか。去年の夏猛暑だったので何かあるのではと思っていた。ご近所の方がなくなったのが一番辛い。震災に強い街づくりをしないと、人は戻ってこない。  |
| 名取市    | 女性 | 30歳代  | 津波にのみこまれるかと思った。   |
| 名取市    | 女性 | 30歳代  | 政治家の方にももっと現状を見てほしい。   |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 避難場所に名取市長が一度も来ないのはどういうことか。家族よりも市民のことを優先してほしい。   |
| 名取市    | 男性 | 30歳代  | 今後いつ、何処に、どのように仮設住宅が出来るのかなど、見通しを知りたい。生活も、お金はどうすればよいのか？避難所にどのくらいまで住んでよいのか知りたい。  |
| 名取市    | 女性 | 30歳代  | 写真を張り替える、新しいアルバムがほしい。アルバムの保管はいつまでしてくれるのか。仮設住宅にはいつ住めるのか。名取市が大好きなので市の安全な場所で暮らしたい。   |
| 名取市    | 女性 | 60歳代  | 夏物の服や下着はどうなるのか？もっともっと情報がほしい。  |
| 名取市    | 男性 | 60歳代  | 閉上は好きだが、このままでは住めないと思うし、住みたくない。田を高く埋め立てるか、高台にするなど安全に住めるようにしてくれれば住みたいが、このままなら別の場所に移動するしかない。仮設住宅の土地の確保や土地の代替などの情報が知りたい。  |

VI. 自由回答

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|-------|----|-------|---|
| 名取市   | 女性 | 30歳代  | 仮設住宅が3名で4畳半と聞いた。今まで一軒家で、家族が受験生なので耐えられるか心配。間取り図ももらえないので不安。   |
| 名取市   | 女性 | 50歳代  | 避難所はストレスがたまる。1室に空気清浄機・加湿器・テレビがほしい。  |
| 名取市   | 女性 | 50歳代  | 仙台から歩いて関上に行く間、何も情報がなく不安だった。   |
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | 勤務先の盛岡から6時間かけて戻った。  |
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | 仮設住宅の人と賃貸の人の差がある。保障はいつまで待ってればいいのか。食事は朝・夜2回だけ。   |
| 名取市   | 男性 | 70歳以上 | 仮設住宅はいつ、どこに出来るのか。生活が大変なので、100万円もらっても足りないくらい。一生の生活の保障はしてくれるのか？   |
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | 食事が出るだけ有りがたいので、贅沢は言わない。仮設住宅もきちんと入れるのなら待っている。  |
| 名取市   | 女性 | 40歳代  | 両親が私達のために建ててくれた家だった。早く子供のためにも生活を安定させたいと思う反面、両親に申し訳なくてどうしたらいいかわからない。   |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | 田んぼを国で貸してほしい。このままでは関上は全く駄目になる。名取市長はもっと市民のために本気で動くように！テレビでの偉そうな話はどうでもよい。   |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | 仮設住宅さえ出来てくれれば安心なのだが。食事は働いていないから2食あるだけで十分。子供や働き盛りの人たちに十分なものをあげてほしい。  |
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | 食事は魚・野菜・温かい物を用意してほしい。暖かい物がほしい。ガスコンロでも何でも用意してほしい。  |
| 名取市   | 女性 | 60歳代  | 前までは昼食が無かったが、今は多少ある。野菜不足になっている。食事は提供いただけるだけありがたいので、特に不満はない。名取市は対応が遅いのではないかな。何とかしてほしい。周りの方が体調が悪くなっている。保育士さんに会館でみてもらい、悪い時には病院へ行く。最初は薬が少なくて大変だったが、今は大丈夫。             |
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | もう一度肉屋をやりたい。瓦礫の処理をしっかりとしてほしい。仮設住宅を早くしてほしい。  |
| 名取市   | 男性 | 30歳代  | 関上大橋が通行止のため、県道に沢山の渋滞の車がいたがその車はどうなっているのだろう。  |
| 名取市   | 男性 | 40歳代  | 名取は石巻の次に死者・不明者が多いのに報道が全然されていない。ほとんど何も出来ずに家も流され、何も残っていない人が多い。お金の支援についても、何も決まっていないことに大変憤りを感じる。毎回泣き叫ぶ声を聞くのが辛い。名取は石巻や南三陸のように街一帯が全壊していないので、周りが普通の生活をしているのが辛いし、一体にならない。 |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | 関上の被害が凄いのになぜもっと報道しないのか。   |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | 関上3・4・6丁目の指定避難所が公民館だったため、何十人が飲み込まれてしまっていると聞いている。  |
| 名取市   | 男性 | 50歳代  | 家も車もなくなり、これからの生活がとても不安。先行き真っ暗である。   |
| 名取市   | 男性 | 30歳代  | 妻と娘が亡くなった。息子とは小学校で翌日再会。保育園の娘は2日後に、妻は4日後に見つかる。なぜ逃げなかったのか。車ごとのまれて、その後流されたようだ。名取インター手前で発見。   |
| 名取市   | 男性 | 60歳代  | 友達は何人も亡くなってしまった。年金暮らしの1人身だと今後もっと心配している。漁業人の振興はどういう風になるのか。他の港は水揚げ再会したようだが関上はどうなるのか？  |
| 名取市   | 男性 | 50歳代  | 義援金・補助金についてもっと情報がほしい。たくさんの方の友人・近所の人がいなくなった。   |
| 名取市   | 男性 | 40歳代  | 正確で対応の早い行政を望む。何もかも遅い。   |
| 名取市   | 男性 | 40歳代  | ガソリンをもっと手に入りやすいようにしてほしい。暖房の設備など、場所によって違うのが気になる。   |
| 名取市   | 男性 | 30歳代  | 仮設住宅を早く作ってほしい。  |
| 名取市   | 女性 | 60歳代  | 仮設住宅を早く作ってほしい。  |
| 名取市   | 女性 | 60歳代  | しきり等は無い方が良くはないか。  |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | 仮設住宅・保証金分配を早くしてほしい。   |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | 仮設住宅・保証金分配、両方を早くしてほしい。  |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | 仮設住宅・保証金分配を早くしてほしい。   |
| 名取市   | 男性 | 20歳代  | 家具なども含めた仮設住宅の情報が知りたい。   |
| 名取市   | 男性 | 50歳代  | 大地震が来ると分かっている、なぜこんなに対応がなっていないのか。全てが予想以上だった。原発の報道が多すぎて混乱するのである程度隠すべき。行政は思い切った政策をしてほしい。次に繋がる支援をしてほしい。政治が今後心配だ。食事もきちんとしてほしい。   |
| 名取市   | 女性 | 40歳代  | もっと関上を報道してほしい。  |
| 名取市   | 女性 | 70歳以上 | もっと関上を報道してほしい。  |
| 名取市   | 男性 | 30歳代  | 今回の津波で、公民館1Fに置いてあった物資が駄目になってしまった。2Fへ逃げたが、1Fだけでなく2F等にも津波の対策も含めて分散して物資を置いてほしい。  |
| 亶理町   | 女性 | 40歳代  | 地域の再建がどのようになるのか早く方向を示してほしい。   |
| 亶理町   | 女性 | 20歳代  | 祖父母は親戚のところへ避難している。今の避難場所も4人では狭いので早く仮設住宅に入りたい。   |
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 亶理高校にいた時は物資(着る物)があったが、ここはあまりない。避難場所によって差があるので、均等に当たるようにしてほしい。   |
| 亶理町   | 男性 | 30歳代  | 街の復興の方向付けを早く(税金の免除の期間は限りがあるので)。携帯電話がない人は就職情報が入りにくいような気がする。車の有無でも違いがでてる。   |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 早く避難所から出て子どもたちと前のように暮らしたい。仮設住宅を早く望む。  |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 仮設住宅の手当。  |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|-------|----|-------|---|
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 防波堤のコンクリートの鉄筋が太さ3mm~5mmでは細すぎる。3cm~6cmにしていれば絶対大事には至らなかったと思った。過去に波浪観測員をしていて、今は国土交通省が機械でやっているから安心してた。自宅から50m位、海までは100m位のところに観測所があった。機械だけでなく目視は大事。  |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 行政は町づくりをどのように考えているのか。原発関連には不安が大きい。  |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 仮設住宅の建設を早く。   |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 仮設住宅を早く建設してほしい。母親が別の場所にいるので心配。  |
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 衣類が足りていない。仮設住宅の手続き中である。風呂が大丈夫か心配。   |
| 亶理町   | 男性 | 60歳代  | 仮設住宅の建設。車が4台流されてしまった。お金など今後の生活のことが心配。もともとやっていた食堂もまたやりたい。  |
| 亶理町   | 男性 | 60歳代  | 国・県・町の方針をはっきりとしてほしい。曖昧なことが一番不安になる。きちんと決めれば、それに従って自分のことも決められる。政策や方針をしっかりしてほしい。ボランティアの方には良くしてもらっている、ありがたく、頭が下がる。  |
| 亶理町   | 男性 | 30歳代  | 食べ物もう少しほしい。着る物もここに来てからもらっていない。寝る場所もせまい。   |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 報道は三陸のことばかり。でも皆さん親切にいただいているので感謝している。  |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | もともとの避難所の小学校に行かなくてよかった。お父さんは荒浜に住みたいと言っているが、私は絶対に海はいや。仮設住宅を早く作ってほしい。   |
| 亶理町   | 女性 | 70歳以上 | 仮設住宅に入居できるか、入れても2年なのでその後どうしたら良いのか。娘が人工肛門をしているので体調が心配。身体障がい者のためお風呂（時間を決めてでも良いので）を作してほしい。皆のいる前ではジロジロ見られてしまう。人工肛門の交換も出来ない。トイレは衛生的に良くない。  |
| 亶理町   | 男性 | 50歳代  | 母親が身障者で入院。自営業の収入は全てそっちに行ってしまう。家の事を考えると今後暮らしていけない。生きていけない。仮設があっても2年だけでは…。  |
| 亶理町   | 男性 | 20歳代  | 仮設住宅が必要。安定しないと就職活動する意欲がわからない。もっと今の状況をみて欲しい。   |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 仮設住宅へ早く入居したい。ライフラインも早くしっかりすればいい。  |
| 亶理町   | 男性 | 40歳代  | 1ヶ月、大の大人が働かずに避難所にいるのは辛い。周囲の人たちがお年寄りの方ばかりだと気が引ける。岩沼・山元・亶理の情報がなかった。   |
| 亶理町   | 女性 | 70歳以上 | 避難所内で回される新聞がなかなか回ってこない。群馬の方からボランティアの方が訪れ、いたれりつくせり本当に感謝している。   |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | この避難所にはお風呂がない、近くに自衛隊のお風呂はあるが人数が限られているし、動くのに不自由だ。農機具の流出（個人で対応）、農家だからお金を前借して仕事をしているので、支払いが気になる。   |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 自衛隊のお風呂の支援や、その他のボランティア支援が大変ありがたかった。   |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 亶理町の報道をしてほしい。名古屋の知り合いがテレビを見ても、全く亶理町の情報がなかったと言っていた。必要な量の支援物資が欲しい。農家をやるつもりはない。  |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 車が流されて不自由さを感じている、安い軽の車が欲しい。神戸の人から仮設住宅を出てからのことを考えて、行政に対して要望を言った方が良い、と言われた。ボランティアの人の支援が本当に嬉しい。  |
| 亶理町   | 男性 | 60歳代  | 亶理はあまり取り上げられていない、一番多いのは岩手だと思う。仮設住宅は2年間限定だが、そのまま売ってほしい。仮設住宅に住めないなら借家も考えている。3m以上の防波堤を作してほしい。  |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 昨日、仙台の人から電話があって、亶理町や山元町は甚大な被害になっているとは思わなかったと言われた。新聞でこの2つの地域は飛ばされている。  |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | とにかく仮設住宅を早く。人数を早くへらしてほしい。   |
| 亶理町   | 女性 | 50歳代  | 仮設に入っても農家は安心できない。今後の手厚い保障、仮の収入先やお金・生活の支援をしてほしい。   |
| 亶理町   | 女性 | 30歳代  | 両親が亡くなった。   |
| 亶理町   | 女性 | 60歳代  | 情報が不足している。もっとほしい。   |
| 亶理町   | 男性 | 70歳以上 | 瓦礫や農地の整備を早くしてほしい。補助金の交付も。   |
| 亶理町   | 男性 | 50歳代  | 車・足の用意。農家へのきちんとした対応。  |
| 亶理町   | 女性 | 40歳代  | 仮設住宅を早く。  |
| 亶理町   | 男性 | 20歳代  | 無線などでもっと情報を放送してほしい。非常時の連絡方法等も。避難経路も確定してほしい。   |
| 亶理町   | 男性 | 60歳代  | 早く結論を出して国で基本生活をつくってほしい。原発だけでなく対策を早くしてほしい。   |
| 亶理町   | 女性 | 40歳代  | 自衛隊の人はやさしいのに地元の人冷たい。  |
| 山元町   | 女性 | 40歳代  | 発電機がほしい。ラジオ等も非常時電源が入るようなものがあれば。サイレンの種類が火災などでもすべて同じなので、それぞれ別にアナウンス等してほしい。  |
| 山元町   | 女性 | 60歳代  | 上に立つ人がしっかりしてほしい。校長先生は凄い。毎朝あいさつしている。校長先生がすげらしいので他の人もついてくる。山元もそうなってほしい。   |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 常磐線と防波堤をきちんとしたものにしてほしい。町の人口が心配。安心して住めるように道路は高い位置に。きちんと直してほしい。   |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | このままだと山元がなくなる。今までより良い山元にしてほしい。  |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 早く家へ。仮設でもいい。  |
| 山元町   | 女性 | 50歳代  | 早く補助してほしい。  |
| 山元町   | 男性 | 50歳代  | 仮設住宅を早く建ててほしい。遅くとも夏までには。  |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 家は1階が全損して波で家じゅうがめちゃくちゃになった（車2台も流された）。片付ける気力もなく、時間もないので誰かの力が必要。娘の旦那が失業（多賀城の会社）してしまったことが一番の不安。ローンも組めないのので家の再建が難しい（お金がない）。こういった保障があるのか。2~3日何も食料がなく不安だった。（パンとお菓子のみ）。山元には住みたいが、難しいのではないかと。 |

VI. 自由回答

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など  |
|-------|----|-------|--|
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 妻は耳が悪かったので何が起っていたのか分らなかった。こういう時、耳や目に障害のある人には周りの助けが必要。山元町には3日ぐらい何も支援がなく不安だった。自衛隊にはとても感謝している。お風呂や瓦礫の撤去などとても助かった。ホテル避難も考えたがやはり地元が心配なのでここで仮設住宅ができるのを待っている。日本人はきちんと列を作って並び、暴動なども起こらずに本当に偉いと思った。   |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 自宅は再建する予定だが、仮設住宅を希望している。支援の情報がなくお金が心配。35万の物置も流され、大切な思い出が流されてしまった。今後はこれ以上の津波はこないと思うから、2階にメインを作る。  |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 小さいラジオをとっさに持って逃げた、それが情報源。今後の生活が不安。   |
| 山元町   | 男性 | 50歳代  | 仮設住宅はいつできるのか。入るめどがまったくつかない。順番でいいのでめどをつけてほしい。仕事も始まる予定が全く無くて困る。テレビの情報は仙台ばかり。山元の情報が全くされていない。  |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 一番欲しい情報は保険とか保障について。金額によっては移住も希望ははっきりした情報が欲しい。テレビのL字情報は早すぎて見れない。老人にはきついで専用チャンネルがほしい。被災した人は病院が無料になるように言われたが、本当だろうか。役場は教えてくれない。   |
| 山元町   | 男性 | 40歳代  | 仮設住宅にはいつ入れるのか。家屋や車は全額補助してほしい。  |
| 山元町   | 女性 | 60歳代  | もっと山元の報道をしてほしい。  |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 早く仮設住宅に入りたい。足を伸ばして寝たい。   |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 早く仮設住宅に入りたい。足を伸ばして寝たい。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 農地が全部だめになり年金だけなのに、仮設に入居後もどうやって家を再建していいかわからない。  |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 今は安心して過ごせているが、飲み物がいつでも好きな時に十分に手に入るようになってほしいと思う。ボランティアの人には本当に良くしてもらってありがたい。早く高台で津波のないところで安心して暮らしたい。   |
| 山元町   | 女性 | 60歳代  | 主人が定年を迎えて家をリフォームしたばかりだった(1軒買えるくらいの費用がかかった)。要望は仮設住宅やお風呂・炊き出し・洋服のことなど。ストレスもたまってきている。   |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 炊き出しのごはんは味が濃い。お魚や野菜が食べたい。でも自衛隊の人には本当に良くしてもらっている。頭が下がる。山元中央公民館はみんなバラバラ。もっと手を取りあって、自分たちの避難所という意識を持ってほしい。行政に対しては何をしているのか?という思い。罹災証明などもっと早く方針を決めてほしい。  |
| 山元町   | 女性 | 50歳代  | 自宅に戻るのを禁止されているので戻れない。いつ戻れるのか。堤防をしっかりと作ってほしい。ここが好きなので怖いけど地元にいる。   |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 地震対策は建てる際にしていたが、津波の被害があるとは思わず、地震保険も入っていなかった。津波の恐ろしさをきちんと考えるべき。罹災証明が出ない。町の対応が遅すぎる。  |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 行政・国には保障など期待していない。復興税なんてダメ。軽々しい発言があり被災者の気持ちを分かっているのか。  |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 安心した気持ちがほしい。生活の場が1日も早くほしい。町長がこの先どうするかをしっかりと決めてほしい。安心できるような言葉など発信がなく。仮設住宅や罹災証明についても情報が途絶えている。話し合いの場もない。   |
| 山元町   | 女性 | 40歳代  | 小さい子供がいるが、ご飯が子供用の味付けになっていない。衛生面もとても心配。ずっと前からこの場所に住んでいるので主人はとどまりたいと言っているが、私は反対。海のそばではないところに住みたい。でも言えない。早く仮設住宅に入居したいが、2年という期限で生活が再建されるのか不安。今子供の笑顔を見ていて心が落ち着く。風邪をひいて最初大変だったが、小学校と7ヶ月の子供が元気でいてくれればいい。  |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 不安だらけ。リーダーがきちんといないのでバラバラ。女性や子供への配慮が欠けている。誰に言ったらよいのか?町長はどうしているのか不信任感が募る。もっと食事のことも配慮してほしい。女性のみみんなで食事作りをしてはどうか。   |
| 山元町   | 男性 | 30歳代  | 自宅に帰ってゆっくり寝たい。   |
| 山元町   | 女性 | 30歳代  | 被害は少ないほうだが、被災はしているので何らかの保障がほしい。被害が大きいので仕方ないと思う反面、自治体によってはすでにされているところもあるので、山元町はなんで・・と思う。  |
| 山元町   | 女性 | 70歳以上 | 「お年寄りから」「体の悪い人から」というのではなく、地区ごとに仮設住宅に入りたい。地域の人とバラバラになりたくない。まだ山元では全然そんな話も出ていないので他の自治体に比べ遅れていると思う。まず、住めるようにするために、下水の整備を町でしてほしい。避難所での生活については、みんなでいれるので落ち着いていられる。震災当初は足の踏み場もないくらい混んでいて生活できないくらいだった。避難所生活で腰が痛くなってきた。食事もお肉やウインナーなどお肉は食べられるが、野菜が不足している。とにかくおなかいっぱい野菜が食べたい。 |
| 山元町   | 女性 | 60歳代  | 次の日から水や食料はもらっていたが山元の情報はしばらくなかった。最近、支援や復興が遅れていると思う。職員は一生懸命だが、町長は顔も出さない。もっと意見を聴きにきてほしい。これからの復興の見通しも何も町で決めてくれない。ただ、自宅にはもう絶対に戻りたくない。屋間は一人なのでとにかく怖い。早く仮設住宅に入って自由な暮らしがしたい。お風呂や洗濯などいつになったらできるのか。仮設住宅はみんなが入れるように必ず作ってほしい。普段避難所の受付にいたので、皆のいらだちがよくわかる。                       |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 議員の人たちにもっとしっかり対応してほしい。何をしているのかさっぱりわからない。災害に対する対応が山元は遅すぎる。  |

| 調査自治体 | 性別 | 年齢    | 要望や意見など   |
|-------|----|-------|---|
| 山元町   | 女性 | 40歳代  | 本部は建設関係の人たちが持ち寄った自家発電機ですぐに立ち上げられた。2日後に自衛隊が来た時はほっとした。車中泊している人たちは今でも多く、その人達用にここ2~3週間くらいでテントもできた。当日は役場にきたものの人が多すぎて建物の中には入れなかった。山元の情報をテレビで流すのが遅かったと思う。なぜ役場で情報を出さなかったのか。状況が全く分からなかった。りんごラジオができてからわかるようになったが新聞も回覧でしか見れないし、掲示板しか情報もなかった。こんなに被害があるのになんでテレビで山元のことをやってもらえないのかと思っている。電車がいつ復旧するかも分からず、それがないと学校にも行けないため、子供だけ別の生活をしている。バラバラでなかなか会えない。携帯電話も、ドコモはいち早く充電や無料貸し出しの対応をしていたのに他社はなかった。連絡手段がこれしかないのに使えなくなるのではと心配だった。 |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 山元の状況は報道されていない。中央の声もここに届かない。ボランティアはありがたいが、ボランティアをまとめるリーダーが不足。せっかくのボランティアさんたちを生かしてあげていない。自分たちにできないことをしてほしい。避難所は今イライラのピーク。今後の見通しがつかず、区長である自分にいろんな意見をぶつけられる。この町に住み続けられるように、住民に安心させる声を行政から発信してほしい。  |
| 山元町   | 男性 | 60歳代  | 報道は石巻や気仙沼ばかり。南はどうなっているのか報道してほしい。ボランティアの人たちにはとてもよくしてもらっている。特に、角田の人たちにはとても感謝している。ウェルパークという入浴施設を開放していてシャツやタオル、下着等も揃えて提供してくれている。角田の協力は本当に本当に感謝している。今後は若い人たちに仕事を確保してほしい。ボランティアだけでなく、国を保つために何とか・・・復興省を宮城に作って。長期にわたる物資の支援を国がどうするのか発信してほしい。どれくらい続くのか。国の予算の早期決定を望む。  |
| 山元町   | 女性 | 40歳代  | いちご農家だったが、自力では再開できないので、早めに補助を国なり県なりから出してほしい。仮設住宅はみんなに間に合うように、遠くではなく役場の近くにも作ってほしい。   |
| 山元町   | 男性 | 70歳以上 | 補助金を出してほしい。税金の免除など。家賃の補助も(2~3年でも)。昼は自宅の片づけを少しづつしている。1ヶ月もたつのでそろそろ疲れてきている(集団生活での気づかれ)。  |
| 山元町   |    |       | 避難所の生活をいまさら聞いたり、生活の状況を聞いたりするのはもう1ヶ月も経った今、意味がない。山元は原発から80km圏内の危険区域になっているのでその辺を調査してマスコミが発表すべきだ。そういった視点で調査をしてはどうか。報道もそのあたりを取り上げてほしい。   |

## サーベイリサーチセンターの業務案内

## 会社概要

商号 株式会社サーベイリサーチセンター  
 設立 昭和50年2月  
 資本 6,000万円  
 年商 61億円（平成22年度）  
 代表者 代表取締役 藤澤士朗  
 社員数 189名 契約社員数 154名 合計 343名  
 調査員数 約1,000人  
 顧問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）  
 取引銀行 三井住友銀行  
 百十四銀行  
 みずほ銀行  
 三菱東京UFJ銀行  
 商工組合中央金庫  
 所属団体 (財) 日本世論調査協会  
 (社) 日本マーケティング・リサーチ協会  
 (社) 日本マーケティング協会  
 (社) 交通工学研究会  
 日本災害情報学会  
 ESOMAR（ヨーロッパ世論・市場調査協会）他

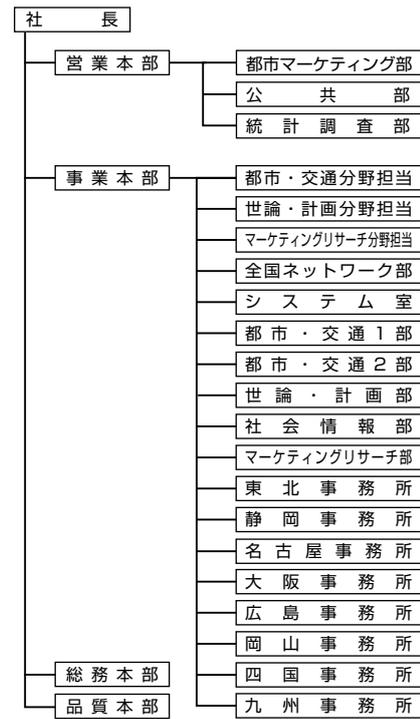
## 沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立  
 昭和51年6月 大阪事務所開設  
 昭和54年1月 静岡事務所開設  
 昭和61年9月 名古屋事務所開設  
 昭和63年4月 本社社屋竣工  
 平成2年4月 東北事務所開設  
 平成4年1月 広島事務所開設  
 平成5年6月 資本金を4,000万円に増資  
 平成9年3月 本社社屋増築  
 平成9年4月 九州事務所開設  
 平成10年4月 岡山事務所開設  
 平成12年7月 資本金を6,000万円に増資  
 平成15年4月 四国事務所開設

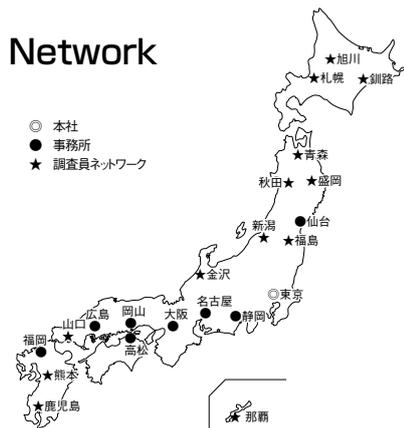
## 取得認証・登録資格

ISO20252 (JMAQA-R002)  
 ISO9001 (JMAQA-676)  
 プライバシーマーク (12390008 (06))  
 建設コンサルタント (道路部門 建23第7120号)  
 (都市計画及び地方計画部門 建23第7120号)  
 測量業者登録 (第1) - 32480号

## 組織図



## Network



### ■SRCは基本を大切にしています。

- 基本に忠実なデータ収集の管理・運営
- 経験豊富なスタッフで実施
- 迅速で制度の高い情報処理
- 高度な技術の開発
- 豊富なプレーン
- 機密保持と個人情報保護

● 東日本大震災に関する調査（帰宅困難）

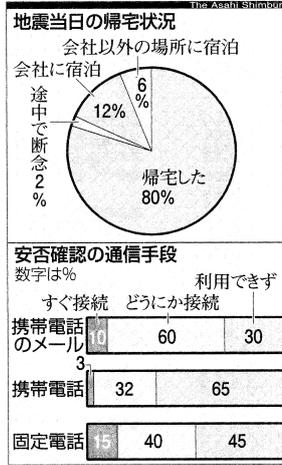
平成 23 年 4 月 9 日



# 3・11地震時都内にいた人 300万人、当日に帰れず

東大助教ら推計

東日本大震災の本震が起きた3月11日、自宅へ帰れず会社に泊まるなどした人



都内で3割いたこの結果が出た。地震発生当時、外出中で都内にいた人は約1千万人と推定され、そのうち300万人の帰宅が困難になった計算という。

廣井助教と関谷直也・東洋大准教授（社会心理）がサーベイリサーチセンターと合同で、首都圏在住で事前に登録していたモニター2026人を対象に、インターネットを通じて尋ね

た結果をまとめた。首都圏の1都3県で地震当日「自宅に帰れた」と答えた人は80・1%。「会社に泊まった」11・6%、「会社以外に泊まった」6・3%、「自宅に帰ろうとしたが途中であきらめた」2%だった。地震のとき東京都内にいた人の場合、帰宅できたのは67・8%と割合が下がった。廣井助教は「おおむね想定通りの数だったのに、実際は各地で混乱していた。鉄道の復旧に2、3日かかれば、食料などの確保が問題になっただろう」と話す。

携帯電話が82・3%と最多だったが、そのうち実際に使えたという人は42・8%。テレビは62・2%が利用を考え、うち81・7%が実際に使った。

「地震で困ったこと」では「携帯電話がかかりにくかった」と答えた人が71・1%で最も高かった。災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話の災害用伝言サービスはいずれも、7割以上

が利用しようとしていなかった。「地震直後に知れたこと」は「地震の震源や規模」が79・2%。「家族の安否や居どころ」が66・5%、「自分の住む地域の被害」が58・9%だった。

廣井助教は「災害用伝言ダイヤルがほとんど使われず、携帯電話網がパンクしたことは、今後に課題を残した」と指摘する。携帯電

話を使った人は、自宅周辺で大規模な火災などが起きていないか知ろうとした人も多かったとみられる。分析。「テレビやラジオが災害直後、被害のあるところだけでなく無いところの情報も伝えれば、携帯電話の利用や無理に帰宅しようとする人を減らせるだろう」という。（福井悠介）

平成 23 年 4 月 11 日

## 「携帯通じない」「体冷えた」帰宅途中 困ったこと

大震災当日の帰宅状況について、災害と情報研究会（東洋大・東大）とサーベイリサーチセンターがアンケート調査を実施したところ、自宅に帰れた人は8割、会社に泊まった人は1割との結果が出た。帰宅しなかった理由（複数回答）は「交通の復旧めどが立たないから」が最多で77%、「徒歩で帰るのは難しい」が49%だった。

3月25～28日、インターネット上で首都圏在住の登録モニターに尋ね、2026人から回答を得た。通勤・通学に1時間半以上かかる人で帰宅できたのは8.6%にとどまった。帰宅途中に困ったこととは「携帯電話が通じなかった」が最も多く31%で、続いて「屋外に長時間いたので体が冷えた」が13%。学校施設などが一時避難所として開放されていたことは5割近くが知っていたが、利用した人はわずか4%だった。



平成 23 年 4 月 12 日

## 震災の日、困ったことは？

### 「携帯つながらない」7割

民間調べ 連絡手段の確保課題に

民間調査会社のサーベイリサーチセンター（東京・荒川）が大学の研究者と実施したアンケート調査によると、東日本大震災の発生当日に最も困ったことは「携帯電話がつながりにくいこと」だった。災害時の安否確認や連絡手段の確保が今後、首都圏の防災対策で一層求められそうだ。

調査は3月下旬、東京、神奈川、埼玉、千葉に住む20歳以上の男女、約2000人を対象にインターネットを使って実施した。

大震災の日に関わったことを複数回答で聞いたところ「携帯電話がかかりにくかった」が71%で最も多く、「鉄道などの公共交通機関がストップした」（46%）、「家族との連絡がとれなかった」（38%）が続いた。今後の地震対策でも、47%が「家族との連絡方法を決める」と回答した。



平成 23 年 4 月 13 日

先月11日の震災で都内にいた人の3割が帰宅困難に一。東京大の広井悠助教らが実施した調査で、こうした結果が出た。首都直下地震の被害想定では、夕方6時に1144万人が都内にいるとみており、調査結果を当てはめると、帰宅困難者は368万人の計算になるという。

## 首都直下地震で帰宅困難

# 都内で368万人

広井助教や関谷直也東洋大准教授、調査会社サーベイリサーチセンターが、登録モニターを対象にインターネットで尋ねた。このうち地震当時、都内にいた回答者は910人。

都内にいた人のうち自宅に帰れた人は68%。5人に1人が「会社に泊まった」と答え、「会社以外の場所に泊まった」(9%)、「自宅に帰ろうとしたが途中であきらめた」(4%)という人もいた。帰宅困難者向けに学校施設が開放されたが、41%が「知らなかった」とした。

帰宅するかどうか判断するのに利用した通信手段のトップは携帯電話(86%)。だが、55%が「利用しようとしたが使えなかった」という。

広井助教は「二次災害防止には『帰宅させない』対策が大事で、どう情報を伝えるかが鍵。帰宅困難者の支援拠点として駅に食料を備蓄するほか、民間も含めて開放する施設を事前に決めておき、積極的な広報が必要だ」としている。



平成 23 年 4 月 19 日

## 震災当日

# 携帯3分の2話せず



東日本大震災の発生当日、首都圏にいた人の9割が安否確認に携帯電話を使おうとしたが、66%が使えなかったことが「災害と情報研究会」(東洋大学、東京大学)と、民間の調査会社「サーベイリサーチセンター」(東京都荒川区)のアンケートで分かった。

調査は3月下旬、東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県で、地震発生時に首都圏にいた20歳以上の男女を対象に実施。2026人から回答を得た。それによると、回答者の90%が携帯電話を使用。しかし、「すぐにつながり問題なく利用できた」のは約3%に

とどまり、「つながりにくかったが利用できた」のは約32%。約66%が全く利用できなかったという。固定電話も45%が使えなかった。逆に、携帯電話のメールは70%が、パソコンは76%が「つながり、パソコンについては40%が「すぐにつながった」。

また、災害用伝言ダイヤルを利用しようとしたが、使い方が分からなかった人が、固定電話、携帯電話、パソコンで各19%いた。今後の災害に備え、全体の47%が「事前に家族との連絡方法を決めておく」、40%が「落ち合い場所を設定しておく」とした。

● 東日本大震災に関する調査（地震後の心理と行動）

平成 23 年 4 月 26 日

不安トップ「福島原発」74% 大震災意識調査

調査会社「サーベイリサーチセンター」（東京都荒川区）が大都市圏を擁する東京や大阪など10都道府県（東北含まず）の住民を対象に実施した東日本大震災に関するアンケートで、現在不安に思うことについて4人に3人が「福島原発」を挙げ、最多となった。

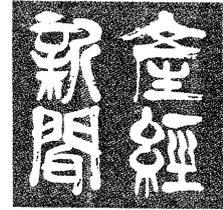
調査は3月25～31日、20歳以上の男女を対象にネットを通じて実施、2000人が回答した。

震災後の不安要因（複数回答）を聞いたところ、「福島原発の今後の推移」の74%がトップ。次いで「全国の原発の安全性」と「被災者に物資・支援が届いていない」がそれぞれ50%、「余震がたぶん続いている」43%、「まだ安否確認できない人がたくさんいる」と「日本が地震の活動期に入ったのではないか」の39%が続いた。

政府などの対応（同）では「原発冷却のため活動する人たちはすごいと思う」が70%に達した。一方、「国家的危機に団結できない政治家は問題」が58%だったほか、「政府はもっと被災地を支援すべきだ」51%、「原発事故や放射性物質について政府は情報を隠していると思う」39%と、不満や不信が目立った。

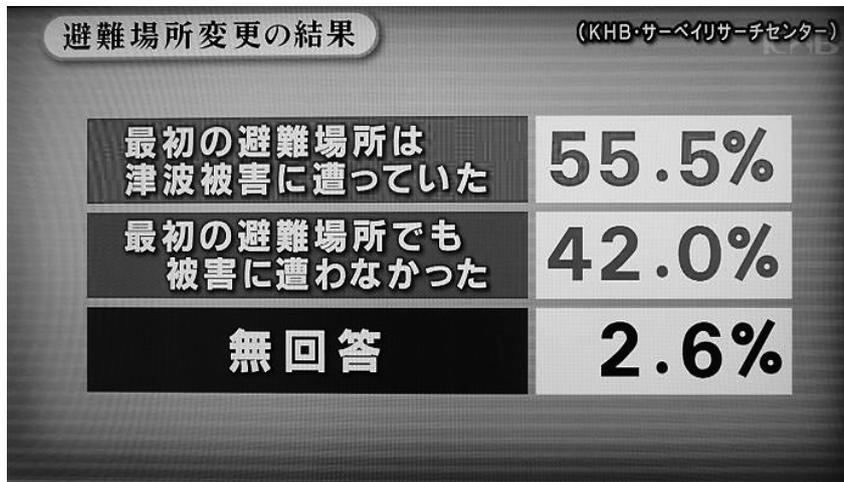
震災後、物不足が問題となったが、調査には76%が震災後に「普段と異なる買い物はしていないと思う」と答えた。今後の対応は「被災地に物資が行き渡るよう unnecessaryなものは買わない」が49%、「これからも普段と異なる買い物はしない」が43%など。

調査に参加した東洋大の関谷直也准教授（社会心理学）は「東北のデータがないこともあり、原子力への不安が強く表れた。物不足の中でも比較的冷静に行動している実態を示しているのではないかと」話している。



● 東日本大震災に関する調査（被災地）

平成 23 年 4 月 27 日～29 日 KHB東日本放送「スーパーJチャンネルみやぎ」（3夜連続放送）

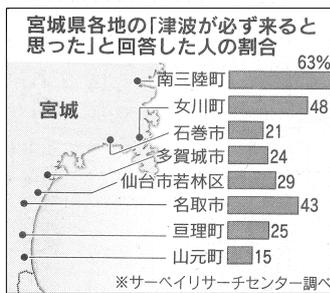


平成 23 年 5 月 11 日

宮城8市町住民調査

民間調査会社のサーベイリサーチセンター（東京）が東日本大震災で津波被害に遭った宮城県沿岸部8市町の避難所で実施した意識調査で、「地震直後に津波が必ず来ると思った」と答えた割合が北部の南三陸町で63%に上った一方、南部の山元町では15%にとどまり、地域ごとに警戒意識が異なることが分かった。

8市町合計では33%で、南三陸町以外では女川町が48%、名取市が43%と高かった。一方、他に低かったのは石巻市21%



「津波について」聞いたことがあり、役に立った」が76%に上った。今後の居住は、55%の人が高台への移転や防波堤・防潮堤の建設など、何らかの対策をした上で地域に住み続けたいとした。ただ、仙台市若林区では「別の安全な地域に移住したい」が67%、名取市でも51%に達した。調査は4月15～17日に18避難所の20歳以上の男女に面接方式で行い、451人から回答を得た。

「すぐ逃げないと間に合わないと思った」が南三陸町で50%だったのに対し、石巻市は16%、巨理町は18%。逆に「津波が来るとは思わなかった」が石巻市は43%、多賀城市は59%であった。

南三陸町住民の警戒心の背景には、地域で日頃から津波が身近な話題だったことがあるようで、「（津波について）聞いたことがあり、役に立った」が76%に上った。

津波「来る」と意識63%  
南三陸町 南部は15%とまりも



# 防災、防災計画関係の実績一覧

平成 23 年 5 月

## 防災

東日本大震災「宮城県沿岸部における被災地アンケート」

|   |                  |        |
|---|------------------|--------|
|   | 自主企画調査           | 23年    |
| 東日本大震災に関する調査(帰宅困難)                      | 自主企画調査           | 23年    |
| 東日本大震災に関する調査(買物行動)                      | 自主企画調査           | 23年    |
| 東日本大震災に関する調査(計画停電)                      | 自主企画調査           | 23年    |
| 能登半島地震に関するアンケート調査                       | 自主企画調査           | 19年    |
| 岩手宮城内陸地震に関する調査                          | 自主企画調査           | 20年    |
| 静岡県中部地震に関する住民意識調査                       | 自主企画調査           | 13年    |
| 駿河湾を震源とする地震に関する調査                       | 自主企画調査           | 21年    |
| 新潟県中越沖地震に関する調査                          | 自主企画調査           | 19年    |
| 阪神・淡路大震災に関する調査<第1回目>                    | 自主企画調査           | 7年     |
| 阪神・淡路大震災に関する調査<第2回目>                    | 自主企画調査           | 7年     |
| 阪神・淡路大震災に関する調査<第3回目>                    | 自主企画調査           | 9年     |
| 芸予地震に関する住民意識調査                          | 自主企画調査           | 13年    |
| 福岡県西方沖地震についての住民調査                       | 自主企画調査           | 17年    |
| 宮城県沖の地震に関するアンケート調査                      | 自主企画調査           | 15年    |
| H17宮城県沖の地震に関するアンケート調査                   | 自主企画調査           | 17年    |
| 宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査               | 自主企画調査           | 15年    |
| 三宅島帰島住民についての調査                          | 自主企画調査           | 17～19年 |
| 三宅島調査研究書籍出版                             | 自主企画調査           | 20年    |
| 災害準備行動に関するアンケート                         | 東北大学             | 22年    |
| 新潟県中越地震に関する調査                           | 茨城大学             | 18年    |
| 観光地災害ヒヤリハット調査                           | 常磐大学             | 18・19年 |
| 自動販売機の転倒防止に係る実態調査                       | 埼玉県              | 15年    |
| 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災体制の現状および課題に関する調査 | 消防庁              | 18年    |
| 市町村における避難勧告等の発令・伝達に関する調査                | 消防庁              | 20年    |
| 防災に関する世論調査                              | 東京都              | 17年    |
| 民生委員・児童員発災時一人も見逃さない運動取り組み               | 全国社会福祉協議会        | 22年    |
| 原子力発電所の防災対策調査(独)                        | 日本原子力研究開発機構      | 21年    |
| 水害ハザードマップ調査(独)                          | 防災科学技術研究所        | 15年    |
| 新潟豪雨についての住民アンケート(独)                     | 防災科学技術研究所        | 16年    |
| 市民の避難に関するアンケート集(独)                      | 防災科学技術研究所        | 22年    |
| 災害体験についての「ヒヤリハット」調査(独)                  | 防災科学技術研究所        | 14年    |
| 福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および災害体験アンケート調査(独)    | 防災科学技術研究所        | 15年    |
| 名古屋市西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査(独)   | 防災科学技術研究所        | 16年    |
| チリ地震の津波予報に関する調査                         | (財)消防科学総合センター    | 22年    |
| 地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査                | (財)地震予知総合研究振興会   | 17年    |
| ナウキャスト地震情報の活用に関する調査                     | (財)日本気象協会        | 12・13年 |
| ナウキャスト地震情報の社会的影響調査                      | (財)日本気象協会        | 15年    |
| 緊急地震速報についての企業ヒアリング調査                    | (財)日本気象協会        | 16年    |
| 緊急地震速報の効果的な利活用に向けたアンケート調査               | (財)日本気象協会        | 19年    |
| 浅間山噴火についての住民アンケート                       | (財)砂防・地すべり技術センター | 16年    |
| 桜島島の防災意識に関するアンケート調査                     | (財)砂防・地すべり技術センター | 18年    |
| 富士山噴火情報についての自治体調査                       | (財)日本気象協会        | 15年    |
| 集中豪雨による水害についての住民調査                      | (財)河川情報センター      | 17年    |
| 平成18年7月豪雨による土砂災害警戒避難に関する調査              | (財)砂防・地すべり技術センター | 18年    |
| 山口防府豪雨災害調査                              | (財)砂防・地すべり技術センター | 21年    |
| 台風14号地すべり災害についての住民調査                    | (財)砂防・地すべり技術センター | 17年    |
| 避難勧告・避難指示に関するアンケート                      | (財)都市防災研究所       | 22年    |

市町村防災研修事業に資するためのアンケート

|                           |               |        |
|---------------------------|---------------|--------|
|                           | (財)消防科学総合センター | 18年    |
| 地下街利用者の災害に関する意識調査         | (財)河川情報センター   | 11年    |
| 砂防施設計画検討調査(財)             | 砂防・地すべり技術センター | 11年    |
| 旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査      | 東京経済大学        | 14年    |
| 家屋の耐震化に関するアンケート調査         | 東京経済大学        | 15年    |
| 水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査   | 東京経済大学        | 16年    |
| 十勝沖地震緊急調査                 | 東京経済大学        | 15年    |
| 東日本大震災に関する調査(帰宅困難)        | 東京大学          | 23年    |
| 東日本大震災に関する調査(買物行動)        | 東京大学          | 23年    |
| 東日本大震災に関する調査(計画停電)        | 東京大学          | 23年    |
| 地震時の地域防災に関するアンケート         | 東京大学          | 18年    |
| 耐震補強に関するアンケート調査           | 東京大学          | 20年    |
| 住まいの耐震調査                  | 東京大学          | 21年    |
| 津波避難調査                    | 東京大学          | 22年    |
| 水害被災地グループインタビュー支援         | 東京大学          | 22年    |
| 水害被災地域における災害情報・避難行動に関する調査 | 東京大学          | 20年    |
| 富士山噴火住民アンケート              | 東京大学          | 13年    |
| 火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査    | 東京大学          | 14年    |
| 自治体の火山噴火についての地域防災計画書調査    | 東京大学          | 14年    |
| 富士山噴火による企業影響調査            | 東京大学          | 14年    |
| 住宅用火災警報器アンケート             | 東京大学          | 22年    |
| 避難行動分析作業                  | 東京大学          | 22年    |
| インターネットと携帯電話に関するアンケート     | 東京大学          | 18年    |
| 子供の安全と災害に対する意識調査          | 東京大学          | 18年    |
| 災害や事故が社会生活に与える影響調査        | 東京大学          | 14年    |
| 災害情報に対する民間企業の対応調査         | 東京大学          | 14年    |
| 民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査    | 東京大学大学院情報学環   | 16年    |
| 「東海地震情報についての防災ビデオ」作成      | 東京大学大学院情報学環   | 16年    |
| 新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査  | 東京大学大学院情報学環   | 16年    |
| 民間放送局の災害報道に関する調査          | 東京大学大学院情報学環   | 16年    |
| 2003年5月宮城県沖を震源とする地震住民調査   | 東京大学社会情報研究所   | 15年    |
| 宮城県北部地震に関するアンケート          | 東京大学社会情報研究所   | 15年    |
| 芸予地震に関する住民アンケート調査         | 東京大学社会情報研究所   | 13年    |
| 東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査   | 東京大学社会情報研究所   | 15年    |
| 東海村臨界事故時の行動に関する調査         | 東京大学社会情報研究所   | 11年    |
| 火山周辺自治体の地域防災計画内容分析        | 東京大学社会情報研究所   | 15年    |
| 火山噴火災害についての観光企業アンケート調査    | 東京大学社会情報研究所   | 15年    |
| 富士山噴火についての住民意識調査          | 東京大学社会情報研究所   | 15年    |
| 富士山噴火自治体調査                | 東京大学社会情報研究所   | 15年    |
| 「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査    | 東京大学社会情報研究所   | 13年    |
| 「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査   | 東京大学社会情報研究所   | 13年    |
| 河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査  | 東京大学社会情報研究所   | 11・12年 |
| 東京都「広域避難所」の管理体制についての調査    | 東京大学社会情報研究所   | 11年    |
| 防災用語についてのアンケート            | 東京大学社会情報研究所   | 11年    |
| BSE(狂牛病)についての住民アンケート調査    | 東京大学社会情報研究所   | 13年    |
| 新潟中越沖についての十日町市民アンケート調査    | 東洋大学          | 16年    |

|                                  |                  |                   |                            |               |     |
|----------------------------------|------------------|-------------------|----------------------------|---------------|-----|
| 山古志村の復興に関する住民意識調査                | 東洋大学             | 17年               | 災害に強い地域づくりアンケート調査          | 浜松医科大学        | 22年 |
| 福岡県西方沖地震グループインタビュー               | 東洋大学             | 17年               | 住宅用火災報知器設置状況調査             | 静岡市           | 21年 |
| 旧山古志村復興意識調査                      | 東洋大学             | 18年               | 「新潟県中越地震」におけるライフラインについての   |               |     |
| 原子力事業者アンケート調査                    | 東洋大学             | 18年               | 住民アンケート調査                  | 富士常葉大学        | 16年 |
| 原子力に関するアンケート調査                   | 東洋大学             | 19年               | 災害ボランティアセンター等実態調査          | 愛知県           | 22年 |
| 2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査     | 東洋大学             | 17・18年            | 市町村消防団実態調査                 | 愛知県           | 18年 |
| 北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査              | 東洋大学             | 14年               | 市町村の消防の広域化に伴う調査分析          | 愛知県           | 19年 |
| 苫小牧市民の火山防災意識調査                   | 東洋大学             | 15年               | 津波浸水予想図印刷                  | 二見町           | 17年 |
| 東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査   | 東洋大学             | 16年               | 被災地の現在の都市状況に関する調査          | (財)人と防災未来センター | 19年 |
| 台風23号についての兵庫県豊岡市民アンケート調査         | 東洋大学             | 16年               | 震災5年後意識調査                  | NHK 大阪局       | 11年 |
| 救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査      | 東洋大学             | 16年               | 新潟中越地震被災者調査集計              | 関西学院大学        | 19年 |
| 救急医療と通信システムについての災害拠点病院アンケート調査    | 東洋大学             | 18年               | 災害復興住宅居住者意識調査(集計)          | 関西学院大学        | 19年 |
| 首都圏における通信行動についての住民アンケート調査        | 東洋大学             | 18年               | NHK 阪神・淡路大震災被災者調査          | 日本放送協会 大阪放送局  | 21年 |
| 安全観についての住民アンケート調査                | 東洋大学             | 14～16年            | 災害対策専門研修に関する調査             | (財)人と防災未来センター | 19年 |
| 「緊急地震速報」の導入と災害情報の適正化に関する研究       | 日本大学             | 22年               | 災害情報の提示方法に関する調査            | 大阪大学デザインセンター  | 17年 |
| 「緊急地震速報」と携帯電話に関する調査              | 日本大学             | 22年               | 復興住宅アンケート調査                | 関西学院大学        | 19年 |
| 緊急地震速報に関する学生アンケート調査              | 日本大学             | 18年               | 家屋等の耐震化に関する住宅調査            | (財)人と防災未来センター | 14年 |
| 緊急地震速報 WEB 調査                    | 日本大学             | 19年               | 東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における |               |     |
| 緊急地震速報の導入に関する調査                  | 日本大学             | 20年               | 津波対策調査                     | (財)人と防災未来センター | 16年 |
| 緊急地震速報に関する意識調査                   | 日本大学             | 20年               | 風水害時における自治体の災害対応に関する調査     | (財)人と防災未来センター | 16年 |
| 都市に生活する若者の災害情報・災害対策に関する意識調査      | 日本大学             | 22年               | 阪神淡路大震災に関する住民意識調査          | NHK 神戸局       | 16年 |
| 災害報道内容分析                         | 日本大学             | 18年               | 防災に関する意識調査                 | 広島県           | 22年 |
| 一人暮らしの若者の防災意識調査                  | 日本大学             | 18年               | 防犯カメラ設置状況調査                | 福岡県警察本部       | 21年 |
| 青年の防災意識・対策についてのグループインタビュー        | 日本大学             | 19年               | 奄美群島における赤土等流出防止対策に関するアンケート | 鹿児島県土地改良事業    | 22年 |
| 新潟県中越地震に関する住民調査                  | NHK 放送文化研究所      | 16年               |                            |               |     |
| 新潟豪雨災害に関する住民調査                   | NHK 報道局気象災害センター  | 16年               |                            |               |     |
| 東京都民の災害に関するアンケート調査               | NHK 報道局          | 14年               |                            |               |     |
| 阪神大震災に関する住民意識調査                  | 朝日新聞社            | 13・15・16年         |                            |               |     |
| 阪神大震災に関する住民意識調査                  | 朝日新聞社            | 13年               |                            |               |     |
| 阪神・淡路大震災8年後の被災者意識調査              | 朝日新聞社            | 14年               |                            |               |     |
| 災害等に関する意識調査                      | 朝日新聞社            | 13年               |                            |               |     |
| 自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査             | 朝日新聞社            | 13年               |                            |               |     |
| 広域連携についてのアンケート調査及び災害 NPO アンケート調査 | 朝日新聞社            | 14年               |                            |               |     |
| 自治体復興・被災者支援制度アンケート調査             | 朝日新聞社            | 17年               |                            |               |     |
| 地震保険に関する調査                       | 損害保険料率算出機構       | 21年               |                            |               |     |
| 津波避難推進に係る調査                      | NPO 環境防災総合政策研究機構 | 19年               |                            |               |     |
| 新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査           | NPO 環境防災総合政策研究機構 | 16年               |                            |               |     |
| 地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート       | NPO 環境防災総合政策研究機構 | 16年               |                            |               |     |
| 市町村における住民向け防災広報に関するアンケート調査       | 消防研究センター         | 18年               |                            |               |     |
| 市町村における降雨災害時の住民向け対応調査            | 消防研究センター         | 18年               |                            |               |     |
| 消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査            | 消防基金             | 11年               |                            |               |     |
| 事業所防災調査等                         | 新宿区              | 19年               |                            |               |     |
| 集中豪雨に伴う住宅等被害状況調査                 | 世田谷区             | 17年               |                            |               |     |
| 東海地震県民意識・企業防災実態調査                | 静岡県              | 17・19年            |                            |               |     |
| 東海地震についての県民意識調査                  | 静岡県              | 3・5・7・9・11・13・17年 |                            |               |     |
| 東海地震県民意識調査・企業防災実態調査              | 静岡県              | 21年               |                            |               |     |
| 消防団活動に関するアンケート                   | 静岡県              | 22年               |                            |               |     |
| 防災士養成講座教材作成                      | 静岡県地震防災センター      | 22年               |                            |               |     |
| 地域防災アンケート                        | 静岡県              | 10・14・15年         |                            |               |     |
| 防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査             | 静岡県              | 15年               |                            |               |     |
| 防犯まちづくりアンケート調査                   | 静岡県              | 15年               |                            |               |     |
| 自主防災組織実態調査                       | 静岡県              | 21年               |                            |               |     |
| 消防団等についてのアンケート調査                 | 静岡県              | 21年               |                            |               |     |
| 静岡県防災士養成調査                       | 静岡県地震防災センター      | 21年               |                            |               |     |
| 災害時歯科保健入力作業                      | 静岡県立大学           | 21年               |                            |               |     |

## 防災計画

|                       |          |        |
|-----------------------|----------|--------|
| 地域防災計画修正              | 騎西町      | 17年    |
| 早川町災害時要援護者避難支援計画      | 早川町（山梨県） | 21年    |
| 地域防災計画                | 西桂町      | 18年    |
| 地域防災計画                | 忍野村      | 18年    |
| 地域防災計画修正              | 忍野村      | 20年    |
| 地域防災計画                | 鳴沢村      | 18年    |
| 地域防災計画策定              | 安曇野市     | 18年    |
| 地域防災計画策定              | 中津川市     | 17年    |
| 掛川新市地域防災計画及び行動マニュアル策定 | 掛川市      | 16年    |
| 伊豆市地域防災計画             | 伊豆市      | 16年    |
| 地域防災計画策定              | 伊豆の国市    | 17年    |
| 地域防災計画修正              | 伊豆長岡町    | 14年    |
| 地域防災計画修正              | 土肥町      | 15年    |
| 地域防災計画                | 榛原町      | 8・13年  |
| 地域防災計画修正              | 榛原町      | 14年    |
| 特殊災害救助活動計画策定          | 愛知県      | 18年    |
| 消防広域化推進計画策定           | 愛知県      | 19年    |
| 地域防災計画及び国民保護計画策定      | あま市      | 22年    |
| 地域防災計画策定              | 東郷町      | 13・14年 |
| 職員初動マニュアル作成           | 東郷町      | 14年    |
| 防災マップ作成               | 東郷町      | 14年    |
| 避難誘導計画策定              | 東郷町      | 17年    |
| 地域防災計画策定              | 西春町      | 15年    |
| 防災新聞作成                | 西春町      | 15年    |
| 地域防災計画等修正             | 甚目寺町     | 14・15年 |
| 防災に関する講演会             | 甚目寺町     | 15年    |
| 洪水ハザードマップ作成           | 甚目寺町     | 16年    |
| 新市地域防災計画策定            | 津市       | 17年    |
| 地域防災計画策定              | いなべ市     | 17年    |
| 地域防災計画                | 伊賀市      | 17年    |
| 住民災害対策活動マニュアル作成       | 多気町      | 19年    |
| 自主防災組織活動マニュアル作成       | 二見町      | 15年    |
| 職員災害初動マニュアル等作成        | 二見町      | 15年    |
| 津波ハザードマップ作成           | 御園村      | 17年    |
| 地域防災計画策定              | 江津市      | 17年    |
| 地域防災計画改定              | 早島町      | 18年    |
| 防災マップ作成               | 鏡野町      | 18年    |
| 防災対策アクションプラン策定        | 三原市      | 18年    |
| 地域防災計画修正              | 三原市      | 19年    |
| 地域防災計画                | 中土佐町     | 18年    |

## 国民保護計画

|             |      |        |
|-------------|------|--------|
| 国民保護計画策定    | 加美町  | 18年    |
| 国民保護マニュアル   | 中井町  | 19・20年 |
| 国民保護計画策定    | 上野原市 | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 西桂町  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 忍野村  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 鳴沢村  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 関市   | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 輪之内町 | 18年    |
| 危機管理マニュアル   | 藤枝市  | 19・20年 |
| 国民保護計画策定    | 御殿場市 | 18年    |
| 国民保護計画資料編作成 | 裾野市  | 19・20年 |
| 国民保護計画策定    | 七宝町  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 美和町  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 大治町  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 四日市市 | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 湖南市  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 東近江市 | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 東大阪市 | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 奈良市  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 津山市  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 鏡野町  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 三原市  | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 東広島市 | 18年    |
| 国民保護計画策定    | 世羅町  | 18年    |

---

## 宮城県沿岸部における被災地アンケート

平成 23 年 5 月

株式会社 サーベイリサーチセンター

(本 社) 〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2-40-10  
TEL 03-3802-6711 (代) / FAX 03-3802-6730

(東北事務所) 〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町 11-11  
TEL 022-225-3871 / FAX 022-225-3866

(社会情報部) 〒114-0014 東京都北区田端 1-25-19  
TEL 03-5832-7061 / FAX 03-5832-7060

---

本書の記載内容の無断転載を禁じます。

なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、

東北事務所 岩崎宛 (E-mail: iwa\_m@surece.co.jp)

社会情報部 中島宛 (E-mail: naka\_r@surece.co.jp) にお申し出ください。